



比亚迪股份有限公司  
BYD COMPANY LIMITED



# 2024

## サステナビリティレポート

BUILD YOUR DREAMS

# 目次

はじめに	
本報告書について	02
会長からのメッセージ	04
CSOからのメッセージ	05
会社概要	06
特集：エンジニアの魂	11
サステナビリティ戦略	16
サステナビリティ経営	22

## 01

ガバナンスの誠実性と 事業開発を支える信頼性	30
コーポレートガバナンス	31
コンプライアンス運営	33
情報セキュリティ	37
株主の利益の保護	39

## 02

テクノロジーが導くグリーンな未来	40
気候変動への対応	41
グリーンな製品と技術	46
グリーンな運営	53

## 03

確かな品質のために引き継がれる職人技	65
技術革新	66
製品責任	73
責任あるマーケティング	80
顧客の利益とサービス	82

## 04

インテリジェンス駆動型開発を支える優秀な人材	90
従業員の権利	91
雇用	92
人材育成と開発	95
報酬と福利厚生	98
従業員のケア	100
生産工程における労働安全衛生	104

## 05

相互成長のための責任あるサプライチェーン	108
サプライチェーン管理	109
責任あるサプライチェーン	111
サプライチェーンの誠実性	113

## 06

より良い未来を実現する社会のためのテクノロジー	114
コミュニティへの影響	115
社会福祉	121

付録	123
保証声明書	151



## 本報告書について

本報告書は、BYD Company Limited(以下“BYD”または“当社”)およびその子会社(以下“グループ”または“当グループ”)の「2024 サステナビリティレポート」です(前回報告書は2024年3月に発行)。BYDは、2010年以来、独立した年次報告書を発行することで、情報の透明性と長期的な発展へのコミットメントを着実に支持してきました。本報告書では、環境・社会・ガバナンスという持続可能性の3つの中核的な柱にわたり、当社のガバナンス、戦略、目標、実践、パフォーマンスについて詳述しています。

### 報告書の対象範囲

本報告書は、2024年1月1日から2024年12月31日までの期間(以下“報告期間”)を対象とした年次報告書です。内容における比較可能性と完全性を考慮し、一部の内容では過去の実績や将来の計画にも言及しています。

ここに記載されている重要なトピックスに対する経営戦略、経済的KPI、社会的KPIについての範囲は、年次報告書「BYD Company Limited Annual Report 2024」に記載されている範囲と一致しており、当社の関連会社および合弁事業を除くグループ内のすべての事業体を対象とし、自動車、自動車関連製品、エレクトロニクス、その他の製品事業を含みます。本報告書で報告する環境的KPIは、当社および当社が事業運営権を有する子会社の事業所を対象範囲として含みます(建設中の海外拠点および販売店舗を除く)。情報の範囲について別途記載がある場合は、その記載が優先されます。本報告書の対象範囲は、当社およびその子会社がESG方針を導入し、実施したうえでの実績を正確に反映するものとして慎重に定義されています。年次報告書に概要としてまとめられている事業セグメントと合わせてお読みいただくことで、ESGパフォーマンスと財務パフォーマンスを比較しながら理解を深めることができます。

別段の定めがない限り、本報告書のデータは人民元(RMB)建てで表示しております。

### 報告基準

本報告書は、香港証券取引所(HKEX)におけるメインボード上場規則の付録C2「環境・社会・ガバナンス(ESG)報告コード」(以下「HKEX ESG報告コード」)、および「深圳証券取引所(SZSE)の上場企業のための自主規制ガイドライン No.17 - サステナビリティレポート(試行的適用)」(以下「SZSEガイドライン」)に準拠して作成しています。また、ここでは、欧州財務報告諮問グループが発行した「欧州サステナビリティレポート基準(ESRS)」、Global Reporting Initiative(GRI)のサステナビリティレポート基準(以下「GRIスタンダード」)、国連の持続可能な開発目標(SDGs)、国際標準化機構(ISO)のIWA 48:2024「環境・社会・ガバナンス(ESG)原則を実施するための枠組み」など、サステナビリティの報告に関する一連の基準、枠組み、取り組みについても言及しています。

上記の報告基準の主なトピックスおよび指標の索引は、迅速に参照できるよう本報告書の付録に詳細に記載されています。

## 報告原則

本報告書は、HKEX ESG報告コードの以下の報告原則に従って作成されています。

- マテリアリティ：**マテリアリティ評価によって特定された問題点は、ステークホルダーやBYDの事業に重大な影響を及ぼすおそれがあるため、本報告書では、これらについて開示することに重きを置いています。
- 定量性：**BYDのESG方針や管理体制について評価/検証いただけるよう、本報告書ではKPI、基準、統計方法、前提条件、計算ツールについての説明とともに定量的な情報を提供しています。
- 公平性：**信頼性のある情報源と統計方法に基づき、本報告書では、BYDのESGパフォーマンスについて偏りのない全体像を提供することにより、お読みになった方が判断・決定する際に不適切な影響を与えるおそれのある記述や表現方法を避けるべく努めています。
- 一貫性：**本報告書では、別段の定めがない限り、ESGデータの比較可能性を考慮して一貫した統計方法を用いています。

本報告書では、GRIスタンダードの以下の報告原則も参照しています。

- 正確性：**BYDが与える影響を評価できるよう、正確で十分に詳細な情報を報告します。
- 公平性：**偏りのない方法で情報を報告し、BYDのマイナス面とプラス面の影響を公正に表現します。
- 明確性：**アクセスしやすく、理解しやすい方法で情報を提示します。
- 比較可能性：**BYDが与える影響を時系列で分析し、他の組織と比較できるよう、一貫した情報を選択・編集・報告します。
- 完全性：**報告期間中にBYDが与える影響を評価できるよう、十分な情報を提供します。
- 持続可能性の背景：**持続可能な発展という広い観点からBYDの影響に関する情報を報告します。
- 適時性：**情報利用者が意思決定を適時行えるように、情報を毎年報告・提供します。
- 検証可能性：**情報を適切に収集・記録・集計・分析することで、情報の質を確認できるようにしています。

## 確認と承認

ここに記載されているすべてのデータ・資料は、BYDの公開情報、公式な社内文書、統計報告書、第三者によるアンケート調査の結果を基にしています。本報告書に関しては、当社の取締役会(以下、"取締役会")が、その内容を監修したうえで、虚偽の記載、誤解を招くような記述、重要事項の記載漏れがないことを確認しています。取締役会は、本報告書の内容の真実性、正確性、完全性について責任を負います。本報告書は、2025年3月24日に取締役会により公開が承認されました。

## 本報告書の閲覧方法

BYDグループのウェブサイト([www.bydglobal.com](http://www.bydglobal.com))の "Sustainable Development" のページ、HKEXnewsの公式サイト(<https://www.hkexnews.hk>)、または深圳証券取引所(<https://www.szse.cn/>)の "Disclosure>Listed company information>Listed company announcements" のページにてダウンロードできます。本報告書は、繁体字中国語・簡体字中国語、英語をご覧いただけます。中国語版と英語版の間に相違がある場合は、簡体字中国語版の内容が優先されます。

## お問い合わせ先

本報告書の作成にあたってご助言・ご提案をくださったすべてのステークホルダーの皆様に感謝申しあげるとともに、今後も報告の質を向上していくことをお約束します。ご意見やご提案がございましたら、下記へご連絡ください。

✉ Email : [ESG.office@byd.com](mailto:ESG.office@byd.com)

📍 住所 : 中国広東省深圳市坪山区BYD路3009号

## 会長からのメッセージ



王伝福

BYD Company Limited 会長兼社長

2024年はBYD設立30周年にあたります。100年に一度のめざましい変化と持続可能な発展の潮流の中、私たちは責任と使命を担い、中国から世界へと新エネルギー車を発信し続けています。新エネルギー車1,000万台目のラインオフを達成した世界初の自動車メーカーとなり、さらに世界の新エネルギー車販売台数において3年連続で首位を獲得しました。私たちは新たな開発理念を着実に実践すべく、脱炭素化・変革・公平・連携・道徳的誠実性・価値観の共有という6つの重要分野に焦点を当て、ESG基準を適用してBYDの持続可能な発展に新たな推進力を持たせつつ、革新的な開発成果を世界の皆様と共有してきました。

三十にして立ち、夢の実現へ。過去30年を振り返ると、私たちは試練と苦難を乗り越えて成長し、20人の小さな会社から新エネルギー車ブランドの世界的リーダーへと質の高い発展の道を歩み始めました。その背景にあるのは、私たちBYDの人間が抱き、追い求め続けているグリーンドリームです。そしてそれは、あらゆる分野からのご支援やご協力なくしては実現し得ません。

### 30年にわたる歩みの根底にある “グリーンドリーム”

私たちは、社会により多くの価値をもたらすための方法をいつも考え続けてきました。太陽エネルギー・エネルギー貯蔵・電気自動車という“3つのグリーンドリーム”から“グリーン輸送システム”（電気自動車で大気汚染を抑制し、新交通システム “スカイシャトル” で交通渋滞を緩和する）まで、すべては「地球の温度を1℃下げる」というブランドビジョンに基づいています。現在、BYDの新エネルギー車事業は、世界90以上の国と地域、400以上の都市に展開され、世界の輸送業および製造業のグリーンで低炭素、高品質な発展を効果的に促進しています。

### 30年にわたる歩みの根底にある “革新的なテクノロジー”

このテクノロジーにより、私たちは高い視点からより遠くを見渡し、“挑戦”するための勇気と自信を持つことができるのです。私たちは常に開発コンセプトである「技術を基盤に、イノベーションを原動力に」を念頭に、新エネルギー戦略を揺るぎない気持ちを持って推進し、絶えず新たな生産力を生み出し、強化してきました。ブレードバッテリー、DM-iスーパーハイブリッドシステム、e-Platform 3.0、CTBテクノロジー、e4プラットフォーム、DiSusインテリジェントコントロールシステム、DMOスーパーハイブリッドシステム、“天神之眼”および高度なインテリジェントドライビングシステムなどを発表し、技術革新によってより良い暮らしを実現することで人々の想いに応えてきました。

### 30年にわたる歩みの根底にある “揺るぎない責任感”

私たちは国際舞台での持続可能な開発活動に積極的に参加し、関連する国際機関と協力してきました。2024年の第29回 国連気候変動会議 (COP29)では、電気バスによるグリーン輸送サービスを提供了他、公益事業にも積極的に取り組み、科学技術と教育の発展を支援するために “30億元の教育慈善基金” も設立しました。その他、BYDの成長の軌跡と発展の経験を社会全体と共有するため、『BYD基本原則』、および初の公式書籍『The Soul of Engineers (エンジニアの魂)』を刊行。製造業として雇用の受け皿となるべく、これまでに約100万人もの雇用を生み出し、社会の安定と調和のとれた発展を促進してきました。

30周年という新たな出発点に立った今、当社のサステナビリティレポートは過去の総括として、未来への期待を示すものでもあります。持続可能な発展の理念を企業戦略および経営管理に統合し、企業イノベーションの主体としての役割をより一層発揮するとともに、コンプライアンス経営の堅固な基盤を築き、産業チェーンの上流・下流にいるパートナーの皆様と共にグリーンドリームの実現を目指します。

最後に、BYDは2045年までにパリューチーン全体でカーボンニュートラルを実現することを固くお約束します。

# 最高サステナビリティ責任者(CSO)からのメッセージ



趙儉平

BYD Company Limited 副社長兼  
最高サステナビリティ責任者

2010年以来、BYDは社会的責任に対する当社の取り組みを示すべく、14年連続で社会的責任報告書を発行してきました。持続可能な発展に対する世界中の関心が高まる中、また、中国証券監督管理委員会による上場企業向け報告ガイドラインの推進を受けて、当社はEU CSR D規制に積極的に取り組み、世界で最初にISO IWA 48:2024認証に合格した企業の一つとしてサステナビリティレポートを発行しました。これは、BYDが長期的な利益と社会的影響をより重要視し、より包括的かつ長期的な視点からESGガバナンスと情報開示を計画していることを示しています。

## 価値の共創と共有

当社は、顧客、従業員、株主という3つの主要なステークホルダーをしっかりと抱え、持続可能な発展の取り組みを実践する中で、すべての中核的ステークホルダーと開発成果を共有しています。

BYDは、顧客満足を永遠に追及すべき目標とし、「技術を基盤に、イノベーションを原動力に」という開発理念を貫き、製品の細部に至るまで卓越した技術力を組み込んでいます。ブレードバッテリーでお客様の移動を安全なものとし、インテリジェントネットワーク接続システムでインタラクティブな体験の質を高め、充実したアフターサービスネットワークできめ細やかなケアを提供します。当社は、優れた品質、革新的な技術、満足いただけるサービスを提供することによって、お客様から高く評価され、ご愛顧いただけることを目指しています。

私たちは、寛容さとインスピレーションをもつBYDのエンジニアとして、人材が会社の最も貴重な財産であることをよく認識し、自主的な人材育成に努めるとともに、従業員が業務においてより多くの挑戦と革新に取り組むことをサポートします。合理的なインセンティブ制度によって、従業員が達成感を得られるよう努めており、成長を目指す新卒者も、レベルアップを目指す経験のある中核社員も、会社と共にWin-Winな関係を築くことができます。

当社は、堅実な財務実績によって、長年にわたり株主から信頼と支持を獲得してきました。豊富な技術経験、正確な開発戦略、迅速な意思決定プロセスをベースとして、バッテリー分野における初期の技術的挑戦から新エネルギーの自動車産業全体への戦略的展開に至るまで、あらゆる技術革新と市場開拓が強力な業績成長の原動力となり、売上と利益を押し上げるとともに、当社の市場価値は着実に高まってきました。

## 産業連携の徹底

BYDは、サプライヤー、流通業者、パートナーと積極的に手を携え、主導的役割を十分に発揮し、その資源と能力を科学的に活用して、環境・社会・ガバナンスの3つの側面からすべての関係者と支え合い、協力し、オープンで持続可能なエコシステムを共に構築しています。

私たちは、垂直統合を通じて統合イノベーションを推進しています。当社は、製造技術の基盤に焦点を当て、独自の技術革新という優位性を活かして、研究開発イノベーションの成果を可能な限り迅速に実現し、1+1が2以上となる相乗効果を達成するとともに、継続的かつ革新的な技術で業界標準を絶えず再構築しています。また、新たに「燃費2.0 L/km時代」として第5世代DMテクノロジーを発表し、革新的とも言える車両インテリジェンスの概念を提唱し、スマート技術と電動を統合した業界初のインテリジェントアキテクチャ“Xuanji”を立ち上げました。このことによって、業界にスマートカー技術と開発の方向性について深く考えるきっかけを作りました。

当社は、協調しながらともに発展し、相互に補完し合うことによって Win-Win の関係を実現しています。産業チェーンの上流および下流にいる企業と協調して発展することで、サプライヤーの高度化を支援し、ディーラーの成長を後押しします。これは、産業クラスターのハイエンドかつ持続可能な発展を促進するだけでなく、中国の新エネルギー産業がグローバル競争で機会を獲得することにもつながります。「メイド・イン・チャイナ」から「世界へ届ける」へと進化できるよう、国際市場を継続的に開拓し、海外工場や独自のRORO船輸送ネットワークを確立し、グローバルサプライチェーンを構築しています。

## 社会的課題の解決

BYDは、政府、業界団体、メディア、一般の皆様に私たちの前向きな影響を感じていただき、全人類の利益のために地球規模での生態環境の改善に継続的に努めながら、社会的課題の解決に取り組む過程で自ら発展してきました。

当社は、新エネルギー分野に深く根ざした企業として、設立以来、グリーンで持続可能な発展のために注力してきました。2008年に、太陽エネルギー、エネルギー貯蔵、電気自動車という「3つのグリーンドリーム」を提唱し、2016年には「地球の温度を1°C下げる」というイニシアチブを発表。「EVで大気汚染を解決し、“スカイシヤトル”で渋滞を解消する」という戦略を打ち出し、2022年には内燃エンジン車の生産を停止した世界で初めての自動車メーカーとなりました。

私たちは、多様な産業システムを活かすことで、100万人近くの人々に働き口を提供しています。自社で多くの雇用機会を創出しているだけでなく、産業チェーンの波及効果を通じて上流・下流産業の発展を促し、さらに多くの雇用を間接的に生み出しています。

BYDは、その責任と使命を十分に自覚し、社会的責任を積極的に果たすとともに、公共福祉と慈善活動に尽力しています。私たちは最前線の科学技術教育に注目し、総額30億元規模の教育慈善計画を立ち上げました。产学連携を積極的に展開し、研修拠点を共同で設立して、将来のエンジニアや技術リーダーの育成を支援しています。また、社会的弱者や被災者にも配慮し、脳性麻痺の子どもたちのリハビリ訓練や障がい者の就労訓練も支援しています。

## 最後に

これまでの間、BYDは常に思索と実践を重ね、人類の運命に注意を払い、関係者のウェルビーイングを向上させる道を着実に歩み、地球規模の持続可能な発展に継続的に貢献してきました。私たちは、これからも顧客、従業員、株主、サプライヤー、流通業者、パートナー、政府、業界団体、メディア、一般市民の皆様と緊密なコミュニケーションと協力を維持し、深い技術革新と社会的責任の重要性を意識しながら、持続可能な開発の歴史を刻み続けます。

## 会社概要

BYDは1994年11月18日に設立され、本社は広東省深圳市にあります。当社の事業は、自動車、エレクトロニクス、再生可能エネルギー、鉄道輸送の4つの主要産業に及び、フォーチュン500企業の一つとして、香港証券取引所と深圳証券取引所の両方に上場しています。当社は時代の責任と義務を背負い、自動車の電動化とAIの潮流をしっかりと受け入れ、中国および世界における新エネルギー車のリーダーとしての地位を確立し、グリーンイノベーションと発展の道を切り拓いています。

私たちの使命は、「技術革新によって、より良い暮らしを実現する」ことです。3つのグリーンドリーム(太陽エネルギー、エネルギー貯蔵、電気自動車)を推進し、地球規模の生態環境を保全して、世代を超えた人類のウェルビーイングを高めることが、当社の最も重要な社会的責任と考えています。また、持続可能な発展のためにテクノロジーを中心的な競争力、イノベーションを根本的な原動力と位置付け、テクノロジーを高く評価し、イノベーションを奨励しております。BYDでは、卓越性、実用主義、情熱、イノベーションを重んじる企業文化を大切にしています。

## 当社の事業

BYDは、アジア太平洋地域、欧州、中東・アフリカ(MEA)、北米で事業を展開しており、グローバル市場の拡大を積極的に推進しています。

アメリカ				
ブラジル	ウルグアイ	メキシコ	コスタリカ	コロンビア
パラグアイ	チリ	パナマ	エクアドル	
ドミニカ共和国	.....			

ヨーロッパ		
イギリス	イタリア	スウェーデン
ドイツ	ハンガリー	オーストリア
.....		.....

アジア太平洋		
中国本土	タイ	マカオ(中国)
オーストラリア	ニュージーランド	マレーシア
インドネシア	シンガポール	ベトナム
香港(中国)	日本	.....

中東・アフリカ						
サウジアラビア	オマーン	南アフリカ共和国	モーリシャス	アラブ首長国連邦	カタール	モロッコ
クウェート	ヨルダン	チュニジア	.....			

## ◆ 自動車

BYDは、バッテリー、モーター、コントローラーといった新エネルギー車の産業チェーン全体におけるコア技術を習得しています。また、独立したイノベーションから全方位的かつオープンマインドなイノベーションへの道を切り開き、加速する新エネルギー車のグローバルな改革を主導し続けています。ブレードバッテリー、DM-iスーパーハイブリッドシステム、e-Platform 3.0、CTBテクノロジー、e4プラットフォーム、DiSusインテリジェントコントロールシステム、DMOスーパーハイブリッドシステムといった長年の精力的な努力を通じて生み出された画期的な技術によって、当社は前例のない成長機会を掴んできました。2024年、BYDは前年比41%の急成長を遂げ、427万台の新エネルギー車を納車し、世界の新エネルギー車販売で首位となり、世界の自動車産業に奇跡をもたらしました。

## ◆ エレクトロニクス

BYD Electronic (International) Company Limited(証券コード：285.HK)は、2007年に香港証券取引所に上場し、2024年にハンセンテック指数に組み入れられ、革新的なハイテク製品の世界的な主要メーカーへと成長しました。同社は、電子情報、人工知能、5GおよびIoT、熱管理、新素材、精密金型、デジタル製造といった分野で中核的な技術優位性を持ち、世界中のお客様にワンストップの製品ソリューションを提供しています。BYD Electronicsの事業範囲は広く、スマートフォン、タブレットPC、新エネルギー車、AIDC(AIサーバー、熱管理、電力管理など)、スマートホーム、ゲーミングハードウェア、ドローン、3Dプリンター、IoT、ロボティクス、通信機器など、多様な市場分野をカバーしています。

## ◆ 再生可能エネルギー

統合型再生可能エネルギーソリューションを提供する企業として、BYDはバッテリー、太陽エネルギー製品、エネルギー貯蔵製品などの関連製品を生産し、エネルギーの生産・貯蔵から利用までを網羅する完全な産業チェーンを構築しています。当社の再生可能エネルギー製品は、家庭用蓄電池やパワーバッテリー、さらに太陽光発電・蓄電統合システムなどの分野まで幅広く対応しています。BYDが展開する完全な産業チェーンにより、業界のトレンドを先取りすることが可能になります。高い安全性と長寿命、長時間稼働に加え、ニッケルやコバルトを含まないことが特長のブレードバッテリーは、業界で最も厳格とされる単セル電池試験「釘刺し試験」に合格し、市場から高い評価を得ています。ブレードバッテリーの活用により、当社はLFP(リン酸鉄リチウムイオン)バッテリー搭載車をほぼ単独で業界の主流へと再び押し上げました。BYDは現在、ドイツ、日本、スイス、カナダ、オーストラリア、南アフリカといった再生可能エネルギーの先進市場から新興市場に至るまで、太陽エネルギーおよびエネルギー貯蔵ソリューションを提供しています。

## ◆ 鉄道輸送

BYDは統合的なイノベーションという強みを活かして、自社の電気自動車産業チェーンを鉄道輸送分野にまで拡大しました。独自の知的財産権を持つ新交通システム "スカイレール"(中人数輸送向け)と "スカイシャトル"(少人数輸送向け)を開発し、鉄道輸送分野の技術的なギャップを埋めています。2021年4月、世界初の自動運転による新交通システム "スカイシャトル" の市営実証路線が重慶で開通し、商業運行の幕開けとなりました。2022年12月、パイロット実証のための新たな取り組みとして、初の "スカイシャトル" 市営路線が深圳市坪山で開通。その後、2023年5月には、中国初となる観光向け "スカイシャトル" 路線が長沙で開通し、観光産業の近代化を象徴する重要な事例となりました。2024年8月、初の "スカイシャトル" 実証路線の運行が西安で開始され、全国における小人数輸送システムの代表的な活用事例となりました。"スカイシャトル" の開発と導入は、中国での都市交通の持続可能な発展を強く後押しするとともに、世界の都市交通ガバナンスにおけるソリューションとして貢献しています。強力な市場計画に基づき、過去30年間にわたってBYDは地球規模で持続可能な戦略を提唱してきました。私たちの取り組みは国際社会から高く評価されており、ザイード未来エネルギー賞の受賞や、国連による「私たちが望む未来」を実現するためのエネルギー助成金の採択、フォーチュン誌の「世界を変える企業」リストへの掲載といった形で広く認められています。BYDは、産業分野を支える確かな取り組みを進めるとともにイノベーションに邁進することで、技術革新によって、より良い暮らしを実現することを目指しています。



## 2024年 BYDの主なマイルストーン

1月

### BYD、統合車両インテリジェンス戦略を発表

BYD Dream Dayでは、インテリジェンス分野における強みと将来への戦略的な展開を披露。新エネルギー車のインテリジェント開発に向けた新たな方針である「統合車両インテリジェンス戦略」や豊富な技術的成果を発表し、業界におけるインテリジェント開発の新たな方向性を示しました。BYDはまた、新エネルギー時代にふさわしい中国の自動車文化の創造を目指し、世界初となる全地形対応型の専用サーキットの建設を発表しました。



2月

### BYD 仰望(Yangwang)が "U9" を発表

当社の高級ブランド "Yangwang" が "U9" (価格 : 168万元)を発表しました。"U9" は、100万円前後の価格帯のBEVスーパーカーとして位置付けられています。e4プラットフォームとDiSus-Xシステムという2つのコア技術に加え、優れたボディワーク、空力性能、インテリジェント化によってパフォーマンスと体験の両面で従来のスーパーカーの枠組みを打ち破り、サーキット走行、市街地走行、オフロードでの楽しさ、といった多彩な魅力で "U9" は新時代のスーパーカーの価値基準を新たに定義します。



3月

### BYD小型トラック "T5" の納車式、ハイブリッドセダンモデルを発表

"T5" の納車式とハイブリッドセダンモデル発表のためのイベントが、江蘇省淮安のエクスペリエンスセンター(安迪)で行われました。BYDは、製品アップグレードを支える原動力として、常に技術革新の追求に取り組んでいます。市場のニーズに応えるかたちでユーザーの要望を的確に捉え、小型トラック "T5" の一括納車式を開催しました。同時に、ハイブリッドの初のキャンピングカー専用シャーシを発表。物流輸送やキャンピングカーの旅といった業界でのGX(グリーン・ランスフォーメーション)等の高度化を推進しています。



4月

### BYD Energy Storage、中国のエネルギー貯蔵産業で権威ある3つの賞を受賞

中国のエネルギー貯蔵産業をリードする企業の表彰式にて、BYD Energy Storageは、電力貯蔵システム主要テクノロジー & 機器賞、電力貯蔵システム革新技術/優勢先駆者賞、共有貯蔵ステーションシステム推奨ソリューション先駆者賞という3つの主要な賞を受賞しました。



5月

### BYD、新開発の "e-Platform 3.0 Evo" と第5世代DMテクノロジーを発表

次世代プラットフォーム "e-Platform 3.0 Evo" は、世界初のCTB車両安全アーキテクチャをはじめ、12 in 1インテリジェント電動ドライブ、広い温度範囲に対応したインテリジェント高効率ヒートポンプ、全領域対応のインテリジェント急速充電、そして、インテリジェントモーションコントロールを統合したものです。第5世代DMテクノロジーは、エンジン熱効率46.06%、電欠時の燃費2.9L/100km、総航続距離2,100kmを実現しています。世界の自動車における燃料消費の歴史を再び塗り替え、"燃費2.0 L/km時代"に突入するとともに、プラグインハイブリッド技術のベンチマークを打ち立てました。



6月

### BYD、国家科学技術進歩賞を再び受賞

2023年国家科学技術進歩賞の授賞式が北京の人々大会堂で開催されました。BYD社が主導する"次世代EVの主要部品と車両プラットフォームの独自開発と大規模产业化"と題したプロジェクトが国家科学技術進歩賞の第2位を受賞しました。当社が主導企業として国家科学技術賞を受賞するのは、これが2回目です。



## 2024年 BYDの主なマイルストーン

7月

### BYD、タイ工場が完成、800万台目の新エネルギー車がライオフ

BYDは、タイのラヨーンにて現地工場の完成と800万台目となる新エネルギー車のライオフを祝福し、同社のグローバル化における新たな章の幕開けを記念しました。タイ工場はわずか16か月で完成し、年間生産能力は約15万台、自動車製造の4大工程と部品工場を備えています。こうして、BYDは800万台目の新エネルギー車をライオフした世界初の自動車メーカーとなりました。タイ工場では、800万台目の車両としてドルフィンモデルが発表されました。



8月

### BYD、2024年「フォーチュン・グローバル500」にランクイン

BYDは3年連続で「フォーチュン・グローバル500」に選出され、前年の212位から143位へと躍進し、年間で最も順位を上げた自動車メーカーとなりました。



9月

### BYD、ウルグアイ向け全長12メートルのEVバス100台の納車式

BYD青島工業団地で、ウルグアイ向けの12メートルEVバス100台の納車式が行われました。このイベントは、BYDが国際市場でさらに前進するうえでの重要な一步となり、ウルグアイでの“グリーン輸送”的発展にも新たな原動力をもたらします。



10月

### BYD、ベトナムの洪水被害に12億VND(ドン)<sup>1</sup>を寄付

超大型台風「ヤギ」がベトナムを襲い、北部では深刻な洪水災害が発生しました。BYD Electronicsのベトナム工場は、最も被害が大きかった地域の一つ、フート省にあります。BYDは、深刻な損害を受けたフート省とトゥエンクアン省の復興支援のために、合計12億VND(ドン)<sup>1</sup>を寄付しました。



11月

### BYD創立30周年、1,000万台目の新エネルギー車がライオフ

BYDの創立30周年と新エネルギー車の1,000万台ライオフを記念する記者会見が、深圳・汕尾特別合作区にあるBYD小桃生産基地で開催されました。30年前、小さな工場の20人のスタートアップチームから始まったBYDは、「考える覚悟、行動する覚悟、やり抜く覚悟」というエンジニアの精神に支えられ、いまや従業員100万人近い世界的企業へ成長しました。BYDは、技術革新を通じて、より良い未来を求める人々の期待に応え続け、社会、顧客、従業員へ具体的な行動で積極的に還元してきました。



12月

### BYD、エチオピア市場に正式参入

BYDは正式にエチオピア市場に参入し、東アフリカにおける電動モビリティ時代の到来を告げました。現地ディーラーと協力し、エチオピアのアディスアベバでブランドの立ち上げイベントを開催。2024年現在、当社はアフリカの13の国と地域に進出しており、大陸レベルでのGX(グリーントランスポーメーション)に積極的に取り組んでいます。私たちは今後もパートナーと緊密に連携し、アフリカ市場での存在感を一段と高めながら、より多様で環境に優しい新エネルギーモビリティの体験を消費者に提供してきます。



<sup>1</sup> 合計で2件の寄付(1件は2億VDN、もう1件は10億VDN)を行いました。

## 2024年 BYDの受賞歴(一部)



国家科学技术進歩賞(第2位) - 次世代EVの主要部品および車両プラットフォームの独自開発と大規模産業化

— 中華人民共和国国務院



中国初のインテリジェントコネクテッドカーの市場認可取得および自動運転(L3)路上走行試験実施リスト

— 中華人民共和国工業情報化部



全国消費者品質信頼保証製品

— 中国品質検査協会



全国品質信頼保証製品

— 中国品質検査協会



全国品質誠信先進企業

— 中国品質検査協会



深圳「職人杯」銀賞

— 深圳市総工会、深圳市科学・技術革新局、深圳市工業・情報化局、深圳市市場監督管理局、深圳市品質協会

上場企業のIRマネジメントのベストプラクティス

中国上場会社協会

2024年 中国民間企業トップ500社 第7位

中華全国工商業連合会

2025年 ベストカンパニー

AUTOBEST

最優秀技術革新ブランド

Neomotor

2024年 中国民間製造業トップ500企業 第4位

中華全国工商業連合会

2024年 上場企業取締役会の優良事例

中国上場会社協会

2024年 最も人気のある新ブランド

Carwow

2024年 最先端の電気自動車

Xataka

## 特集：エンジニアの魂

BYD本社には、同社の精神を象徴する2つの壁があります。1つは、特許証明書でびっしりと覆われた「特許の壁」です。2024年12月31日までに、当社は世界で59,691件の特許を出願しており、35,837件の特許を取得しています。こうした成果は、産業上の課題を解決してきたエンジニアたちの歩みを、星座のように描き出しています。もう1つは「職人の壁」で、「卓越性の追求、匠の品質」と刻まれています。何百もの肖像画の背後には、緻密なリーン生産方式の精神が息づいています。この2つの壁が共に「エンジニアの魂」を築き上げており、それにより中国の製造業における価値観が再定義されています。この魂は、単なる技術的ブレークスルーにとどまりません。社会課題の解決を通じて産業文明を再構築し、「イノベーション・製造・人材」という共生システムを築くことで、世界の持続可能な発展に中国の知恵を注ぎこむことを意味します。

### エンジニアの文化：技術革新という使命を原動力に、技術で世界を変革する

BYDのエンジニアたちは、技術革新によって最終的に社会的価値を生み出す、という基本原則に忠実です。この信念は、彼らが問題を解決するあらゆる場面で拠り所となり、エネルギー危機や安全性の懸念、資源の制約といった地球規模の課題に取り組むうえで、独自の技術哲学を育んでいます。



#### ブレードバッテリー：安全性に革命をもたらし、資源の持続可能性を推進

2020年3月、BYDは革新的な構造を持つLFP(リン酸鉄リチウム)ブレードバッテリー技術を発表しました。このバッテリーは、超安全性(Super Safety)、超強度(Super Strength)、超航続距離(Super Mileage)、超低温性能(Super Low-Temperature Performance)、超高出力(Super Power)、超長寿命(Super Longevity)という6つの主要な利点(6S技術)を備えています。独自の「6S技術」を持つブレードバッテリーは、800件以上の特許を取得しており、しばしばバッテリーテストの「エベレスト」と呼ばれる釘刺しテストにおいて、発煙・発火・爆発することなく合格しました。これは、BYDのエンジニアが業界の課題を深く理解している証です。

責任ある材料選定：BYDは、LFP系バッテリーを使用することで、安全性と資源の持続可能性を最優先するという揺るぎない姿勢を貫いています。ブレードバッテリーは、ニッケルやコバルトといった希少資源への依存を抑えることで、採掘による生態系への被害を軽減し(活物質の特性に起因する)、三元系バッテリーの火災リスクの増大にも対処しています。20年にわたる取り組みの結果、LFPバッテリーの市場シェアは32.5%(2019年)から74.6%(2024年)へと拡大しパワーバッテリーの主流としての地位を確固たるものになりました。

循環型経済の実践：ブレードバッテリーは、車両の寿命をはるかに上回る15,000回以上の充放電サイクルに対応。使用後は、エネルギー貯蔵や通信基地局、低速EVなどに再利用でき、資源の有効活用を最大化とともに、グリーンな持続可能性にもつながります。現在、ブレードバッテリーはBYDの全車両で動力源として使用されているほか、エネルギー貯蔵ステーションにおける「安全基盤」としても役立っています。また、110以上の国と地域で送電網の安定運用を支え、再生可能エネルギーの統合を後押ししています。





## DM-iスーパーハイブリッドテクノロジーの革新的論理

従来の自動車メーカーの中には「燃料vs電気」の議論に巻き込まれたところもありましたが、BYDのエンジニアはこの二者択一の問題を乗り越え、最適なソリューションを実現しました。2020年以前、中国には4億を超える世帯がありましたが、車両は3億台に満たない数でした。中国の家庭に自動車を普及させるにはどうすればよいか検討を重ねた結果、2021年、BYDは電気を主動力、燃料を補助動力とする超高コストパフォーマンスを実現するDM-iスーパーHYブリッドテクノロジーを発表。誰にでも購入しやすく、安心して利用できるものになりました。

2024年5月、BYDは各コンポーネントや熱管理、制御戦略を全面的に刷新した第5世代DMテクノロジーを発表。100km当たりの燃費は2.9リットル(電欠状態でのNEDC)、総航続距離は2,100kmと、優れた成果を挙げました。データそのものよりも重要なのは、背後にある設計思想です。ハイブリッド専用エンジンの最適化に継続的に取り組み、よりスマートな制御技術を用いて圧縮比を16:1に高め、一連のノッキング抑制技術と組み合わせることで、エンジン熱効率46.06%を実現。これによってエネルギー効率を向上し、燃料消費量を削減します。

業界初となる、あらゆる温度領域に対応した車両熱管理アーキテクチャを搭載し、高温環境では最大10%、低温環境でも最大8%のエネルギーを節約します。技術の力で、燃費性能と航続距離を極限までより高めるということを実現したのです。

2008年の第1世代DMテクノロジーの発売以来、16年にわたる技術的なブレークスルーにより、経済面・環境面への配慮、安全性、実用性に加え、従来と変わらない運転習慣の維持が可能となりました。また、BYD DMテクノロジー担当チーフデザイナーである楊冬生(ヤン・ドンシェン)が述べた「ハイブリッド技術は一時的な解決策ではなく、エネルギー構造転換のための最適な解決策だ」という見解を裏付けるものもあります。



## 職人精神：製品の前に人を育て、ミリ単位の技でユーザーの生活をより豊かにする

BYDの工場では、職人とエンジニアの境界はあいまいです。金型製作の熟練工がデジタルモデルの図面を理解できたり、博士号を持つエンジニアが5軸工作機械を操作できたりします。この職種の枠を超える力が、「精度は品質を左右し、効率はコストを規定し、職人技はイノベーションを生む」、という独自の "製造界の弁証法" を生み出したのです。



### 165万kmもの "究極の挑戦" と緻密な製造工程

"No.1テストドライバー" - BYD自動車工学研究所で "ゴールデンバッジ職人" として活躍するテストドライバーの江(ジャン)は、20年間、車両試験の分野に従事し、車両テストの伝説を築いてきました。その優れたスキルを以て2024年末までに対応したテスト条件は200以上、テストした車両は5,450台、収集したデータポイントは10万9000件、テスト走行距離は累計で165万kmにのぼります。事情を知る人は、これらの数字のすごさがわかることでしょう。そして、彼のデータは今もなお増え続けています。

江は毎日、車種を変えながら運転し、さまざまな道路状況でその性能をテストしています。低速走行の快適性から高速道路での安定性、でこぼこ道での耐久性に至るまで、機械並みの精度の高さでテストします。彼が開発したのが "多次元動的試験法" であり、これは、車両のハンドリング精度を0.1秒以内に制御することで、試験効率と車両品質を大幅に向上させるというものです。江はしばしば「車両テストは単なる仕事じゃない。責任なんだ。データポイントのひとつひとつがすべて、ユーザーの運転の安全性に関わっている。」と語っています。これはまさに、BYDが掲げる「創意工夫をもって卓越性と品質を追求する」という職人精神を体現するものであり、中国の製造業が高品質な発展へと向かう姿の縮図でもあります。彼は究極の標準化によってエントロピーの増大(無秩序化)と闘い、「高品質な製造の競争力は一瞬ごとの集中の積み重ねにある」ことを証明しています。



### 「金型王」と「産業の母」の伝説

BYDのバッテリー事業部門で、"ゴールデンバッジ職人" に認定された金型設計のエキスパート尚(シャン)は、21年をかけて普通の金型設計者から業界で認められる "金型王" へと成長し、職人精神で金型設計の価値を示してきました。

尚の金型設計は、精度の追求にとどまらず、歩留まりの究極的な最適化にも力を入れています。自社開発のダイカストプロセス分析ツール(愛称 "計算機")を用いて、ダイカストの歩留まりを業界トップレベルである95%以上へと引き上げました。このイノベーションによって、BYDはApple、Google、Huaweiといった世界有数の顧客を獲得し、精密製造分野での急速な発展を遂げたのです。2019年には、彼が設計したスマートフォン向け金属製ミッドプレートは1億台出荷され、業界のベンチマークとなりました。

尚とそのチームはこれまで、自動車、携帯電話、ノートパソコン、医療機器の各分野で約1,000もの金型を開発してきました。対応する製品の厚さは0.3mmから55mmまでと幅広く、業界の限界を押し広げています。イノベーションの拠点としての彼のスタジオでは、これまでに多くの新卒者が優れた金型設計者へと育て上げられてきました。

### 工匠牆 Artisan's Wall of Fame



## 長期的な人材戦略：イノベーションを育む場をつくり、持続可能な発展の遺伝子を育てる

BYDの人材戦略は、革新的な推進メカニズムの創出を目指しています。12万人のエンジニアと職人が協働することでイノベーションを促し、その拡大を加速させ、業界の技術的な先駆者を育成しています。



### デュアルモードでの革新：段(デュアン)博士のチームによるグリーンテクノロジーのブレークスルー

段博士が率いるBYD基礎科学研究所のチームは、学問の枠を超えたイノベーションを通じてグリーンテクノロジーの発展を推進しています。

高電圧プラットフォーム用の絶縁材料を開発するチームでは、リーダーが方向性を決め、技術の中核メンバーが主要な課題に取り組み、若手研究者が詳細を担当するという三層構造のアプローチを採用しています。これにより、技術革新と人材育成が好循環を生み、「材料を革新し、技術に風穴を開け、才能ある人材を育成する」というサイクルが実現します。彼らはプロジェクトベースの管理とトピックスベースの研究を組み合わせることでデュアルモードでの研究開発モデルを生み出し、800V超のプラットフォーム用絶縁材料の開発に成功。充放電効率の向上とエネルギー消費の削減を実現したことで、世界クラスのグリーンテクノロジーのブレークスルーとなりました。

一方で、段博士率いるグリーンマネジメントディベロップメント(GMD)チームは、環境政策とグリーンテクノロジーを両輪とする二重駆動の戦略を用いて1,000以上の標準データファイルを有する環境シンクタンクを構築することでグループの環境コンプライアンスと炭素削減目標の達成を支えています。オンラインでの排出管理に向けた炭素管理プラットフォームの開発指揮、カーボンインベントリの研修や製品のカーボンフットプリントの算定への参加などの取り組みを行いました。チームは生産現場を徹底的に掘り下げ、工程フローとデータモデリングを統合することで、主要な排出ポイントを正確に特定。科学的根拠に基づいた削減戦略のための確かな基盤を築きました。



### 技術系新人から部門長へ：スピード出世の道のり

2020年、クラウドコンピューティングの経験を持つ王(ワン)がBYDに入社し、自動車新技術研究チームに配属されました。配属からわずか4年で新人から部門長へ出世し、200人を超えるチームを率いてBYDのインテリジェントドライビングシステム用ソフトウェアのプラットフォームをアップグレードしました。

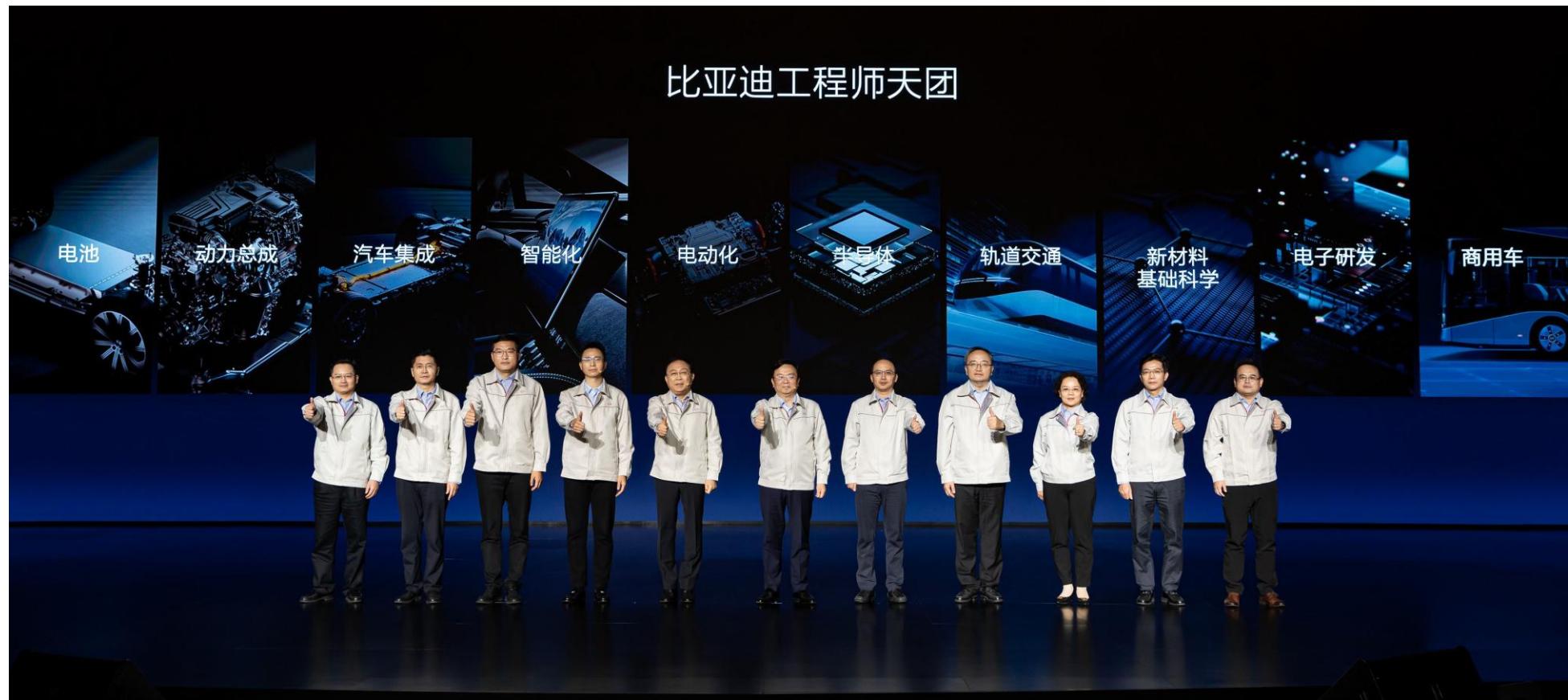
IDC1.1プロジェクトにおいて、王は階層的デカップリングとサービス指向アーキテクチャ(SOA)の概念を提案し、5つのコアモジュールからなるインテリジェントドライビングシステム用ソフトウェアのプラットフォームを設計しました。これにより、高度な自律走行機能の実現に向けた基盤が築かれました。

彼の歩みは、幅広い開発プラットフォームや科学的なトレーニング、公正な昇進機会、トップ人材の活躍によるイノベーション推進、といったBYDの優れた人材育成システムを反映するものです。

## エンジニアの魂が生む産業的インスピレーション：「3つの覚悟」の精神でイノベーションの時代を定義する

エンジニアの魂は、技術理想主義と産業現実主義が奏でる交響詩です。BYDの王伝福会長はかつて、「真のイノベーターとは、他の人が敬遠する困難な問題に常に挑戦する人だ」と語っています。当社のエンジニアは、技術革新を通じて社会問題に切り込み、クラフトマンシップの精神で産業倫理を再定義するという、あえて困難な道を選びました。この選択には明確な基準はありません。なぜなら、商業的競争のためではなく、人類が直面する共通の課題へ応えるためのものだからです。あらゆる技術的飛躍の背後で、BYDのエンジニアが「考える覚悟、行動する覚悟、やり抜く覚悟」という精神を見事に体現しています。

エンジニアの魂が生み出す究極のインスピレーションは、製造業における価値の座標系を再定義することにあります。技術の意義は研究論文にあるのではなく、私たちの生活をより良くすることにあります。同様に、イノベーションの価値も、財務報告の数字ではなく、人類文明を前進させる点にあります。これこそがBYDの時代に対する答えです。企業がエンジニアの精神を社会的責任感にまで高められれば、景気の波を超えて継続的に進み続ける力を持つことができるのです。



## サステナビリティ戦略

BYDは、脱炭素化(Decarbonization)、変革(Revolution)、公平(Equity)、連携(Alliance)、道徳的誠実性(Moral-integrity)、共有価値(Shared-value)という6つの分野から成る "DREAMS" の理念に注力しています。私たちは、新しいエネルギー技術で世界の炭素削減を推進し、イノベーションで競争力を高めます。従業員には平等な機会を提供し、すべての関係者と協力して開発を促進し、コンプライアンスを徹底します。そして、ステークホルダーと成果を分かち合い、世界の持続可能な発展の担い手となり、リーダーとなるべく取り組んでいます。



## 88 サステナビリティの理念

BYDは、「地球の温度を1℃下げる」をブランドイニシアチブに掲げ、顧客、従業員、株主、サプライヤー、流通業者・パートナー、政府・業界団体、メディア・一般市民という7つの主要なステークホルダーに焦点を当てています。ダブルマテリアリティ評価によって、それぞれの持続可能な発展への要請を特定・分析し、BYD自身の持続可能な発展課題と組み合わせて、"DREAMS" というサステナビリティ理念を打ち出しています。

D	R	E	A	M	S
<b>Decarbonization 脱炭素化</b>  グリーンエネルギーEコシステムを構築し、バリューチェーンにおける炭素削減を推進する	<b>Revolution 変革</b>  技術を基盤に、イノベーションを原動力に、業界変革をリードする	<b>Equity 公平</b>  人に投資し、平等な職場環境を作り、健全な競争を促進する	<b>Alliance 連携</b>  シナジーのある開発で互いに補完しあってWin-Winの成果を実現し、垂直統合によって包括的アプローチ・革新を促進する	<b>Moral-integrity 道徳的誠実性</b>  汚職を罰し、誠実さを称え、信頼と尊敬を勝ち取る	<b>Shared-value 共有価値</b>  科学技術を原動力とし、普遍性を指針として世界のニーズに応える
グリーンで低炭素な 地球の未来を守る	イノベーションと変革で 持続可能な発展を推進する	平等な機会で 誰も取り残さない社会を	皆で協力してグリーンエコロジー を構築する	正直さと誠実さ、そして企業倫理	価値を共有してより良い未来を
BYDは、新エネルギー車と再生可能エネルギー技術を活用して炭素排出量の削減に取り組み、地球規模でのカーボンニュートラルの実現を支援しています。技術的イノベーションを軸に、電気自動車や太陽エネルギー、エネルギー貯蔵システムの開発を進め、世界的なエネルギー転換を支えています。同時に、グリーンビルディングやゼロウェイスト化を積極的に進め、資源の消費量と汚染物質排出量の削減に取り組み、よりグリーンで低炭素な未来の実現を目指します。	BYDは、新エネルギー車の性能と安全性を高めるために、技術革新を原動力とした革新的なグリーンテクノロジーを開拓しています。インテリジェントネットワーク技術によって、より高度なインテリジェントドライビングの体験をユーザーに提供し、さらに、私たちは世界各地の科学研究機関や企業と積極的に連携して、世界規模での新エネルギー技術の発展を後押ししています。	BYDは、企業内およびサプライチェーンの双方で多様性とインクルージョンの推進に取り組んでおり、従業員に平等な成長機会を提供しています。トレーニングと教育を通じて、従業員のスキルとプロ意識を高め、誰もがBYDで自分の活躍の場を見つけられるよう支援しています。同時に、教育関連の慈善事業にも積極的に取り組み、奨学生の設立や科学普及の展示用ツールの寄贈を通じて、学生の科学技術に対する関心を刺激し、より優れた技術者の育成につなげています。	BYDは、サプライヤーや顧客、政府、地域社会と積極的に連携し、クリーンエネルギーソリューションを生み出すことで、新エネルギー産業の発展を共に推進しています。グリーンサプライチェーンを確立して、持続可能な原材料調達を実現し、すべての関係者と協力して、よりグリーンで持続可能なエコシステムを構築します。	BYDは、“正直さと誠実さ”という経営理念を常に貫き、コンプライアンスの徹底と社会的責任の遂行に努めてきました。透明性の高い経営と厳格な内部監督によって、最高水準の倫理基準に基づく企業運営を実践しています。私たちは、ステークホルダーと積極的に対話し、意思決定や行動が社会の期待に応えられるよう努めています。	BYDは、成長の成果を株主や顧客、従業員、そして社会全体と分かち合うことに力を入れています。また、高品質な製品とサービスでお客様のニーズに応え、継続的な技術革新と事業拡大で株主価値を創出するとともに、良好な職場環境と成長機会を提供することで従業員満足度を向上させ、地域社会の発展と環境保護を支援し、社会に貢献します。

## ↗ サステナビリティ実績

### コーポレートガバナンス



株主への還元	2024年営業収益： <b>7,771億245万5,000人民元</b>	<b>402億5,434万6,000人民元</b> 2024年親会社株主に帰属する当期純利益、利益成長率は <b>34%</b>
革新的な研究開発	2024年の研究開発投資額： <b>541億6,096万4,000人民元</b> 営業収益に占める研究開発投資の割合： <b>6.97%</b>	
	中国での特許出願累計件数： <b>46,201</b> (うち、海外での出願件数 <b>13,490</b> )	
ESGガバナンス	戦略・持続可能な 発展委員会の設置 <sup>2</sup>	CSOの任命

### 従業員



2024年12月31日現在、BYDの従業員総数は <b>96万8,872人</b> (2023年と比べて <b>37.7%</b> 増加)		
従業員の多様性	女性従業員の割合： <b>30.11%</b>	少数民族従業員の割合： <b>9.81%</b>
従業員の育成	博士研究員の研修規模 <b>1,600人以上</b>	従業員一人当たりの平均研修時間 <b>55.35時間</b>
従業員の福利厚生	従業員持株制度("ESOP")での投資： <b>18億元以上</b> 恩恵を受けた従業員： <b>約12,000人</b>	

<sup>2</sup> 2025年3月24日、取締役会レベルの "戦略委員会" は "戦略・持続可能な発展委員会" に改称。

### 環境への貢献



新エネルギー車	2024年BYD新エネルギー車販売台数： <b>427万2,145台</b>	2024年BYD新エネルギー車の 純電気走行距離： <b>約1,500億km</b>
気候変動目標	2045年までに バリューチェーン全体で カーボンニュートラルを実現	2030年までに 自社の排出量(炭素強度)を <b>50%削減</b> (基準年：2023年)
省エネルギーと 炭素削減	新規省エネルギープロジェクト推進： <b>410件以上(/年間)</b> 炭素排出量の削減： <b>21万トン以上(CO<sub>2</sub>換算)</b> 自主的なグリーン証書の購入： <b>223万枚以上</b> 自主的なグリーン電力の購入： <b>約4億6800万kWh</b>	

### バリューチェーンへの貢献



福祉・慈善活動	教育慈善基金 <b>30億人民元</b>	2024年 グループの寄付支出 <b>2,996万5,000人民元</b>
顧客との関係	顧客満足度 <b>95%超</b>	顧客の重大なプライバシー侵害 <b>0</b>
サプライチェーン管理	紛争鉱物に関するデューディリジェンス： <b>初めて実施</b> (サプライヤーのライフサイクル管理強化のため)	サプライヤー向け技術交流会の回数： <b>75</b>

## 地球規模での影響



### ユーラシア

2024年10月31日、アゼルバイジャンのイルハム・アリエフ大統領が、国連気候変動会議(COP29)向けにBYDが納入した電気バス "K9UD" を視察しました。納入された160台の電気バスは、コーカサス地域で最大規模の調達プロジェクトとして、グリーンな公共交通の新たなベンチマークとなりました。アゼルバイジャン政府は、2025年から2028年にかけて毎年およそ200台の電気バスを購入して現地で組み立てを行い、これによって双方の協力関係を強化することを計画しています。

BYDの電気バス "K9UD" は、高度な三電技術(バッテリー、モーター、電気制御)と6-in-1のコントローラーを統合し、低床設計と広々とした室内空間を実現。これにより、走行時の効率のみでなく乗り心地も向上します。BYDは、電気バスの多彩なラインナップと業界で培ってきた豊富な経験を強みに、世界の持続可能な交通に向けたソリューションを提供し続け、グリーンな未来に貢献します。



### 気候変動への 対応

### 中華人民共和国

BYDグローバル研究開発センターには、50以上の最先端の研究所が集結し、自動車工学研究所、製品企画・自動車新技術研究所、基礎科学研究所など、11の主要な研究機関でそれぞれ、新エネルギー車やバッテリーエレクトロニクスなどの分野に対応しています。この世界クラスの研究開発センターには、グローバルモデリングセンター、マイクロナノ光学研究所、高分子材料研究所といった専門施設を含むレイアウトが計画されています。このプロジェクトが完了すれば、6万人を超える優秀な研究開発人材(その半数以上が修士号や博士号を持つ)が受け入れられることになります。

各研究開発センターでは、IoT(モノのインターネット)やクラウドコンピューティング、ビッグデータといった最新の情報技術を活用し、運用・保守管理や安全監視、省エネルギー、排出削減などの効率を高めることで、インテリジェントかつデジタルな革新的なパークモデルを実現しています。



### 革新的な 研究開発

### タイ

BYDのタイ拠点では、梱包資材の最適化プロジェクトを積極的に推進しています。CKDビジネスモデルのためにタイ拠点では大量の産業廃棄物が発生し、中でも梱包資材の廃棄量および割合はともに多くなっており、例えば、木製フェンス、合板、鉄製フレーム、ラップフィルム、防錆袋、防錆紙、乾燥剤などはリサイクルできず、処理のために多くの人手が必要になっている現状があります。

### 循環経済

リサイクル可能なスチールボックスを使用して梱包を最適化するなどの対応が急がれています。現在は、資材の納入完了後に梱包材のリサイクルチームが分別・積み上げを行い、再利用のためにインテリジェント物流システムで国内拠点への返送を行うという方法を導入しており、これにより、使い捨て梱包資材の使用を効果的に減らし、グリーン生産を促進とともに、生産コストと廃棄コストを抑え、経済面と環境面の双方で利益を両立することが可能になります。

このプロジェクトの実施により、タイ拠点で発生する産業廃棄物は約30~60%の削減が見込まれることとなり、タイの持続可能な発展のための積極的な貢献につながります。



## ウルグアイ

ウルグアイの大手バス会社CUTCSAの皆様からの製造監督や車両検査に関するご要望にお応えして、車両が要件を確実に満たし、お客様のニーズに合わせた式典を計画することができるよう、BYDは研究開発、営業、プロジェクト、製造など各部門にわたりて、受付、車両検査、式典準備まであらゆる面をカバーする専門的で効率的なサポートチームを立ち上げました。

CUTCSAのディレクターとプロジェクトマネージャーの8日間にわたる青島工場訪問に際しては、すべての部門が積極的に協力し合いながら工程監督と車両検査のための車両準備を行いました。商品部門ではフィルム材料の到着予定に合わせて効率的に手配を行い、研究開発部門ではお客様の質問に対し、丁寧かつ真摯・専門的に説明しました。これにより、効率が良く質の高い検査を行うことができ、お客様からも高い評価を得ることができました。

## カスタマーサービス

地域社会を  
支援する  
取り組みと投資

## 南アフリカ共和国

BYDは、南アフリカの現地公共福祉団体 "Tshepangケアセンター" と提携し、地域の人々への日用品や教育資材を提供する支援を行っています。このパートナーシップの一環として、Tshepangケアセンターに肉類やジュースなどを含む食料品650点を寄付しました。さらに、卒業を迎える地元の子どもたちには、サッカーボール、本、文房具、衣類などを含む35点の贈り物を用意しました。

BYDは、南アフリカの地域住民の生活の質を高め、地域社会の持続可能な発展を後押しし、より調和がとれた豊かなグローバルコミュニティの環境づくりに貢献できるよう、注力しています。



## サステナビリティに関する受賞歴

「中国ESG上場企業大湾区パイオニア50(2024)」  
に選出

中国中央ラジオ・テレビ局経済番組センター



「中国ESG上場企業パイオニア100(2024)」  
に選出

中国中央ラジオ・テレビ局経済番組センター



2024年  
「上場企業の持続可能な発展に関するベストプラクティス事例」

中国上場企業協会



Wind 2024年  
中国上場企業ESGベストプラクティス トップ100

Wind



2024年ESGモデル企業賞

NetEase Finance



CCXGFI×HERA 世界ESG影響力賞

CCXGFI、香港環境・社会・ガバナンス  
報告賞(HERA)



2024年自動車業界ESGエリート賞  
(グリーンイノベーション製品賞)

BearingPoint、ECV International  
共同発表



2023年優秀責任企業

SOUTHERN WEEKLY



ESG優秀賞

Yinshi Finance



環境保護パイオニア賞

上海日報



中国企業2024 ESGインデックス100

中国環境保護連盟



2023年

中国グリーン電力(グリーン証書)消費企業トップ100

中国電力協議会、北京電力取引センター、広州  
電力取引センター、国家再生可能エネルギー情  
報管理センターが共同で発表



# サステナビリティ経営

BYDは、ブランドミッション “Technological innovations for a better life” (技術革新によって、より良い暮らしを実現する)のもと、サステナビリティ経営の理念を企業の経営戦略に統合しています。当社は、グリーンドリームの実現を自らの責務と認識し、先進的な技術と多様な製品を基盤に、持続可能な発展のための経営の実践を推進し、さらに深めています。私たちは、企業市民としての責任を積極的に果たし、世界の持続可能な発展の推進に貢献します。

## この章の目標と指標

### SDGs



### HKEX ESG報告コード

### ガバナンス体制13 SZSEガイドライン

### ステークホルダーエンゲージメント

### ESRS

### ESRS-2 GOV-1, GOV-2, GOV-3, SBM-2, SBM-3, IRO-1, IRO-2

### GRIスタンダード

### 2-12, 2-13, 2-14, 2-26, 2-29, 3-1, 3-2, 3-3



# 取締役会の声明

サステナビリティに関する責任管理を推進するため、BYDは根拠に基づく効果的なサステナビリティ・ガバナンス体制を確立し、組織的な支援を通じて、サステナビリティにおける意思決定、管理、実施の効率を高めています。当社の取締役会は最高意思決定機関として、グループの持続可能な発展に関するガバナンスを総合的に担い、少なくとも年1回、関連する事項について議論しています。さらに取締役会は、サステナビリティ方針を会社の戦略と一致させるとともに、関連課題についての意思決定の効率性と専門性を確保するため、戦略・持続可能な発展委員会を設置しました。この委員会は四半期ごとに開催され、サステナビリティに関する事項について議論します。2024年、当社はサステナビリティに関わる重大な影響・リスク・機会(IRO)について、関連する経営方針や取り組み、指標、目標の策定と実施を推進する責任を負う最高サステナビリティ責任者(CSO)を任命しました。CSOは、経営陣とガバナンス担当者に、取り組みの有効性や実施状況の進捗を定期的に報告します。同年、従来のCSR委員会をESG管理委員会へ改編し、当社のESG管理体制を見直しました。また、サステナビリティに関する役割と責任、報告体制、ESG課題の管理戦略を明確に定めた「BYDサステナビリティ経営」を策定・実施し、経営の実効性を一層高めました。

## BYDのサステナビリティ体制

- BYDの持続可能な発展に対して全体的な責任を担う
- BYD関連事業のうち、サステナビリティに関するIROを評価・特定する
- 持続可能な発展に向けての適切で効果的なIRO管理、内部統制、情報開示メカニズムを確立し、BYD全体的のリスク管理・内部統制システムへの統合を推進する
- BYDのサステナビリティ経営方針、戦略、経営上の優先事項および目標を策定する
- サステナビリティ関連目標に関するBYDの実績を定期的に評価する
- BYDの報告書における情報開示内容を承認する

### 取締役会によって任命された委員会は、以下の責任を負う

- BYD関連事業のうち、サステナビリティに関するIROを調査する
- サステナビリティに関するIRO管理、内部統制、情報開示メカニズムの妥当性と有効性を評価・確認する
- 取締役会が定めたサステナビリティ経営方針、戦略、経営上の優先事項や目標に基づき、経営陣の提案を審査・承認する
- 取締役会へのフォローアップ措置や改善について報告・勧告する



## 戦略・持続可能な 発展委員会



## ESG管理委員会

- 経営方針、戦略、経営の優先順位や目標に基づき、サステナビリティ経営システム、作業計画、実施スキームおよび関連資源の見直し・承認を行い、その有効性を確保すべく実施状況の進捗を定期的に評価する
- サステナビリティに関するIRO管理、内部統制、情報開示メカニズムを整備・改善し、確実に実施する
- 上記の事項について取締役会および戦略・持続可能な発展委員会に報告し、提言を行う



## ESG・炭素排出量 管理チーム

- 世界のESG業界の最先端動向調査、サステナビリティに関する各国の法律や規制の追跡を行い、主要ステークホルダーが関心を寄せるESGトピックを分析する
- サステナビリティに関する方針・目標を策定し、その実施と進捗を確実に管理する
- サステナビリティ・ガバナンス構造、IRO管理、内部統制、情報開示メカニズムに関する提案の実施を行う
- ESGデータモニタリングシステムを確立・維持し、ESG主要指標を追跡・評価する
- ESG関連のデータや情報を定期的に収集・整理し、ESG報告を作成する
- 外部の機関や団体と連携し協力を推進する
- サステナビリティ研修や広報活動をコーディネートする



## 事業ユニット ・事業部

- 各事業部門やユニットごとに、サステナビリティへの取り組みを監督するESGマネージャーを指名し、ESGに特化した会議に参加させる
- サステナビリティ経営課題を遂行するためのESGトピックス管理システムを構築し、作業計画・実施計画を策定して確実に実施する
- ESGのデータや情報を収集、整理、提出し、取りまとめを担当する
- サステナビリティ研修および広報活動を実施する

取締役会メンバーがサステナビリティ経営に関するスキルを継続的に高めることができるよう、規制要件や気候変動などのトピックスに関する研修を計画しています。外部機関の専門家と知識を共有しつつ、研修では、サステナビリティ関連の各課題について取締役会メンバーが効果的に意思決定し、適切に監督するために必要な専門知識の習得を目的としています。さらに、執行役員報酬の10%をサステナビリティ関連指標にリンクさせ、評価につなげることで、サステナビリティ・ガバナンスに対する取り組みや貢献を促し、強化することができるよう検討しています。

# 品ステークホルダーエンゲージメント

BYDは、オープンで透明性のある対話をステークホルダーと定期的に行い、信頼と信用を築きながら、相互の発展を追求することに注力しています。私たちは、ステークホルダーの期待や関心事項を把握し、適切に対応すべく、あらゆるコミュニケーション方法を積極的に活用しています。ステークホルダーの優先事項は、所属するグループ、地理的な位置、置かれた環境によって異なるため、相手や状況に応じた最適な方法でアプローチするようにしています。

## BYDのステークホルダーエンゲージメントの概要

ステークホルダー	関心事項・期待	コミュニケーション方法と対応
政府・規制当局	コンプライアンスに則った運営	法令遵守状況の追跡
	コーポレートガバナンス	定期的な情報開示
	地域経済の支援	雇用機会の提供
株主・投資家	コンプライアンスに則った運営	ガバナンス体制の強化
	製品と技術の革新	定期的な情報開示
	サステナビリティ経営の実績	サステナビリティ関連リスクマネジメントの強化
顧客・消費者	製品の品質と安全性	品質管理システムの構築
	顧客サービスの質	顧客満足度調査
	製品と技術の革新	製品プロモーション、新製品発表イベント
	顧客情報とプライバシーの保護	データセキュリティ管理の強化

ステークホルダー	関心事項・期待	コミュニケーション方法と対応
従業員	労働安全衛生	定期的な安全点検
	従業員の権利保護	苦情受付窓口の開設
	従業員の育成と研修	技能研修の提供
サプライヤー、パートナー	従業員の報酬と福利厚生	従業員の福利厚生サービス
	製品と技術の革新	プロジェクト協業の開始
	製品の品質と安全性	検査・監査の実施
業界団体	持続可能なサプライチェーン管理	責任あるサプライチェーンの構築
	製品と技術の革新	同業者交流会の開催
	製品の品質と安全性	業界標準策定への参加
メディア・一般市民	産業発展の促進	研究開発プロジェクトへの協力
	コンプライアンスに則った運営	ガバナンス体制の強化
	社会福祉	公益活動の実施
一般市民	地域雇用の拡大	雇用機会の提供

## ④ ダブルマテリアリティ評価

サステナビリティに関する事項の開示を管理し準備するための重要なステップとして、BYDは2024年にESGトピックスに関するダブルマテリアリティ評価を実施しました。当社は、SZSEガイドラインおよびESRSを指針とし、統計上のデータや専門家による助言をもとに、"環境・社会への影響"と"サステナビリティにおける企業の価値(財務上のリスク・機会)への影響"の両方を評価するための評価プロセス、スコアリングシステム、ランキングモデルを整備しました。

### 評価手法と前提条件

当社事業における持続可能な発展に関連する影響・リスク・機会を数値化することは、過去数年間にわたり蓄積してきたマテリアリティ評価の結果をもとに考えても一定の複雑さを伴うため、今年度のダブルマテリアリティ評価は数値化できない質的評価をベースに、可能な限り定量的評価を補完する形で実施しました。今後も政策の動向に注意を払いつつ、ダブルマテリアリティ評価のプロセスや統計方法の改善を重ね、定量的評価ツールを慎重に活用し続けてことで、ステークホルダーの関心事項や意見を的確に把握するとともに、当社のサステナビリティ計画や事業決定のための科学的根拠を提供していきます。

#### ◆ 範囲

当社は、事業に関連する環境・社会への影響、事業の持続可能性に関するリスク・機会を評価しています。インパクトマテリアリティ評価では、ESGトピックスに関連するプラスの影響とマイナスの影響、実際の影響と潜在的な影響を考慮し、ファイナンシャルマテリアリティの評価では、事業へのプラスの影響とマイナスの影響、実際のリスクと潜在的なリスクならびに機会を評価しています。

#### ◆ ステークホルダーエンゲージメント

ダブルマテリアリティ原則は当社の経営や開示事項の広範囲を対象とし、関連するESGトピックスも多岐に渡ります。一方、評価要件の一部では、事業内容についての評価者の一定レベルの理解が必要となります。このため、インパクトマテリアリティ評価については社内外の幅広いステークホルダーに参加を依頼し、逆に、ファイナンシャルマテリアリティ評価については社内の上級管理職や社外のサステナビリティ専門家という限られた人数に絞って依頼しています。

#### ◆ スコアリング方法

当社は、収益、キャッシュフロー、コンプライアンス、評判への影響や、見通し・予測など、複数の要素についてマテリアリティ評価を行いました。総合評価を構成する各要素を対象に、5段階のリッカート尺度でスコア化しています(1は影響が最小、5は最大を示します)。

#### ◆ しきい値

当社では、マテリアリティのしきい値を"重要"に設定しています。しきい値に達した影響・リスク・機会およびトピックスはいずれも「重要」と見なされます。

## 評価プロセスと結果

BYDは、サステナビリティの影響、リスク、機会を定期的かつ効果的に管理するため、ESGのマテリアリティ評価を定期的に実施し、サステナビリティ経営の方針や戦略、経営上の優先事項や目標の基盤・中核を明確に定めています。

ステークホルダーの皆様には、本評価にご参加いただき、サステナビリティの各トピックがグループの財務、そして経済・社会・環境へ与える影響を総合的に分析されること、そして当社のサステナビリティへの取り組みに対するご意見・ご提言をお寄せいただくことをお願いしています。

当社のステークホルダーエンゲージメントとマテリアリティ評価のプロセスは、4つの主要な段階から構成されています。



### 01 サステナビリティトピックスの特定

BYDの戦略計画・運営戦略に基づき、最新のサステナビリティトレンドや業界動向を踏まえて、HKEX ESG報告コード、SZSEガイドライン、ESRS、社内のサステナビリティ経営の観点、さらに第三者格付機関の要件を分類基準として参考しました。このプロセスを通じて、昨年のトピックスを再整理し、サステナビリティ関連のトピックスを17個特定しました。これらのトピックスは、昨年の重要トピックスに基づき、関連分野や将来的に重要となり得る分野についてESG管理委員会が実施した最新の評価と組み合わせて選定されました。

マクロトレンドや業界動向、ピアベンチマー킹(業界における比較・分析)のレビューを踏まえ、2024年にESGトピックスとして「自然と生物多様性」と「経済パフォーマンス」の2項目を新たに追加しました。また、正確性を高めるために表現を見直し、いくつかのトピックスを統合しました。

以上を踏まえて、2024年の重要なESGトピックスを次のようにまとめました。

環境	社会	ガバナンス
気候変動への対応	顧客のプライバシー保護	経済パフォーマンス
エネルギー管理	労働安全衛生	ステークホルダーエンゲージメント
廃棄物管理・循環型経済	労働者の権利	企業倫理
水資源管理	人材マネジメント	コーポレート/サステナビリティガバナンス
自然と生物多様性	コミュニティ参画	
	イノベーションと研究開発	
	製品責任	
	責任あるサプライチェーン	

## 02 影響・リスク・機会の特定

特定済みのサステナビリティピックスに基づき、関連するIRO(影響・リスク・機会)を明らかにするために、以下のステップを実施しました。

- 業界のバリューチェーンを段階ごとに詳細に分析し、関連する活動を特定するとともに、BYDに関連するガバナンス・社会・環境へのプラスとマイナスのインパクトファクター(影響指標)を合計34項目列挙
- サステナビリティ方針の要件とBYDのサステナビリティ経営の動向を踏まえ、BYDに関連するリスクと機会についての指標を33項目特定
- 上記の分析の正確性と完全性を担保するため、社内の従業員が結果を確認・検証。また、これらの影響・リスク・機会についてのフィードバックをステークホルダーの皆様に依頼

## 03 ステークホルダーエンゲージメント

当社では、すべてのステークホルダーに対して、インパクトマテリアリティ(サステナビリティのプラスとマイナスの影響指標34項目)とファイナンシャルマテリアリティ(リスクと機会についての33項目の指標)について、評価への参加を依頼しています。

意見を収集したステークホルダーは、以下のとおりです。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| • BYDの従業員      | • 流通業者、パートナー |
| • BYDの取締役・執行役員 | • 業界団体       |
| • 顧客           | • 政府・規制当局    |
| • 株主           | • メディア・一般市民  |
| • サプライヤー       |              |

**インパクトマテリアリティ** - このトピックスに関するBYDの環境・社会・経済へのプラスとマイナスの影響

ステークホルダーの評価のベースとなる指標は以下のとおりです。

- 規模：ステークホルダー、経済、環境への影響の大きさ
- 範囲：影響を受けるステークホルダーの範囲
- 修復不可能性：修復の困難さ
- 発生可能性：発生する確率

**ファイナンシャルマテリアリティ** - リスクと機会は、各トピックがBYDの収益やその他の指標に及ぼす財務的影響に基づいて評価できます。

ステークホルダーの評価のベースとなる指標は以下のとおりです。

- BYDの収益、利益、キャッシュフロー等への影響
- BYDのコンプライアンスへの影響
- BYDの評判への影響
- 発生可能性：発生する確率

今年は、ステークホルダーエンゲージメントのメインの手法としてオンライン調査を実施し、500名以上のステークホルダーからフィードバックを収集しました。

## 04 検証と結果

"03 ステークホルダーエンゲージメント" で抽出したデータを基に、複数部門で連携して評価結果のレビュー・確認を行いました。さらに、外部の第三者コンサルタントと連携してデータを分析し、その正確性を検証しました。ステークホルダーの意見を評価のベースとし、インパクトマテリアリティとファイナンシャルマテリアリティの双方について詳細に評価し、その結果がBYD経営陣の視点と整合性が取れているかを総合的に考慮したうえで、調整が必要なトピックスを特定しました。

また、サステナビリティ経営における優先分野を特定し、開示すべき主要トピックスの最終リストを策定しました。このプロセスは、BYDの戦略・持続可能な発展委員会によってレビュー・確認されました。

今年度のダブルマテリアリティ評価の結果を踏まえ、以下のマトリックスを作成しました。



## コアトピックス、重要なトピックスに関する影響・リスク・機会

コアトピックス、 重要なトピックス	インパクトマテリアリティのレベル	ファイナンシャルマテリアリティのレベル	期間 <sup>3</sup>	当社の対応
コアトピックス	プラス	マイナス	リスク	機会
	●●○ <sup>4</sup> 製品責任	●●● 製品責任・高品質なサービスといった側面を軽視すると、安全上の問題、製品リコール、顧客の不満を引き起す可能性があります。	●●○ 製品の不具合リスクは、生産基準への不適合結果として規制上の制裁、金銭面での損失、メーカーの評判を傷つける可能性があります。	●●● 製品責任・高品質なサービスといった側面を重視することでブランドの評判を高め、顧客ロイヤルティを向上し、より多くの市場シェアを獲得することができます。
重要なトピックス	●○○ 気候変動への対応	●●○ CO2排出量を減らし、化石燃料から転換し、持続可能なエネルギーを推進することで、気候変動を緩和し、社会に貢献します。	●●○ 炭素税をはじめとする環境規制の強化によってコストが上昇し、EV需要の拡大によって消費者は低炭素製品に目を向けるようになり、それに応えるべく企業にも圧力がかかります。	●●● 政府の気候規制は、長期的なエネルギーインフラへの投資を後押しし、持続可能な成長を促進します。さらに、脱炭素化への期待に応えることでBYDの企業価値が高まり、ネットゼロエミッションのビジネスモデルを支えることにもつながります。
	●●○ イノベーションと 研究開発	●●● 研究開発に投資することで、バッテリー効率の向上や自律/自動運転などの高度な電気自動車技術の開発を促し、性能と顧客満足度を向上します。	●●○ より厳格なCO2排出基準や消費者の好みの変化により、電気自動車や燃費の良い車への需要が高まった結果、コストの増加や収益の減少による財務的損失が生じる可能性があります。	●●● 革新的なテクノロジーや持続可能な取り組みに積極的に投資することで、貴重な機会を生み出し、市場での存在感を高め、ビジネスのレジリエンスを強化できます。
責任ある サプライチェーン	●○○ サプライネットワーク全体で社会的・環境的责任を推進することにより、社会全体の持続可能な発展に貢献します。	●●● サプライヤーによる管理方針や慣行が不適切だと、社会面や環境面で悪影響が拡大する可能性があります。	●●○ サプライヤーをESG基準で評価・監視する取り組みが不十分な場合、コンプライアンスや評判、業績に関するリスクが生じる可能性があります。サプライチェーンが不安定になると、業務が混乱し、コストが増える可能性があります。	●●● 持続可能な調達を進めることで、サプライチェーン管理が強化され、ブランドの評判が高まり、コスト効率と市場での競争力が向上します。
労働者の権利	●○○ 事業活動やサプライチェーンにおける労働者の権利を適切に管理し、その取り組みを促進することで、個人の権利を尊重します。	●●● 労働者の権利問題を適切に管理しないと、権利の侵害、危険な労働環境、不十分な賃金、搾取につながる恐れがあります。	●●○ 人権を軽視したり、非倫理的な行為に及んだりすると、従業員や利害関係者に損害を与え、評判を落とし、事業運営・法的な課題を生むことがあります。	このトピックスに関して、重要な機会は特定されませんでした。 短期 従業員の権利

当社において「製品責任」と「気候変動への対応」はファイナンシャルマテリアリティが高いテーマであり、グループ価値に最も大きな影響を及ぼします。たった1件の事故でも顧客基盤・企業価値に多大な影響を及ぼす恐れがあるため、「製品責任」は当社の事業の礎となっています。「気候変動への対応」の重要性が一段と高まっているのは、潜在的な影響であっても不確実性を残し、当社の事業やサプライチェーンに混乱を招く可能性があるためです。

私たちは、これらのトピックスがもたらすリスクを抑え、チャンスを逃さないよう積極的に措置を講じています。重要性の高いトピックスについては、短期での行動計画を策定し、日常的な業務に組み込み、定期的に見直すなどの的を絞った改善活動を行うとともに、サステナビリティへの取り組みを着実に進めることでステークホルダーの関心に積極的に対応しています。詳細については、本報告書の後続のセクションで説明します。財務上の重要なトピックスについては、評価手法の正確さと信頼性を保つべく引き続き手法の強化を進めています。

<sup>3</sup> BYDは、自社の事業と上流・下流のバリューチェーンの特性を踏まえ、短期(1年以内)、中期(1~5年)、長期(5年以上)の時間軸で気候関連のリスクと機会を特定しています。

<sup>4</sup> レベル1、2、3の各しきい値は、範囲内の値におけるパーセンテージランクを3倍して小数点以下2桁に切り上げて算出しています。レベル1は0%~33.33%、レベル2は33.34%~66.66%、レベル3は66.67%~100%に相当します。

# 01

## ガバナンスの誠実性と事業開発を 支える信頼性

BYDは、コンプライアンス・誠実性・強固な業務運営といったフィロソフィーを堅持し、より合理的で透明性のある意思決定プロセスの整備と、より効果的なリスク管理・統制システムの構築に継続的に取り組んでいます。高い基準を掲げるビジネス行動規範を遵守し、私たちはステークホルダーと公正で健全な関係を築いています。これらの取り組みは、グループの持続可能な発展と長期的な価値創出を力強く後押しするものです。

この章の目標と指標

SDGs



HKEX ESG報告コード

KPI-B7.1、KPI-B7.2、KPI-B7.3

SZSEガイドライン

反商業賄賂・反腐敗、反不正競争ESRS

G1-3、G1-4

GRIスタンダード

2-9、2-10、2-12、205-2、205-3、206-1、207-1、207-2、405-1

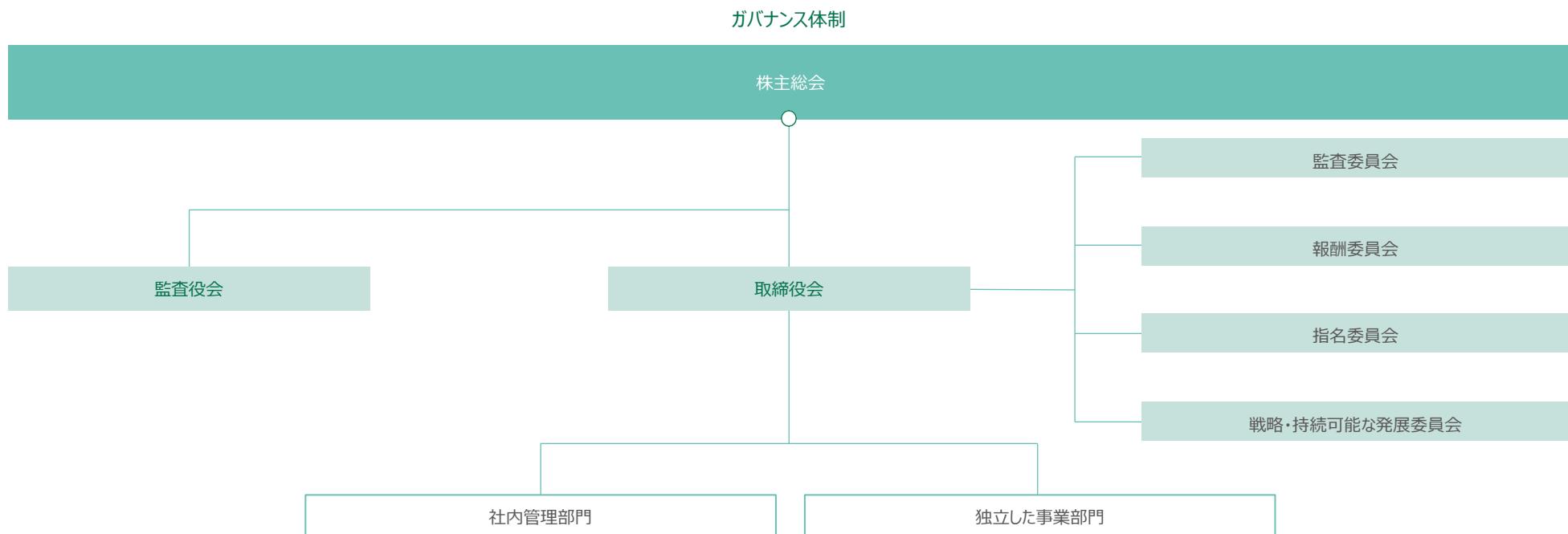


## コーポレートガバナンス

BYDは、中華人民共和国会社法、中華人民共和国証券法、中国証券監督管理委員会の上場会社のコーポレートガバナンス規範、深圳証券取引所の株式上場規則、深圳証券取引所上場企業自主規制ガイドライン第1号：メインボード上場企業の標準化運営などの適用される法律、規則および規制文書を遵守しています。当社は、関連する法律や規制に従い、業務運営の規律化、情報開示および投資家向け情報(IR)管理の改善、コーポレートガバナンス能力の強化に継続的に取り組み、事業を常にコンプライアンスに準拠した健全な状態にします。

### ガバナンス体制

BYDは、株主総会、取締役会、監査役会および上級管理職からなるコーポレートガバナンス体制を確立しています。適用される法令、規則および当社の定款を遵守し、コンプライアンスに従った業務運営を行い、このガバナンス体制のもと、株主総会での意思決定、取締役および監査役の選任、上級管理職の任用を通じて、当社の責務と義務を果たしています。2024年には、グループの株主総会、取締役会、監査役会および上級管理職が、適用される規制規則および社内方針を厳格に遵守したうえで経営上の意思決定を行い、日常業務を監督しました。



## 取締役会の経営責任

取締役の指名および選任手続きは、「会社定款」や「株主総会議事規則」などの方針に従って行っています。メンバーは、株主総会での投票によって選出・決定されます。現在の取締役会は3名の独立取締役を含む6名の取締役で構成されており、香港証券取引所の「上場企業の独立取締役の管理に関する措置」および「有価証券上場規程施行規則」の要件を満たしています。取締役会に占める独立取締役の割合は3分の1以上とし、独立取締役は他社の取締役を4社以上兼任しないことと定められています。

コーポレートガバナンスの強化に向け、取締役会は監査委員会、報酬委員会、指名委員会、戦略・持続可能な発展委員会を設置しました。各委員会は定期的に取締役会へ報告し、調査結果と提案を提出して、その決定を仰ぎます。

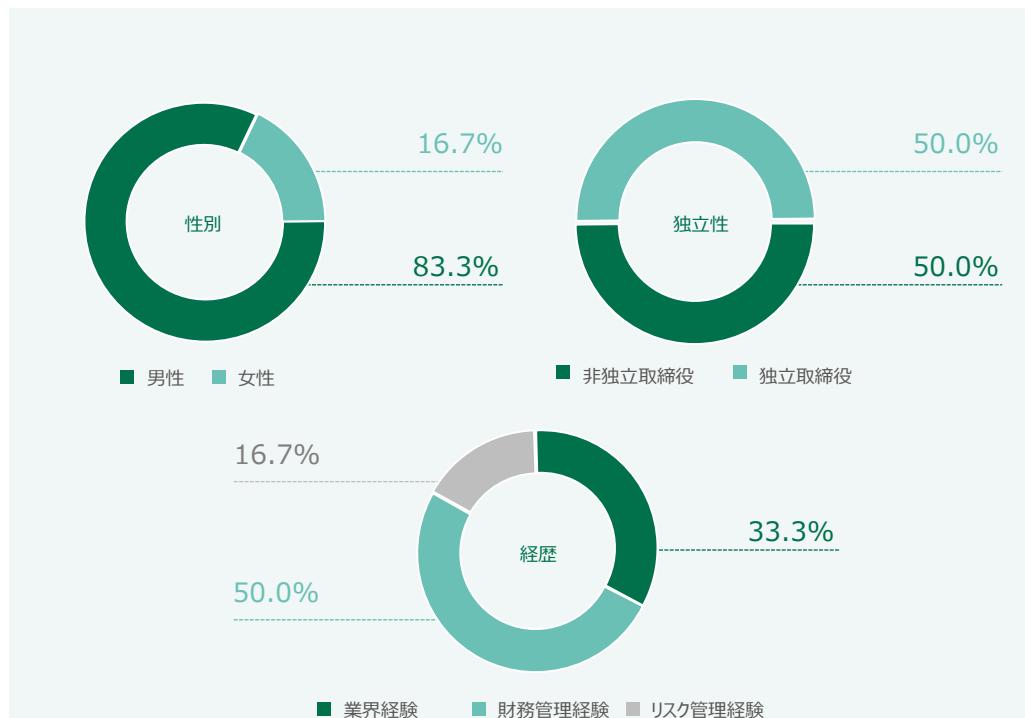
	監査委員会	報酬委員会	指名委員会	戦略・持続可能な 発展委員会
メンバー構成	非執行取締役1名 独立非執行取締役3名	業務執行取締役1名 非執行取締役1名 独立非執行取締役3名	業務執行取締役1名 非執行取締役1名 独立非執行取締役3名	業務執行取締役1名 非執行取締役2名 独立非執行取締役2名
主な責務	人事管理方針の定期的な見直し、取締役や上級管理職の報酬体系・補償・福利厚生制度に関する提案、上場規則第17章に基づく株式制度の見直し・承認、そしてグループ上級管理職の業績目標の設定。	取締役会の構造・規模・構成の見直し、取締役会および上級管理職の候補者選定、取締役の選任・再任、取締役会の後継者計画に関する取締役会への助言、独立非執行取締役の独立性の評価、ならびに取締役の指名方針の決定。		

当社は、取締役会の職務執行をより適切に監督するため、BYD定款を制定しました。方針では、取締役が取締役会に2回連続で自ら出席せず、他の取締役への出席委任もしない場合、その職務を遂行できないものとみなすと定めています。また、取締役会は株主総会に対し、当該取締役の解任を勧告します。当期、当社の取締役会は責務を十分に果たしました。同時に、取締役や上級管理職の報酬管理を強化し、関連する報酬・業績評価制度も策定した他、ESGに関連する業績を、経営陣や関連する責任者の報酬実績と連動させました。

## 取締役会の多様性

BYDは、コーポレートガバナンスと取締役会の効果を高めるうえで、多様性のある取締役会が重要だと認識しています。当社は、取締役会がグループの事業に必要となる適切なスキルや経験、多様な視点を備えるよう、取締役会の多様性を実現するためのアプローチを定めた「取締役会多様性方針」を策定しました。

取締役会と指名委員会は、取締役会の構成を決定するにあたり、性別、年齢、文化的・教育的背景、専門的経験、スキルおよび知識の観点から多様性を考慮します。当社の取締役は、グループの事業、戦略的発展、リスク管理、業務運営に密接に関連する、各分野(製造、リスク管理、財務、技術)での専門知識および実務経験を有しています。これにより、当社は意思決定を効率化し、さまざまなステークホルダーの関心事項や期待に合理的に対応することができます。取締役会の任命はすべて、能力を重視しつつ客観的な基準に基づいて候補者を検討し、取締役会における多様性の利点を十分に考慮して行います。



## 自由 コンプライアンス運営

BYDは、業務において法令遵守を徹底しています。内部統制・管理体制、リスク管理の強化に加え、コンプライアンスの重要性について従業員の意識を高める取り組みを継続的に進めるとともに、コンプライアンスを基盤として、長期的かつ安定的な発展を目指します。

### リスク管理

当社は、最新事情に即したコーポレートガバナンス体制のもとでリスク管理組織を設置し、重大なリスクを未然に防止することを最優先します。BYDの内部統制や内部統制評価の管理規定、リスク管理などの社内方針に基づき、重大なリスクの特定・評価・開示の手続きを標準化し、それらのリスクに関する管理・情報伝達・監督を強化しています。これは、グループ資産の安全性、業務の適法性とコンプライアンス、財務報告および関連情報の真実性と完全性、そして業務運営の効率性と持続可能性を担保するためです。

グループのリスク管理能力を高めるため、グループの社長を委員長とするリスク管理委員会を設置しています。コンプライアンス委員会は、グループの副社長、各事業ユニットのCEO、各事業部門のゼネラルマネージャーで構成されており、事務局として監査・検査室を設置し、四半期ごとに各事業部門からリスク報告を収集しています。これに基づき、グループの各事業部門のリスク管理が適切に機能しているかをモニタリングし、フォローアップしています。



## コンプライアンス管理

BYDは、包括的なコンプライアンス管理体制を確立しています。現地の法令・規制の最新動向を把握し、コンプライアンス管理方針を適宜見直すとともに、コンプライアンス文化の醸成を一層進め、適法かつコンプライアンスに則ったグループの運営・管理を徹底しています。

### ◆ コンプライアンス管理の枠組み

コーポレートガバナンスを強化し、事業活動でのコンプライアンスを維持するために、コンプライアンス委員会を設置しています。コンプライアンス委員会は、グループ社長が議長を務め、グループのコンプライアンス方針や全体目標を定めるとともに、関連する手続きや文書の承認を行います。メンバーは各事業ユニットのCEOと各事業部門のゼネラルマネージャーで構成され、コンプライアンス目標の達成に向けて策定された手続きや文書の審査を行います。

当委員会には、コンプライアンスに関する管理体制の構築を主導し、年間計画の策定、報告・調査体制の整備、業務の監視・評価を行う事務局があります。各事業ユニットと事業部門は、それぞれの状況に合わせてコンプライアンスワーキングチームを設置し、日々の業務運営や管理においてコンプライアンスの確認と意思決定ができる仕組みを導入しています。同時に、コンプライアンス管理や行動規範を踏まえ、経営陣および関係する責任者の業績連動報酬を決定することで、その実効性を確保しています。

### ◆ コンプライアンス文化の醸成

当社は、従業員の日常業務に関する指針を示し、コンプライアンス意識を高めるために、「BYD企業コンプライアンス行動規範」を発行しました。また、コンプライアンス文化を推進することを非常に重視しており、新入社員に対しても、これに関するグループの要件を速やかに理解できるよう、研修を実施しています。さらに、法令遵守が重要となる分野や各段階において主要な従業員を対象に研修を実施し、コンプライアンスの概念を実務へ落とし込むよう支援している他、個人データのコンプライアンス実践に関するオンライン講座を開発し、グループの社内プラットフォームで全従業員に提供しています。また、「BYDリーガルナレッジオンライン」の公式アカウントを開設して、コンプライアンス管理に関する情報をポストしています。

#### 2024年

コンプライアンス関連のポスト掲載: 29件

新入社員向けのコンプライアンス研修受講者数(累計): 20万人超

個人データのコンプライアンスの実践に関する研修の実施: 74回



## 企業倫理

BYDは、企業倫理のガバナンス強化に継続的に取り組んでいます。当社は企業倫理に反するいかなる不適切な行為も一切容認せず、グループの健全で持続可能な発展を支える誠実な体制の構築を強力に推進します。

### ◆ 独占禁止

公正で自由な競争を推進し、「中華人民共和国独占禁止法」、「中華人民共和国不正競争防止法」をはじめ、あらゆる法令を遵守します。これは、誠実で公正、そして自由な市場秩序とビジネス環境を維持するためです。

当社は、包括的な独占禁止コンプライアンス管理体制に加え、「独占禁止・公正競争コンプライアンスに関するBYD管理規定」などの社内ポリシーを整備しています。これらは、当社グループの国内外での事業活動に関する独占禁止や不正競争防止の要件を定めるものです。また、独占禁止法コンプライアンスの主管部門として知的財産・法務室を設け、関連事項を定期的に経営陣へ報告することで、事業活動が継続的に法令を遵守できる体制を確保しています。2024年、BYDは不正競争行為や反トラスト法、独占禁止法違反に関する訴訟には一切関与していません。

当社は、独占禁止への意識付けに力を入れ、オンラインセミナー・法律プログラム、関連する広報記事などを通じて定期的に独占禁止についての研修を実施しています。その目的は、公正な競争を重んじる独占禁止への意識を築くことです。

### ◆ インテグリティマネジメント

私たちは、「商業賄賂禁止に関する暫定規定」などの現地の法律や規制、「国連腐敗防止条約」などの国際条約に従っています。汚職、贈収賄、詐欺を一切容認しません。報告期間中、BYDでは、グループの業務に重大な影響を及ぼし得る汚職、贈収賄、詐欺、その他の違法行為は発生しておりません。

私たちは社内規定の継続的な改善に取り組んでおり、「BYD従業員の職業倫理規定」「BYD行動規範」「BYD従業員の利益移転行為管理措置」「BYD管理職の経済行動規範」「BYD従業員外部公式交流管理規定」を新たに制定・発表しました。これらの規定を定期的に見直し、基準に即した手続きに則って実施・調査・処罰を行い、腐敗防止の取り組みを着実に進めるよう努めています。グループ全体の重要なリスク領域や主要事業ユニットを対象に調査・検証を行うグループ監査・検査室を設置し、汚職防止の取り組みを強化しています。

## 2024年

監査・検査室は、調達検査プロジェクトを**24**件実施し、方針やプロセス、システムに関するリスクを**22**件特定しました。



誠実性に関する規律に違反した従業員は、当社の規則・規定に基づき、雇用契約の解除やBYD除名リストへの登録などの処罰対象となります。2024年は、重大な違反を犯した49人を調査し、処分しました。違法行為の疑いのある者は、断固たる姿勢で司法当局に引き渡し、適切に対処します。また、汚職に関する訴訟15件を終結させました。

当社では、すべてのパートナーに「サプライヤー反商業賄賂防止誓約」への署名をお願いしています。規則に違反したサプライヤーは、契約および協力の誠実性に関する合意に基づいて責任を問われることになり、確定損害賠償金の没収、協力資格の取り消し、禁止パートナーリストへの登録などの措置を受けます。これは、パートナーと協力し、ビジネスにおける誠実な環境を構築するためです。2024年、BYDは誠実協力協定に違反したとして、合計16社のサプライヤーとの取引を打ち切りました。

## ◆ 内部通報制度

BYDは、すべての従業員に汚職防止と監督活動への参加を推奨しています。当社は、従業員や外部の方、その他のステークホルダーから企業倫理や汚職に関する報告を受け付けるため、円滑かつ迅速で効果的な通報窓口と報告システムを整えています。規制に基づき、効率的かつ公正に報告を処理するため、報告の受理と調査を担当する専任の担当者を任命しています。違反が確認された場合は厳格に対処し、必要に応じて司法機関に引き渡します。

## 内部通報窓口

電話 : 0755-89888888-62407



メール : tousu@byd.com

WeChat公式アカウント : Integrity BYD

内部告発者の権利と利益を守るために、当社は「BYD内部告発者保護および報奨規定」などの社内規定を策定しました。匿名の通報を受け付けており、事件の受理から登録・調査・管理までの各段階で通報者の情報を厳重に守秘します。通報者の情報と通報内容の安全を守るために、複数の対策を講じて漏洩や紛失のリスクを効果的に防いでいます。

## クローズドループ管理のオンライン処理

- クローズドループ管理ですべての報告情報を一元化できるオンライン監査監督管理システムを開発しました。

## システムアクセス管理

- すべての苦情にアクセスできるのは監査・検査室のゼネラルマネージャーのみですが、必要に応じてフォローアップのために調査官へアクセス権を付与することがあります。

## 匿名での苦情申立ての許可

- 調査の期間中、内部告発者は電子メールや電話を使い、匿名で調査官に連絡できます。

## 報復の禁止

- 従業員は、内部告発者やその他の通報者に対して、いかなる形であれ報復することを禁じられており、これに違反した場合は、厳正に処分されます。また、法律に違反した者は、法的責任を問われます。

報告された内容の有効性を確認後、事案の性質や重大性、金額に応じて内部告発者へ報奨を支払います。汚職に関する情報を積極的に報告し、調査にも積極的に協力し、今後は違反を行わないと約束する外部関係者については、適切と判断される場合は協力関係を維持・継続します。また、従業員が受け取った不適切な特典や割引を自発的に返還できるよう、インテグリティ口座を設けています。これは、自己修正の機会を提供し、違反に対する責任を軽減できるようにするためです。



## ◆ インテグリティ意識を高めるための取り組み

当社は、インテグリティ文化の構築を強化し、全従業員に向けたインテグリティ研修を継続的に実施しています。新入社員はグループへ入社後、インテグリティ研修の受講が義務付けられている他、各事業部門は、定期的・不定期で問わずインテグリティ研修を実施し、特に不正リスクの高いポジションにおけるインテグリティの推進・実践に注力すること、また、WeChat公式アカウントでのポストを通じてインテグリティ文化を広め、強固なインテグリティ文化を継続的に築いていくことが求められます。私たちは、評価を通じて学習とインテグリティを促し、管理職員を対象にしたインテグリティ試験をグループごとに継続的に実施しています。2024年12月の時点では、オンライン試験は35回実施され、合格者は従業員18万1,000人に達しています。

全従業員にインテグリティ関連文書への署名を義務付け、管理職員にはインテグリティコミットメントレターへの署名を求めており、署名率は100%を達成しています。インテグリティに関する方針を改定した際は、管理職員に新しい方針を学習させ、内容を十分に把握できているか確認するための試験を実施します。

同時に、インテグリティに関するさまざまな広報活動も行っています。毎年1月を「インテグリティ月間」と定め、上級管理職によるインテグリティ宣言をはじめとする、広報・啓発活動を継続的に展開し、全従業員のコンプライアンスおよびインテグリティ意識を組織全体で高めています。四半期ごとに代表的な腐敗防止事例を電子形式でまとめ、グループの上級管理職がレビューして各事業分野での管理上の抜け穴やインテグリティリスクへの注意喚起を行い、監督を強化しています。



## 2024年

新入社員に対するインテグリティ研修の受講率は**100%**

重要ポジションに対するインテグリティ研修の受講率は**100%**



## 税務戦略

BYDは、「中華人民共和国企業所得税法」などの現地税法・規制に加え、経済協力開発機構(OECD)が公表した基準を含む国際的な税務基準を厳格に遵守しています。関係部署から任命された担当者が、定期的な税務申告をはじめとする日々の税務業務を担っています。当社は今後も、各事業地域の税務に関する規制や政策の変化を継続的に監視し、税務関連の対応を適切に調整していきます。

2024年

国内での納税総額は**510億元**



## 情報セキュリティ

私たちは、グループおよびお客様の情報セキュリティを非常に重視しています。当社は、「中華人民共和国サイバーセキュリティ法」、「中華人民共和国データセキュリティ法」等の法令を厳格に遵守し、標準化された情報システムの構築を積極的に進めています。さらに、規制要件を満たす高度で総合的なデータセキュリティ管理体制を整備することで、国内外のお客様にサービスを提供するための健全な情報セキュリティ基盤を築いています。2024年、BYDでは、会社に重大な財産的損失をもたらすデータセキュリティインシデント<sup>5</sup>は一切発生しませんでした。

### 情報セキュリティ管理

当社では、情報セキュリティ委員会、事務局、各事業部門の情報セキュリティ実行委員会で構成される管理体制を整備しています。この体制のもと、取締役会の配下に設置された情報セキュリティ委員会は、情報セキュリティシステムの運用に関する意思決定と監督を担い、これに関する戦略や方針を効果的に実施できるよう確実に運用しています。事業部門の情報セキュリティ実行委員会は、関連業務を推進し、情報セキュリティ関連活動の進捗を定期的に報告する役割を担っています。

当社は、情報セキュリティリスクの予防体制を強化し、グループの情報資産を効果的に守るため、情報セキュリティマネジメントシステムを継続的に改善し、各種施策を進めています。



#### 情報セキュリティ技術

新たに立ち上げたシステムや稼働中のシステムの脆弱性をスキャン・分析するため、サードパーティ製のセキュリティ脆弱性スキャンプラットフォームを導入しています。また、ハッカーによる攻撃を想定した模擬的な防御訓練も、不定期で実施しています。

#### 情報セキュリティリスクの特定

毎年、重要分野におけるすべての情報セキュリティリスクを定期的に特定・評価し、グループの事業状況や特定されたセキュリティ脅威に基づいて、リスク評価計画を策定しています。

#### 情報セキュリティ監査

情報セキュリティ監査の年間計画を策定し、事業部門を対象に内部監査を実施して、情報セキュリティ管理システムの構築/運用状況を検証します。

#### 情報セキュリティ認証

ISO 27001、TISAX、ISO SAE 21434、UN R155、UN R156の各認証に加え、情報セキュリティ等級保護レベル3の評価・認証を取得しています。

<sup>5</sup> データセキュリティインシデントとは、「グループ情報セキュリティインシデント管理規定」においてレベルⅡ以上に該当する事象(会社全体に重大な結果をもたらし、会社のブランドイメージにも深刻な影響を及ぼす)を指します。

## 情報セキュリティ認証

2024年にグループで取得

ISO 27001 11組織

TISAX 3組織

ISO SAE 21434 1組織

UN R155 1組織

UN R156 1組織

情報セキュリティ等級保護レベル3の評価と認証 21システム

## 情報セキュリティ広報

社員の情報セキュリティ意識を高めるため、オンラインと対面の両方で研修を実施しています。対象は、事業部門の情報セキュリティ責任者、主要担当者、情報システム管理者、新入社員とし、情報セキュリティインシデントへの感受性と対応力の向上を目的としています。

事業が急速に発展する中で、グループの情報セキュリティ管理の対象は、サプライチェーンの上流から下流まで、全体へと広がっています。

サプライヤーを対象に、情報セキュリティ意識の向上とリスクの低減、意識不足によるインシデントの回避を目的とした情報セキュリティ研修を3回実施し、976名が受講しました。

2024年

情報セキュリティ研修は延べ**74**回実施され、受講者数は**3万人**を越えました。

## 株主の利益の保護

BYDは、健全な投資家保護制度を通じて投資家の権利と利益の保護に注力しています。私たちは、迅速で完全な情報開示に努め、投資家が必要な情報に確実にアクセスできるようにし、その正当な権利と利益を保護しています。

### 投資家向け情報管理

当社は、株主総会、業績説明会、投資家アンケート、電子メール、電話など、投資家向けの多様なコミュニケーション手段を活用して、株主や投資家と効果的に健全なコミュニケーションを維持することで、開かれた透明性の高いグループ運営を支えています。

2024年

株主総会を3回、業績説明会を1回、投資家との電話会議を32回、  
投資家向けの現地訪問および説明会を30回実施しました。



## 株主への還元

株主への還元を強化し、中小株主の権利と利益が公正かつ十分に尊重されるよう取り組むとともに、グループの事業成長の成果をすべての株主と共有することに努めています。

自己株式の取得については、2024年3月6日開催の第8期第5回取締役会および第8期第3回監査役会、さらに2024年4月19日開催の2024年第1回臨時株主総会、第1回A株株主総会、第1回H株株主総会において、2024年自己株式取得計画が承認されました。

2024年4月25日が、当社の自己株式取得の初日となりました。当社は、集中入札取引の買戻し専用証券口座を通じて、合計1,877,000株のA株を自己資金で買戻しました。自己株式取得計画は2024年4月26日に完了し、関連株式は2024年5月10日に消却されました。自己株式の取得・消却前の発行済株式総数は2,911,142,855株で、取得・消却後は2,909,265,855株となりました。

利益配分については、2024年6月6日の定時株主総会で、2023年度の利益配分計画が承認されました。これに基づき、株式配当基準日現在の発行済株式総数2,909,265,855株を基準として、全株主に対し10株当たり30.977722人民元(税控除前)の現金配当を実施。現金配当総額は約90億1,224万3,000人民元です。

カテゴリ	2021年	2022年	2023年
分配の基となる資本株式数(株)	2,911,142,855	2,911,142,855	2,909,265,855
年次報告書に開示されている 基本的1株当たり利益(人民元)	1.06	5.71	10.32
1株当たり純資産額(人民元)	0.105	1.142	3.097

# 02

## テクノロジーが導くグリーンな未来

地球環境への深い关心と、気候変動という課題に向き合う中で、BYDの明るいグリーンドリームが生まれました。私たちは、人類、国々、コミュニティ、都市の持続可能な未来のために、太陽光発電、エネルギー貯蔵、電気自動車の開発に取り組んでおり、「取得」「貯蔵」「利用」という3つの主要な局面において、化石エネルギーへの依存からの脱却を目指しています。この夢を統合型の新エネルギーソリューション戦略としてまとめ、バリューチェーン全体のグリーンな運営を通じて夢を実現し、決意、革新、実践によって力へと変えていきます。これらのすべての取り組みは、グリーンな未来を実現するためのものです。

この章の目標と指標

SDGs



HKEX ESG報告コード

A1、A2、A3、A4

SZSEガイドライン

気候変動への対応、汚染物質排出、廃棄物処理、生態系・生物多様性保全、環境コンプライアンス管理、エネルギー利用、水利用、循環型経済

ESRS

E1-1、E1-2、E1-3、E1-4、E1-5、E1-6、E1-8、E1-9、E2-1、E2-2、E2-3、E2-4、E2-5、E2-6、  
E3-1、E3-2、E3-3、E3-4、E4-1、E4-2、E4-3、E5-1、E5-2、E5-3、E5-4、E-5

GRIスタンダード

301-1、301-2、301-3、302-1、302-3、302-4、302-5、303-1、303-2、303-3、303-4、303-5、  
304-1、304-2、304-3、304-4、305-1、305-2、305-3、305-4、305-5、305-7、306-1、306-2、  
306-3、306-4、306-5、308-1、308-2



## 気候変動への対応

気候変動により、人類の現在と将来の生産活動や発展はますます脅かされ、厳しい試練に直面しています。これを受け積極的な予防措置を取ることは、長らく世界的なコンセンサスとなっています。2024年、「国連気候変動枠組条約」(UNFCCC)の発効30周年を迎える、各国はCOP29でバーカー気候連帯協定(BCSP)に合意し、気候変動への世界的な取り組みをいっそう結束させました。

BYDは、カーボンピークアウトとカーボンニュートラルの目標を指針に掲げ、グリーン開発の理念を当社の戦略と事業に深く組み込んでいます。また、気候変動に伴うリスクと機会を積極的に見極め、カーボンニュートラル達成に向けた目標と行動計画を策定し、産業チェーンの低炭素化を推進しています。

### 気候ガバナンス

BYDは、気候変動に関わる課題を取り組んでおり、取締役会、戦略・持続可能な発展委員会、ESG管理委員会、ESG・炭素排出量管理チーム、各事業ユニットおよび事業部門といった全機能部門・生産部門のメンバーが参加する気候変動ガバナンス体制を構築しています。

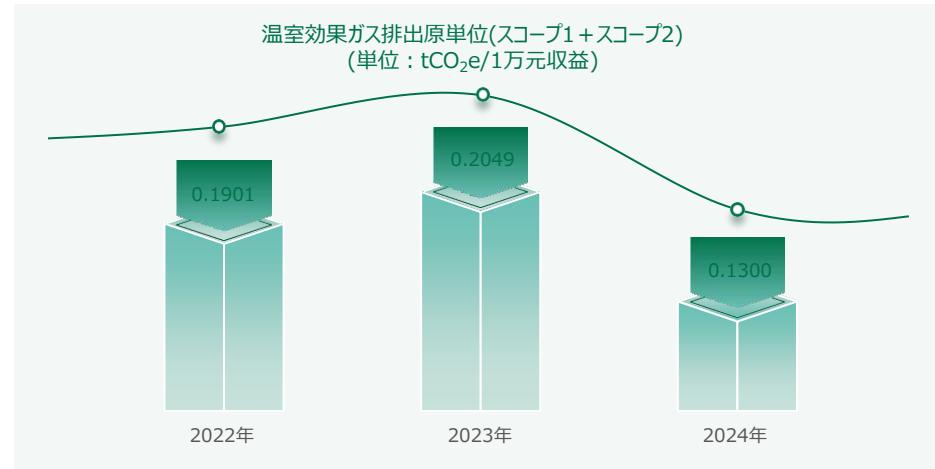
また、当社は、気候変動と炭素管理に関する特別な研修を実施し、気候ガバナンス、管理、実行を担うチームの能力を高め、認識から実践に至るまでの包括的な能力向上を図っています。この研修は、社内学習や専門家の指導を通じて実施され、世界基準の動向、開示要件、気候評価の手法、炭素排出量の計算方法とツール、そして炭素削減の道筋まで、理論と実践の両面を幅広くカバーしています。

2024年

気候ガバナンス、管理、実行を担当する**全員(100%)**を対象に、  
炭素管理の特別研修を8回実施しました。



グループのサステナビリティガバナンスの詳細については、本レポートの「サステナビリティ経営」セクションを参照してください。



## 気候戦略

BYDは、気候変動管理戦略を策定するにあたり、科学的で体系的なアプローチを採用しています。自社の事業やバリューチェーン上流・下流の特性に基づき、短期(1年以内)、中期(1~5年)、長期(5年以上)にわたる気候関連のリスクと機会を特定してさまざまな気候シナリオを参照しながら評価・分析を行っています。また、当社は気候変動リスクに積極的に取り組みつつ、成長の機会を捉えるための試みを行っています。

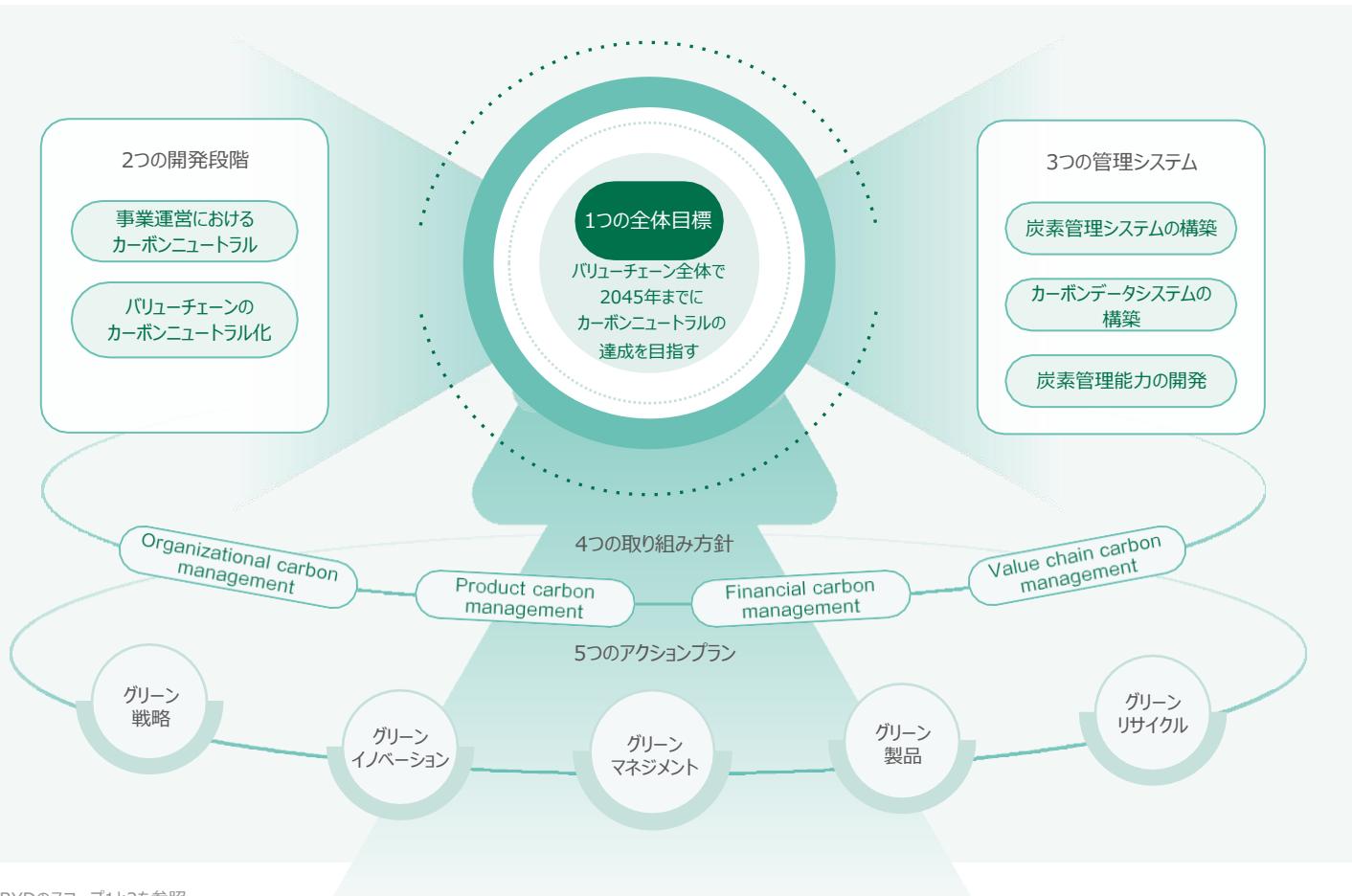


### ◆ 気候関連リスク

リスクの種類	リスク	リスクの説明	対応策	期間
移行リスク	法的および政策リスク	世界各国・地域で炭素排出量の検証に関する規制が強化され、企業は一層厳格な監督や管理体制が求められている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の政策や規制の最新情報を常に把握し、ビジネス運営が現地の法律や規制に確実に準拠するようにする</li> </ul>	短期・中期・長期
	技術的リスク	低炭素技術へのさらなる研究開発・投資に直面する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素技術の研究開発を一層強化し、省エネルギーと排出量削減の潜在力を最大限に引き出す。</li> </ul>	短期・中期・長期
	市場リスク	再生不可能な資源やエネルギーが不足すると、製品のコストや価格に影響する	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源とエネルギーの安定供給を守るために、調達管理を強化する</li> <li>単一の資源やエネルギーへの依存を減らすため、代替資材を積極的に開発する</li> </ul>	短期・中期・長期
	レピュテーションリスク	投資家やステークホルダーは、気候変動への取り組みに以前にも増して注目している	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー消費を抑えるため、設備のアップグレードや省エネ技術の導入など、省エネ・排出量削減の取り組みを実施する</li> <li>気候変動関連の研究を共同で進めるため、大学や科学研究機関と長期的な協力関係を構築する</li> </ul>	短期・中期・長期
物理的风险	急性リスク	台風や洪水といった極端な気象条件が生産に影響を及ぼす可能性がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常気象に対する緊急対策を策定し、潜在的な危険の特定を強化する</li> <li>商業保険などの合理的な対策を講じることで、異常気象による潜在的な損失を軽減する</li> </ul>	短期・中期・長期
	慢性的なリスク	気温の高い日が続くなどの慢性的リスクによって、生産に影響が出る可能性がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>猛暑に備えた気候対策の計画を立てて、熱中症や日射病を防ぐための設備や薬を準備する</li> </ul>	中長期

## ◆ 気候変動対策

私たちはグリーンドリームに向かって前進しています。当社は2024年、バリューチェーン全体で2045年までにカーボンニュートラルの達成を目指すという大目標を掲げ、段階的な目標として、自社事業<sup>6</sup>における炭素排出強度を2023年比で50%削減することを目指します。目標達成を効果的に進めるべく、カーボンニュートラル戦略とその実施までの道筋として「12345パスウェイ」を策定しました。「12345パスウェイ」に基づき、私たちは低炭素転換に向けた多角的な実施経路を継続的に推進し、4つの主要分野で炭素関連の管理システムをさらに発展させます。同時に、「グリーン戦略、グリーンイノベーション、グリーンマネジメント、グリーン製品、グリーンリサイクル」における重要な取り組みにも注力していきます。



グリーンな製品や技術による気候変動の緩和への貢献度が高まるに伴い、私たちの低炭素ライフスタイルはさらに大きな影響力を持つようになります。過去数年にわたり、当社と会長はそれぞれの立場でザイード未来エネルギー賞の企業・個人部門の生涯功労賞を受賞し、国連気候サミットでは基調講演への招待も受けました。国際社会からのこうした評価は、エネルギー危機や気候変動、持続可能な発展への取り組みにおける私たちの探求、貢献、リーダーシップを裏付けるものであり、当社のグリーンドリームが世界の夢を担うものであること、長期的に追求する価値があることを証明するものであります。

グループの気候変動対策の詳細は、本レポートの「グリーンな製品と技術」と「グリーン運営」の各セクションをご参照ください。

<sup>6</sup> BYDのスコープ1と2を参照

## 気候の影響・リスク・機会の管理

BYDは、気候関連の課題を全社のリスク管理体制に組み込みました。リスクデータベース、インタビュー、ワークショップ、アンケート調査といったツールを総合的に活用し、リスクと機会の現状および将来の動向を定期的に評価しています。リスクと機会がグループへ及ぼす潜在的影響を評価し、対応策を特定したうえで実施計画を立て、気候変動対策における確かな洞察力と積極性を保つよう注力しています。

グループのリスク管理全般についての詳細は、本レポートの「リスク管理」セクションを参照してください。

## カーボンニュートラル目標

カーボンニュートラル戦略を効果的に進めるため、私たちは温室効果ガス排出とエネルギー消費に関する気候変動対策の目標とゴールを設定しました。カーボンニュートラルの目標を正式に発表し、2045年までにバリューチェーン全体での達成に向けて取り組むことを約束するとともに、2030年までにグループ事業の炭素強度を2023年比で50%削減するという段階的な目標<sup>7</sup>を設定しました。本レポートでは、2024年の温室効果ガス排出量やエネルギー消費量など、気候変動に関する各種指標も開示しています。本レポートの「主要業績評価指標」セクションを参照してください。

設定した目標を全力で達成するため、BYDでは「炭素排出管理」、「炭素排出量の定量化と管理」、「企業製品のカーボンフットプリント管理措置」などに関する社内方針を策定し、実施しています。このような取り組みにより、当社は炭素排出量の管理と制御を標準化し、継続的に改善していくことを目指しています。これと並行して、私たちはエネルギー消費データをリアルタイムで炭素排出量に変換できるエネルギー/炭素管理プラットフォームを開発し、エネルギーを正確に管理することで工場全体の省エネルギーのためにできることを模索しています。また、さらなる脱炭素化に向けた意思決定を支援するため、社内カーボンブライシングメカニズムを開発しています。

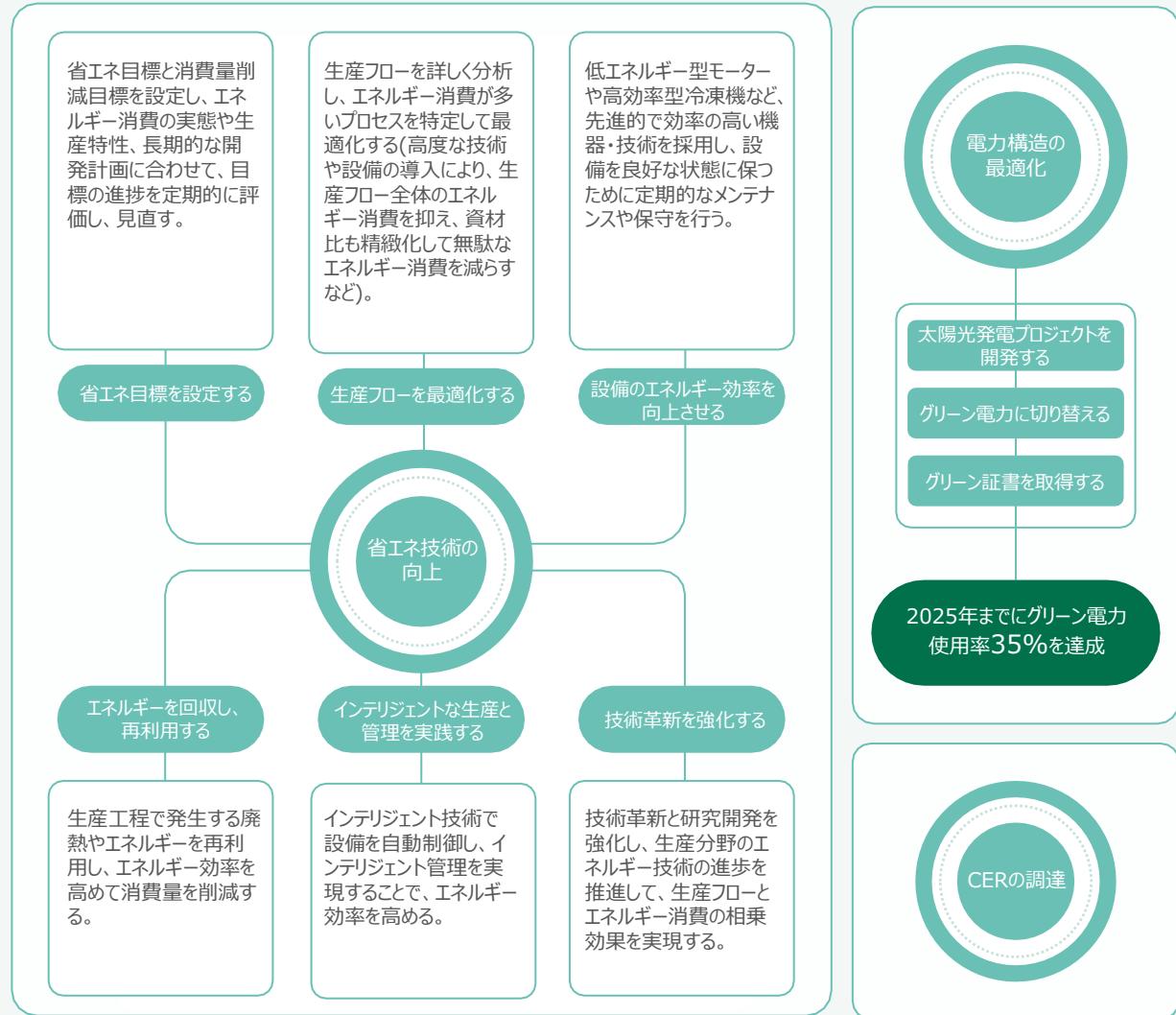
### 段階的な炭素削減目標

**2030年までに**  
グループの事業の炭素強度を50%削減<sup>7</sup>  
(2023年を基準年とする)

↓  
50% 削減

<sup>7</sup> BYDスコープ1、スコープ2

## 炭素削減のロードマップ



## 2024年

年間で増加した新規プロジェクト: **410**件以上 (生産技術・工程の管理、省エネ改善を積極的に推進したことによる)

達成したエネルギー節約効果: **53,000**トン以上 (相当する標準石炭量累計)

相当する排出量削減量: **210,000**トン超(CO<sub>2</sub>換算)<sup>8</sup>



> 省エネルギー・排出量削減プロジェクト<sup>9</sup>

エアコンプレッサー用  
スマートハウスキーパー  
アプリケーション

台州FinDreams Batteryの空気圧ステーションに導入したインテリジェントハウスキーピングシステムにより、エアコンプレッサーの圧力値を機能的かつ精密に制御することが可能となりました。これにより、年間約160万kWhの電力消費削減(二酸化炭素に換算すると約858トンに相当する排出量削減)が見込まれます。

省エネ設備の  
改修

2024年、惠州工場で省エネ設備の更新を実施しました。従来の氷水装置や循環水ポンプなどを、より高効率な設備へ置き換えることで、同等の性能を保ちながら電力消費を20~25%削減します。さらに、冷却塔の配管も改修し、年間約662,700kWhの電力削減(二酸化炭素に換算すると、約355トンの削減に相当)を見込んでいます。

## 2024年

223万枚超のグリーン証書(約**4億6800万**kWhのグリーン電力)を自主的に取得しました。



## バリューチェーン全体での炭素削減を提唱

当社はサプライチェーンの炭素削減計画を策定し、炭素管理の要件をライフサイクル管理に組み込むようすべてのサプライヤーに求めています。これは、私たちが「低炭素」に向けての取り組みとして、バリューチェーンの上流にいるサプライヤーへ影響を広げていることを示しています。

BYDは、サプライチェーン全体のサプライヤーとともに炭素削減目標を設定し、その内容を十分に周知すると同時に、関連する要件をサプライチェーン管理の方針にも盛り込んでいます。また、生産工程でのグリーン電力の段階的な利用拡大、新エネルギー車の採用、省エネ技術の改善促進などをサプライヤーに要請し、稼働時の炭素排出量削減を図っています。また、製品のリサイクルや再利用を推奨するなど、廃棄物の削減や資源の利用率向上といった循環型経済の推進に取り組んでいます。同時に、グリーン調達の方針やガイドラインを整備し、「グリーンサプライヤーとグリーン原料」を含む強固な体制を築くことで、グリーン調達を積極的に推進しています。本レポートの「責任あるサプライチェーン」のセクションを参照してください。

当社は、グリーン製品の製造に関する意思決定を支えるデータ基盤を整えるため、製品のカーボンフットプリント評価も実施しています。ISO 14067やPAS 2050などの関連規格に基づき、原材料の調達から生産、流通、使用、廃棄に至るまで、ライフサイクル全体を通して温室効果ガスの排出量を検証しています。

## 2024年

BYDの新エネルギー車**9**モデルで製品カーボンフットプリントを算定し、バッテリー**4**モデルで製品カーボンフットプリント認証検証書を取得しました。



<sup>8</sup> 省エネルギー量は、「エネルギー使用単位の省エネルギー量の算定方法(GB/T 13234-2018)」に基づいて算定しています。算定係数については「総合エネルギー消費量算出の一般規則(GB/T 2589-2020)」を参照してください。

<sup>9</sup> 炭素削減量を算定する際は、使用する方法論とエネルギー排出係数について「2006年IPCC国別温室効果ガスインベントリガイドラインの2019年改良」を、購入電力の排出係数については2022年の電力全国平均二酸化炭素排出係数を参照しています。

私たちは、開かれた垣根のないアプローチで産業向け炭素排出基準の策定や見直しに積極的に参加し、カーボンフットプリント算定の経験を共有し、新エネルギー業界における炭素管理の標準化に貢献しています。

#### BYDがこれまでに策定・レビューに関与した規格

規格名	策定者
容量が2kWhを超える産業用充電式バッテリー(外部貯蔵を行うものを除く)のカーボンフットプリントの計算および検証方法	欧州委員会 – 共同研究センター(JRC)
温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - リチウムイオンバッテリー	中国電子標準化研究所
製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - パワーバッテリー	中国自動車工業協会
製品カーボンフットプリント算定方法 - リチウムイオンバッテリー	湖南省市場監督管理局
温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - 電気乗用車	中国自動車技術者協会組織委員会
温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - 自動車用パワーバッテリー	中国生態文明研究促進協会
温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - 駆動モーター	中国自動車標準化技術委員会
温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの定量化方法と要件 - 軽量EV	
道路車両企業における炭素排出量算定と報告 - パワーバッテリー製造企業	

## グリーンな製品と技術

BYDは、「技術・グリーン・未来」という製品コンセプトを掲げ、業界全体の相互接続を進めるとともに、新エネルギー事業や自動車事業のグローバル展開を通じて、グリーンドリームの実現を目指しています。私たちは技術の力で新エネルギーの利用を広げ、グリーン製品によって社会の課題解決に貢献します。そして、新エネルギーを通じて、私たちのグリーンドリームがより多くの人に恩恵をもたらすことを目指します。

### グリーン輸送

2010年の「都市公共交通の電動化」戦略の導入以降、BYDは自動車市場全体の電動化のために働きかけてきました。グリーン輸送システムの構築に向けた「7+4」戦略を策定し、「7」で都市バス、タクシー、道路旅客車両、都市商品物流、都市建設物流、衛生車両、自家用車という従来型のカテゴリー7種を示し、「4」で倉庫、鉱山、空港、港湾で使用される車両4種を示すことで区分。都市道路、物流、公共交通、衛生、港湾、空港といった幅広いシーンでBYDバスや清掃トラック、港湾トラクター、都市建設向けのダンプカー、ミキサー車といった車両を展開しています。電気自動車で公害に取り組みつつ、自らの力でグリーンな都市に貢献していくというのが、私たちの本来の願いです。

2024年

新エネルギー乗用車の販売台数は**4,272,145台**となり、中国の自動車市場ではメーカーとしても、ブランドとしてもトップを獲得し、新エネルギー車販売で世界のリーダーとしての地位を維持しています。

当社は、全世界で**12万7,000台**以上の新エネルギー商用車を納入してきました。内訳として、ここには**8万5,000台**以上のBEVバス、**4万1,000台**以上の新エネルギートラックやその他の車両(ピックアップトラックなど)も含まれます。



## ◆ グローバル交通システムのグリーンアップグレード

BYDは、中国にとどまらず、世界中でグリーンドリームの実現に努めており、効率的で先進的な革新技術を基盤に、低排出で高品質な電気自動車製品とサービスを提供し、市場から高く評価されています。持続可能ゼロ汚染、そしてインテリジェントなグリーン輸送ソリューションを海外の国や地域にもたらし、低炭素移動の迅速な普及と堅調な発展に貢献することが、私たちの目指すところです。

当社の乗用車事業は、コア技術の継続的な進化とイノベーションを背景に、BYD、DENZA、YANGWANG、FANGCHENGBAOの各ブランドで多層的な体制を構築しています。多様で高品質な新エネルギー車モデルのラインナップを強みに、私たちは低炭素で環境に優しく、持続可能なモビリティの未来に向けて、これからも世界をリードし続けます。従来のグリーン技術の利用を継続的に推進しつつ、新エネルギー車分野でのイノベーションも進めており、「第5世代DMプラグインハイブリッドテクノロジー」「低圧排ガス再循環(LP-EGR)技術」「e-Platform 3.0 Evo」「高効率ヒートポンプ空調システム」といった技術を次々と発表し、グリーンモビリティの革命を継続的に推し進めています。



第5世代DMテクノロジー

BYDの第5世代DMテクノロジーは、パワー、電気・電子、熱管理という3つのコアアーキテクチャで技術的なブレークスルーを果たし、プラグインハイブリッドテクノロジーの包括的なイノベーションを実現しています。熱管理については、第5世代DMテクノロジーによる業界初の全温度域対応の車両用アーキテクチャを構築しました。これにより、快適性を保ちながら大幅なエネルギー節約が実現可能となり、高温環境では最大10%、低温環境では最大8%のエネルギー消費を削減できます。第5世代DMテクノロジーは、BYDのPHEVシリーズ "Qin L" と "SEAL 06" モデルに初めて搭載されました。エンジン熱効率は46.06%、燃費は100kmあたりわずか2.9Lで、いずれも世界最高、総合航続距離は2,100kmと世界最長を達成しています。AIによるエネルギー管理技術を導入した結果、エネルギー消費量は従来比で23%削減され、最大で18%の燃料節約率を達成しました。これにより動力性能が一段と向上し、全体の燃料消費も減少します。

## ▶ “燃費2.0 L/km時代”を切り開く第5世代DMテクノロジー



e-Platform 3.0 Evo

BYDは、より安全で効率的でスマートな運転体験を実現するため、世界初となる5つの最新技術クラスター(CTB車両安全アーキテクチャ、12 in 1インテリジェント電動ドライブ、インテリジェント広温度範囲高効率ヒートポンプ、全領域インテリジェント急速充電、フルインテリジェントモーションコントロール)を組み合わせた「e-Platform 3.0 Evo」を発表しました。高効率化の面では、技術クラスターのうちの“12 in 1インテリジェント電動ドライブ”と“インテリジェント広温度範囲高効率ヒートポンプ”により、車両全体のエネルギー変換効率を向上させることで熱管理エネルギー消費は20%、バッテリー熱管理エネルギー消費は25%削減され、低温時余熱利用効率は30%アップします。結果として、エネルギー利用効率が大幅に改善し、エネルギー消費の削減と、低炭素輸送の実現に貢献します。

## ▶ 低圧排出ガス再循環(LP-EGR)技術で排出ガス量の削減に貢献

BYDの低圧排出ガス再循環技術は、エンジンの排出ガスを減らし、省エネルギーを実現するための主要技術の一つです。エンジンからの排出ガスの一部を再びシリンダーへ戻し、燃焼プロセスを希釈して燃料利用率を高めます。そのため、車両全体の燃料消費を約2%削減し、窒素酸化物の排出も効果的に抑えることができます。またBYDは、この技術を "HANG"、"TANG" "SEAL" の各車種に幅広く適用し、エンジン熱効率を大きく高めるとともに、排気温度を効果的に下げ、車両の排出ガスを削減しています。これにより、グリーンで持続可能な輸送システムの実現を強力にサポートしています。

## ▶ 走行時のエネルギー消費を削減する高効率ヒートポンプ空調システム

新エネルギー車において、冬季の暖房によるエネルギー消費は航続距離に大きく影響し、乗用車のエネルギー消費において重要な割合を占めます。BYDの高効率ヒートポンプ空調システムは、複数の熱源を革新的な方法で統合し、従来のヒートポンプ空調で課題となっていた動作温度範囲の狭さとエネルギー消費の大きさといった問題を解決します。革新的な廃熱回収モジュールにより、動作温度の範囲を大幅に拡大し、ヒートポンプの加熱能力を15%向上。さらに、低温時の純電気自動車(BEV)の航続距離を14.5%伸ばします。また、BYD DENZAシリーズに搭載された高効率ヒートポンプ空調システムは、低温時のエネルギー消費を12.4%削減し、使用時のエネルギー消費を大幅に抑えることで、カーボンピークアウトとカーボニュートラルの目標達成にも貢献しています。

多様な製品ラインアップと優れた航続距離性能、さらに高度な製造プロセスを通じて、当社は、より環境に優しく、より良いモビリティの実現に取り組んでいます。さまざまな分野において、業界パートナーと連携しながら探求と実践を重ね、協力を惜しまず、実用的なソリューションの提供に努めます。これによってBYDは世界の輸送におけるグリーントランスフォーメーションを実現し、世界の電気自動車モビリティの新たな章を共に切り開いていきます。



> BYD、世界の自動車モビリティのグリーントランスフォーメーションを支援

2024年、BYDは世界の輸送のグリーントランスフォーメーションを共に進めるため、パートナーシップの構築を引き続き行いました。私たちはこれからも技術革新を原動力に、より多くの関係者と連携して、よりクリーンでグリーンな世界の構築を目指します。

#### BYDとUber、戦略的パートナーシップを締結



BYDとUberが戦略的パートナーシップを締結

2024年7月、BYDとUberは戦略的パートナーシップを締結し、世界の主要市場でBYD電気自動車を新たに10万台導入する計画を立てました。これにより、Uberプラットフォーム上の電気自動車の台数がさらに増え、電気自動車と環境に優しいモビリティのライフスタイルの普及が進みます。

#### BYD、UEFA U-21 2025の公式パートナーに



BYDがUEFA U-21の公式パートナーに

2024年12月、BYDは、2025年の欧州U-21選手権(UEFA U-21)の公式パートナー就任を発表しました。これにより、UEFAカップおよびUEFA U-21と継続的に協力する初の新エネルギー車ブランドとなりました。また、BYDは、2025年のUEFA U-21開催期間中、公式車両を提供し、欧州の消費者の皆様に新エネルギー車の技術面での魅力やグリーン開発というコンセプトを間近で体感いただくための機会を設ける予定です。

#### ◆ 都市モビリティの電動化

商用車分野で、BYDは世界の新エネルギー商用車業界の変革をけん引し続けています。現在、BYDの商用車は、都市モビリティと都市物流の電動化分野で多彩な製品を展開しており、都市バス、タクシー、道路旅客輸送、都市での商品物流・建築物流、都市衛生、倉庫、港湾、空港、鉱山の10分野をすべてカバーして総合的な電動化ソリューションを構築しています。



BYDの商用車は、より多くのグリーンドリームを世界中の人々とシェアします。継続的な技術革新とブレークスルーを重ね、商用車の基盤を世界中に広げてきました。現在、6つの大陸の70を超える国と地域で400以上の都市をカバーしています。BYDのBEVバスの累計走行距離はすでに59万キロを超えており、BEVバスとして世界最長の走行距離記録を樹立しました。私たちは今後も一層、グリーンテクノロジーへの取り組みを深め、より環境に優しく効率的な都市型電動交通ソリューションを世界にもたらし、グローバルなグリーントランスフォーメーションの推進に共に取り組んでいきます。



## &gt; 世界の公共交通機関のグリーン TRANSFORMATIONS をリードする BYD BD11バス



BYD BD11、ロンドンで世界初公開

2024年5月、BYDは次世代ブレードバッテリー搭載のバスシャシーを採用した2階建てBEVバス "BD11" を英国ロンドンで発表しました。最新のBYDコア技術を採用した "BD11" は、シャシーに新世代のブレードバッテリーを搭載し、バッテリーとフレームを一体化することで車両の重量を大幅に減らし、航続距離も伸ばしました。これにより、消費者にクリーンで環境に優しい公共交通の選択肢を提供しています。



## &gt; 建設プロジェクトの低炭素化を推進するBYDの建設用BEV 3軸車両



BYDの建設用BEV

BYDの建設用BEV "T25" と "T31" は、橋梁・トンネル建設に注力し、建設現場における "ラストマイル" を埋めるべく、輸送分野での省エネルギーと排出量削減という責任を負っています。バッテリーの熱暴走リスクを効果的に回避するために、高い信頼性と耐久性を備えるBYDブレードバッテリーを搭載。急速充電で時間を大幅に短縮しつつ、グリーンで低炭素というニーズに応えています。さらに、高効率な電子制御システムを活用してエネルギー消費を正確に管理することによりエネルギー利用効率を高め、運用コストを削減します。グリーンかつ高効率な利点を効果的に示し、グリーンな建設プロジェクトのモデルを実現します。



## &gt; グリーン物流ソリューションを提供するBYDの小型トラック "T5" シリーズ



BYD 小型トラック "T5"

新世代の新エネルギー物流車両 BYD "T5" は、BMC(バッテリー・モーター・電気制御技術)を活用し、高安全性のブレードバッテリー、高効率の専用エンジン、高集積の高・低電圧電子制御システムを搭載しています。グリーン物流のあらゆる場面での輸送ニーズに応え、都市のグリーン物流に向けた総合的なソリューションを提供します。 "T5DM" は、高い安全性を兼ね備えた軽量設計で車体の安定性と信頼性を確保するとともに、効率的な輸送のニーズにも対応しています。さらに、カーゴボックスは最大18m<sup>3</sup>と大容量で、1回の運行でより多くの貨物を運べるため、物流効率を効果的に高めることができます。

BYDの小型トラック "T5" シリーズは、2024年に開催された第9回中国新エネルギー物流車チャレンジ(NEVC)で多数の賞を受賞しました。 "T5DM" は、省エネ性能や航続距離、パワー、ブレーキ性能などが高く評価され、「総合金賞」を受賞。環境保護、省エネ、卓越した性能の面で、BYD小型トラックの実力を十分に示しています。



## &gt; グリーン工場を支援するBYDフォークリフト



BYDフォークリフト

BYDフォークリフトは、グリーン、インテリジェンス、イノベーションを中心コンセプトに掲げ、製造業の変革と高度化の推進に取り組んでいます。インテリジェンスの面では、ハンドリングロボットシステムで電動リーチトラックや電動スタッカーなど幅広いタイプを網羅し、あらゆるシーンに対応します。このように、倉庫から輸送までの全プロセスをカバーするインテリジェントなハンドリングソリューションを業界に提供しています。グリーン・低炭素の取り組みの観点では、BYDリチウムバッテリーフォークリフトはLFP(リン酸鉄リチウム)バッテリーを搭載しており、使用中に重金属による汚染が発生せず、従来の燃料式フォークリフトによる排出ガス汚染や鉛バッテリーで問題となる酸性ミストの排出もありません。また、従来の燃料式フォークリフトに比べて省エネルギー効果が大幅に向上し、エネルギー消費を約40%削減することができます。インテリジェントマニュファクチャリングのさらなる発展に合わせ、BYDフォークリフトは今後もグリーン工場の建設を進め、物流業界にグリーンな新エネルギーを注入し、製造業の持続可能な発展を促進していきます。

## グリーンエネルギー

BYDは新エネルギー分野において「太陽光発電と蓄電の融合」という新たなビジネスモデルを切り開き、新エネルギーの獲得、蓄電、応用に注力し、クリーンなエネルギーで世界を変えていきます。

### ◆ 充電式バッテリー

私たちは、充電式バッテリー分野で一貫した産業チェーン体制を整えており、独自の研究開発・設計・生産能力を強みに、世界中のユーザーへ常に効率的で安全かつ信頼性の高い新エネルギーソリューションを継続的に提供できるよう努めています。当社の製品ラインナップには、電子機器や電気自動車、エネルギー貯蔵など幅広い分野で使用されているニッケル水素バッテリー、リチウムコバルトバッテリー、LFP(リン酸鉄リチウムイオン)バッテリー、三元系リチウムバッテリーがあります。イノベーションで開発を加速し、世界のバッテリー業界のグリーントランスフォーメーションを推進しています。



> BYDのバッテリーで新しいグリーンな未来を切り拓く



**6年3.5W小时  
与整机同寿**

系统循环寿命  
>7000次

建設機械用一体型バッテリー

2024年、BYDは、新しいグリーンな未来の実現に貢献するため、統合バージョン、スーパーハイブリッドバージョン、急速充電バージョンの3種類の建設機械用バッテリーを新たにリリースしました。その中でも、統合バージョンは世界初の建設機械用CTBバッテリーとして、エネルギー密度320Wh/Lという高い集積度を実現し、より少ないスペースでより多くの電力を蓄えられます。製品寿命の観点においても、6年・3万5,000時間という、機械全体と同等の長寿命を備えている他、システムサイクル寿命は7,000回以上で交換頻度を大幅に抑え、資源の利用効率を高めます。3種類のバッテリーすべてに高い安全性を備えたLFP(リン酸鉄リチウムイオン)プレードバッテリーを搭載しており、これにより使用時の安全性が高まるだけでなく、バッテリー全体のライフサイクルが延び、廃棄物の発生も削減されます。その結果、業界は環境に優しく、効率的で持続可能な発展に貢献します。



> BYD、鉄道でのリチウムイオンバッテリーによるグリーン輸送を推進



鉄道試運転の開始式

パワーリチウムイオンバッテリーによる鉄道輸送は、規制の未整備、厳格な安全要件、特別な包装規制などの多くの課題に直面しており、より効率的で環境にやさしい輸送ソリューションが緊急に求められています。鉄道におけるリチウムイオンバッテリーによるグリーン輸送を支援するため、BYDは2021年から特別チームを編成し、この輸送における課題の解決に取り組んでいます。チームは、パッケージデザインや製品性能などの技術面で多角的に輸送関連規格の策定を支援し、重要な安全性検証試験などの業務にも全面的に協力しています。2024年11月、重慶市でBYDリチウムイオンバッテリーを用いた鉄道輸送の試運転開始を告げる全国式典が開かれ、新しい時代が始まりました。この取り組みにより、輸送時に発生する炭素排出量を大幅に削減し、バッテリーによる輸送という新しいグリーンな選択肢を提供します。



> BYD、グローバルバッテリアライアンスと連携し、バッテリー業界のグリーントランスフォーメーションを主導

2030年までに持続可能なバッテリーバリューチェーンを構築する、というグローバルバッテリアライアンス(GBA)の目標を鑑み、BYDは2024年11月、GBAの“バッテリーパスポート”パイロットプロジェクト第2ラウンドにおいて、主要鉱物サプライチェーンに関する材料の供給源、化学組成、製造履歴、持続可能性パフォーマンスのデータを収集・交換・照合してパイロットサプライチェーンマップを完成させました。これにより、生産データのトレーサビリティを確保するとともに、上流・下流企業向けのESGスコアリングシステムを構築。サプライチェーンの持続可能な発展に関わるリスクを効果的に管理し、グローバルなバッテリーバリューチェーンの公正・透明・グリーンな発展の促進に貢献しました。今後、BYDはGBAとの連携をさらに強化し、世界のバッテリー業界におけるグリーンな変革を引き続き支えていきます。

### ◆ 太陽光発電

当社は、クリーンエネルギーが新たな機会を生むという信念を貫き、中国のカーボンピークアウトとカーボンニュートラルの目標を指針として、垂直統合戦略を進めています。シリコンウェハー加工、バッテリーセルや太陽光発電モジュールの製造、太陽光発電システムまで、産業チェーン全体を網羅しています。私たちは、品の高い太陽光発電製品と優れたシステムソリューションを通して人類と自然の調和、地球規模の持続可能性に貢献するためにたゆまぬ努力を続けます。

2024年

BYD Solar Powerは長年、ブルームバーグの "Tier 1リスト" (太陽電池モジュールメーカーのベンチマークの一つ)に選出  
太陽光モジュールの財務評価額において **世界第10位** にランクイン



私たちは、バランスの取れた電力供給とクリーンな電力を継続的かつ安定して供給できるオールインワンソリューションを導入しました。このソリューションは、住宅用分散型太陽光発電、産業用・商業用分散型太陽光発電、大規模な地上発電所、また、農業と太陽エネルギー、漁業と太陽エネルギーという相互補完にも適しています。産業技術の革新と進歩を促すため、当社は技術の研究開発を一層強化し、新たなインテリジェント生産拠点を構築しています。新しい生産ラインにより、高精度モジュールの生産が可能になり、光吸収効率や環境適合性の面でモジュール製品の性能を改善します。さらに、BYD Solar Powerは、ウェハーの薄型化や銀ベースト技術、接着フィルム技術といった技術的アップグレードを通じて、N型太陽光発電製品の性能向上を進めています。



## &gt; HALOシリーズ高効率モジュールで、高効率と高出力という二重のブレーカスルーを実現

BYD Solar PowerのHALOシリーズモジュールは、SMBB技術を組み合わせた先進のN型高ヘテロ接合技術を採用し、自然な両面構造によって最大でそれぞれ95%の両面発電率、23.18%のモジュール効率、そして720Wの出力を実現します。これにより、ライフサイクル全体で発電量が増え、均等化発電原価(LCOE)は減少し、高効率と高出力という二重のブレーカスルーを達成しています。



BYD Solar PowerのHALOシリーズ高効率モジュール

さらに、当社は太陽電池モジュールの生産全体に低炭素コンセプトを導入し、太陽光発電製品の製造プロセスを改善することで、炭素排出量を一層削減しています。同時に、太陽電池の製造コストを大幅に削減し、石炭火力発電とほぼ同じ水準まで引き下げました。その結果、太陽光発電の普及が加速し、クリーンエネルギーによってより多くの家庭に利益を生み、持続可能な未来に向けた確かな基盤が築かれます。



## &gt; BYD Solar Powerの低炭素モジュールが低炭素化に貢献



BYD Solar Powerの製造段階

BYD Solar Powerは、モジュール設計の初期段階からライフサイクル全体にわたり、低炭素化と環境保護に取り組んでいます。廃棄物ゼロ・リサイクルを前提に設計し、材料の選定を最適化することで、リサイクル可能・再生可能な素材を採用して環境に配慮した材料の活用を促進しています。サプライチェーンでは、BYDはグリーンサプライヤーと連携し、物流管理の最適化や輸送時のエネルギー消費・炭素排出量の削減に取り組んでいます。また、エネルギー消費と炭素排出量を定期的に監視するための長期的なサプライチェーン管理体制の構築も行っています。太陽光発電モジュールの"廃棄"問題に対応するため、廃棄された太陽光発電モジュールの解体とリサイクルを積極的に進め、完全な製品リサイクル・処理システムを確立すべく取り組んでいます。そして、欧州連合の廃電気・電子機器指令(WEEE指令)に厳格に準拠し、使用期間終了後の太陽光発電製品が適切に処分されるようにしています。太陽光発電モジュールの主要材料であるガラス、アルミフレーム、はんだリボン、バッテリーセルなどはリサイクルが可能です。廃棄されたモジュールは解体され、さまざまな技術的手法で処理され、資源として有効活用されます。



## BYD Solar Powerが南アフリカの"電力不足"解消を支援



BYD Solar Power

南アフリカ共和国では、石炭が依然として主な電力源となっています。しかし、従来の発電方法では、国の電力需要を満たすのは困難です。また、火力発電所は、運転開始から30年を経過すると故障が起きやすくなります。南アフリカでは、さまざまな要因が重なり深刻な電力不足が生じています。南アフリカが抱える"電力不足"問題の解消に向け、BYD Solar Powerは、高度な太陽光発電技術を活用し、同国エネルギー構造の転換を後押しするとともに、地域住民へグリーン電力を提供しています。たとえば、86MWの大規模地上発電所では、BYD Solar Powerが発電所用の太陽光発電モジュールをすべて供給しています。プロジェクト完了後、この太陽光発電所は年間約217GWhのグリーン電力を生産し、南アフリカの8万7,400世帯に供給して、この地域の電力不足を大幅に緩和する見込みです。このプロジェクトで削減が可能となる二酸化炭素排出量18万トン以上(年間)は、約154万本もの植樹に相当します。

## ◆ エネルギー貯蔵

当社は、先進的なLFP(リン酸鉄リチウムイオン)バッテリー技術を基盤に、エネルギー貯蔵システムや設備の技術研究開発と普及に注力しています。製品は、電力側、グリッド側、ユーザー側など幅広い応用分野を網羅し、エネルギー貯蔵、ピーク負荷シフト、周波数調整といったニーズに応えるべく、フルシーン、フルバリュー、フルエコロジーのソリューションをお客様に提供します。さらに、再生可能エネルギー発電や補助サービスを推進し、世界の低炭素エネルギー転換を加速させ、クリーンで持続可能な未来の実現に向けて共に取り組んでいます。BYDは2008年という早い段階でエネルギー貯蔵分野に参入し、中国で最も早くこの事業を展開した企業です。現在は電気化学的エネルギー貯蔵の世界的リーダーとして、世界のエネルギー貯蔵産業のトップグループにランクされています。

### 報告期間の終了時点での実績

当社のエネルギー貯蔵事業は、**110**の国と地域に展開しており、**350**件のエネルギー貯蔵プロジェクトで**75 GWh**以上の商業運転実績を有し、17年にわたる運転データを蓄積しています。



### > エネルギー貯蔵システム「BYD MC Cube」で低炭素の未来を切り拓く



エネルギー貯蔵システム「MC Cube」

2024年4月、BYDは新しい国家規格GB/T 36276に準拠し、6.432MWhの超大容量を備えた新世代のキューブ型エネルギー貯蔵システム「MC Cube-T」を発売しました。BYD MC Cubeは、ブレードバッテリーを搭載し、世界初の超集積CTS技術を採用しています。部品点数は36%減少し、スペースの利用率も98%向上しました。低炭素と省エネルギーの理念を効果的に実現し、国際認証UL9540Aも取得しています。このキューブは、安全でエネルギー効率に優れ、超長寿命を特長としており、電力、グリッド、ユーザーの利用といったあらゆるシナリオに柔軟に対応し、砂漠、砂地、荒野、丘陵、ビーチ、海、厳寒の地や高地など、多様な環境に適合しています。これにより、エネルギー貯蔵システムの普及と活用を実現するとともにBYD MC Cubeは、電力網の安定性を保ち、電力品質を高め、発電と消費のバランスを最適化しています。高電圧カスケード技術とグリッドフォーミング技術により、エネルギー貯蔵とグリッド統合のあり方を根本から変革します。さらに、ブラックスタート機能を活用し、電力システムの安全性を総合的に守ります。



## □ グリーンな運営

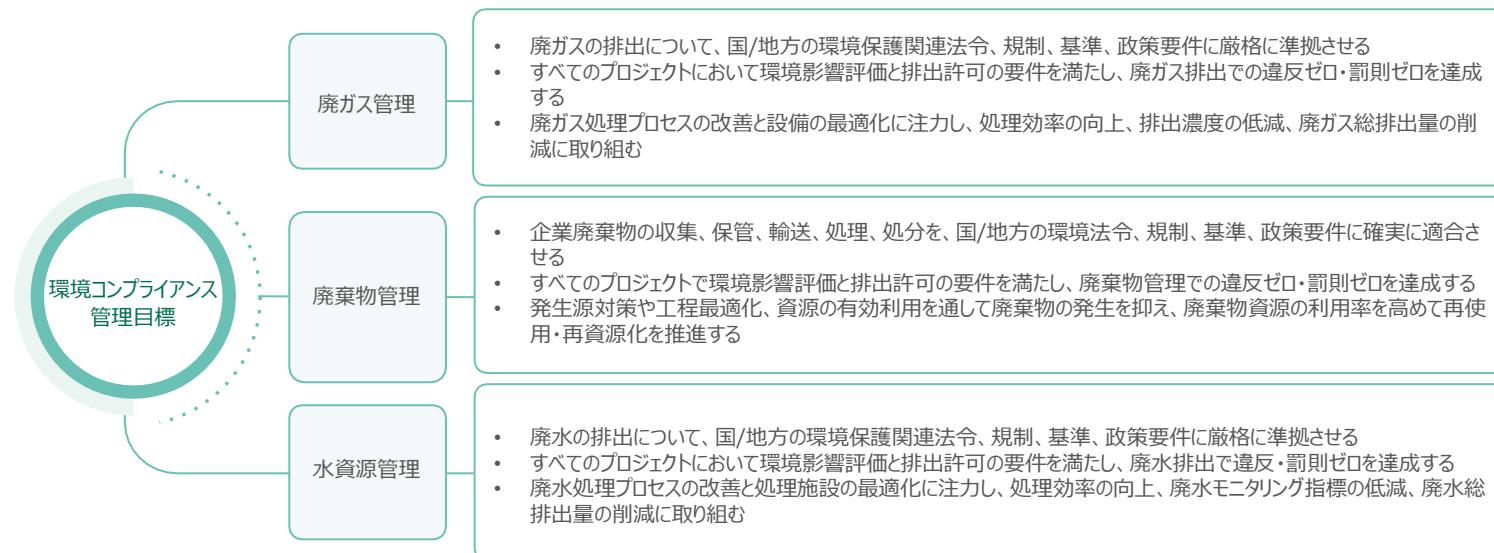
BYDでは、高い基準と厳格な要件に基づいて環境管理を徹底するため、環境管理システムと実施運用の継続的な改善に取り組んでいます。方針管理では、「[BYD環境管理方針](#)」や「[BYD省エネ・消費削減管理手順](#)」など、複数の社内管理方針を策定し、環境管理の取り組みを標準化しています。

経営体制では、全社レベル、地域レベル、事業部門レベルといった3層でのEHS(環境、健康、安全)委員会体制を構築しており、委員長は社長が務め、トップダウンでBYDのEHS管理を推進しています。また、環境管理システムの取り組みを継続的に推進しており、2024年には ISO 14001環境管理システム認証の対象従業員比率は24.90%<sup>10)</sup>に達した他、BYD内部環境マネジメントシステム基準を確立し、内部基準管理は全従業員をカバーしています。2024年末の時点で、BYDは国内にグリーンファクトリーを6拠点、グリーンサプライチェーン管理企業を2社保有しています。

## 環境管理システム

### ◆ 環境管理目標と評価

重要な環境侧面を十分に踏まえ、私たちは測定可能で評価もできる環境コンプライアンス管理目標を設定しました。これらの目標を達成するための各施策を当社の業務プロセスに組み込むことで環境パフォーマンスを継続的に向上させている他、環境への取り組みを強化する重要な手段として、パフォーマンス評価と賞罰の手法を活用しています。インセンティブで動機付けを行うと同時に懲戒措置によって従業員を管理し、環境への説明責任を強化すべく、BYD安全・環境保護報奨および懲罰規定を策定しました。2024年、当社では環境事故も環境行政処分も、ともにゼロを達成しました。



<sup>10)</sup> 2024年12月31日現在の当社従業員数に比例したカバー率

## ◆ 環境リスクの予防とコントロール

生産・事業活動に伴う多様な環境要因について先を見据えた対処をすべく、当社は、考える影響を評価するための社内管理方針として「BYD環境要因の識別および評価措置」などを策定しました。さらに、環境リスクを効果的に管理する力を高めるため、対応するリスクコントロール措置の策定・改善に取り組んでいます。関連する環境リスクに効果的に対処すべく、包括的な環境緊急対応計画を策定し、環境への影響要因の特定、リスク要因の点検、危険の軽減、そして予防措置を含みました。万が一、環境汚染事故が発生した時であっても迅速かつ効果的に対応できるよう、明確な手順と対策を定めています。また、有害化学物質の漏出や工業廃水の流出といった事態を想定した緊急時対応訓練を定期的に実施することで、従業員のリスク対応能力の継続的な向上に取り組んでいます。

### > 有害化学物質による火傷および漏出への対応訓練に関する安全研修

2024年5月、BYD工場内での効果的な緊急共同対応体制を確立するため、有害化学物質による火傷および漏出への対応訓練および安全研修セッションが実施されました。事前の安全教育、緊急物資の準備、事故シナリオのシミュレーションの他、緊急対応手順について訓練することで従業員の安全意識を高め、不測の事態に対する緊急対応能力を強化することを目的としました。

## ◆ 環境保護に関する広報および研修

当社では、従業員に対する環境教育を重視しています。毎年、環境コンプライアンスの管理、廃棄物削減、エネルギーと水利用効率の向上などをテーマに、一連の研修を積極的に実施しています。これらの取り組みは、全従業員の環境意識と環境管理能力を高め、当社の環境管理パフォーマンスを継続的に改善させることを目的としています。

### 2024年

持続可能性の規制要件、炭素管理と目標設定、生物多様性の保全、環境管理コンプライアンスなどをテーマに、環境保護に関する研修をセミナー形式で合計**3,747**回実施しました。研修時間は合計で**5,751**時間に達し、参加した従業員は**260,000**人を超えました。



### > 環境研修セッション

#### 環境コンプライアンス管理研修

2024年6月、BYDは環境コンプライアンスの要求事項や、それに対応するマネジメントの重要側面といったトピックに焦点を当てた研修セッションを開催しました。セッションでは、違反事例を交えた環境リスクを取り上げ、従業員の環境コンプライアンス意識の向上と教訓を徹底しつつ、継続的な実践力を強化。従業員が環境リスクをより適切に特定・管理し、それによって潜在的な環境インシデントを減らすことを目標とした取り組みを行いました。

#### 廃棄物管理に関する研修

2024年12月、全従業員を対象に有害廃棄物管理に特化した研修セッションを実施しました。セッションでは、有害廃棄物管理方針と、有害廃棄物管理台帳・データ分析の活用について取り上げました。これらの取り組みは、廃棄物データの統計や報告に関する従業員の能力、および廃棄物管理スキル全般を高めることを目的としています。



#### エネルギー管理に関する研修

2024年、従業員のあらゆる面での省エネ管理能力を高めること、また、BYDにおけるエネルギー節約と消費削減の潜在力を引き出すことを目的として、省エネルギー・低炭素政策、グリーン製造システムの構築、エネルギー管理システムなどの内容を含むエネルギー関連の管理研修を複数回実施しました。

#### 水資源管理に関する研修

水資源の現状や節水対策など、多角的な観点から意識を高め、水資源効率の向上を目指すべく、2024年には全従業員を対象として四半期ごとに、水資源管理強化研修を実施しました。また、掲示板や電子ディスプレイなどのプラットフォームに毎週、節水や廃水削減に関する広報コンテンツを掲載し、優れた節水事例や経験・実践を共有。従業員が廃水削減の取り組みに積極的に参加するよう促しました。

## 環境コンプライアンス管理

BYDは、「中華人民共和国環境保護法」、「中華人民共和国大気汚染防止法」、「中華人民共和国水質汚染防止法」、「中華人民共和国固体廃棄物による環境汚染防止法」などの法律や規制、さらに主要分野における揮発性有機化合物(VOC)の総合管理計画などの政策や要件を、厳格に遵守しています。また、排出管理の標準化に向けて、「BYD固体廃棄物管理手順」、「BYD廃水・廃ガス・騒音排出監視および管理手順」、「BYD環境施設運用管理規則などの環境管理方針」を策定し、実施しています。

2024年

当社は、廃水、廃ガス、固体廃棄物の処理に約**14億1,000万元**を投資しました。



### ◆ 廃棄物管理

BYDは、多様な廃棄物の管理手順と、関連部門の責任を明確に定めています。廃棄物の分類、収集、保管、輸送、処分に至るまで包括的なシステムが確立されており、廃棄物はカテゴリーに沿って分類、収集、ラベル表示、処理されます。その結果、管理がより標準化され、処分もコンプライアンスに則って行われています。



### 非有害固体廃棄物管理

当社で扱う非有害固体廃棄物は、主に産業廃棄物、一般廃棄物、無価値廃棄物で構成されています。私たちは、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進しており、その一環として、分別・処理施設を整備し、リサイクル可能な非有害固体廃棄物を積極的に見極めて再利用することで、埋立処分量を最小限に抑えています。また、非有害固体廃棄物を適切に処理するため、それらの輸送・利用・処分を第三者に委託し、その資格や技術能力を審査した上で、汚染防止要件の確実な遵守を徹底しています。

### 有害廃棄物管理

当社で扱う有害廃棄物は、主に廃鉱油、廃切削液、廃活性炭です。私たちは、有害廃棄物の収集、保管、輸送、処分に関して、地域の法律、規制、管理要件を遵守したうえで有害廃棄物の特性に合わせて収集・梱包し、有害廃棄物管理台帳に記録しています。また、地域の規制に従って有害廃棄物にラベルを付け、種類ごとに保管するための指定場所を設け、保管前にラベル情報を確認しています。当社は有害廃棄物マニフェスト制度を遵守し、輸送や最終処分については適格な第三者へ委託しており、彼らの資格や輸送・処分の実績については定期的に見直し、該当する廃棄物が適切に処分されるよう確実に取り組んでいます。

有害廃棄物の適正な処理を確保する一方で、削減対策の模索・実施も積極的に進めており、革新的な廃棄物管理手法を活用し、全体的な発生量や作業場での発生量の削減に向けた対策を策定しています。



### 有害廃棄物削減プロジェクト

2024年には、深圳、汕頭、長沙、鄭州、合肥などの自動車拠点で、水性溶剤リサイクル技術を広く導入しています。溶剤に含まれる樹脂やカラーベースなどは、凝集剤の作用によって大きな粒子にロック化され、遠心分離機によって固液分離されます。遠心分離後にセラミック膜でろ過し、さらにイオン交換樹脂で精製することで得られる溶剤は、新しい溶剤と一定の割合で混合すれば再利用できます。溶剤のリサイクル率は90%に達し、水性新溶剤の使用量は60%以上削減されます。

## ◆ 廃水管理

当社の廃水は、主に生活排水と工業排水に由来します。処理を効果的に行うため、廃水を発生源や性状ごとに分類し、各分類に最適な処理方法を採用しています。工業排水は、分類や水質に基づく処理計画に従って工業団地の廃水処理システム内で収集・処理し、生活排水は工業団地内の浄化槽で処理し、すべての廃水を関連する各規格に適合する形で排出しています。

BYDの主要事業拠点にある廃水処理ステーションでは、凝集沈殿、溶存空気浮上、生物学的脱窒、リン除去などの主要な処理プロセスを採用しています。廃水汚染の監視体制と点検施策に基づき、廃水中のpHレベル、化学的酸素要求量、アンモニア、窒素含有量などの主要指標を定期的に監視しています。また、廃水をリアルタイム監視できるようオンライン監視システムを構築し、第三者による定期的な廃水検査を実施。さらに、廃水処理プロセスの最適化にも積極的に投資して、廃水の質の向上を図っており、廃水が各国の法律、規制、基準に準拠して確実に排水される仕組みになっています。さらに、廃水の緊急時対応計画を策定し、流出リスクを管理する施策も実施しています。万一、廃水が漏出した場合は、直ちに緊急時対応計画を発動し、汚染の拡大を防ぐための管理措置を講じます。

## ◆ 廃ガス管理

当社の事業活動に伴って排出される主な廃ガスは、自動車や部品、バッテリー、電子機器の製造、工業生産での燃料燃焼に由来し、揮発性有機化合物(VOC)、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、粒子状物質(PM)などを含みます。当社は、廃ガス排出による環境への悪影響を効果的に抑えるため、廃ガス管理に関する国や地域の法律、規制、規格、政策要件を厳格に遵守しています。また、廃ガス排出に関する違反・罰則をともにゼロとするため、標準化した廃ガス処理方法とプロセスを採用しています。このように、総合的な施策により、廃ガス管理の実効性を高めることを目指しています。さらに当社では、さまざまな排出ガスの種類に応じて、適切な排ガス処理プロセスを採用しています。低濃度かつ大容量の排ガスは、ゼオライトローターや蓄熱酸化法で処理し、高濃度の排ガスは溶剤回収を優先して高温焼却・触媒燃焼などの技術で処理しています。

### 発生源での排出管理

新設された自動車工業団地に水性塗料の生産ラインを導入し、一部の団地ではクリーン生産プロジェクトも開始しました。VOCをほぼ含まない塗料を採用し、国や地域が定めるVOC含有量の品質基準を厳格に守ることで、発生源における大気汚染物質の削減を目指しています。

### 廃ガス処理の強化

当社は、高度かつ効率的な廃ガス処理設備を整備しており、産業廃ガスを効果的に処理するための適切な処理技術を適用しています。廃ガス処理設備は、定期的に保守点検を行い、効率的な稼働を確保しています。

### 廃ガス管理 施策

### 廃ガス監視の強化

廃ガス排出を管理するため、設備や作業場所の密閉化、工程の最適化、廃ガスの効果的な回収など、排出源での対策を実施しています。また、廃ガス排出監視システムを設置し、定期的に監視結果を報告しています。

2024年、私たちは設備や機器の更新、廃ガス処理の最適化のために事業全体の資源を継続的に投入し、大気汚染物質の管理を大幅に強化するとともに、廃ガスの総排出量を削減しました。

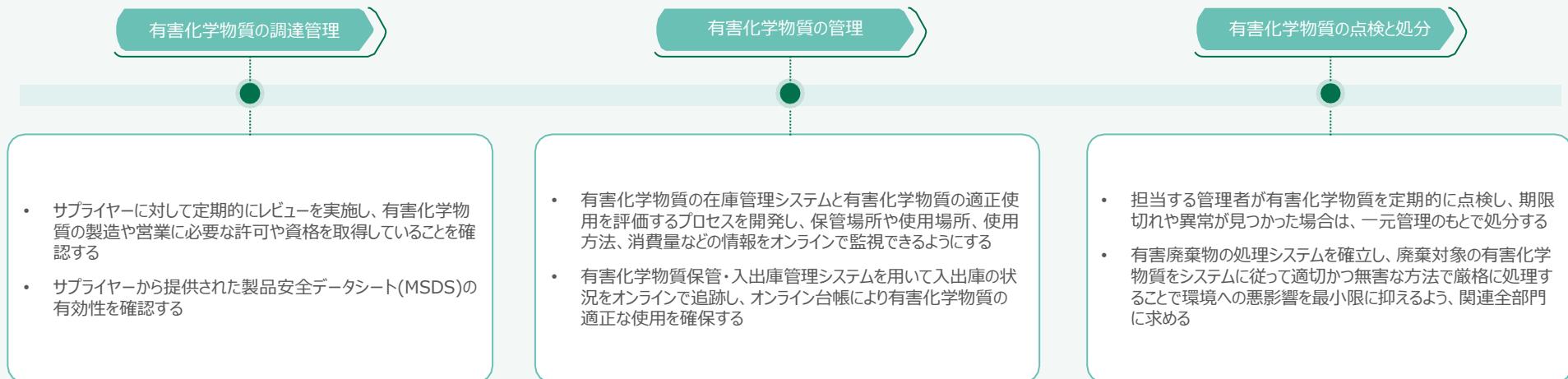
### 廃ガス削減プロジェクト

2024年に、西安草堂工場の廃ガス処理設備を更新しました。プロジェクト完了後、年間のVOC排出量は84.57%の削減、排出濃度も約66.7%の削減を見込んでいます。また、ワックスコーティング工程では触媒燃焼装置を一律に用いており、従来の活性炭吸着法と比較して、VOCの排出量を年間30,535.6トン削減できる見込みです。

## ◆ 騒音管理

BYDは、"中華人民共和国環境騒音公害防止管理法"などの騒音管理に関する法律や規制、ならびに "産業企業境界騒音排出基準"などの国や地方の基準を厳守しています。さらに、工場の騒音が環境排出基準に適合するよう取り組み、騒音公害や被害の軽減・防止に努めています。付帯設備や環境保全設備、空気圧縮機ステーション、冷却塔などの施設周辺における騒音対策として、私たちは技術の最適化とアップグレードを実施した他、騒音の排出を最小限に抑えるべく、生産設備には、防音、消音、吸音、制振といった騒音低減対策を施しています。同時に、工場区域の環境モニタリング計画を策定し、工場の境界では毎年、騒音測定を実施します。

## ◆ 化学物質管理



潜在的な危険を管理するための健全で長期的なメカニズムを確立すべく、化学物質の特別点検や定期点検を実施し、化学物質管理で想定される潜在的な安全上の問題を一つずつ調査します。また、判明した問題の是正を監督し、その後も継続的にフォローします。2024年には、全事業部門で計6,892回の化学物質点検を実施し、化学物質の安全管理レベルの継続的な向上に取り組みました。有害化学物質に関する緊急事態に効果的に対応するため、有害化学物質の緊急時対応組織と緊急対策を整備し、対応手順を標準化しています。また、十分な緊急物資を備蓄し、緊急訓練や関連する管理研修を定期的に実施することで、あらゆる階層の従業員が有害化学物質に関する緊急事態に適切に対応できる体制を整えています。

2024年

有害化学物質や有害物質の管理に関する研修を**899**回開催し、**60,000**人以上が参加しました。



## 資源の利用

### ◆ エネルギー管理

エネルギーの節約と消費削減は、気候変動の緩和に向けた核心的な課題です。BYDは、中華人民共和国エネルギー法、中華人民共和国省エネルギー法をはじめ、関連する法規を厳格に遵守し、エネルギー管理システムの継続的な改善に取り組んでいます。また、エネルギー管理の責任を明確にし、エネルギー計測、省エネ改修、エネルギー使用などの管理手順を標準化するBYD省エネ・消費削減管理手順を策定・実施し、省エネに関する賞罰制度も導入してエネルギー使用の管理と監視を強化しています。また当社は、管理と技術の双方の面からエネルギー効率の向上に取り組み、ISO 50001エネルギー・マネジメントシステム認証の継続取得を推進するとともに、定期的にエネルギー監査を実施しています。現地調査やデータの収集・分析を通じて、エネルギー使用を総合的に評価し、エネルギー管理の各種改善活動を的を絞って一層推進しています。グループのエネルギー管理の詳細については、本レポートの「カーボンニュートラル目標」セクションをご参照ください。

### ◆ 水資源管理

BYDは、中華人民共和国水法を厳守し、操業時の水資源の効率的な利用を継続して推進しています。今年、水リスクに直面したり、水ストレスにさらされたりした事業所はなく、用途に適した水の調達にも問題はありませんでした。

「節水、総量規制、水利用計画、総合利用、効率重視」という原則のもと、毎年節水計画を策定し、継続的に水資源管理の取り組みを強化しています。実績をもとに、各ユニットの水使用量の割り当てを決定するための評価を実施し、その活動を厳密に管理しています。また、水の消費構造を最適化するため、「削減・リサイクル・再利用」という水利用の理念を実践しています。加えて、節水に関する広報を継続的に充実させ、標語や看板の掲示、节水教育の実施などを通じて、水資源の管理を最適化しています。

削減

リサイクル

再利用

節水計画に基づき、水の使用量を削減しています。また、節水型器具を使用するとともに、給水網や給水設備・機器・器具を定期的に保守し、漏水の可能性を最小限に抑えています。

冷却水と凝縮水をリサイクル・再利用しています。例えば、タイの工場では、空調機から出る凝縮水を冷却塔で再利用しています。水の利用効率を高めるため、洗浄ラインにあふれた水のための逆流防止弁を設置し、洗浄水を再利用できるようオーバーフローの数も減らしています。

生活排水と工業排水を基準値まで処理し、処理水を社員寮の洗面所や植物の水やり、道路清掃などに再利用する再生水再利用システムを構築しています。

### ▶☆ > 工業用水再利用プロジェクト

2024年、水を節約し、より効率的に使用するために、いくつかの水管理プロジェクトを実施しました。

惠州市の工業団地内にある3つの廃水処理施設を改修するため、1億3,000万元を投資しました。高塩分や重金属を含む処理が困難な廃水には、膜システムなどの効率的な処理技術を採用しました。これらの取り組みの結果、工業用水の60%を回収できるようになりました、1日の最少再利用能力は1,600m<sup>3</sup>となりました。

包頭市のバッテリー工場で、スプリンクラーの改修を実施しました。スプリンクラーの配管と他機器との間隔を調整し、ノズルの流量を下げた結果、水の利用効率が大幅に向上し、年間約140,412.34トンの水を節約できるようになりました。

西安の金属工場で、カーブ型研磨機の節水改修を実施しました。多段ろ過システムを導入することで水のリサイクルを実現し、年間約120,835トンの水を節約できます。

## 循環型経済

持続可能な発展を進めるにあたって、循環型経済は、製造業が効率よく資源を利用し、環境を保護するための重要な道筋となっています。BYDは、グリーンで循環型かつ低炭素な開発モデルを積極的に探りつつ、資源を循環させるクローズドループで、環境との調和を図る循環型経済システムの構築に取り組んでいます。

### ◆ サステナブルデザイン

BYDは、技術ルートの最適化や軽量素材の革新的な研究開発、サステナブルな建築設計を通じてサステナブルデザインの要件を実践し、製品開発から建設、運用までの各段階で資源の消費量を削減しています。

技術ルートの最適化では、太陽電池の薄型化や有機相スラリー配合の更新、プロセス手順の見直し、出力ワット数の向上に取り組みました。その結果、モジュール寿命を延ばし、材料使用量を削減しながら、製品効率の向上を実現しました。軽量の熱可塑性複合材と高強度鋼を組み合わせ、バッテリーパック用アンダーボディシールドの製造などに活用することで、複数材料の統合による軽量材料の革新を図り、従来の鋼製ソリューションに比べて大幅な軽量化を実現しています。高強度で加工性に優れた鋼の開発・適用に加え、より重い鋼に代わる炭素繊維複合材料とそのプロセスの革新的な開発にも積極的に取り組んでいます。同時に、持続可能な発展の概念を建築設計に取り入れ、雨水再利用システムや高効率省エネ空調、照明の省エネなどの施策により省エネで高効率な建物を実現し、資源を有効に活用した環境配慮型の開発へとつなげます。

当社は軽量、小型化、リサイクルしやすく再利用可能という材料の原則を常に大切にしています。製品開発の段階から軽量設計を十分に取り入れ、軽量合金やポリマー材料、複合材などの軽量材料を車両に広く採用しています。例えば、アルミダイカスト合金は、エンジン部品(シリンダーブロック、シリンダーヘッド、オイルパン)、バッテリーパック、熱交換器などに用いられています。これにより、構造革新と一体化設計の進展が加速し、自動車の軽量化技術の進化が促されています。また、商用車の断面形状設計では、フレームアッセンブリー、エアダクトスライドレール、シートブラケットなどを一体化することで、分散していたブラケットの使用を効果的に抑え、1台あたり100kg以上の軽量化を実現しています。

### 軽量材料の革新と応用(例)<sup>11</sup>

#### 高強度鋼の研究開発と応用

第3世代の先進高強度鋼(QP980-EL)を低強度材料の代替として採用し、1ユニットあたり約10%の軽量化を実現しています。

#### 高強度アルミニウム材料の研究開発と応用

アンダーボディガード部品の高強度・軽量アルミハニカム新素材を研究開発し、実用化することで、重量を0.5kg削減し、耐衝撃性を27%向上できる見込みです。

#### 炭素繊維複合材料の研究開発と応用

航空宇宙グレードの炭素繊維(T700-12K)を用い、フロントパネル、センターコンソール、サイドパネルなどの自動車向け複合材の設計を最適化することで部品の平均重量を15～20%削減できる見込みです。

<sup>11</sup> 上記技術は一部のBYDモデルに適用されています

## ◆ グリーンマテリアル

### 循環型素材の使用

BYDは、リサイクル可能なグリーンマテリアル(素材)の活用を積極的に進めており、金属部品にはリサイクル性の高いアルミニウム合金を幅広く採用することで、金属リサイクルを実現しています。非金属部品には、部品のリサイクル性を高めるべく熱硬化性材料に代わる熱可塑性材料の開発を積極的に進めています。

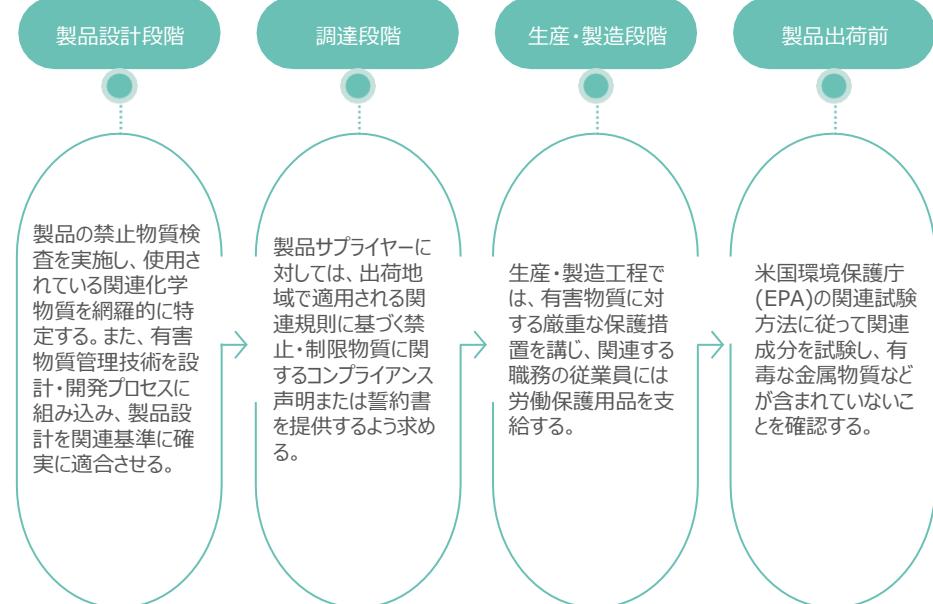
BYDの多くのモデルは環境性能に優れ、材料リサイクル率もEU ER指令2005/64/ECの要件を上回り、業界トップレベルに達しています。具体的なデータは以下のとおりです。

### 有害物質の管理と代替素材

トータルライフサイクルマネジメントの考え方に基づき、BYDはビジネスチェーン全体を網羅する有害物質管理システムを構築し、業界を主導する環境コンプライアンスを実現しています。当社は、"電気・電子製品に含まれる特定有害物質の使用制限に関する管理措置"、GB/T 30512-2014 "自動車における禁止物質の要件"、GB/T 19515-2023 "道路車両の再使用・リサイクル利用率の要件および算出方法" を遵守しています。さらに、"欧州連合ELV指令 2000/53/EC、電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関するEU指令" (RoHS指令)、"化学物質の登録、評価、認可、制限に関する規則" (REACH規則)、"ストックホルム条約" (POPs条約) などの海外の禁止物質規制も統合。製品設計、調達、製造、製品納入の各段階における製品・材料の全工程管理を強化することで、有害物質を効果的に管理し、安全で環境に配慮した製品を、消費者の皆様に提供しています。

BYDの主要モデルのリユース率とリサイクル率

車両モデル	リユース率	リサイクル率
BYD YUAN UP	88.1%	97.7%
BYD SEALION 7	88.5%	97.7%
BYD SEAL 5	87.6%	98.0%
BYD Sea Gull	86.2%	97.5%



## BYD乗用車の有害物質管理措置

## 有害物質管理方針の策定

当社は、「乗用車の禁止物質および制限物質に関する要件」、「BYDの乗用車の禁止物質および制限物質とリサイクル管理規則」を策定し、これらを随時更新しています。また、業界規則の最新動向を常に注視し、社内管理基準が最新のグローバル規制要件と同期するようにしています。

## 原材料中の有害物質のトレーサビリティと管理

サプライヤーは、サプライチェーンの4段階(原材料・部品・組立・完成車)それぞれでデータ確認ができるよう、業界の材料データ申告システム(CAMDS)を通じて段階ごとの材料組成データを提出する必要があります。さらに、サプライチェーンに沿って有害物質を追跡できるよう、製品に含まれる有害物質の試験に関する第三者レポートも提出しなければなりません。

有害物質試験室の設立

当社は鉛、水銀、カドミウム、六価クロムなどについて国家基準が求める試験能力を100%カバーする、ICP-MS、GC-MSを備えたCNAS認定の有害物質試験室を自社で設立しました。また、o-フェニレン系可塑剤、多環芳香族炭化水素(PAHs)、短鎖塩素化パラフィン(SCCPs)など、将来的に国際レベルで懸念される有害物質についても、試験能力の開発・確立を積極的に取り組んでいます。



BYDは、世界初となる小型で軽量の12V LFPスターターバッテリーを発明しました。鉛バッテリーと比べて、LFPバッテリーの重量はわずか2kgであり、新型の被覆黒鉛、プレリチウム化、高安定性電解液といった長寿命技術により、3,000回以上の充電に対応し、最大で15年の寿命を実現します。これにより燃費が向上し、電気自動車の航続距離が伸びます。

LFPスターターバッテリーは、従来の鉛バッテリーに代わる選択肢として、鉛フリーを実現し、自動車における鉛含有量削減という最大のボトルネックを解決します。これは、環境保護と持続可能な発展という世界共通の目標にも合致し、自動車業界全体の鉛フリー技術の開発を後押しします。

工程の最適化や廃止・代替の実施によって有害物質の管理性能を継続的に向上させるとともに、従業員に定期的な研修を実施し、禁止物質への認識を高め、全社的な有害物質管理能力の向上を図っています。



2024年には、「自動車における禁止・制限物質のコンプライアンス入門」など、3回のテーマ別研修を実施し、1,000人以上が参加しました。これらの研修を通じて、従業員の有害物質を含む原材料への理解と意識がさらに高まりました。また、有害物質管理の遵守事項を詳細に説明することで、各自の管理責任への理解も強化されました。



IECQ QC08000  
有害物質管理システム認証



ISO 17025 試驗・校正機關認証

## ◆ リサイクル

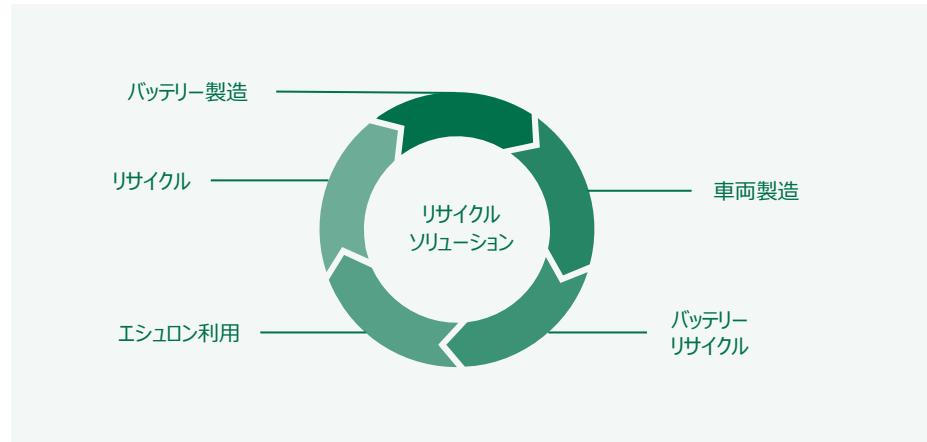
グリーンリサイクルへの取り組みとして、BYDは事業運営モデルの変革を積極的に進め、リサイクル可能な材料のリサイクルチェーンの構築に全力を尽くしています。“BYD再生資源販売管理通知”など、関連する管理制度を整備し、材料の種類ごとに、材料を10の主要なリサイクル可能資源グループに分類しています。また、資源リサイクルを効果的に管理するため、材料の管理も厳密に実施すると同時に生産工程で出る廃棄物を分別・リサイクル・再利用し、資源をクローズドループで管理すべく万全のリサイクルシステムを整えて、専門のリサイクル企業とも連携しています。

### 車両材料のリサイクル

BYDは資源リサイクル分野に注力し、車両部品のリサイクルを常に強化し続けています。資源を効率よく再利用するため、社内や自動車解体で発生した廃アルミニウムを扱う自社リサイクルラインを整備しました。そして、製品品質を確保した上でアルミニウムボディ部品の生産工程に再利用するという社内のリサイクルエコシステムを構築しています。2024年も、アルミスクラップのリサイクルを引き続き推進しました。アルミスクラップのリサイクル量は、2023年の20,239.26トンから162,178.73トンへと増加し、成長率は701.20%でした。このうち、車両部品(モーターハウジングなど)からリサイクルされたアルミスクラップは103,418.32トンにもなり、全体の63.8%を占めます。今後も資源リサイクルへの投資を拡大し続け、上流・下流企業との連携を深めながら、より革新的なリサイクル手法を探求し、さらにグリーンで低炭素・持続可能な自動車産業の実現に貢献していきます。

### パワーバッテリーのリサイクル

当社は、パワーバッテリーのリサイクル事業を積極的に推進しています。また、自社エコシステム内に“パッテリー製造 - 車両製造 - パッテリーリサイクル - エシュロン利用 - リサイクル”を含む完全なエンドツーエンドの産業チェーンを構築するなど、パッテリーのライフサイクルを効果的に延ばし、循環型経済の発展に寄与するための取り組みを行っています。



リサイクルチャネルについては、全国の工業団地に一元的な保管場所を設置しています。当社は、効率的で堅牢な物流システムを基盤に広範で適切に機能するパッテリーリサイクルネットワークを構築し、使用済みパワーバッテリーを適時かつ効率的にリサイクルしています。海外で使用済みとなったパッテリーは、国際的なリサイクル業者と連携してリサイクル契約に基づき回収から処理までを管理しています。

また、当社はパワーバッテリーのエシュロン利用(段階的再利用)を推進することで、残存価値の最大化を図っており、パワーバッテリーをリサイクルし、エシュロンパッテリー製品へ再加工する生産拠点を設置しています。これらはエネルギー貯蔵発電所やバックアップ電源システム、太陽光発電街路灯など、さまざまな分野で広く使用されており、パッテリーの高付加価値利用を実現しています。さらに、エシュロンパッテリーについての情報を包括的に記録・追跡することで、製品品質と用途のトレーサビリティを確保し、結果として製品の安全性とコンプライアンスを強力に担保します。

使用済みパッテリーは、BYDのリサイクル工場で解体・評価し、総合利用に適した方法で選別しています。クローズドループ型のバリューチェーンによるコア技術をもって、リサイクル工場での効率的で高度な解体・リサイクルを実現し、ホワイトリストに指定された企業と協力して、解体品質の向上と効率化に取り組んでいます。

### 報告期間の終了時点でのリサイクル実績

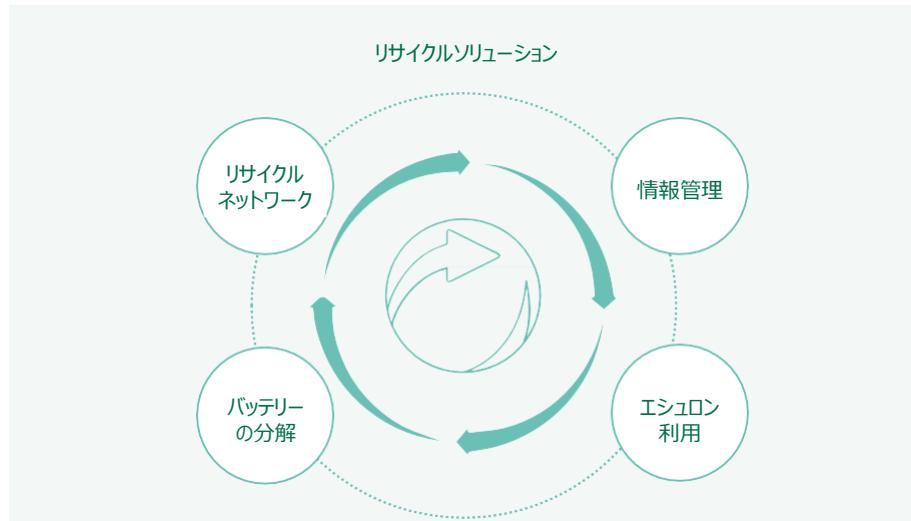
BYDはパッテリーリサイクル工場を2カ所設立し、10,000トン以上のパワーバッテリーをリサイクルしました。



パワーバッテリーを効果的にリサイクル出来るよう、バッテリーリサイクルプログラムと実施手順も策定しています。バッテリーリサイクル担当部署が顧客からのリサイクル依頼を確認後、バッテリーは現場で技術検査・登録され、その後、記録と一緒に保管のために倉庫へ輸送されます。リサイクル記録情報の受領後、バッテリーリサイクル担当部署はリサイクル工場へ委託してバッテリーの受け取り、リサイクル情報の記録、リサイクルの実施または環境に配慮した廃棄を進めます。また、当社は製品のトレーサビリティを重視しており、リサイクル元から最終用途に至るまで、エシロン製品のライフサイクル全体を漏れのないよう関連要件に従って記録・追跡しています。これにより、製品の品質や用途の追跡が確実になり、安全性とコンプライアンスに対する強力な保証が得られます。

## リサイクルプログラム

同時に、当社は具体的な取り組みを通じてバッテリーリサイクルの発展を積極的に推進しています。2024年には、国家電網河南電力公司が主導する「バッテリーエネルギー貯蔵システムのエシロン利用に関する安全利用・制御技術の研究・実証」などの主要プロジェクトに参加し、エシロン利用技術の研究と応用の推進に貢献しました。BYDは自社のエシロン利用標準システムを確立するとともに、工業情報化部が発行する「新エネルギー車の廃バッテリーの総合利用に関する業界標準条件」や、国務院が発行を予定している「リチウムイオンバッテリーリサイクル管理措置」など、関連する政府のリサイクル政策や規制の策定にも積極的に参加しています。バッテリーリサイクル分野で培った貴重な経験と専門的な知見に基づき、バッテリーリサイクル産業のより一層の標準化・効率化の推進を支援します。



## グリーンパッケージ

当社は、製造や輸送の現場でグリーンパッケージの普及を継続的に進めるとともに、梱包資材のリサイクルプロジェクトも積極的に実施しています。資材梱包箱やカートン、発泡箱などのためにリサイクル専用エリアを設け、関連資材は100%リサイクルしています。さらに、サプライヤーと連携し、カートンをはじめとする梱包資材の製造において、リサイクル可能な材料の活用を積極的に進めています。代替資材の使用という点では、使い捨て資材からの置き換えとして、耐久性・再利用性・スペース効率に優れた梱包資材を用いることで、循環利用を実現しています。

### リサイクル包装材の利用拡大

2024年、当社は段ボール箱や木製クレート、木製パレットに代えて、再利用可能な欧州標準コンテナ(EUボックス)、梱包箱、プラスチックパレットを導入しました。この取り組みにより、梱包資材の使用量を効果的に削減し、段ボール箱324.8トンと木製クレート295.2トンを節約しました。



## 生物多様性の保全

生物多様性は、地球上の生命を支える基盤であり、人類の生存と発展に欠かせない天然資源です。BYDは、生物多様性保全の緊急性と重要性をとても強く認識し、これに関する国や地域の法律や規制を厳格に遵守しています。また、"生物多様性保全に関する宣言"および"森林伐採禁止宣言"を策定・発行し、生産や事業運営では環境配慮の原則を遵守して、生態系への影響や破壊を最小限に抑えることを約束しています。さらに、最高意思決定機関としてトップマネジメント/取締役会を設置し、保全活動に関する戦略的指針の策定と監督について全責任を負っています。これにより、生物多様性の保全に関するあらゆる取り組みが当社の開発戦略と密接に整合し、社会的・環境的な持続可能性の要件を確実に満たすことができます。

生物多様性の保全を強化するため、BYDは工場の用地選定段階でも自然保護区などのセンシティブな地域を避け、すでに開発済みの地域を優先することで自然環境への被害を軽減しようと試みています。また、工場建設に先立ち、建設予定地で詳細な生態系評価と種の調査を実施し、建設プロジェクトが地域の生態系に及ぼす影響を評価したうえで、狙いを定めた保護対策を策定します。その後、工場の稼働時には廃水や廃ガスなどの排出をリアルタイムで監視し、排出量が基準を満たし、地域の生態環境に影響を与えていないことを確認しています。

さまざまな生物多様性の保全活動も積極的に実施しています。例えば、西安では、科学調査と生態教育を通じて市民の生物多様性への意識を高め、希少動物を保護することを目的に、「秦嶺の四宝」に焦点を当てたイベントが開催されました。合肥では、長江の固有種に焦点を当て、長江流域の生態保全に対する市民の意識を高めました。普洱(プーアル)では、アジアゾウの追跡や熱帯雨林の生態調査に力を入れ、生物多様性保全活動に社会全体で参加するよう呼びかけました。



> 西安のBYD CLUB「ライトチェイサー」プログラム

2024年の "BYD CLUB ライトチェイサー プログラム" では、西安で野生生物保護の公益活動を行いました。このイベントは、「秦嶺の四宝」と呼ばれるジャイアントパンダ、キンシコウ、トキ、ターキンの保護に焦点を当てたものでした。この取り組みは、科学調査と生態教育を組み合わせたもので、参加者は希少動物の生息状況について直接学ぶと同時に、現地調査や詳細な研究を通じて生物多様性への意識を高めることができました。本プログラムには生態教育も含まれており、専門家の知識共有や体験型の活動を通じて、参加者は秦嶺に生息する希少動物とその生息する生態環境について理解を深めました。これらの取り組みによって、環境保護の重要性がより一層強調されました。今回の秦嶺への旅を通じて、私たちは公益と持続可能な発展への取り組みをより多くの人々と共有し、環境保護への関心と参加を一般の人々に促しました。私たちは、人と自然が調和して共に生きる未来の実現を目指しています。



西安のBYD CLUB「ライトチェイサー」プログラム

# 03

## 確かな品質のために引き継がれる職人技

BYDは、"Technological innovations for a better life"（技術革新でより良い暮らしを実現する）を使命として、技術革新によってインテリジェントで安全かつグリーンな製品やサービスをお客様に提供するとともに、職人精神をもって、お客様の期待を超える開発の成果を出すべく努めています。製品の品質と安全性に対する当社のごだわりは、製品ライフサイクルのあらゆる面での厳しい品質管理に反映されています。また、私たちは、責任あるマーケティングを徹底し、誠実さと透明性でお客様の信頼を獲得しています。

「お客様第一」という核心理念を掲げ、販売プロセス全体のサービス基準や施策を最適化することで、お客様のご要望にしっかりと対応するとともに、顧客体験をより良いものにし、実践的な行動でお客様に対する責任を果たし、高品質な製品と優れたサービスによってお客様との信頼の礎を強固なものとしています。

この章の目標と指標



HKEX ESG報告コード

GD-B6、KPI-B6.1、KPI-B6.2、KPI-B6.3、KPI-B6.4、KPI-B6.5

SZSEガイドライン

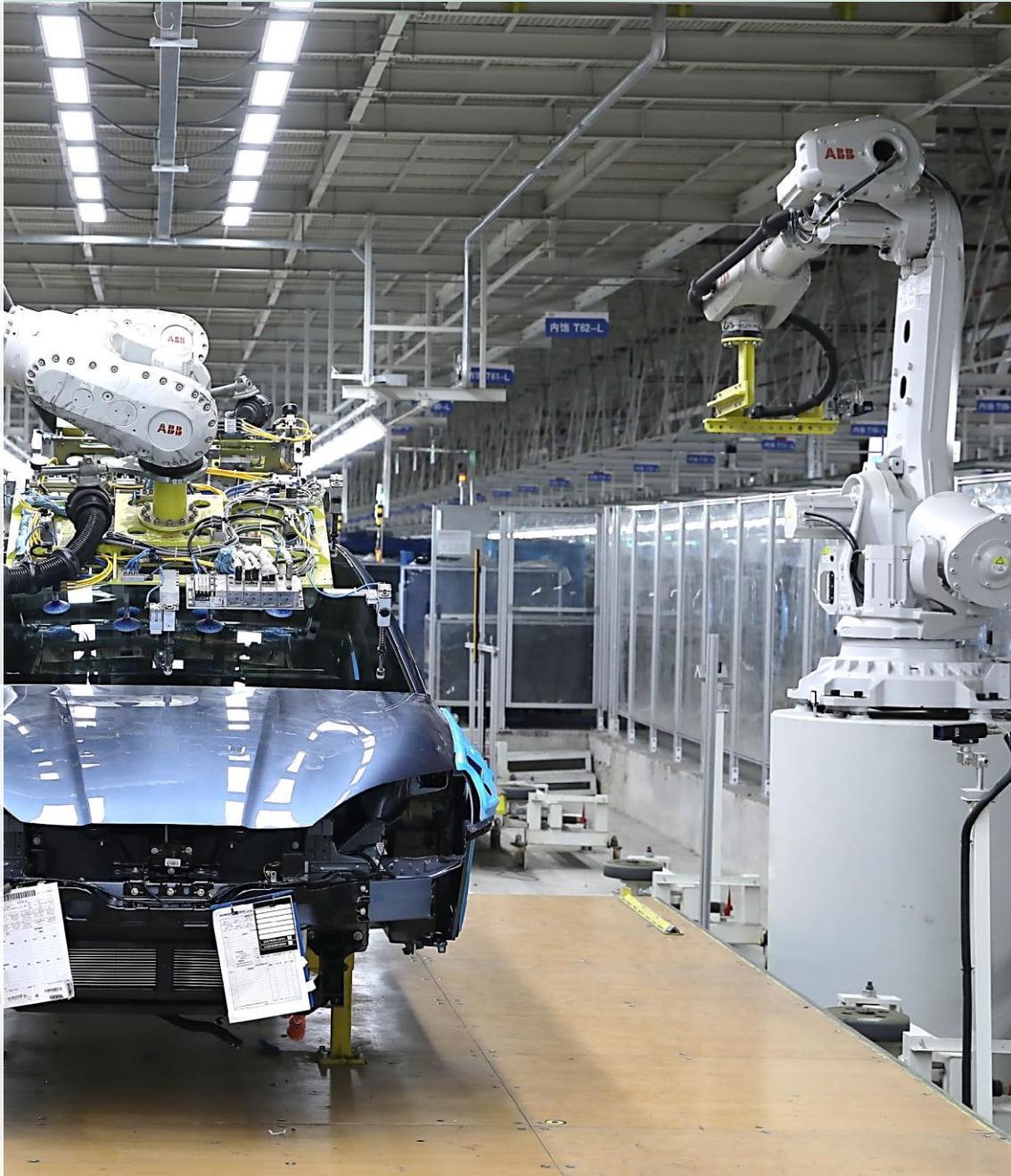
イノベーション主導、技術倫理、製品・サービスの安全性と品質、データセキュリティと顧客のプライバシー保護

ESRS

S4-1、S4-2、S4-3、S4-4

GRIスタンダード

2-24、3-3、416-1、416-2、417-1、417-2、417-3、418-1



## 技術革新

BYDは、「技術を基盤に、イノベーションを原動力に」を中心的な開発理念とし、イノベーションこそが企業そのものと人間社会の持続可能な発展を実現する根本的な原動力である、と位置付けています。社員一人ひとりがその革新的な才能を存分に発揮できるように、また、活気ある研究開発環境を作り出すために、私たちは公正なインセンティブ制度を設けています。また、技術のブレークスルーを絶えず追求し、長年にわたる取り組みを一連の研究開発成果として実らせ、革新的技術や最先端技術を活用して新たな産業、新たなビジネスモデル、新たな原動力を生み出しつつ、新たな生産力を開発しています。その結果、科学技術の発展がすべての人々の生活に役立ち、誰もが科学技術を利用できるようになることを目指した「優れた技術をすべての人に」という概念の実現が可能となり、より多くの人々が科学技術の創造と応用に参加できるようになるほか、社会においてより革新的なアイデアや解決策が繰り返し生まれるようになります。人間社会の発展も促進されます。

### イノベーションプラットフォームの開発

イノベーションプラットフォーム構築の重要性を理解しているBYDは、イノベーションをグループのDNAとしています。社会のニーズを満たすことを目指して、「次世代を探求し、次世代を蓄積し、次世代を大量生産する」という考え方に基づき、技術的分解とクローズドループ型の研究開発能力を強化しつつ、私たちはお客様に究極の体験を提供すべく継続的な更新や改良を重ねて、業界や社会にも革新的なソリューションを提供しています。世界の自動車産業のインテリジェント化の発展を探求・主導し続け、最先端技術と自動車産業を深く統合するとともに、技術研究開発・人材育成・産業チェーン構築における強固な基盤を着実に築いています。

BYDは、基礎科学、自動車工学、自動車新技術、電子技術など幅広い分野を対象とした研究所を合計で11か所設置しており、基礎科学研究に深く取り組みながら、新エネルギー産業チェーン全体における中核技術の独自研究開発を実現しています。また、各研究所の組織体制も、技術開発の要件に応じて絶えず柔軟に調整しています。今年度は、インテリジェントドライブ研究開発センター、インテリジェントコックピットソフト/ハードウェア研究開発センターなどを統合し、「インテリジェント技術研究所」を設立。イノベーションと研究開発の人的資源、財務的資源、物的資源をさらに統合します。

また、絶えず変化する顧客の要求に柔軟に対応するため、「BYDテクノロジープール」という動的なテクノロジーエコシステムを構築。バッテリー、モーター、電子制御、自動車グレードのチップなど、自動車の新エネルギー産業チェーンの中核技術を蓄積しています。さらに、よりインテリジェントなアプリケーションサービスを生み出し、業界、さらには社会全体のデジタル化および知能化の発展に新たなアイデアと技術支援を提供します。



## ◆ 研究開発チームの人材プール

研究開発における革新的な人材は、BYDが技術的なブレークスルーを実現し、製品の改良を重ねてゆくうえでの原動力となります。BYDのエンジニアチームは、電子、機械、電子情報など50の専門分野からなる12万人以上の研究開発要員で構成され、強力な推進力と知恵で当社の革新的な発展に貢献しています。この人材プールは、最先端技術におけるBYDの探求とブレークスルー、ひいては将来の技術競争においてグループが主導的地位を維持するために欠かせない存在です。また、当社では、"BYD特許管理方針"や"BYD特許報奨・罰則管理方針"といった社内方針を策定しており、研究開発に魅力的なインセンティブ制度を導入することで、従業員が積極的に探求・革新に取り組むよう促し、これによって研究開発の人材チームを拡大すべく取り組んでいます。

当社では、研究開発のマネージャー用に人材プール計画を立て、研究開発の主要人材の選出、訓練、任命、評価を管理するライフサイクルマネジメントシステムを構築しています。このシステムは、研究開発マネージャーチームの全体的な品質と業務能力を総合的に向上させ、常に高まりつつある研究開発への需要に対応することを目的としています。



> ハイポтенシャル人材育成プログラム "イーグルプログラム" を開始

"イーグルプログラム" は、中核となる研究開発技術人材の包括的な育成に特化し、最先端技術のトレーニング、プロジェクトの実践、部門横断的なコミュニケーションや協働に注力しつつ、市場ニーズに寄り添い、販売現場のリソースとつながることの重要性にも焦点を当てたプログラムです。一連の全プロセスを網羅した体系的な研修体制を構築することで、国際的な視野や異文化のコミュニケーションスキル・協働スキルを備えた複合的な技術系研究開発人材を育成し、学問の枠を越えた課題を解決していきます。研修プログラムには、市場洞察や顧客ニーズへの迅速な対応に関するモジュールも含まれ、研究開発サイクルを短縮するだけでなく、研究開発チームが顧客ニーズを正確に捉えるためのスキルを身に着けることで市場志向をモデルプロジェクトの設計や開発に組み込み、製品の市場競争力を高めることができます。

さらに、"イーグルプログラム" は、研究開発人材が現場でイノベーションに取り組み、革新的な思考力やリーダーシップを強化することを奨励しています。また、新エネルギー車のコア技術開発やインテリジェントドライビングシステム開発といった主要分野においてBYDがリーダーシップを継続していくうえで必要な人材を保証し、将来に向けて質の高い人材をプールすることで企業のイノベーションのスピードを加速します。私たちは、市場洞察、インテリジェントドライビングシステム開発などの主要分野を担当するチームを設置したほか、市場洞察、技術交流、製品体験の共有、体系的な問題解決などの機能を持つ社内コミュニケーションプラットフォームを構築し、研究開発人材の交流・協力を促進するとともに、知識の伝達と経験の蓄積を加速し、良好な学習環境やチームワーク精神の醸成を図っています。研究開発人材が外部の学術交流・協力プロジェクトに参加することも積極的に支援しており、毎年優秀な研究開発人材を選抜して国際学術会議や技術展示会に派遣し、世界の同業者と交流・議論を行なながら国際的な視野を広げています。

## ◆ 創新的なエコロジー構築

BYDは、長年の研究開発経験と高いイノベーション力を基盤に、独自のイノベーションと異業種との協力の両面から社会のさまざまな分野でその成果を広く応用し、グリーンでスマートな未来社会の構築を加速しています。

自社製品にイノベーションをもたらすため、BYDは車両インテリジェンス戦略に着手。業界初のデュアルサイクルマルチモーダルAIモデルの“XUANJI”を開発しました。人工知能を車両の全領域に初めて適用し、道路プレビューやe<sup>4</sup> パーキング、e<sup>3</sup> パーキング、高速走行におけるタイヤパンク時のスタビリティコントロールなど、革新的な機能を多数生み出しました。技術革新による運転の利便性、安全性の大幅な向上を通して、かつてないインテリジェントな移動体験をユーザーに提供しています。これに基づき、極限状態でも優れた性能とインテリジェントな制御能力を発揮する“緊急回避機能”や“自動運転環境下で車両側の判断でジャンプする”機能を開発しました。また、インテリジェンスと電気の融合の可能性を深く掘り下げ、“天神之眼”による高度なインテリジェント運転に注力するとともに、技術の高みを絶えず打ち破り、革新的技術の人々の生活への普及を促進しています。

世界最大の新エネルギー車製造体制を持つBYDは、産業チェーン全体の発展を推進し、スマートドライビングの普及に向けてのさらなる加速に注力しています。環境保護の面では、新エネルギー製品やサービスを絶えず生み出し、最先端の素材やインテリジェント技術を統合して製品寿命を大幅に向上しました。また、「技術を基盤に、イノベーションを原動力に」でエネルギー消費を大幅に削減し、グリーンモビリティの新たなトレンドをリードして、お客様が低炭素型のライフスタイルに容易に適応できるよう支援しています。

同時に、従来の工業デザインとは一線を画す革新的な外観スタイリングと快適性を重視した内装デザインで幅広い市場認知を獲得するなど、デザインレベルの向上にも継続的に取り組んでいます。

業種の垣根を越えた協力によるイノベーション主導の観点から、BYDは常にオープンで協力的な姿勢を維持し、あらゆる分野のパートナーと積極的に手を携えています。多角的な知恵と最先端技術を結集し、AIやビッグデータなどのデジタル技術の可能性を深く掘り下げ、数々のイノベーションを生み出すことで、考え、学習する能力を自動車に与えるとともに、運転をよりスマートで安全なものにしています。

異業種間で緊密に連携し、業界の壁を取り除くことで、私たちは、さまざまな分野の優れた資源を統合すること、インテリジェントコックピットやインテリジェントドライビングなどの先進的な技術の進歩を促進すること、新エネルギー車とスマートフォン、インターネット、その他の産業との技術協力とイノベーションを推進することに取り組んでいます。車はもはや「移動手段」という枠組みにとどまらず、インテリジェント技術が結集した、全く新しい移動・生活体験をもたらすインテリジェント端末へと徐々に変化を遂げています。業界の発展に革新的な活力を注入するとともに、業界の反復的なアップグレードを推進し、スマート化・ネットワーク化の方向へと社会を導き、移動エコシステムの無限の可能性を拡大し続けていきます。

BYDは今後も、“協力”と“オープン”という姿勢を維持し、業界パートナーと手を携えて中国のスマートドライビングをより高いレベルへと推進するとともに、自動車業界のインテリジェント革命を主導し、技術の力でグリーンな明日を作り出しています。



 > BYDのFANGCHENGBAO、ファーウェイのQianKun Intelligent Drivingと提携して世界のハードコア仕様のインテリジェントオフロード車の新時代を切り開く

BYDのFANGCHENGBAOは、深圳でファーウェイと協力契約を締結し、BYDのFANGCHENGBAOブランドを対象にインテリジェントドライビングに関する詳細な共同研究開発を行うことになりました。最初の製品は、ファーウェイのQianKun ADS 3.0を搭載したBAO 8モデルで、世界初のハードコア仕様のオフロード専用インテリジェントドライビングソリューションを作り出し、この分野における世界の新時代を切り開くことを目指しています。

2024年11月12日、BYDのFANGCHENGBAOは、ファーウェイとの共同の取り組みにより、QianKun ADS 3.0を搭載したBAO 8モデルを市場投入しました。ファーウェイのQianKun Intelligent Driving ADS 3.0は、安全第一のエンドツーエンドネットワークアーキテクチャを初めて採用し、より人間に近く、より安全で、より効率的な運転体験をもたらします。安全性の面では、ADS 3.0によって前方、側方、後方の衝突回避能力を強化。より高い制動速度とより短い制動距離を可能にし、誤ってアクセルを踏んってしまった場合の衝突回避もサポートします。こうした技術により、ユーザーは負担を減らしながら安心して移動できるとともに、高度なインテリジェントドライビング体験を楽しむことができます。

BYDとファーウェイによるFANGCHENGBAOインテリジェントドライビングシステムの共同開発は、新エネルギー車のパーソナライズ化のためのソリューションを模索する共同事業であるとともに、オフロード車のインテリジェント化実現によって中国におけるハードコア仕様のインテリジェントドライブの発展を推進することを目指したパートナーシップでもあります。



 > BYD、OPPOと提携してスマートフォンと車両の統合の新時代を切り拓く

2024年、BYDとOPPOは初の共同製品である「スマホ+クルマ連携」システムを発表しました。DENZA Z9GTモデルを対象としたOTAアップデートでの利用が可能で、OPPO Find 8スマートフォンシリーズに対応しています。「スマホ+クルマ連携」システムを搭載したDENZA Z9GTは、革新的な機能によってインテリジェントな体験をユーザーの日常生活にもたらします。ミラーモード、プライバシーモード、アプリ継続、シームレスなナビゲーション引き継ぎ、音声操作による車両コマンド、車両出発時の安全リマインダーといった機能を含み、車に乗る前にスマートフォンで聴いていた曲を、車内でも中断せずに再生できるほか、車のロックを忘れた場合は安全リマインダーを受け取ることができます。また、車のロックやエアコンを入れるといった操作も、スマートアシスタント画面のカードやスマートフォンの音声操作から遠隔で行うことができます。

BYDとOPPOが協力することで、車を利用するさまざまなシーンにおいてスマートフォンと自動車の深いレベルでの連携が促進されるのみならず、両社の取り組みによってインテリジェントな自動車体験がもたらされ、業界が新たな段階へと導かれるよう取り組んでまいります。



## 知的財産保護

知的財産はBYDの中核的な競争力であり、革新的な開発にとって「不可欠な要件」となっています。私たちは知的財産の保護を重要な責務と捉え、「中華人民共和国特許法」や「中華人民共和国商標法」をはじめとした事業地域における知的財産権に関するその他の法律や規則を遵守し、自社の知的財産権を断固として保護しつつ、他者の知的財産権を十分に尊重します。また、保護意識の醸成や規定類の整備、管理モデルの革新といった取り組みにより、効率的な知的財産管理体制を確立しています。また、知的財産権に関する業務が体系的に一貫性のあるものになるよう、知的財産権の出願・管理・活用について長期的な仕組みを構築しています。「BYD特許出願手続き」「BYD特許分類措置」「BYD特許配置管理規則」などの一連の方針も策定し、知的財産の創造・保護・活用のあらゆる側面において、当社の知的財産の管理業務を包括的に標準化しています。こうした取り組みによって、知的財産権の全プロセスにわたる配置と保護を実現し、イノベーションによって知的財産権を蓄積するとともに、知的財産権を保護することによってイノベーションを促進します。

知的財産権の管理体制についても継続的に最適化を行っており、特許、商標、著作権などのグループの無形資産をライフサイクル全体を通して管理し、その安全性と完全性を確保すべく取り組んでいます。

特許の初期の蓄積、質の向上、戦略の構築段階を経て、当社は高価値特許に取り組む段階に入り、特許の質の向上と高価値特許の発掘に力を入れています。多面的かつ全方位的、根本的な技術革新を行うよう研究開発部門を導くことで、チームはより優れた高価値特許ポートフォリオを探求・配置し、高価値特許の創出と応用を実現します。



私たちは知的財産保護の文化を育てるために積極的に取り組んでおり、研修の実施や交流活動の企画を通して、これに関する全従業員の意識と能力を高めるべく努めています。2024年、BYDは知的財産の研修を102回開催しました。特許技術開示書の作成や特許調査といった知的財産に関する基本的な知識を従業員に提供するだけでなく、高価値特許の開発や特許の配置戦略を対象とした高度な研修コースも展開しています。研修の時間は合計で167時間、受講した従業員の数は5,100人以上にのぼります。

### ➤ 知的財産保護の広報活動「4.26 未来へのイノベーション」

4月26日の「世界知的財産の日」に、BYDはグループの研究開発担当者全員を対象とした知的財産保護の広報活動「4.26 未来へのイノベーション」を実施。知的財産保護に対する意識と能力の向上を図るべく、研究開発担当者を招いて高価値特許に関する優れたアイデアや実例について学び、議論を行いました。同イベントには、オンラインと対面の両方で300人以上の研究開発担当者が参加し、知的財産保護の概念や実践的な知識を効果的に普及・促進することができました。

## 業界発展支援

持続可能な発展を追求する中で、BYDは、業界の発展も積極的に支援しています。各種規格の策定に積極的に取り組み、業界団体の運営にも深く関与しつつ、業界の交流会にも熱心に参加しており、業界リーダーとの深い交流を通じて業界標準の強固な礎を築きながら、新エネルギー業界の質の高い発展を共に推進しています。

### 国家標準における幅広い取り組み

BYDは、これまでに蓄積してきた技術を背景として電気自動車の細分化された各分野に注力し、GB/T 18487.5-2024 “電気自動車専用充電システム - パート5 : GB/T 20234.3対応DC充電システム” や、GB/T 27930.2-2024 “車外導電式充電器と電気自動車間のデジタル通信プロトコル - パート2 : GB/T 20234.3対応通信プロトコル” など、新エネルギー自動車製品が市場に参入するにあたっての国家標準の策定を主導してきました。こうした標準を実施することにより、中国における新旧充電インターフェースの互換性を確保しつつ、充電規格の全面的な最適化と改良を図り、電気自動車の充電時の安全性・利便性をさらに向上させていきます。また、インテリジェントネットワーク車両分野で初めてとなる強制国家標準の策定にも参加し、その標準体系の整備に貢献しました。これは、インテリジェントネットワーク車両の安全性向上や業界の健全かつ持続可能な発展を確保するうえで、非常に大きな意義を持ちます。

### 業界標準をリード

BYDは強い責任感を持って、業界の安全や規制に関する標準の策定に深く参画しています。2024年には、交通運輸部道路交通研究所などと協力し、“運行車両のアラウンドビューモニターシステムの要件および検査方法”といった業界標準の草案を作成しました。グループを代表する研究開発チームが持つ豊富な知識と膨大な実践データを活かし、最先端の技術コンセプトや実践経験を運行車両の安全基準に反映しています。こうした取り組みを通じて公共交通の安全の底上げを図り、業界標準が技術の進化に遅れを取ることなく維持していくことを目指しています。

### グループ標準の新たな章

中国自動車技術研究院やCATLなどの組織・企業と共に、T/CECRPA 012 “2024年 温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの量化方法と要件 - パワーバッテリー”、およびT/CECRPA 013 “2024年 温室効果ガス - 製品カーボンフットプリントの量化方法と要件 - 軽量EV” という2つのグループ標準を策定しました。世界的なカーボンニュートラルの潮流を背景にこれら2つの標準を導入することで、新エネルギー車のライフサイクル全体を通じた炭素会計に明確な指針を示すとともに、企業が炭素排出量を正確に削減できるよう後押しすることで、標準化されたグリーンで低炭素な変革へと業界を導いています。



### インテリジェントコネクテッドビークルの運転支援安全基準、およびサプライチェーンの安定性に関する意見交換と国家基準発表のための現地推進会議

2024年9月26日、坪山のBYD本社において、インテリジェントコネクテッドビークルの運転支援安全基準および産業チェーンの安定性に関する意見交換と国家基準発表のための現地推進会議が開催されました。国家市場監督管理総局・標準技術管理部門主催、BYD共催のもと、政府や企業の代表者100人以上が出席しました。

会議では、第1弾としてインテリジェントコネクテッドビークルに関する強制国家標準が3つ発表され、運転支援安全に関する推奨国家標準も6つ発表されました。主要技術が数多く対象となっており、インテリジェントコネクテッドビークルの標準体系がさらに強化された他、全国自動車標準化技術委員会やBYDを含む7つの組織によって、「インテリジェントコネクテッドビークルにおける運転支援安全強化のための標準に基づく行動」が正式に立ち上げられました。これは、業界全体の関係者が連携し、インテリジェントコネクテッドビークルにおける運転支援の安全性向上に取り組む姿勢を示すものです。

会議で発表された9つの標準は、インテリジェントコネクテッドビークルの標準体系における空白を補い、中国自動車産業の変革と高度化を力強く推し進めることを意図しています。標準策定の過程では、BYDがこの分野における技術力と業界への影響力を存分に發揮し、業界のリーディング企業としての責任を果たしました。さらにBYDは、インテリジェントコネクテッドビークルの標準体系の構築を支援し、より標準化され安全かつ持続可能形で業界の発展を推進しています。



発表イベント

BYDは中国自動車工業協会(CAAM)において重要な役割を担い、CAAMの呼びかけに積極的に応じて各種セミナーや意思決定の場に参加し、専門的な見識と実践的な経験を提供しています。2024年には、業界の経済運営に目覚ましい貢献をしたとして「2024年自動車業界経済運営先進グループ」に選ばれました。

私たちはエコシステムパートナーと協力し、各種標準の策定や業界交流への積極的な参加、あらゆる方面からの力の結集を通じて、新エネルギー自動車業界の未来を切り開いています。

## 科学技術における倫理

自動車のインテリジェンス化と電動化が進む時代において、BYDは「ユーザー・プライバシーの尊重、偏見や差別の回避、透明性と安全性の向上、意識的な自己レビューの実施、人類のウェルビーイングの促進、法律・規制の遵守」という科学技術に関する6つの倫理原則を堅持しています。科学研究、技術開発、応用などの研究開発活動において、私たちは科学技術の倫理指針と行動規範に従い、この倫理を各イノベーション活動に組み込んでいます。そして、一人ひとりの尊厳とプライバシーを尊重し、科学技術活動のあらゆる段階において倫理的・道徳的要件を満たすよう努めています。さらに、革新的な技術や研究開発の成果は人類の生存と発展に不可欠な環境を損なうことなく、技術の進歩が人類に利益をもたらし、社会の持続可能な発展を促進できる形で活用しています。

自動運転やIoV(自動車のインターネット化)などの最先端技術では、技術開発の初期段階で潜在的な倫理的リスクを事前に評価します(例: 自動運転の意思決定ロジックが歩行者の安全を損なわないか、データ収集がユーザーのプライバシーを侵害しないか、情報セキュリティや情報コンプライアンスにリスクをもたらす可能性がないか、等)。厳格な評価プロセスを実施することで、新しい技術を精査し、基準に適合しないリユーチュンを排除します。

日常業務においては、データ利用の基本原則を厳格に遵守しています。ユーザーの運転や好みに関するデータを収集する際にも、お客様から確実に許可を得ています。また、データの漏洩や悪用を防ぐ手段として暗号化ストレージや暗号化通信を使用しており、データへは権限を持つユーザーが業務上必要な場合に限りアクセスできるようにしています。

科学技術の倫理に関する特別研修も継続的に実施しており、新入社員や技術チームには定期的に参加することを義務付けています。また、科学技術分野の従業員全員が高い倫理意識を持てるよう、プライバシーの尊重や安全の確保といった倫理的な考え方を日常業務に取り入れています。こうした取り組みにより、科学技術の成果を最新の状態に保ちながら「公共の福祉への貢献」を可能とし、技術応用に対する責任あるアプローチを推進しています。

### 科学技術に関するBYDの規範と基準

01

#### ユーザー プライバシーの 尊重

データの収集、取扱い、保存に際しては個人情報の収集を最小限にとどめること、匿名化技術や非識別化技術を使用すること、個人情報はユーザーの明示的な同意がある場合にのみ使用すること、といったプライバシー保護の原則を厳格に遵守します。また、私たちは個人情報に関する知る権利と同意する権利を全面的に尊重します。個人情報の取扱いは、合法性、正当性、必要性、誠実さの原則に基づき、これによって、個人のプライバシーとデータセキュリティを確実に保護し、個人情報の違法な収集・使用・開示を防止しています。

02

#### 偏見や 差別の回避

データ収集やアルゴリズム開発では、プロジェクトの性質に応じて倫理レビューを行い、多様なニーズを考慮することで、データやアルゴリズムに潜むバイアス(偏見)を回避します。私たちは、包括的で公正、そして差別のないAIシステムの実現に努めています。

03

#### 透明性と 安全性の向上

アルゴリズムの設計・実装・適用の過程において、透明性、解釈可能性、理解可能性、信頼性、制御性を高めると同時に、AIシステムのレジリエンス(回復力)、適応性、耐干渉性も強化します。検証・監査・監督が可能で追跡性・予測可能性があり、信頼できるシステムを、私たちは段階的に実現していきます。

04

#### 意識的な 自己レビューの 実施

AIの倫理を技術研究開発のあらゆる側面に取り入れ、意識的に自己レビューを行い、自己管理を徹底し、倫理基準に反するAI開発活動は行いません。

05

#### 人類の ウェルビーイング 促進

究極の目標は、技術革新を通じて社会にポジティブな変化をもたらすことです。そのため、私たちは開発する製品が実用的な課題に対応でき、害や不平等を生むことなく、生活の質を高められるものとなるよう努めます。

06

#### 法令・規制の 遵守

プロジェクトはすべて、GDPR(EU一般データ保護規則)やデータ保護に関するその他の法的要件など、関連する国内外の規制に準拠することが求められています。

# 製品責任

品質こそが製造業における最も基本的かつ根本的な業務であり、製品の生命、ブランドの魂であり、業界が長期的に発展していくうえでの不可欠な保証である。BYDは、そう考えています。研究開発から生産までのあらゆる工程で、コンプライアンス要件を上回る高い基準で作業を進められるよう、私たちは総合的な製品品質管理システムを構築し、製品ライフサイクル全体を通じた品質管理を実現しています。また、お客様の安全に対する責任を果たすため、厳格な品質保証プロセスと適切な製品リコール手続きを通じて、お客様の運転時の安全確保に全力で取り組んでいます。同時に、品質文化の構築も積極的に行っており、企業の運営・管理のあらゆるレベルに品質意識を浸透させ、「ゼロデジエクト(不具合ゼロ)」を目標に、職人精神の育成にも注力しています。厳格かつ責任ある姿勢を忘れずに、常に高品質な製品作りに取り組み、お客様の安全確保に努めています。

## 製品品質のガバナンス体制

BYDでは、最高品質責任者(CQO)制度を設け、CQOを中心とした多層的な品質管理体制を構築しています。取締役会が製品品質に関する業務の監督を行い、社長が副社長をCQOに任命。グループ社長を第一責任者として明確に位置付け、全社レベル、部門レベル、工場レベルで品質管理組織を設置し、その下に品質安全監督者と品質安全責任者を責任者として配置しています。さらに、権限委任状を交わすことで各レベルでの品質管理要件を厳格に規定し、品質戦略計画の上意下達と下意上達が確実に実行されるようにしています。このようにして、製品の品質と安全に対する主な責任を階層ごとに果たしています。

## 製品品質のリスク管理システム

当社では品質管理システムを構築し、その改善に継続的に取り組んでいます。この業務の一環として、これまでに「自動車製品安全・責任管理要領」、「製品設計・開発管理」、「自動車生産工程管理要領」、「自動車完成品検査管理要領」、「自動車アフターサービス部門アフターサービス苦情管理要領」、「品質レッドライン管理規定」、「品質マニュアル」といった各種管理方針を策定してきました。これらの方針は、製品製造におけるすべてのプロセス、すべてのバリューチェーン、すべてのライフサイクルに対応するもので、製品開発から使用に至るまでの工程全体の管理をカバーしています。これにより、確実に安全要件を満たし、品質面や安全面のリスクを回避した製品の製造が可能となります。さらに、問題の未然防止を重要優先事項として位置付け、各種規則の徹底的な遵守とクローズドループ型の管理に注力しています。

BYDは、IATF 16949、ISO/TS 22163、中国強制製品認証(CCC)規則、「道路走行車両製造企業および製品の認可に関する管理規定」「新エネルギー車メーカーおよび製品の認可に関する管理規定」「自動車の運行に関する安全技術仕様」「電気自動車の安全要件」、EU規則EU2018-858といった基準のほか、国内外の法令や品質システム基準の要件を遵守しています。管理システムの有効性確保のため、品質管理システムの継続的な改善に取り組んでいるほか、外部の専門機関による審査も定期的に受けています。

また、IATF 16949(自動車品質管理システム)に基づき、産業チェーン全体と製品ライフサイクル全体を対象とした体系的な計画を実施しています。さらに、品質管理の状況を星を用いて評価し、予防を目的とした内部基準を策定して、システム、プロセス、製品の各側面から工場の品質管理システムを四半期ごと、あるいは半年ごとに評価しています。

2024年には、星を用いた質の高い評価モデルを構築して優れたパフォーマンス、QIの有効性、インテリジェント製造といった要件をさらに組み合わせ、PDCA(Plan<計画>-Do<実行>-Check<評価>-Act<改善>)という監査の考え方を徹底的に取り入れました。この星評価モデルを出発点とし、星を用いたシステムの監査、特別品質検査、現地カウンセリングといった施策を実施し、問題の発生源の把握、プロセスの最適化、品質管理レベルと製品品質の向上といった取り組みに努めています。今年は、20の事業部を対象にモジュール別の検査を3つ実施。48の評価チームを派遣し、特定した課題の数は合計で224件にのぼります。

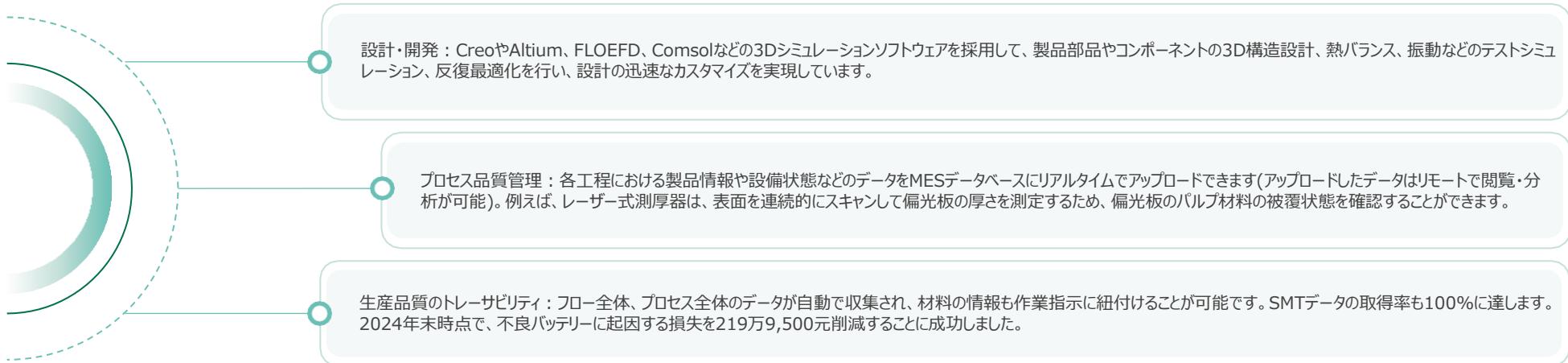
当社ではまた、品質管理の効率を上げるために、インテリジェント製造システムとデジタルシステムのアップグレードを実施しています。ビッグデータや人工知能、IoT(モノのインターネット)といった最先端技術を生産プロセスに組み込むことで、生産ラインを高度な知能を持つ「有機体」へと進化させており、それによって、あらゆる要素が細かく連携し、材料の供給や設備の運用・保守に関するインテリジェントな予測が可能となります。さらに、品質に潜む問題を迅速かつ正確に特定・記録し、品質検査の効率の向上に努めているほか、生産プロセスの精密化と標準化を高めています。





## &gt; 消費者向けバッテリーのスマートファクトリープロジェクト

BYDの消費者向けバッテリー工場では、MESシステムにPLM、EAM、WMS、QMS、SAP、SRM、APSなどのシステムデータを統合したネットワークを活用して、共同で製造を行っています。設備の自動化、生産の透明性向上、物流のインテリジェンス化、管理のモバイル化、意思決定のデジタル化を実現する工場の建設を目標に、自動化率97.5%、全プロセスにおける1回での納品合格率97.82%、外部品質損失率0.04%を達成しています。



当社のスマートファクトリーは、最先端技術と自社製品の特性を融合し、スマート機器を効率的に連携させ、データに基づいて高い精度での意思決定を実現させることができるために、製品品質を確保しながら生産効率を大幅に向上させることができます。

2024年、BYDは合計257の工場<sup>12</sup>に対して内部品質管理についての星評価を実施。対象となった工場のカバー率は100%でした。評価した工場のうち、4か所が5つ星(理想的)を達成し、107か所が4つ星(優良)を獲得。4つ星以上を獲得した工場は全体の43.2%を占めています。残りの146か所は合格と判断されました。この評価システムによって後進的な工場に対する継続的な改善が可能となり、品質管理の面での工場間での競争が活発化することで品質管理システムの効果的な運用を見込むことができます。

BYDは、ISO管理システムとIATF 16949の各標準の要件を遵守し、品質管理システムの認証取得を積極的に推進とともに、専門の第三者機関による外部の審査や認証を受けています。また、外部の標準と整合させながら、常にさまざまな経営方針の最適化と標準化を進め、社内外の品質管理システムの統合を深めています。

## 報告期間の終了時点での

## 合計

108のグループ工場がISO9001:2015品質管理システムの認証を取得  
(そのうち39はBYDの自動車工場)

カバー率 58.38%



117の工場がIATF16949:2016システム認証を取得  
(そのうち67は第1レベルの組立部品工場)

カバー率 63.24%

<sup>12</sup> 監査の対象は中国国内の工場です。海外の工場は対象外です。

## 製品品質の管理戦略

BYDでは、優れた製品品質を追求すべく、グループレベルの品質戦略計画を策定しており、業界の環境や市場動向といった外部の動向に加え、当社の内部品質レベルと能力も考慮して、この戦略を効果的に実行するための監視・評価・調整・改善システムを構築しています。また、全工程にわたる品質管理を徹底し、製品の安全性を厳格に管理するとともに、品質文化の構築を強化し、さまざまな施策を講じて製品の品質と安全性を確保しています。

### ◆ 全工程の品質管理

BYDは、製品ライフサイクル全体を対象とする品質管理システムを構築し、PLM(製品ライフサイクル管理)システムに従って、コンセプトデザインからマーケティングまでの製品の各段階を厳格に管理しています。品質計画、品質管理、品質改善、品質保証を統合することで、製品ライフサイクル全体の各側面の管理を徹底しています。

当社は、品質リスク管理を重視タスクとして位置づけており、品質リスク評価を早期に実施し、特定されたリスク優先度番号(RPN)に従って対応戦略を分析・策定しています。また、"リスク管理手順" や "FMEA管理手順" などの文書を策定しているほか、製品の品質面や安全面のリスクを予防・コントロールする動的な管理システムを構築し、研究開発、原材料の入荷、加工から出荷までの全工程を管理しています。各工場の実態を踏まえ、管理に関するリストを作成し、自己点検や是正措置を確実に実施することで、潜在的な問題を含むリスクを予防・管理の可能な範囲にとどめています。

### 研究開発・設計段階の品質管理

製品の研究開発段階では、製品研究開発の総合的な管理手順を構築しており、製品の実現可能性分析やプロジェクトの承認、設計・開発計画、サンプル製造、小規模な試作品製造、量産開始といった作業の標準化を図っています。これにより、製品の研究開発のあらゆる段階での正確な品質管理を確保すると同時に、お客様と積極的にコミュニケーションを取ることで製品の品質に対する期待値を把握し、市場の要求にもしっかりと応えています。

### 研究開発・設計段階における品質管理の施策

実行可能性分析、プロジェクトの承認

設計・開発の計画と実施

サンプル製造

小規模な試作品製造、量産開始



BYDは、顧客のニーズと市場動向をしっかりと理解し、政府の産業政策支援や特許の調査とリスク回避策、技術と製造の実現可能性、開発コストと収益、サプライヤーの能力といった項目について、総合的な調査と専門的な分析を実施し、これらを評価しています。評価から得られた情報をもとに、私たちはお客様のニーズに合った製品開発に努めます。

BYDではリスク管理という考え方を採用し、FMEAツールを用いて潜在的なリスクを特定・防止します。製品開発の初期段階で品質上の問題を特定し、後の段階で変更や追加コストが生じるのを防ぐことで、製品設計の信頼性と安全性を確保します。

BYDでは、厳格で効率的なサンプル確認プロセスを確立するべく、オンラインのOTSプロセス承認情報システムを構築しました。これにより、サンプルの品質を上げつつ、設計から最終製品までの移行を迅速化します。

BYDでは、新製品を対象とした品質能力評価を行い、各工場で作られた部品がPPAP(生産部品承認プロセス)承認に合格するよう徹底することで、自動車の量産に向けた品質基盤を築いています。

新製品の品質能力評価に基づき、各種車両の量産後のPPAP評価を同時に監視することで、乗用車と関連部品の品質が要件を満たしていることを確認しています。品質の実績評価管理や従業員の品質評価、インセンティブなどの取り組みを通じて、品質要件の着実な実施効果と研究開発・設計段階における品質目標のクローズドループ管理を確保しています。

## 製造における品質管理

原材料の搬入から製品の出荷に至るまで、BYDでは製造工程全体での品質管理を徹底しており、コンプライアンス要件を上回る厳しい管理手順や検査基準を定めています。製品の仕組みを深く理解し、体系的に計画したうえで、私たちは従業員全員の責任を明確にしつつ、徹底して実行します。また、起こり得る問題に対しても従業員の意識を高め、トライ&エラーやレビューの仕組みを構築して製造工程におけるクローズドループ型の品質管理を実現しています。同時に、MSAやSPC、エラーブルーフ技術などの高度なツールを導入して設備の自動化レベルを高め、精密な生産管理とインテリジェントな品質監視を実現しています。



### 生産材料の品質検査

国内外の製品を対象とした品質計画要件や品質基準に基づいて材料・半製品・完成品を入念に検査し、性能・機能試験を実施することで、お客様が求める製品品質に応えています。BYDは、深圳、南寧、西安などの都市に自動車や各種部品・コンポーネントの検査センターを設立しています。100以上の専門研究所、2,000人以上の専門検査員、3,000台以上の最先端機器、4,000以上の検査機能を備えた検査センターで、車両全体、安全性、NVH、EMC、パワートレイン、部品・コンポーネント、材料という主要分野7つの検査を行っています。



### 製造工程

当社では、「一工程一検査」という管理方法を採用し、製造工程の標準化に継続的に取り組んでいます。各工場の実績については定期的に評価を行い、優れた実績をあげた工場にはインセンティブを与え、後れを取っている工場には改善を支援することで、ポジティブで発展的な品質管理環境を構築しています。



### 完成品の出荷段階

"不具合のゼロ・トレラנס(不具合を一切許さない)"という品質原則のもと、「自動車製品検査手順」に基づき、工場出荷車両に対して、検査の準備、完成品の検査、出荷要件、異常対応、データ分析、記録の保管など、多方面から厳格に検査を実施しています。ヘッドライトスター、ダイナミックホイールアライメントテストベンチ、ブレーキスター、サイドスリップスター、排ガス分析装置、四輪アライメントスター、故障診断機といった最先端の試験装置や先進機器を活用し、工場出荷前に車両の品質を包括的に試験しています。

中国で販売されているBYDの乗用車、バス、安全関連部品(ライト、バックミラーなど)は、中国強制製品認証(CCC)に合格しています。他国に輸出されたモデルや関連部品も、すべて現地の要件に基づいて各種認証に合格しています。

### 報告期間の終了時点で

当社の自動車および部品・コンポーネント検査センターは、CNASにより認定された国内外の規格に **500件** 以上合格しています。



## ◆ 製品の安全性

BYDは常に安全第一であり、未熟な技術によってユーザーが危険にさらされることはあってはならないと考えています。社内に自動車製品安全委員会を設置し、「安全第一、予防第一、安全責任体制の実施、継続的な最適化と改善」という安全原則に基づいて、健全な製品品質・安全責任体制を構築しています。こうした活動を通じて、私たちは製品安全技術の革新や、監視プラットフォームの有効性の向上、アフターサービス能力の最適化、インシデント対応と処理の強化、製品やユーザーの安全の総合的な保護といった取り組みに常に努めています。

また、"デュアルドメイン" 方式の製品安全管理システムを構築し、全体的な範囲・各工程領域の両方で製品の安全性を管理しています。安全アーキテクチャ、安全システム、安全技術に対応した包括的な安全保証システムで、製品の安全性(バッテリー、衝突、高電圧、ブレーキ等)に関するあらゆる側面をカバーしています。

### 製品の安全性の技術イノベーション

電気自動車の安全技術に関してBYDは絶えず革新を重ね、画期的な技術を数多く開発してきました。“e4プラットフォーム”の精密な車体姿勢制御や緊急浮上機能、140kmという高速時でも対応が可能な“e3プラットフォーム”的パンク時安定制御機能といった各種技術で、どのような状況においても車両が安全かつ制御可能な状態となるよう維持します。バッテリーの安全性に関しては、IP69の防水性能を備える当社の“三電”システム、リン酸鉄リチウムバッテリーを使用。当社が開発したブレードバッテリーは、業界で最も厳しい単一セル電池試験の釘刺し試験に合格。電気自動車の新たな安全基準を打ち立てています。車体の安全性に関しては、バッテリーセルをバッテリーパックに直接組み込み、バッテリーをシャシー構造に埋め込む、CTB技術を採用。車両の構造強度と衝突安全性を保証します。

### インテリジェントドライブ安全システムの開発

BYDは、車路協調やインテリジェントドライブといった技術を総合的に応用了したシステム“天神之眼”を開発しました。運転状況や車両の稼働状況をリアルタイムで監視し、異常を早期に警告することで、運転の安全性能を効果的に高めます。

### 車両インテリジェンスと効率の向上

BYDのインテリジェントアーキテクチャ“XUANJI”は、車両の電動化とインテリジェンス化がひとつになったもので、より安全でより効率的、よりパーソナライズされた運転体験を実現します。車両全体をインテリジェンス化することで、異なるシステム間の壁を取り除き、車内外の環境の変化を即時に捉えられるため、車両の操作システムによる状態の調整が迅速に行われ、道路状況に柔軟に対応することで、走行の安全性と効率を高めます。

BYDは、よりスマートでより安全な未来の移動環境を構築すべく、製品の安全技術でブレークスルーを生み出し続けているほか、インテリジェント安全システムの最適化や車両インテリジェンスの活用効率の強化に取り組んでいます。当社の車両モデルはすべて、中国保険自動車安全指数(C-IASI)、Euro NCAPやANCAPの各要件など、関連する市場の各種安全規制に適合しています。私たちは、ユーザーの安全を最優先に考え、新しいテクノロジーを活用して高い基準を遵守し、堅牢な性能を実現しています。

### BYD、安全性評価で優れた結果を収める

BYD SEAGULLは、安全性、バッテリー寿命、衝突安全性の3つのテストすべてでA(最高)評価を受け、同テストにおいて全項目で3A(全方位で優秀)を獲得した初めてのモデルとなりました。

BYD DOLPHIN PLUSは、Latin NCAPの衝突試験で中国車として初めて5つ星の安全評価を獲得しました。さらに、BEVモデルとしても、Latin NCAP史上初となる最高の安全評価を受けています。



### ☆ > 極限の環境下でも安全性能を実現するBYDの商用車

新疆ウイグル自治区トルファンにて、BYDの商用車6車種を対象に、高温で乾燥した環境下での性能テストを実施しました。極端な気候下において車両・部品の安定性・信頼性を確保し、ユーザーの多様なニーズに応えることを目的として、テストは高温環境下での車両の使用・運行状況を再現して空調性能や高温充電性能、ブレーキ性能といった主要項目を対象に行われました。テスト車両に搭載されたV2G、バス用eプラットフォーム3.0、統合型熱管理システム、独立型ペローズ、エアダクト、インテリジェントシステムといった先進的な装備の数々はいずれも優れた実力を存分に発揮し、高温環境下におけるBYD商用車の製品安全性能を効果的に実証するとともに、BYDの新エネルギー技術の革新力と市場競争力を示すことに成功しました。



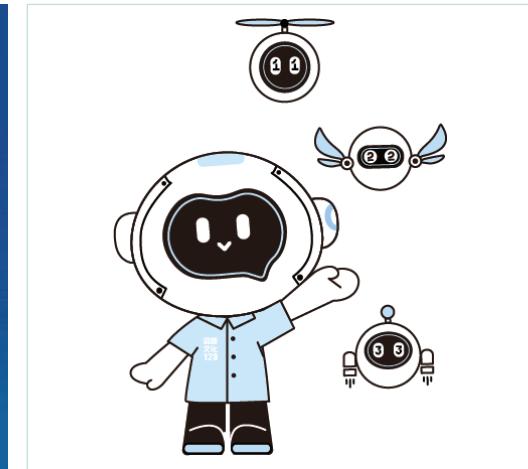
極端な気象条件下におけるBYD商用車の安全性能テスト

## ◆ 品質文化

BYDは、事業運営および管理活動のあらゆる側面に品質文化を組み込むことに注力しています。長年の実践(特に30年にわたる品質管理の成功経験)を基に「1つのコア」「2つの主要目標」「3つの原則」からなる独自の品質文化(「品質文化123」)を築き上げるべく、品質月間イベントや技能競技会、品質フォーラム、職人の評価などの活動を通して全社を挙げて品質文化の融合・適用を推進しながら全従業員の品質管理能力を高めるとともに、BYDの職人精神や品質要件に対する従業員の当事者意識と責任感を強化しています。

BYDでは、毎年9月に「品質月間」を実施し、経営層から現場までの全社員の品質意識と能力の向上を促すとともに、グループ全体で品質重視の雰囲気作りに取り組んでいます。今年の第6回「品質月間」キャンペーンでは、「品質文化123～力を結集してBTS(全社員の品質意識向上)～」をテーマに、全国の拠点・工場・支店すべてで200以上の活動を実施しました。

グループレベルでは、社長、副社長、ゼネラルマネージャーが自ら "BTS(全社員の品質意識向上)重役トーク" や品質に関する講演などに参加し、従業員に品質文化活動への参加を促すための指導的役割を果たしました。各事業部や工場でも、ディベート大会をはじめとした品質文化の啓発活動を実施しており、2024年には、初めてタイの拠点で分科会を開催しました。全社員が一体となってコンペティションに参加し、文化を通じて人々を結びつけることで、海外にいる社員の品質意識を高め、製品・サービスの品質向上を促進し、世界中のお客様に優れた製品やサービスを提供しています。



### ➤ 全従業員参加による品質文化作り

グループの品質文化を構築する取り組みを総合的に強化し、「5つの現場主義原則」を実践するため、また、リーダーシップの模範的役割を十分に発揮して従業員の良い習慣作りを促進するため、BYDは2024年6月、深圳、長沙、福州、合肥、常州、鄭州、西安、濟南でBTS BTS(全社員の品質意識向上)システムの導入とリーダーシップツアーアー会議を開催。会議の満足度は88.56ポイントを達成しました。この会議には全事業部門が積極的に参加し、工場長やマネージャー340人以上を含む計1,800人以上が出席しました。

さらに、生産部門の工場長やマネージャーの現場での交流や学習の促進、各生産部門のリーダーシップ水準の継続的な向上を目的として、2024年8月にリーダーシップ優秀事例選定会議を開催。合計15の生産部門が参加しました。現場は活発な交流の雰囲気に包まれ、参加者は各自、自身の強みや特徴を積極的に示しつつ実践的な経験や成果を共有しました。



才能を尊重し、職人を大切にする職場作りをさらに進めるため、2019年から毎年、グループ内で職人の選抜を行っています。2024年は、シルバーランクの職人154人の中からゴールドランクの職人を5人選出。報告期間の終了時点で、ゴールドランクの職人を28人育成しています。

「品質月間」や職人の選抜といった特別な活動に加えて、BYDは「製品の前に人」という精神を掲げており、定期的に品質研修を実施し、技能・知識競技会、個人評価を行うなどの多様な取り組みを通じて、品質文化を効果的に定着させるべく努めています。また、技能競技会(毎年、不定期開催)によって職人精神を持つ優秀な人材を育成するとともに、専門的な支援を行うことで製品品質を確保しています。

プログラミングの精銳選出、即戦力となる人材プールのさらなる拡充を目標として、2024年5月には第2回コンピュータソフトウェア・プログラミングスキルコンテストを開催しました。その他、品質文化知識コンテストや品質文化優秀個人表彰を実施し、グループ全体で累計70万人が参加しました。品質文化の普及率は95.33%に達し、従業員のBYD品質文化への理解と参加意識を効果的に高めました。

「品質文化123」と業務をさらに有機的に融合させてゆくため、社内にQIT(= Quality Improve Team、品質改善チーム)を発足させ、品質文化に対する従業員の意識レベルや品質研修の成果を確認しています。2024年のQIT特別選考活動では、実務においてBYDの品質文化が深く浸透し、うまく変革を果たした素晴らしい事例として合計78のプロジェクトが優れたプロジェクトとして選ばれました。優れたプロジェクトについての経験を体系的にまとめ、その経験を展開することで、品質に対する全従業員の意識向上に努めるとともに、品質管理の基盤を強化し、より高い品質目標へと着実に前進しています。

### 報告期間の終了時点で

品質管理担当者の専門能力認定研修を合計**596**回実施。参加した従業員は**1,674**人、研修の合計時間は**57,099**時間にのぼります。



### 社外のQCC評価活動に積極的に参加

#### 社外品質コンペティション

#### BYDの成績

##### 第46回 全国品質管理チーム代表者会議

第1位×3件、第2位×1件  
(全国からの参加プロジェクト数 : 600以上)

##### 第45回 湖南省品質管理チーム成果交流会

第1位×4件、第2位×14件、第3位×5件  
(計23件)

##### 2024年 深圳品質管理グループ交流プログラム

金賞×2件、銀賞×2件、銅賞×6件、  
功労賞×1件

##### 第46回 西安品質管理チーム成果発表・経験交流会

第1位×21件、第2位×39件、  
第3位×11件



## 責任あるマーケティング

「厳格な管理、強固なチャネル、卓越したサービス、評判の向上、ブランド構築」という原則のもと、BYDでは、包括的に責任あるマーケティング管理システムを構築し、標準化された規定・プロセスによってマーケティング活動の完全性と透明性を確保しています。多様なブランド価値を伝えるためのマルチブランド戦略を策定する一方で従業員を対象としたマーケティング研修を定期的に実施し、マーケティング活動における責任やコンプライアンスについての従業員の意識向上を図るとともに、真正で正確な製品情報をお客様に提供しています。

### 責任あるマーケティングの管理体制

BYDは、販売やサービスのあらゆる場面で責任あるマーケティングの考え方を取り入れ、本物の製品体験をお客様に提供すべく努めています。関連する国の法律や規制を厳格に遵守するのはもちろん、「責任あるマーケティングに関する声明」や「BYD外部広報管理方針」も策定し、方針に基づいて広報・マーケティングコンテンツの開発、内部レビュー、チャネル展開、違反対応の全プロセス全体を標準化することで、より統一的で厳格なブランドマーケティングを継続的に推進しています。

当社の製品データはすべて厳格な実地試験に基づいているため、お客様は製品の購入前に正確な情報を得たうえでデータに偽りのない製品を確実に手に入れることができます。広報用のコピーやマーケティング資料についても徹底的にチェックを行い、曖昧な表現や過度なマーケティング手法は排除するという方法をとっているため、オンライン販売チャネルや店舗の広報資料を通じて伝えられる重要な情報（製品性能や航続距離、インテリジェント機能など）の正確性が担保されます。営業担当者には、信義誠実の原則の遵守を求め、製品の性能や効果、消費者の権利などについて、重要な点を隠さず忠実にご紹介し、お客様の知る権利を十分に尊重するよう徹底しています。

マーケティング活動や販売活動についても定期的に見直しを行い、製品やサービスに関連する慣行が法令を遵守していることを確認しています。さらに、広報資料の配布状況をリアルタイムで監視し、違反資料が確認された場合は、説明責任のために内部調査、追跡、証拠収集といった措置を行うとともに、関係者に対して、規定に従って厳正な処分を行います。

### 販売チャネルの管理体制

報告期間の終了時点で、BYDは直営店舗を1,004店展開しており、全体に占める割合は約21.4%となっています。未開拓・脆弱な市場では、直営店が先導役となって強みを最大限に活かして販売代理店の積極的な誘致・参画を促して協力体制を築き、事業領域を拡大しています。販売代理店にも直営店と同等の管理要件を適用して専門的な研修で能力とサービス意識を高めるなど、直営店と連携して質の高いサービスをお客様に提供しています。



#### 販売代理店の管理構造とシステム

- BYDでは、販売代理店のサービス品質を評価・管理するための標準システム運用部門を設置。お客様への挨拶や接客マナー、試乗といった主要な業務プロセスを対象に、100点満点で評価できるよう項目を細かく設定し、店舗でのサービスプロセスと基準を標準化しています。
- 星評価の管理システムを開発し、品質サービスの標準書として四半期ごとに「BYD販売サービス品質評価基準」を作成・更新しています。



#### 販売代理店サービス品質の監督と評価

- 現場を視察したり、覆面調査を毎月行ったりするなどして、顧客サービス、専門能力、環境維持などの観点から販売代理店のサービス品質を評価しています。
- 販売代理店サービス品質管理の実施状況について定期的に見直しを行い、改善すべき課題を分析して、対応戦略を策定しています。
- 2024年は、アフターサービス総括会議を347回実施しました。



#### 販売代理店を対象とした技能研修

- 製品や技術に関する研修、一般研修といった各種研修を実施しており、すべての販売代理店に対してオンラインコースへの参加を義務付けています。また、一部のディーラーには販売代理店向けのオンライン研修コースへの参加を義務付けています。
- 報告期間終了までに、欧州事業では販売代理店向けに研修セッションを多数実施。合計で約7,000人が出席し、全代理店が研修を受けることができました。

実効性を高めるため、覆面調査や遠隔監視などの方法で四半期ごとに販売代理店のサービス品質を現地で検査し、販売代理店のコンプライアンスを厳格に監督しています。顕著な問題が見つかった場合は速やかに販売代理店に通知して是正を促すとともに、直営店と販売代理店の双方で各種基準が一律に適用されるよう徹底しています。さらに、アフターサービス基準に基づき、中国国内のアフターサービス代理店全店を対象に、現地監査年に1回実施しています。

2024年には、23か国で販売代理店のサービス品質検査を実施。300店舗以上を検査し、その結果を踏まえ、是正に向けたフォローアップ提案も行いました。

## 責任あるマーケティングに関する研修

BYDは、販売チームに責任感を根付かせるべく努めています。販売担当者がマーケティング活動を行う際には、製品性能や構成、リスクなどに関する正確な情報をお客様に包括的に伝えるよう、体系的な研修コースや広報活動を通じて徹底。従業員には当社グループのマーケティング、広告、販売の方針を十分に理解し、遵守することを求めており、いかなるマーケティング資料においても誇張や誤解を招く表現や虚偽の情報を使用することを固く禁じています。従業員は、販売促進のために商業賄賂などの違法行為に決して関与してはならず、製品やサービス、価格に関して虚偽の説明をすることは厳しく取り締まられている他、競合他社の製品やサービスについて、虚偽または誤解を招く比較を行うことも厳禁とされています。

また、社内研修やオンラインの学習プラットフォーム、専門家による講義などを通じて、責任あるマーケティングの意義、関連法規、実践的な技術について、総合的な学習を従業員に提供しています。2024年、主要なマーケティング職の従業員を対象に広告法についての年次コンプライアンス研修を実施。従業員と販売代理店延べ約40,000人が参加し、研修時間は合計で28,000時間に及びました。

## マルチブランド特化型マーケティング

BYDの各サブブランドは、それぞれのサービス哲学と戦略を活かし、誠実な言葉、臨場感あふれるシナリオ、没入型の体験を通じて、当社の技術や製品、ブランドの本質をお客様にしっかりとお伝えできるよう努めています。すべてのお客様が当社製品の中核的価値を理解・体験し、技術革新や製品アップグレードによってたらされる力を実感できるよう注力しています。

### BYDのマルチブランド特化型マーケティング

#### 王朝シリーズ

「1台の車を売ることは1人の友人を得ること」というサービス信条を掲げ、「誠実さをもって完璧を追求する」というサービス理念を実践しています。常にお客様のニーズと満足を第一に考え、安全で高品質な製品と、温かくプロフェッショナルなサービスをお届けします。多角的な取り組みによって、販売代理店の運営力を強化し、持続可能な発展の考え方を根付かせるとともに、お客様のための長期的な価値を創出します。

#### 海洋シリーズ

「お客様第一」というサービス理念を掲げ、常に顧客体験と信頼を核心的な追求目標としています。信頼できる最先端の製品や「海洋の美学」とともに、きめ細やかで効率的なサービスもご提供しています。プロセスの最適化やサービスの監督、評判の構築、能力開発などを通じて、誠実で高品質、かつ一人ひとりに応じたサービスを実現し、お客様の信頼を獲得しています。

#### FANGCHENGBAOブランド

「お客様は友人」というサービス理念を掲げ、テクノロジーを活用して個別の平等な権利を実現し、ユーザーニーズにおける「二項対立」を解決するとともに、「1台の車を売ることは1人の友人を得ること、1台の車を買うことは友人の輪を広げること」を目指しています。サービスの信条として、プロフェッショナルな販売・サービスチームを構築し、ヒョウのような細やかな配慮、快適さ、美しさ、そして安心して楽しめる極上の体験をユーザーに提供しています。

#### DENZAブランド

「ユーザー第一」の理念を掲げるDENZAは、オンラインとオフラインのオムニチャネルモデルを確立し、お客様に優れたサービスとアフターサービスを提供しています。新たなラグジュアリーサービスシステムを継続的に改善・アップグレードし、店舗運営を厳格に管理・統制するとともに、自動車の購入プロセス全体をデジタル化したサービスシステムを構築しています。DENZA Automobileアプリやアプレットを活用して注文システムを可視化し、ユーザーは透明性の高い価格提示のもと、追跡可能なワンストップ体験(自動車の購入から利用までオンラインで)を享受することができます。

#### YANGWANGブランド

「誠実さへの信頼」というサービス理念を掲げるYANGWANGは、専門的なコンサルティングと個別対応のソリューションをお客様に提供しつつ、ユーザーからの意見にも迅速に対応するなど継続的な改善に努めています。また、コンプライアンス研修やビジネス研修など、技能強化に特化した研修コースを実施して営業スタッフの理論的知識と実践的スキルを高めることで、製品と顧客ニーズのどちらも理解するプロフェッショナルな営業サービスチームを育成しています。

## 顧客の利益とサービス

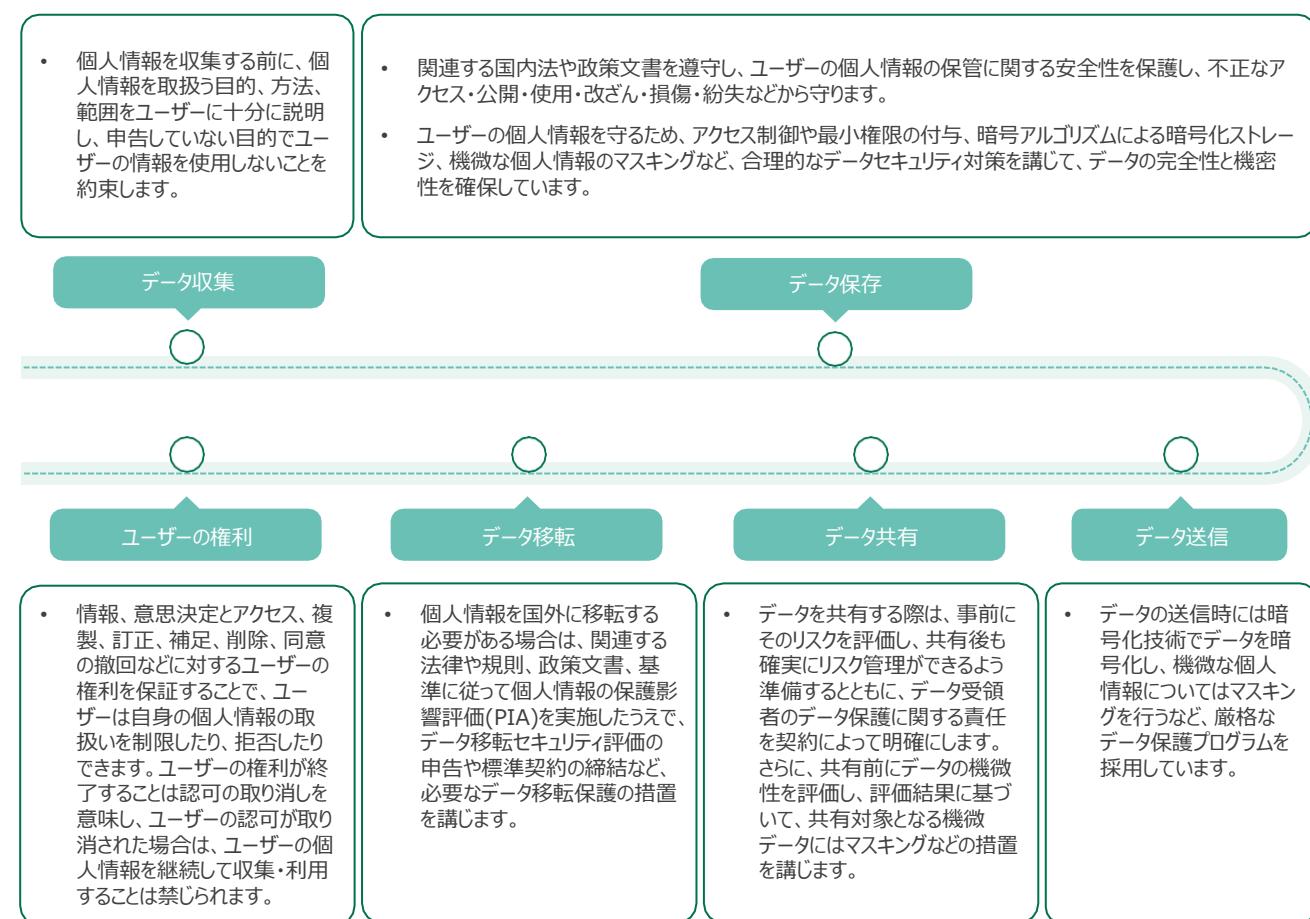
BYDは、お客様の権利と利益を保護することを何よりも大切にしたうえで高品質な製品とサービスを提供するべく努めています。個人情報の取扱いにおけるコンプライアンスの徹底とデータセキュリティ保護のため、厳格なプライバシー保護システムを構築している一方で、技術革新を活用したユーザーの運転体験の向上、スマートモビリティソリューションの推進も行っています。さらに、カスタマーリレーションシップマネジメント(CRM)のプラットフォームを構築し、多様なチャネルでお客様とのコミュニケーションを活発に行なうことで、お客様のニーズに迅速に対応し、満足度の向上につなげています。

### 顧客のプライバシー保護

BYDは、個人情報に関する方針、プロセスの仕様、研修制度を含む管理体制を構築し、継続的に改善して顧客のプライバシー保護に関するコンプライアンスを徹底することで、国内外の事業拠点における事業運営での関連法規の遵守を担保しています。2024年には、「BYD個人情報保護管理体制」を更新し、「BYD個人情報コンプライアンス管理マニュアル」「BYDプライバシーポリシー・コンプライアンスガイド」「BYDプライバシーデザインガイド」「BYD個人情報保護影響評価(PIA)ガイド」といった社内向けのポリシーやガイドラインを発行。制度の仕組みをさらに強化し、プライバシー保護組織の構築を推進するとともに、プライバシー保護の管理・運用の標準化を行いました。

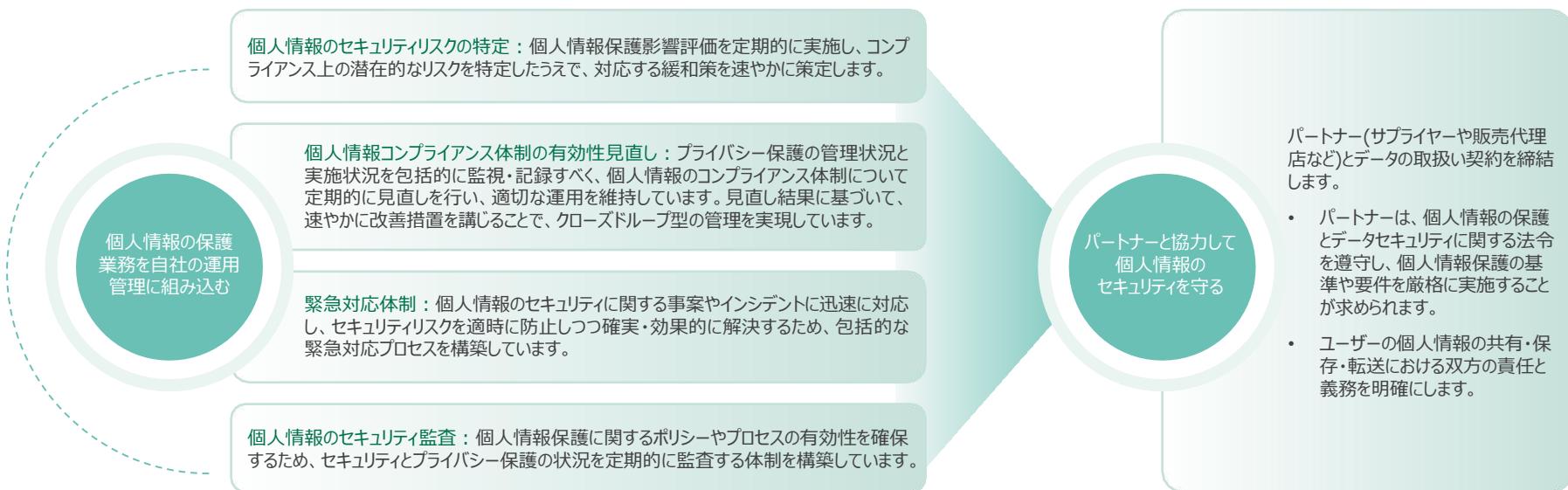
当社は、データ主体であるすべてのお客様の権利を守るべく全力で取り組んでおり、グループの全事業に適用される「BYDプライバシー保護に関するホワイトペーパー」と「個人情報とプライバシー保護に関する声明」を、当社の公式サイトに掲載しています。これらのポリシーでは、ユーザーが個人情報をアクセスし、訂正や削除をする権利を明確に認めるとともに、その権利をユーザーが行使できる便利なチャネルも提供することで、ユーザー自身が自分の個人情報を最大限にコントロールできるようにするという当社の姿勢を示しています。

当社は、お客様の個人情報を法令やコンプライアンスに則って取り扱うことをお約束します。製品の設計・開発から個人情報のライフサイクル管理に至るまで、多角的な観点で効率的かつ包括的にお客様のプライバシーとセキュリティを保護していきます。



当社は、プライバシー保護に特化した組織体制を整えています。意思決定機関であるコンプライアンス委員会は、当社のコンプライアンス方針と主要なコンプライアンス事項を決定、個人情報保護の統括管理部門である知的財産法務部は、個人情報保護に関する統括管理を担当、実務レベル担当である各事業部門のデータコンプライアンスチームは、所属する事業部門の個人情報の取扱い活動に伴うリスクの特定・個人情報の保護要件の実施状況監督を行います。その他、監査統括室は、個人情報の保護管理に関する制度や方針が効果的に運用されているかを監督します。

### BYDの個人情報セキュリティ保護管理施策



当グループは、ISO/SAE 21434、UN R155、UN R156などの第三者によるセキュリティ・プライバシーコンプライアンス認証に合格しています。さらに、2024年の中国自動車ソフトウェア会議では、中国自動車工業協会と自動車サイバーセキュリティ作業委員会(中国サイバーセキュリティ産業連盟)が「自動車プライバシー保護」認証を共同で発行。BYD Han DM-iを含む18車種は、国家自動車データセキュリティに関する4つのコンプライアンステストおよび評価に合格した初の自動車メーカーとして「自動車プライバシー保護」認証を取得しました。

また、個人のプライバシーコンプライアンスに対する従業員の意識向上にも力を入れており、全従業員を対象にしたお客様のプライバシー保護研修や法律の知識を広めるためのオンラインコースの提供、公式アカウントの記事配信などによってデータセキュリティとプライバシー保護の取り組みを強化し、関連する法律や規制の知識を普及させています。

### 2024年

当グループは、プライバシー保護に関する研修を74回開催、プライバシーコンプライアンスに関するオンラインコースや各種記事も提供しました。プライバシー保護に関するオンライン研修も実施し、延べ11,444人が参加しました。



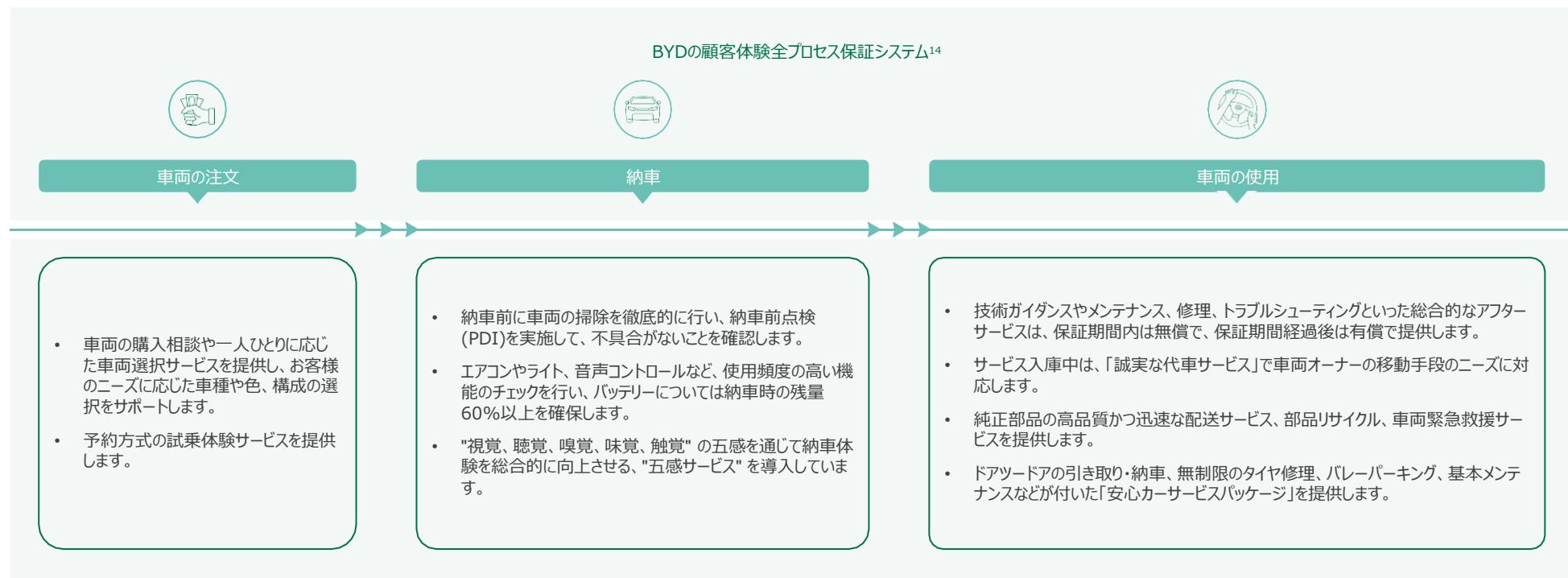
2024年、BYDでは顧客のプライバシー侵害に関する重大インシデントは発生しませんでした<sup>13</sup>。

<sup>13</sup> 重大インシデントとは、グループ情報セキュリティインシデント管理規定で定めるレベルⅡ以上の情報セキュリティインシデントであり、会社全体に重大な結果をもたらし、ブランドイメージにも深刻な影響を及ぼすものを指します。

## 顧客体験の向上

「お客様に満足していただき、お客様の期待に応え、それを超える」を原則とするBYDでは、お客様のニーズを重視し、幅広い顧客層の需要を的確に捉えるとともに、製品内容や機能に革新をもたらし、一人ひとりに合わせたサービスをお客様に提供しています。サービス体制の見直しも継続的に行い、お客様の権利と利益を守り、顧客体験を高めているほか、高品質な製品やサービス、多様なサービスチャネル、優れたアフターサポートなどにより、あらゆる面でお客様の信頼と評価を獲得しています。

BYDではオンラインのプラットフォームや実店舗での顧客調査からのフィードバック内容を整理することで、発売前の段階からお客様のニーズをしっかりと理解しています。サービス品質に関する向上の余地を分析したうえで的を絞った対応戦略を策定し、「お客様のニーズを先取りし、お客様が求めるものを提供する」ことに努めています。また、車両の注文・納車・使用の3段階を網羅するさまざまなサービスシナリオを展開し、お客様のニーズを中心とした迅速かつ的確で革新的なサービス対応の仕組みを設計しています。



販売段階では、製品仕様や性能特性、装備オプション、使用シーンの提案など、包括的で透明性の高い製品情報の提供に力を入れています。お客様の多様なニーズに合わせて科学的・標準化されたサービスプロセスを設計し、私たちは顧客満足度の向上を図っています。お客様が入店したら飲み物をお渡しする、お客様が退店するときはマスクをお渡しする、等のきめ細やかな対応に加え、試乗や車両購入についても、明確な手順ガイドラインを策定し、スムーズでプロフェッショナルな体験を提供しています。

<sup>14</sup> 適用範囲：中国での事業範囲

 > 「1台の車を売ることは1人の友人を得ること」

「1台の車を売ることは1人の友人を得ること」という理念のもと、BYD正規販売店は、新車納車時にすべてのお客様に対してセレモニーとサプライズを用意しています。革新的で華やかな雰囲気を演出すべく、プロポーズ納車、記念日納車といった一人ひとりのニーズに応じたシーン別の納車式の他、複数のオーナーが共同で納車式を行う集団納車（“国花・牡丹PR大使”、“ヘリポートでの集団納車”など、特別な場所を使用してセレモニー感を高めることもある）によって、体験型の納車スタイルで総合的な満足度を向上させています。納車式を特別な機会としてさらに印象深いものにすることで、私たちはサービス理念を徹底しています。



納車時に贈呈するブーケ

 > 「心のこもった」納車体験を革新

納車は、始まりにすぎません。私たちのサービスが終わることはありません。BYD正規販売店は顧客満足を前提に、革新的な“心のこもった”納車サービスモデルを提案しています。車両の清潔さを基本原則としたセレモニーの演出が重要であるという考え方のもと、正規販売店では、サービスの意図がお客様に伝わるよう華やかな専用納車エリアを設け、お客様に花を贈ったり、写真撮影を行ったりしています。

お客様の多様なニーズに基づき、自宅納車や合同納車といった一人ひとりに応じた納車サービスを実施。専任の担当者による車両使用上の注意説明、機能・操作方法に慣れていただくためのサポートのほか、お客様専用のプレゼントもご用意し、親身でスムーズなサービスを実感していただけるようにしています。革新的で「心のこもった」納車サービスを通じてお客様のニーズにしっかりと応え、サービスの評判を高め、ブランドイメージの向上につなげています。



お客様に応じて変わる革新的な「心のこもった」納車式

 > ペット同伴可能な店舗を開設するBYD Mexico

BYDは販売店に対し、革新的な店舗づくりを奨励しています。そのひとつが、ペットを連れて来店できるペットフレンドリーなお店です。メキシコにあるBYDの店舗では、“PET FRIENDLY”的表示とともにペット専用の休憩スペースを設け、ペット連れのお客様とそのペットに対して専門的に親しみやすいおもてなしを提供するとともに、店内の秩序と安全も確保しています。

ペットフレンドリーな店舗づくりは、ペットを飼うお客様に利便性を提供するのみでなく、車両の購入やメンテナンスに際しての顧客体験（CX）を向上させることを目的としており、お客様の暮らしに対する細やかな配慮を体現するものです。また、社会レベルで動物に優しくあることという考え方を伝え、調和のとれたインクルーシブな社会環境の構築に貢献するとともに、企業の人間的配慮と社会的責任を示していくたいと考えています。



“PET FRIENDLY”的表示。店内にはペット用品も

## アフターサービス、リコール

BYDは価値観としての長期主義を貫き、アフターサービスの水準向上に継続的に取り組んでいます。誠実なサービスでお客様に感動を与え、お客様との信頼の基盤を強化しています。

### BYD顧客アフターサービス体制<sup>16</sup>

#### 車両利用サポート

駐車サービス	車両の引き取り・納車サービス	代車サービス	誠実なサービスを玄関先へ	技術者によるQ&A
 <p>全国40以上の空港やターミナル駅・主要駅で、72時間無料の駐車サービスを提供しています。ご利用の際は、ミニプログラムから事前にご予約いただけます。</p>	 <p>車両の引き取り・納車サービスを実施しています。当社指定のドライバーが自宅まで車両を引き取りに行き、店舗でメンテナンス作業を行った後、ご自宅まで車を直接お届けします。店舗にお越しいただく必要がないので、時間を節約できます。メンテナンス作業の進捗状況は、スマートフォンで確認することができます。2024年、この引き取り・納車サービスネットワークは95%の都市をカバーし、利用件数は合計で125万件を超えました。</p>	 <p>お客様が代車サービスを利用できるよう、各サービス店に車両を配備することで、サービス入庫中もお客様が移動の手段を確保できるようにしています。2024年は、一時利用の車両を計2,148台配備。308の都市で展開し、3万人以上のお客様に便利なサービスを提供しました。</p>	 <p>地方を対象としたサービス方針「誠実なサービスを玄関先へ」を導入します。サービス店のスタッフがサービスの行き届いていない地域(サービス店から30km以上離れた地域)を不定期に訪問し、定期メンテナンスや技術アップグレード、無料点検などのサービスを提供するアウトリーチ活動(訪問支援)を行います。また、ギフト進呈や作業工賃の割引といったインセンティブも用意し、より低価格で専門的・標準化されたサービスをお客様の玄関先に直接お届けします。</p>	 <p>車両に関する質問や懸念点について、専門の技術者200人以上がオンラインでリアルタイムに対応します。</p>

#### 保証サービス

交換部品	「3つの保証」政策の実施	「3つの保証」期間 <sup>15</sup>	24時間レスキューサービス	リモート診断サービス
 <p>中国国内には、中央倉庫(4拠点)と中継倉庫(18拠点)で構成される供給・流通ネットワークがあります。輸送速度に優れ、交換部品の在庫も十分に確保。年間の配送の80%以上が24時間以内に完了しています。</p>	 <p>材料品質や製造工程に起因する車両の品質問題については、BYDの自動車サービス店舗が評価を行い、保証対応として無償回収・修理を行い、お客様の車両を正常な状態に復旧します。</p>	 <p>乗用車の保証期間は6年または15万km(いずれか早い方)です。主要な部品の保証期間は8年または15万km(いずれか早い方)です。また、パワーバッテリーのセルには永年保証があります。</p>	 <p>100km以内の場所には2時間以内、100km～300kmの場所には4時間以内、300kmを超える場所には8時間以内に現場に到着します。</p>	 <p>診断サービスや技術サポートをリモートで提供。店舗に出向く必要はありません。</p>

#### 中古車サービス

中古車プラットフォーム	総合点検・修理	全国規模の品質保証と「三電」の永年保証	無条件返品・交換サービス
 <p>公認中古車プラットフォームを立ち上げ、公正で安心できる中古車買い替えという顧客体験を提供しています。</p>	 <p>高度なバッテリー容量アルゴリズムやメーカー認定の技術をもとに、認定中古車一台一台について、透明性の高いサポートを行います。</p>	 <p>誠心誠意の認定中古車サービスを提供しています。全国規模の品質保証サービスを提供。最初の所有者様には「三電」(バッテリー、モーター、電子制御)に対する永年保証制度も提供しています。</p>	 <p>BYDの公式認定中古車は、10日間または500km以内であれば理由を問わず返品・交換が可能。自動車購入時にさらなる安心を提供します。</p>

<sup>15</sup> 自家用車用の3つの保証証明書の具体的な内容については、車両に添付される「BYD Auto3つの保証証明書・保証マニュアル」の紙版をご参照ください。

<sup>16</sup> 適用範囲：中国国内の事業範囲。販売時に提供されるサービス証明書に準じます。

お客様の多様なニーズに応えるべく、私たちは充実した充電インフラを展開し、あらゆる場面でお客様が便利で効率的な充電サービスをご利用いただけるよう、体制を整えています。中国国家電網公司やシェルなどのパートナーと協力し、深圳や上海、西安をはじめとした多数の都市で充電スタンドネットワークを展開しているほか、さまざまな充電プロトコルに対応しています。また、「BYD 誠実なサービスを玄関先へ - 家庭用スタンド設置のための技術基準」も策定しました。家庭用スタンド設置の安全月間・充電スタンドの検査といった取り組みを行い、充電スタンドの資材や設置手順に関して厳格な品質管理を実施して、充電スタンド利用時のユーザーのあらゆる面での安全を確保しています。

2024年、BYD 海洋シリーズに "検索・ナビゲーション・充電" の3大機能をサポート。アプリで充電スタンドを検索して空き状況を確認したり、ナビゲーション機能で最寄りの充電ステーションへアクセスしたりすることができます。ほか、QRコードをスキャンしてペアリングすれば充電の進捗もリアルタイムで確認できます。



BYDは、物理的なサービスを強化すると同時に、アフターサービスのインテリジェント化・デジタル化にも力を入れて取り組んでいます。IT分野における包括的な研究・開発スキルを持った200人以上からなる独立した研究開発チームがあり、また、新エネルギー車のアフターサービスにもインテリジェント車両技術を利用した革新的なソリューションを提供。知能化、ネットワーク化、共有化といった特性を十分に活かし、サービス予約・車両引き取り/納車・代車・駐車サービスなどの手配もオンラインで完了できるほか、サービスも進捗状況もオンラインでリアルタイムで確認できます。Sincere Changlian 2.0システムの導入により、アフターサービス全体の流れをオンラインでインテリジェント管理。工場管理の精度とアフターサービスの効率を向上させるとともに、車両メンテナンスの透明性を強化します。

BYDは、"不具合車両製品リコール管理規則" の関連要件を厳格に遵守しています。"BYD自動車不具合製品リコール手順" では、情報のファイリングやデータベースの作成・管理、リコール条件の確認、国内リコール(リコール情報の検証、自主リコール、勧告によるリコールを含む)、国外の自動車製品のリコールに関する要件を明確に定義しています。不具合が疑われる製品については、綿密な分析と評価を行い、製品車両に問題が確認された場合は、生産・販売を速やかに停止し、関係当局に自主的に報告します。同時に、不具合の内容や解決策を車両所有者に適時通知し、政府の規制に従ってリコール計画の概要報告書を提出します。こうした対応によって、不具合車両の問題を法令に則って効果的に対処することで、影響を最小限に抑えられるようにしています。

今年、BYDは全世界で113,380台を対象としたリコールを発表しました。ユーザーの走行安全を確保するため、リコール制度を通じて車両の潜在的なリスクを早期に発見し、是正することで、事故のリスク低減に努めています。

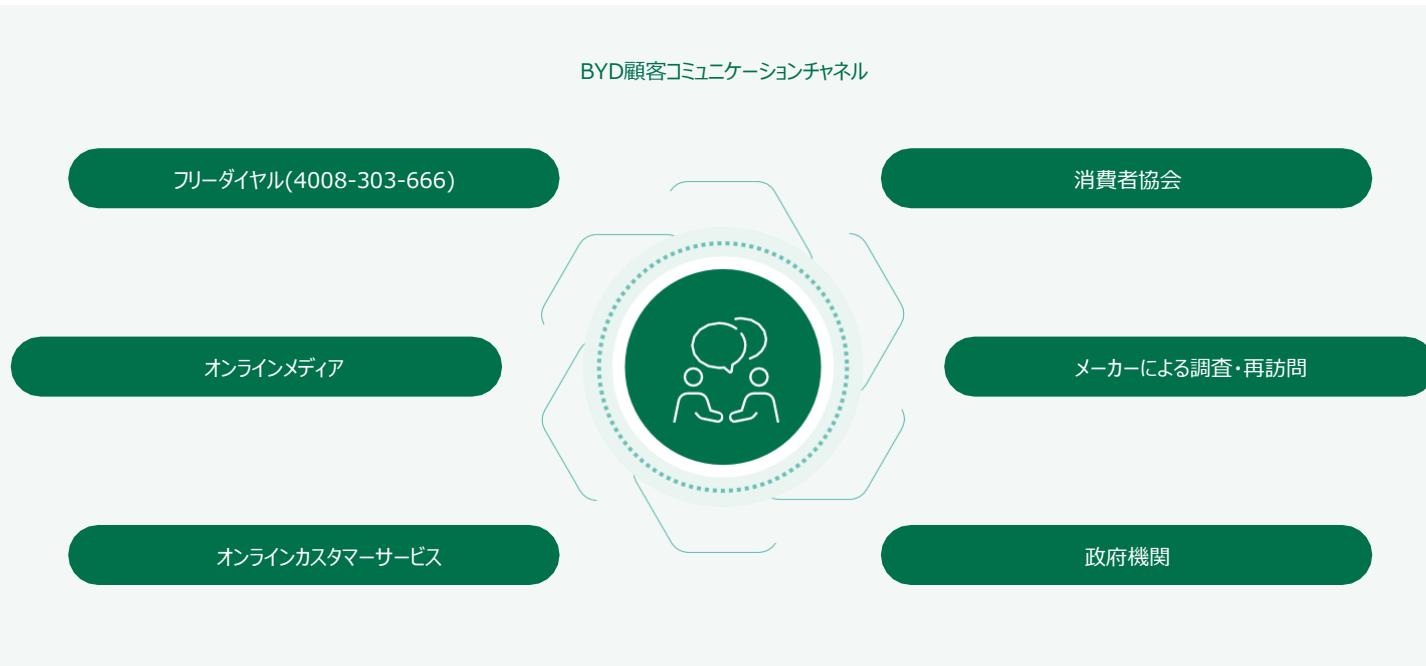


<sup>17</sup> 2022年と2023年のリコール件数は、昨年の報告書から変動しています。国家市場監督管理総局のデータをベースとしており、統計の算出方法は、当年度のリコール対象台数÷当年度の総販売台数、となっています。

## 顧客エンゲージメントと満足度

BYDはお客様の声に丁寧に耳を傾け、多様なチャネルを通じてお客様との緊密な関係を築いています。年間を通じて利用可能なオンラインプラットフォーム(アプリ、アプレット、SNSなど)や、随時開催されるオンサイトイベントを活用して、製品の最新情報をお伝えしていくと同時にお客様からのフィードバックを収集。また、「BYDカスタマーサービス・コミュニケーション管理」や「BYD自動車アフターサービス顧客苦情管理プロセス」など、お客様からの苦情を管理するための方法も策定しています。カスタマーサービス担当者は、各種チャネルから寄せられる苦情を受け付け後、インテリジェントカスタマーサービスシステムを通じて該当するサービス店舗に案件を割り当て、フォローアップからクローズまで対応することで、サービス品質の継続的な向上と、苦情の迅速かつ効果的な解決を実現しています。

また、お客様は第三者機関(消費者協会、全国消費者紛争解決プラットフォーム、国家市場監督管理総局、12365auto.comなど)を通じて苦情や意見を提出することもできます。外部からの苦情を受け付けた後は、改善・メンテナンスを重点的に実施するよう店舗に指示します。2024年、BYDのアフターサービスに関する苦情の即時解決率は96%に達し、平均13.68秒で顧客苦情に対応しました。



顧客満足度については、NPS<sup>18</sup>や、VOC+モニタリングシステム、車購入満足度、納車満足度、試乗満足度といった各種調査を定期的に実施しています。お客様のご意見やご提案にさまざまな角度から耳を傾け、フィードバックを丁寧に分析したうえで速やかに改善策を講じているほか、調査結果に基づいて製品設計を調整したり、サービスプロセスを改善したり、新たなサービス戦略を策定したりしています。

2024年

年間NPSは95%以上を  
維持



<sup>18</sup> NPS(ネットプロモータースコア)調査は、顧客のロイヤルティと満足度を測定する方法で、ブランドやサービス、製品に対する顧客の全体的な満足度とロイヤルティを反映するものです。顧客が企業に対して持つ好感度や、企業のために積極的に宣伝しようとする意思の有無を量化する重要な指標となっています。

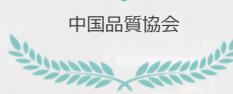
## 2024年 BYDカスタマーサービス受賞リスト(一部)

## 全国消費者品質信頼保証製品



中国品質協会

## 全国品質信頼保証製品



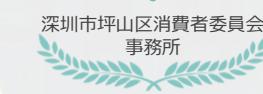
中国品質協会

## 全国先進品質・誠実企業

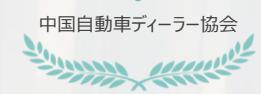


中国品質協会

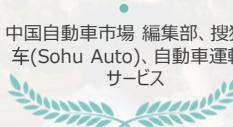
## 優秀消費者権益サービス拠点

深圳市坪山区消費者委員会  
事務所

## 2023年

中国自動車アフターサービス  
消費者評価優秀ブランド賞

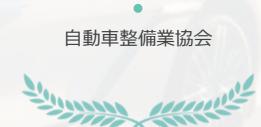
中国自動車ディーラー協会

2024年  
デジタルパイオニア企業2024年  
実践的起業家サミット表彰式中国自動車ゴールデンレンチ賞  
- 顧客信頼賞中国自動車市場 編集部、搜狐汽  
車(Sohu Auto)、自動車運転&  
サービス人民クラフトマンシップサービス賞  
BYD Dynasty 優秀サービス

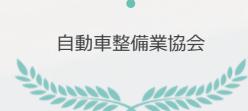
人民日報オンライン

再生可能エネルギー車ブランド  
ランキング第3位

自動車整備業協会

Song PLUS - 再生可能エネル  
ギーSUV第1位

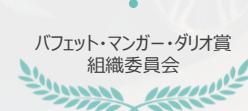
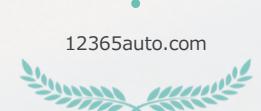
自動車整備業協会

BYD e2 -  
再生可能エネルギーA00級・  
A0級車両第3位

自動車整備業協会

Dolphin -  
再生可能エネルギーA00級・  
A0級車両第2位

自動車整備業協会

第2回中国自動車  
パフェット・マンガ・ダリオ賞 -  
2024年価値保持率賞パフェット・マンガ・ダリオ賞  
組織委員会アフターサービス・  
ベンチマークブランド

12365auto.com

# 04

## インテリジェンス駆動型開発を支える 優秀な人材

BYDは、「実績評価に基づく優秀な人材の登用、競争や選抜による成果に応じた報酬、継承と共有による多様な発展」という人材育成の理念を掲げ、事業重視の経営革新とサービス最適化を通して組織の活力を引き出し、人材の競争力を高めています。また、当社は従業員にとって公正・公平で調和があり、革新的な意欲に満ちた成長のための環境を整えることで事業の発展を推進しています。従業員のケア活動にも積極的に取り組み、メンタルヘルスに配慮し、従業員同士の関係や従業員と管理職の関係の調整を行うことで、チームの結束力と粘り強さの向上を図っています。

この章の目標と指標

SDGs



HKEX ESG報告コード

GD-B1, KPI-B1.1, KPI-B1.2, GD-B2, KPI-B2.3, GD-B3, GD-B4, KPI-B4.1, KPI-B4.2

SZSEガイドライン

イノベーション主導、技術倫理、製品・サービスの安全性と品質、データセキュリティと顧客のプライバシー保護

ESRS

S1-1, S1-2, S1-3, S1-4, S1-5, S1-6, S1-7, S1-8, S1-9, S1-10, S1-11, S1-12, S1-13, S1-14, S1-15, S1-16, S1-17

GRIスタンダード

2-23, 201-3, 3-3, 401-1, 401-2, 403-1, 403-2, 403-3, 403-5, 403-6, 403-7, 403-8, 404-2, 404-3, 405-1, 406-1, 408-1, 409-1



## 従業員の権利

世界的な影響力を持つ多国籍企業として、BYDは常に「人を中心とした経営と能力に基づく採用」という雇用における中核的な原則を堅持し、ILO(国際労働機関)、OECD(経済協力開発機構)、UNGC(国連グローバル・コンパクト)が定める指導指針や、事業を展開している地域の各種規制を厳格に遵守しています。従業員の要望にも常に応えるよう努めており、労働環境の改善や公平な職場づくり、従業員の人権保護などにも継続的に取り組んでいます。

当社は、従業員の権利と利益をしっかりと保護する制度を整備し、正当な権利と利益を尊重し保護しています。事業運営、価値の追求、ブランド構築のすべてにおいて人権尊重に対する強い思いを基盤としており、児童労働や強制労働、職場でのハラスメント、虐待、暴力、あらゆる形の差別を固く禁止しています。「社会的説明責任8000(SA 8000)」に基づく労働・人権管理体制を構築するとともに、「人権に関するBYDグループの方針声明」と「BYDの労働人権保護方針」も策定し、従業員の正当な権利と利益を、包括的かつ体系的に保護しています。

私たちは、従業員と定期的に団体契約を締結しており、労働報酬や労働時間、休憩・休暇、労働安全衛生、職業訓練、社会保険、福利厚生といった事項について、団体交渉を通じて書面による合意を交わしています。

当社は、「BYD労働組合管理規則」を策定し、労働組合の標準化と体制整備を強化することで健全な運営を実現し、従業員の正当な権利と利益を保護しています。BYD労働組合連合は、従業員の重要な利益に関わる主要事項の意思決定に積極的に参加しているほか、労働紛争の調停プラットフォームも構築しています。また、従業員の重要な利益に関わる規定や主要事項は、従業員代表大会で審議・決定されます。

私たちは、従業員の知る権利・参加する権利・監督する権利をしっかりと守り、意見や提案を広く募るとともに、従業員が民主的な企業運営に参加することを奨励しています。公平・公正・公開・透明性という原則に従い、コミュニケーションに参加しようという従業員の意欲を効果的に高め、より良い民主的な経営を目指しています。さらに、法知識の周知、意見・提案の伝達、紛争の調停などを担う労働争議調整委員会も設置しています。同委員会は、従業員代表、企業代表、労働組合代表で構成されており、標準化された秩序ある運営を通じて、調和のとれた労使関係の構築を推進しています。

また、従業員の権利と利益を守ると同時に、労働・人権管理体制もプロセス全体で引き続き強化していきます。関連する方針を定期的に見直し、更新して労働リスク管理について定期的にチェックを実施することで、労働慣行、労働条件、賃金の面でパートナー企業が労働者の権利と利益を効果的に保護するよう努めています。さらに、事業とバリューチェーン全体における労働保護措置の有効性をより適切に評価できるよう、労働リスクの調査・評価手法の改善に継続的に取り組んでいます。

➤ 商用車事業本部・杭州拠点がSA8000認証を取得

商用車事業部杭州拠点は、内部自己評価と外部独立審査を経て、SA 8000社会責任認証を取得しました。これは杭州拠点が社会責任管理において優れた実践を行っていることを示すものです。



2024年

中国国内におけるBYDの労働組合の組織率 : **85.35%**

従業員代表大会の組織率 : **100%**



BYDの労働・人権保護体制



児童労働の禁止



強制労働の禁止



懲罰的・暴力的な扱いの禁止



従業員の報酬と休息



公平な発展



女性労働者や未成年労働者の保護



人権に関する苦情申立て手続き



差別やハラスメントの禁止



結社の自由と団体交渉の保障

2024年、BYDの自社事業では、児童労働の採用・利用、労働の売買など、社内方針や関連法令に違反する事例はありませんでした。

# 雇用

BYDは、公平で透明性のある雇用管理体制を構築し、堅実な人的資源の基盤を築くことで会社の持続的な発展を支えるべく努めています。社員こそが事業の土台であり、企業のイノベーション、成長、競争力を推進する鍵であると理解しており、そのために中国はもちろん、事業を展開している各地域の労働関連法規を厳格に遵守し、すべての雇用慣行が法的要件に適合するよう徹底しています。また、従業員には包括的な社会保険制度を提供し、一人ひとりが法で認められたさまざまな権利や利益を享受できる仕組みを整備しています。退職に関しては、関連する法令に従って標準化された手続きを整え、退職する従業員の正当な権利や利益を保護しています。

## 採用管理

BYDは、「国連人権規約」「世界人権宣言」、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」、ならびに中国および事業を展開している各地域の雇用関連法規を遵守しています。品質管理や労働安全衛生、環境安全、社会的責任に関するさまざまな規格や制度を統合し、高度な行動規範と人事管理制度も構築しました。また、「平等な機会、能力に応じた採用」という方針を厳格に遵守し、採用における国籍・人種・性別・宗教による差別をなくすとともに、強制労働や人身売買、児童労働をはじめとする人権を侵害する労働慣行を禁止しています。

当社は、「BYD採用管理規定」や「BYD児童労働・少年労働管理要領」といった採用管理規定を多数制定し、採用要件の提出、面接審査、採用承認、試用期間管理など、主要な採用プロセスを標準化しています。これにより、採用管理の公平性と透明性を確保し、健全で公平な職場環境を構築する基盤を築いています。

人材計画に基づき、事業の発展に応じた計画の実行と需要予測を行い、自律的な採用機能を強化して人材密度を高めるため、新たな採用手法やチャネルの開拓にも積極的に取り組んでいます。同時に、社内の人材プールを構築し、人材のキャリア形成と経験の蓄積を促進することで、人的需要と供給のバランスを確保し、人的資源の配分を最適化して、会社の事業発展を支援してまいります。

人材資源・社会保障局や雇用サービス局などの政府部門と緊密に連携しつつ、多様な雇用チャネルやプラットフォームを整備して、地域の労働者を惹きつけています。



2024年、BYDは国内外の応募者から高い評価を受け、優れた雇用主に贈られる賞を複数獲得しました。

**2024年 グローバル人材を  
引き寄せる企業**

LinkedIn



**選ばれる雇用主 2024**

HRoot



**アジア最優秀雇用主賞**

HR Asia



**最も人材を大切にする企業**

Boss招聘 - ECHO



**ESG実践優良企業**

CIIC ACMCODER



人事関連の賞(一部)



## 平等とインクルージョン

BYDは、多様性に富んだ人材プールの構築に取り組んでおり、「人権に関するBYDグループの方針声明」にて、人材の多様性を尊重し、国籍や人種、性別、地域、宗教、雇用形態などを理由とした従業員や応募者への差別を防止することを明確に約束しています。従業員には平等な雇用機会を提供しているほか、あらゆる形の差別に反対し、異なる意見や見解、信念を尊重するインクルーシブな職場環境を推進しています。

グローバルな成長戦略を進めるにあたり、BYDは、常に公平でインクルーシブな多様性人材育成プログラムや活動を提供することを徹底しています。また、各地域の特性に合わせ、現地の規制や文化に沿った人材育成制度を構築することで、すべての従業員が公平な成長の機会を得られるよう取り組んでいます。同時に、国境を越えた文化の交流と融合を積極的に推進し、活気があり、互いを尊重しあうインクルーシブな職場環境や雰囲気づくりを行っています。

### ▶ ブラジル拠点の女性委員会 - WISE(Women in Search of Excellence)

平等とインクルージョンを促進し、すべての女性従業員にとってインクルーシブで安心できる職場環境を実現するため、ブラジル拠点では“WISE(Women in Search of Excellence)”という女性委員会を設置し、女性の声も届くよう、社内での女性の発言力向上に取り組んでいます。

WISEの主な目標のひとつは、ジェンダーに関する課題について提起や議論を行ったり、公平性と多様性のインクルージョンを促進したりできる、安全で協力しあえる交流の場を作ることです。2024年、インクルーシブな環境づくりを効果的に行い、平等な発展を目指すために、WISEは、女性管理職向けのグループディスカッション、性別に基づく家庭内暴力(WISEと協力)、母親向けグループディスカッション、女性に対する暴力根絶に向けた男性の参加を促進する取り組みなど、4つの研修コースを実施しました。

### ▶ 中国とブラジルの言語と文化の架け橋

ブラジル拠点では、当社のバイリンガル人材の強みを最大限に活かして中国とブラジルの言語や文化をつなぐ強固な架け橋を築いており、その一環として、ポルトガル語と中国語の教室を週2回実施しています。参加型の楽しい教室となっているため、従業員同士の言語コミュニケーションはスムーズになり、より効率的に協力関係を築くことができ、文化と文化が出会うことすばらしい化学反応が生まれます。

### 2024年

2024年、社内で発生した従業員差別の事案は0件でした。

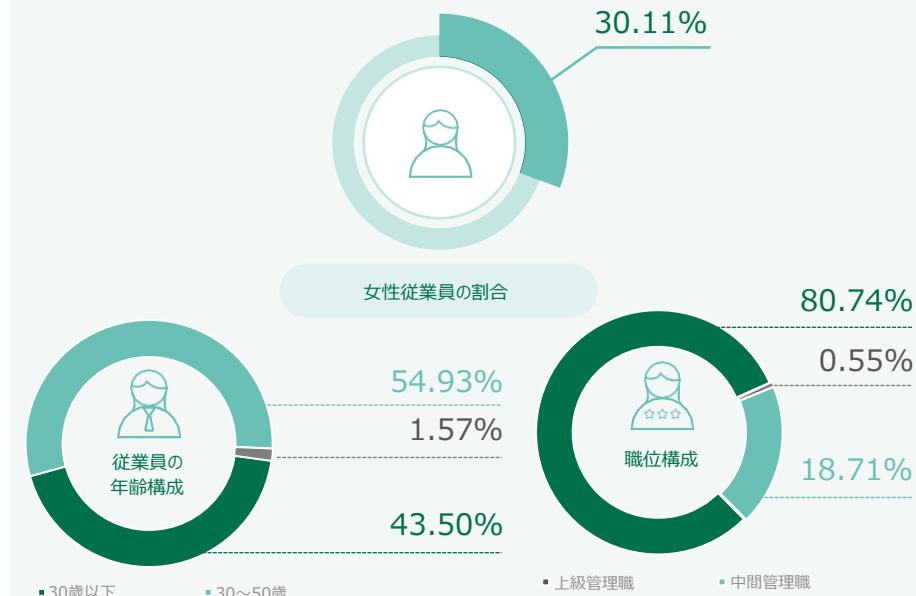
当社は、世界各地の地域や国ごとの独自の風習や習慣を尊重しており、広西の「三月三」祭、ベトナムの「従業員ダンス」コンテスト、タイのソンクラーンに関連する民俗行事、欧州のクリスマスイベントなど、民族色豊かな地域イベントを企画し、積極的に参加しています。こうした活動を通して、世界的な文化的融合を推進し、平等とインクルージョンを育んでいます。異なるバックグラウンドを持つ従業員同士の相互理解と認識を促し、さまざまな国籍の従業員の異文化に対する理解を高め、異文化間コミュニケーションの架け橋を築くとともに、従業員の所属意識と参画意識の強化を図っています。

### 2024年

BYDの従業員数は全世界で約968,000人でした。  
そのうち、少数民族は約95,000人で、障がい者は4,630人でした。



### 2024年の女性社員の比率、従業員の年齢構成、従業員の職位構成



## 人材の育成と開発

BYDは多層的かつ多様な人材育成システムを構築しており、企業の人材競争力を高め、人材の厚みを増すような取り組みを継続的に実施しています。

人材の育成・定着をより効果的に行うため、当社は管理職、技術職、技能職、専門職の各方分野から多様なキャリアパスを備えた従業員向けのシステムを設計・構築し、職種に応じた専門的なプログラムを設定しています。事例学習やメンター制度、コンプライアンス研修、研修と実践を組み合わせた取り組みなどを通じて、「優れたものが優れたものを育み、成功が成功を生む」という理念のもと、人材育成の競争力向上に常に努めています。

従業員のキャリア開発において、BYDは公平で公正な人材開発プラットフォームの構築を目指しています。管理指標評価、技術職の職位認定、技能レベル認定制度を通じて、「管理、技術、技能、専門性」という多面的な人材キャリアパスを構築しています。

責任の明確化、権限と責任の分離、リスク防止の原則に基づき、職位設定の妥当性と有効性を厳格に管理し、人事の各業務モジュールの基盤を固めることで、事業が問題なく運営されるようにしています。

### 昇進制度

BYDは多様化した人材育成の道筋を構築することに力を注ぐとともに、透明で公正な昇進制度を作ることを重視しています。これにより、従業員に公平な昇進の機会を提供し、一人ひとりの努力と才能が正当に評価される環境を実現します。

また、人材のキャリアパスを重要視しており、合理的な昇進制度によって全従業員の主体性と意欲を最大限に引き出しています。さらに、技術職の人材向けに社内の職位制度を導入して昇進とキャリアパスを設け、昇進は技術成果や能力などの主要な評価指標に基づいて行われることを明確に定めています。このほか、当社の競争文化も人材育成に取り入れ、管理職コースは総合的な業績評価による競争、技術職コースでは技術面での競争を実施し、技術系・非技術系問わずあらゆる人材が公平に競争できる環境を整えています。

昇進制度については、昇進方針が公平で効果的に機能し、社員の潜在能力を引き出せるものであるよう、継続的に見直しを行っています。従業員からのフィードバックやビジネスニーズに基づき、私たちは人材開発戦略の最適化を行い、市場の変化に対応していくとともに、事業成長を支えていきます。さらに、現場の社員に対する学習・技能開発の機会を継続的に提供することでスキルの対象範囲を広げ、認定試験の合格率を上げるべく、技能職、管理職、技術職の各職種間でのスムーズなキャリア転換が可能な仕組みを整えていきます。こうした施策は、従業員の自己開発とキャリアアップを促進することを目的とした取り組みです。

2024年

10万6,000人以上  
の技術人材が技術系の職位を付与されたほか、  
多くの従業員がエキスパート以上の職位を付与されました。



## 人材育成システム

企業間の競争は人材の競争であり、人材こそが最も貴重な財産であるとBYDは考えています。人材の自主的な育成を重視し、多層かつ多様な人材育成体系の改善を進めるべく、当社は「BYD研修管理規定」を策定し、全従業員を対象とした人材育成の仕組みを構築しています。

### ◆ 新入社員の成長支援

新卒社員の成長を支援するため、当社は「未来の星」という新卒者向けの特別な研修プログラムを用意し、グループ、事業ユニット、事業部、部門、職位の5つのレベルを対象とした研修制度を設けているほか、メンター制度による総合的な支援で成長を見守りながら、新卒社員が学生から社会人へと円滑な意識転換ができるよう支援しています。

新卒者を積極的に登用し、活躍の場を提供すべく、プロジェクトやテーマ研究への参加の機会を与え、各種業務の遂行を任せつつ、当社の急速な成長に大きく貢献するチャンスとして会社のプロジェクトで重要な役割を割り当てたりしています。

### ◆ マネジメント人材の育成

当社では、現場、中間管理職、上級管理職など、各層の社員に対応するマネジメント人材育成プログラムを継続的に展開しています。グループの方針に基づき、また、事業や社員のニーズを踏まえて、2024年は管理職を対象とした階層別人材育成プログラムとして、「チームリーダー養成研修」、「課長・作業場主任研修」、「マネージャー研修」を実施しました。

#### ➤ > チームリーダー養成研修

チームリーダーは、生産ラインにおける最小単位の生産組織を統括する管理者です。彼らの総合的な資質や職務認識、姿勢は、生産や業務の成果に直結します。そのためBYDでは、チームリーダーのマネジメント力を非常に重要なものと捉え、「チームリーダー養成研修」という研修コースを用意しており、標準化された作業ツールや業務の全工程を網羅したガイドマニュアル、関連する研修資料を用いて、標準化された研修内容をチームリーダーに提供することで、マネジメント力とリーダーシップ力を総合的に高めています。

#### ➤ > 作業場主任研修

作業場とは、生産や業務プロセスの中核となる単位です。組織の責任者である作業場主任は、現場の生産管理、コストと品質の管理、チームの育成と組織づくりで重要な役割を担っています。私たちは、BYD独自の特色を備えた作業主任資格認定研修システムを設計しました。この研修では、作業場主任の優れた事例や経験からの学びや生産現場での実務に基づき、BYD独自の経験を活かして人材育成に関する課題を解決します。2024年における作業場主任研修の実施率は100%を達成。主任チームの全体的な力を強化し、グループの長期的な発展を絶え間なく後押ししています。

### ◆ 技能人材の育成

従業員の成長をより効果的に促進すべく、BYDは、自社の事業展開に基づく産業・職種別の技能人材のキャリアパスと等級認定制度を整備しています。技能人材の自主的な育成に絶えず力を入れ、多様な研修モデルを積極的に模索・実行しつつ、全従業員を対象とした専門的な能力開発プログラムも構築しています。

2024年

BYDが自社内で育成した技能人材は**5万7800名**を超えます。



2017年にはポスドク(任期付き博士研究員)向けのイノベーション実践拠点を設立。2022年には中国初となる、国家级ポスドク科学的研究ステーションを開設しました。また、2024年までに、深圳、重慶、西安の三都市に「3つのステーションと4つの拠点」と銘打つ新たなポスドク育成体制を構築しています。「優れた人材が優れた人材を育み、成功が成功を生む」という理念に基づき、「高品質なポスドク育成、高品質な科学研究成果の転化、新たな質の生産性の向上」という方針目標を導入して、15の一流大学、一流研究拠点、一流学科、一流指導教員との連携の下でBYDの一流のポスドクチームを共同で育成します。



これまでのところ、研修規模は1,600人を超え、現在ステーションには約1,400人の博士研究員が在籍。国内唯一の規模を誇り、卒業後の定着率も100%となっています。BYDのポスドクチームは、すでに当社の技術革新を牽引し、発展を支える原動力・中核人材として「より良い生活のための技術革新」の実現に、知恵と力で貢献しています。





&gt; BYD、広東・香港・マカオ大湾区における博士・博士研究員向けイノベーション・起業コンテストで複数の賞を受賞

2024年11月、BYDは「第2回広東・香港・マカオ大湾区博士・博士研究員(ポスドク)イノベーション起業コンテスト」のイノベーション部門で金賞を1つ、銅賞を2つ、優秀賞を2つ獲得し、全省で第1位となりました。同大会初出場での金賞受賞となり、0から1へのブレークスルーを果たすとともに、BYD初の金賞受賞、および最多受賞という歴史的記録を打ち立てました。

## 第二届粤港澳大湾区博士博士后创新创业大赛

THE 2ND GUANGDONG-HONG KONG-MACAO GREATER BAY AREA POSTDOCTORAL INNOVATION AND ENTREPRENEURSHIP COMPETITION

指導単位：全国博士后管理委员会办公室 中国博士后科学基金会

主辦単位：中共广东省委人才工作领导小组办公室 广东省人力资源和社会保障厅 广州市人民政府

承辦単位：中共广州市委人才工作领导小组办公室 广州市人力资源和社会保障局 广州南沙区人民政府

执行単位：中共广州市南沙区委人才工作领导小组办公室 广州南沙开发区管委会发展局 广州市南沙区人社局 社会保障局



第2回広東・香港・マカオ大湾区博士・博士研究員(ポスドク)イノベーション起業コンテスト

### 2024年

BYDの博士研究員による中国ポスドク科学基金会の特別助成申請：1件（グループとして初のポスドク承認取得事例）

ポスドク基金一般助成：6件（受賞件数は中国の民間企業ワークステーションの中でトップ）

博士研究員による特許出願：472名、申請プロジェクト数：1,273件

特許権取得者：132名、認可プロジェクト：241件



### ◆ 教育支援

各地の労働組合の支援のもと、当社は「教育支援・夢実現計画」を立ち上げ、すべての従業員を対象とした教育支援活動を展開。本計画を通じて、従業員に教育資源と補助金支援を提供しています。この取り組みは多くの従業員から好評を博し、大学進学という夢の実現を支援するとともに、初級工の中級・上級工への成長を促進します。

### 2024年

BYDの「教育支援・夢実現計画」で  
229人の方々が夢を実現しました。



### ◆ デジタル学習プラットフォームの開発

BYDではデジタルの人材育成プラットフォームの構築を積極的に推進しており、従業員がいつでもどこでも知識を身に付けられるよう、Eラーニングのオンラインプラットフォームを開発しました。このプラットフォームを通じて、BYDの知識や経験を引き出す・共有するための優れたツールとなっています。



# 報酬と福利厚生

## 報酬とインセンティブ

BYDは、「BYD報酬管理方針」を策定し、価値貢献を重視した科学的で公正かつ合理的な報酬制度を構築しています。私たちは、従業員との協力のもと、従業員の成果や専門的能力、勤続年数などの要因が報酬に公正かつ適切に反映されるよう、努めています。また、各地域に適用される賃金基準を定期的に見直し、すべての従業員の報酬が現地の規制要件を満たすようにしています。同時に、昇給の仕組みについても継続的に改善を行い、会社の業績や従業員の貢献度に報酬を直結させることで、良い相互作用を生み出しています。利益分配の仕組みも常に調整を行い、従業員にとってより好ましい職場環境と大きな成長の機会を提供することで、従業員のキャリアの夢の実現や個人の価値向上を後押ししています。

業績評価やインセンティブ報酬、人材開発と連動した短期・中期・長期のインセンティブ制度を導入しており、株式報酬制度によって優秀な人材や中核的な人材を惹きつけて離職を防ぐとともに、従業員が長期的な価値を創出するよう促しています。また、長年にわたり懸命に当社を支えてくれている勤勉で優秀な社員を称え、その功績を評価するため、永年勤続表彰も行っています。

### 報告期間の終了時点

従業員持株制度("ESOP")に**18億元**以上を投資。  
約**12,000**人の従業員が恩恵を受けています。



## 業績評価

当社は、従業員一人ひとりの多様な能力を尊重し、それぞれの成長や貢献度に見合った公正かつ適切な報酬の実現を目指しています。「BYD従業員業績管理規定」を策定するとともに「公正な競争と業績評価に基づいて成果に応じた報酬を与え、優秀者を優遇する」という方針のもと、今後も体系的かつ包括的な業績管理を継続していきます。業績評価制度は、目標管理戦略とKPI管理戦略を組み合わせたものを採用しており、プロセス管理と評価結果の活用を重視し、月に一度、四半期に一度、年に一度のペースで評価を実施します。従業員の業績については個人目標を軸に業務成果、仕事への姿勢、業務スキルなど多角的に評価を行い、従業員はチームの目標管理における優先事項と重要目標に沿って、年間を通じて業績管理プロセスに参加します。同時に、チーフリーダーとメンバーは評価の結果を共有し、日々の業務の改善に積極的に活用すべくコミュニケーションを図りながら業績管理のPDCAサイクルを実現していきます。

## 従業員の福利厚生

私たちは、関連する法令や地域の市場状況に沿うだけでなく、従業員の生活水準も考慮した、包括的かつ公平な報酬・福利厚生制度を提供するよう努めています。当社の福利厚生はすべての従業員を対象としており、生活費や子どもの教育、医療の支援として活動費や医療費、通信料金の補助を行っているほか、金銭面以外での福利厚生として、医療・ヘルスケア、子どもの教育、社員寮、社員食堂、頭金なしでの自動車購入や住宅購入の制度も用意しています。

当社では、従業員それぞれのニーズに応えるため、福利厚生の選択肢を幅広く用意しています。特定の環境や職種で働く従業員には、夜勤手当、過酷勤務手当、支援手当、転勤手当といった各種手当が支給されるほか、通信料金や交通費の補助など、その他の福利厚生も充実しています。また、従業員の自己開発と成長を促進するべく、技能助成金もあります。

すべての従業員が、労働時間や休暇に関する現地の法令を厳守しつつ、年次有給休暇、産前産後休暇、結婚休暇、忌引休暇、育児休暇を取得できる制度を整えています。従業員が必要に応じて有給休暇を取得する権利も保障されており、女性従業員については、妊娠・授乳・出産の期間中、適用される規定に従って十分に保護されます。基本的な妊婦健診休暇や産前産後休暇、授乳休暇に加え、国内の各拠点に快適な授乳室を設け、人を中心に考えた思いやりのある職場環境を提供しています。



単身者向け社員寮



授乳室



社員食堂

さらに、住宅や通勤といった従業員の中核的なニーズにも注目し、帰属意識や幸福感の向上に努めています。従業員の住宅問題に対応するため、福祉住宅の購入、社員寮、人材アパート、住宅手当など、さまざまな支援として工業団地で働く従業員に住宅保障を用意しています。

従業員の通勤をより便利なものにするため、通勤バスを増便し、ソフトウェアとハードウェアの設備もアップグレードしました。旧式車両は段階的に廃止し、ガソリン車を新エネルギー車に置き換える新エネルギー構想を導入すると同時に、通勤用のインフラもしっかりと整備し、秩序正しく安全に乗車できるように整列用の仕切りを設置しました。ITを活用した移動システムの「BYDバス」を利用することで、バスの位置をいつでも把握できるため、バスに乗り遅れたり、バスの情報を何度も確認したりする心配がありません。このシステムには停留所のリマインド機能も付いており、バス乗車後に降車する停留所を選択すると、その停留所に到着したときにスマートフォンで自動で通知してくれます。このように、従業員の通勤をより便利にするだけでなく、当社ブランドへの帰属意識も高めるようなサービスとなっています。

2024年

BYDシャトルバスの運行エリアは全国30の工業団地をカバー。路線数は276に拡大、年間の運行回数は**308,867**回で、年間乗客数は延べ**38,602,677**人にのぼります。



シャトルバス



工業団地を走る "スカイレール"

子どもの教育に関する従業員のニーズを考慮し、BYDスクールを設立しました。BYDスクールは国際的な教育資源を取り入れ、BYDの革新的な精神を受け継ぎながら総合的な教育と特色ある発展を特徴とする優れた成長の道を追求し、質の高い教育環境を従業員の子どもたちに提供しています。一部の地域では、現地の小学校に入学するための情報を提供し、従業員が子どもの入学手続きをスムーズに進められるようサポートします。

当社は困難を抱える従業員を気遣い、支援し、また、相互に助け合うことで従業員が早く困難を乗り越えられるよう努めるとともに、真心をもって思いやりを届け、温かな愛情あふれる職場環境を築いていきます。



BYDスクール

# 従業員のケア

## 従業員とのコミュニケーション

BYDは従業員のアイデアや意見を非常に重要なものと捉え、自由に自己表現する権利を尊重し保護しています。従業員と当社の間で効率的にコミュニケーションを行えるよう、多層的で多次元的なコミュニケーションの仕組みを構築し、「グループ－工業団地－事業部－工場の作業場」の4段階からなるコミュニケーションチャネルを形成しています。

また、社内プラットフォームとフィードバックシステムを構築することで、情報伝達・処理を迅速化し、コミュニケーションの効率を上げています。オンライン・オンサイト両形式のコミュニケーションチャネル「人事対面会」（ミニアプリは社内WeChatで全従業員が使用可能）を構築し、従業員のフィードバックをリアルタイムで収集しています。さらに、これらの存在を従業員に周知するため、工場内にポスターを掲示したり、従業員向けの会議や研修で定期的に案内したりしています。



人事対面会(オンラインの場合)



キャラクターIP "Dilili"

テキストでのコミュニケーションやオンラインのチャネルに加え、懇談会や相談日を設けて、従業員の声に耳を傾けるよう取り組んでいます。

-  **対面でのコミュニケーション**
  - 対面でのコミュニケーションでは、従業員と直接かつ深いレベルで対話し貴重な提案に耳を傾けます。
  - 2024年は、「工場長交流日」「作業場座談会」「人事対面会」など、従業員と壁のないコミュニケーションを取ることを目的としたイベントを開催しました。
-  **テキストでのコミュニケーション**
  - テキストでのコミュニケーションチャネルには「社長へのメールボックス」「従業員提案箱」「掲示板」などがあり、全従業員が自分の意見や知識、フィードバックを共有することができます。
-  **オンラインチャネル**
  - オンラインチャネルについては、そのチャネルに移動できるQRコードを複数作成し、工場の各作業場で広く周知しています。この取り組みは、テクノロジーを活用して従業員に積極的に参加してもらうことを目的としています。
  - 社内WeChatに組み込んだミニアプリ「人事対面会」で全従業員がコミュニケーションチャネルを利用できるようにしています。

従業員の意見は、ただ聞くだけでなく、それについて適時にフィードバックを行い、対応しなければなりません。当社では、社内メールシステムや匿名の苦情プラットフォームなど複数の苦情受付窓口を設けており、従業員が不公平な扱いを受けた場合や、個人の権利・利益が侵害された場合は、事業部門や人事部に連絡することができます。この苦情対応の仕組みの有効性を確保すべく、窓口の効果を定期的に評価し、最適化しています。さらに、匿名アンケートを実施して当窓口に対する従業員の認知度や信頼度を調査することで、この仕組みの最適化と改善に努めています。

## 従業員のケア



### ◆ 社員のためのレクリエーション施設

地域コミュニティの積極的な支援と労働組合の全面的な支援のもと、屋内・屋外の文化施設やスポーツ施設を充実させた社員専用のレクリエーション施設を設立しました。レジャー・エンターテインメント・学びを1か所で楽しめる多様な空間を従業員に提供しています。施設内には、ジム、バスケットボールコート、図書室、囲碁・将棋室、カウンセリングルーム、ダンス・ヨガスタジオ、卓球室、ビリヤード室、コミュニティフィットネスエリアなど、多種多様な文化施設やスポーツ施設、機能エリアが用意されており、従業員のレジャーのためのニーズに応え、健全なワークライフバランスを促進するとともに、文化的で豊かな暮らしを目指しています。



レクリエーション施設の一部

従業員の幸福度を高める手段として、上記の施設のほかにも当社はさまざまなケア活動を実施しています。2024年は、全国64の工業団地で「ハッピーニューアイー」イベントを開催し、従業員らと新年を祝った他、BYDの創立30周年記念式典や第11回BYD陸上競技大会、「ハッピーファミリー月間」も開催しました。そのうち、工場の記念競技イベントには計15,000人が参加し、約400人の選手が競技に出場。14件もの記録更新があり、クラウドのフォトアルバムの閲覧数は3,800万回になりました。参加者数も開催規模も過去最高で、BYDの人間が持つ結束と努力の精神が存分に示された形となりました。ファミリー月間では、写真撮影や園内イベント、バンドやダンスのパフォーマンスを通じて従業員が楽しい時間を満喫できるよう工夫を凝らし、また、全従業員とその家族を対象としたチャリティー販売会も実施し、手工芸品や伝統工芸品の展示販売、歌、漢服での写真撮影、バンド演奏など、さまざまな交流型の催しを提供しています。このほかにも、「BYD音楽祭」や「独身者交流会」、「元日パーティー」といった従業員向けイベントも開催し、さまざまなケア活動を通じて、ワークライフバランスの実現を促進しています。



従業員向け端午節イベント



BYD音楽祭

## ◆ メンタルヘルス

従業員のケアセンター体制を整え、さまざまなケアリソースの連携・統合を行いました。さらに、デジタルで迅速かつ一人ひとりに応じたオンラインのメンタルヘルスサービスプラットフォームを構築し、心理カウンセリングやメンタルヘルス啓発、悩み相談などの機能がひとつになったワンストップのメンタルヘルスサービスを提供しています。当社の従業員向けメンタルヘルスサービスは、広東省労働組合連合会により「2024年広東省労働組合連合会 従業員向けメンタルヘルスサービス拠点および従業員向けメンタルヘルスサービス優秀プロジェクト」に選出されました。

公式アカウント“従業員ケアEAP”を開設し、「おもしろく、役に立ち、ためになる」を基本方針として、メンタルヘルスの広報とサービスの場を展開しています。趣味診断や専門的なアンケートを行うことで自身の性格やストレス状態などを把握し、的を絞った具体的な成長アドバイスを提供します。また、メンタルヘルス関連の記事(情緒調整、対人関係、ストレス対処などがテーマのもの)を定期的に配信し、正しい知識の普及のための情報発信を行うとともに情緒調整能力向上します。当社の従業員ケア用プラットフォームは、同カテゴリーの公式アカウントの中でも圧倒的な閲覧数を誇り、従業員からも高い支持を得ています。

また、プライバシーを確保し、快適な相談環境を提供できるよう、カウンセリングルーム標準化の整備を進めています。また、地域の労働組合や専門の第三者相談機関と連携し、全国各地の複数の事業所に高水準のカウンセリングルームを新設し、専門の心理カウンセラーを配置しました。当社は、従業員の心身の健康を守ります。

「予見・予防・保護」を中心理念として従業員安心プログラムを導入し、四半期ごとに研修講座を実施したりポスターを掲示したりして、詐欺防止の注意喚起、疾病予防、自然災害への備えなど、総合的な予防策や関連知識を定期的に提供し、従業員の自己防衛力の向上を図っています。

従業員向けの健康講座も実施しており、街や地域、病院とも積極的に連携しています。「従業員中心」の理念に基づいて、定期的に専門家を招き、自己探求や情緒調整、職場心理、子育て教育、心身健康、技能向上など多岐にわたる研修講座を行っており、その全体的な満足度は95%となっています。



## ◆ 従業員満足度

当社では、NPS(ネット・プロモーター・スコア)を活用して従業員満足度を測るための評価制度を構築し、毎年、従業員の満足度調査を実施しています。仕事の幸福度、仕事の満足度、エンゲージメント、心理的ストレスなどの観点から調査を行い、従業員の要望や希望、気持ちをしっかりと把握とともに、従業員向けのサービスや管理の最適化を継続的に行ってています。

2024年

全従業員を対象に従業員NPS調査を計4回、実施しました。



私たちは、従業員への配慮を具体的な行動で示し、従業員満足度の向上に積極的に取り組んでいます。2024年は、調査や現場訪問を綿密に行い、従業員の声に耳を傾けることで、改善策の実行を全力で推進しました。通勤バスについては、バスが運行されている11工業団地・73路線を訪問して確認を行いました。また、主要な工業団地で発生している未解決の課題について担当部門に対応を促すとともに、便数を増やし経路も調整することで、従業員の通勤ニーズに応えました。

また、社員食堂のコストパフォーマンス改善プロジェクトとして、36の工業団地にある74の食堂を訪問し、スタッフに聞き取りを行い意見を収集しました。集まった意見はフィードバックとして共有し、改善を促しました。その他、通信環境に関する従業員の要望に応えるため、15の工業団地の124の地点で電波状況の調査を行ったほか、担当部門や通信事業者と連携して電波の問題を解消。ネットワークのスムーズな利用を確保しました。

生活環境の設備や施設のアップグレードについては、より快適な生活を送れるよう、2024年に寮の設備を全面的に刷新しました。同時に、各工業団地にて、ジムやバスケットコート、スタジアムなどの文化施設やスポーツ施設も順次稼働を開始しました。こうした一連の取り組みにより、従業員が抱える実際の課題を効果的に解決することができ、従業員の満足度もさまざまな面で上がり、帰属意識と幸福感を高めることができました。

また、従業員を対象に心理調査も実施しています。こうした調査は、総合的なメンタルヘルスサービス体制を構築し、グループ全体でのメンタルヘルス管理を推進する取り組みの礎となっています。2024年末には、「従業員のメンタルヘルス状況とサービス利用の意向調査」を綿密に計画し、実施しました。この調査では、サービスに対する従業員の現在のニーズと実際の利用状況について幅広い質問を用意し、調査結果に基づいて一人ひとりのメンタルヘルスの状態を細かく評価し、感情面のウェルビーイングについても慎重に評価を行いました。さらに、仕事のプレッシャーや業務量など、従業員のメンタルヘルスに影響を与える組織的要因の調査も実施。こうした包括的な取り組みにより、従業員の心理状態を詳細に把握し、より効果的な支援策を策定することができました。

2024年

メンタルに関する調査への参加者のうち、

メンタルヘルスサービスの存在を認識していた従業員の割合: 88.2%

メンタルヘルス関連の活動に参加した経験があった従業員の割合: 71.6%

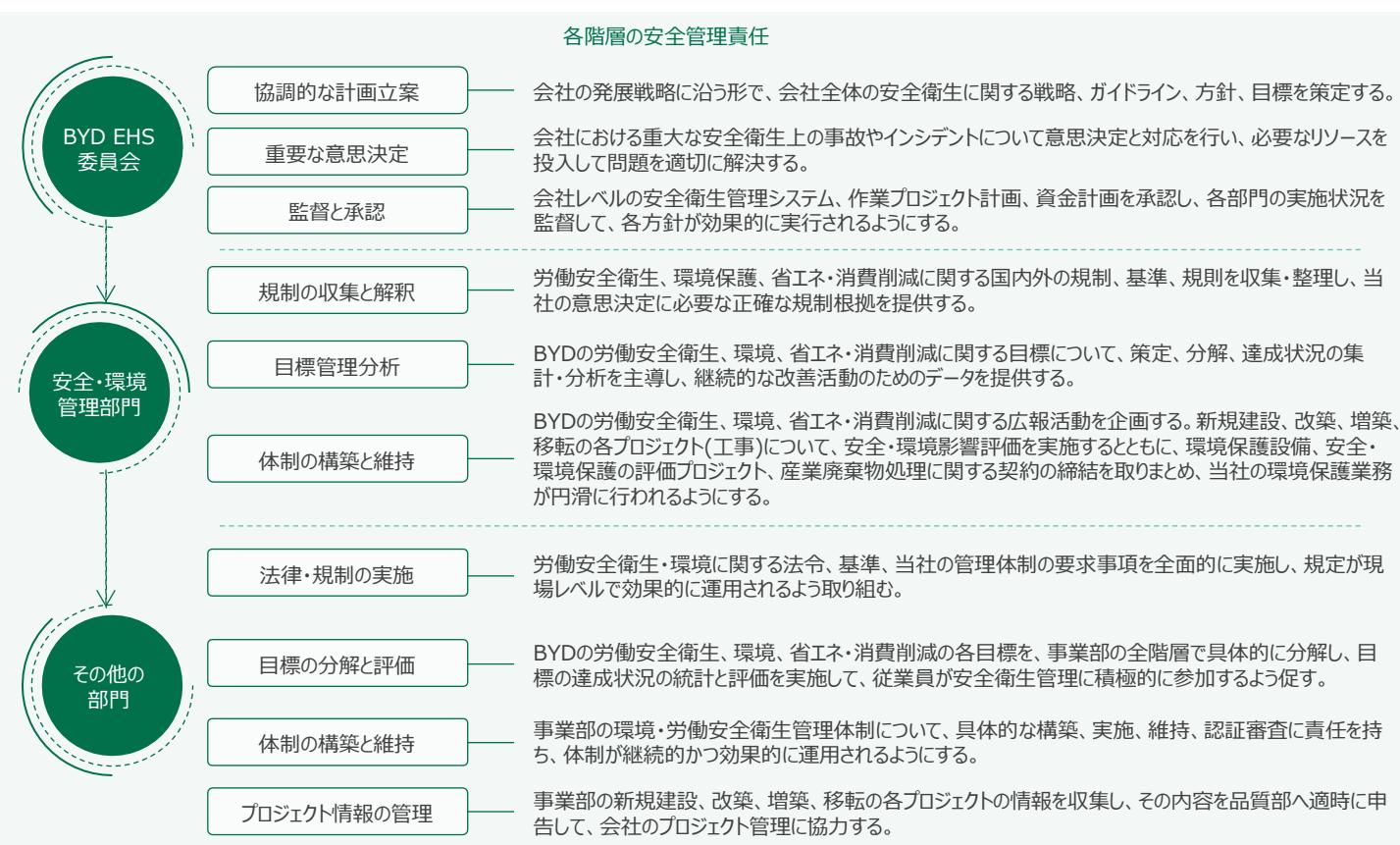


# 生産工程における労働安全衛生

## 労働安全衛生管理システム

BYDは労働安全衛生を重点課題と位置づけ、「命を尊重し、安全に発展する」という中核的な指針を掲げ、「事故ゼロ」という究極の目標の達成に向けて断固とした姿勢で取り組んでいます。このため、「BYD安全衛生方針」「BYD生産安全責任制度」「BYD生産安全・事故対応管理規定」「BYD労働安全衛生管理規定」「BYD安全環境監督・検査管理規定」などの方針を策定するとともに、これらを定期的に更新することで、安全管理システムの継続的な改善に努めています。また、「BYD安全工場の星評価に関する管理規定」「BYD安全・環境文書および記録管理に関する施策」「BYD設備・施設の安全管理規定」など、社内規定の見直しも絶えず行っており、トップダウンの設計から現場での実施に至るまで、各階層での円滑な統合と効率的な運用が実現しています。

私たちは、包括的な労働安全衛生管理システムを構築し、各階層の責任を明確化するとともに長期的な安全の仕組みの強化を図っています。BYD EHS(環境、健康、安全)委員会は安全管理に関する最高意思決定機関であり、当社社長が委員長を務めるとともに生産安全管理に対して全責任を負い、事故の発生率や事故による死亡率、安全リスクの是正率といった定量的なパフォーマンス指標を設定しています。BYD EHS委員会は、各部門の安全衛生管理の実績について定期的に評価を行っており、評価結果は各責任者の成果連動型報酬に直接反映しています。



2024年

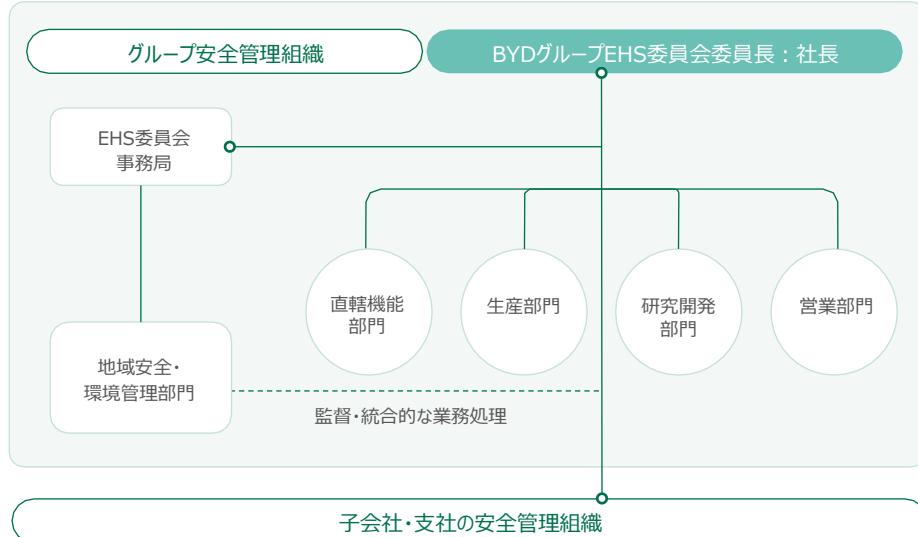
BYDにおける ISO 45001  
労働安全衛生管理システムの  
従業員カバー率: **19.62%**



ISO 45001に基づく社内基準の  
従業員カバー率: **100%**

私たちは生産の安全に関する責任と目標を明確に定め、それらが組織のあらゆる階層で体系的に展開・実行されるようにしており、生産安全委員会と専任の安全管理部門を会社レベル、事業部レベル、工場レベル、工業団地レベルで設置し、安全関連業務の調整と管理を行っています。同時に、すべての従業員が関与する生産安全責任体制を構築しており、広報活動を幅広く行ったり、生産安全に関する声明書に署名したりすることで、各階層の管理者がそれぞれの担当領域における生産安全に対して全面的に責任を負う体制を確立しています。

安全管理の構造



100

BYD 生産系事業部の内部安全監査のカバー率: 100%



過去3年間、BYD従業員の労働災害による死者数は0でした。さらに、EHS情報プラットフォームの開発も積極的に進めています。コンプライアンスマネジメントや安全運用管理など、複数の側面を統合することで、BYDグループの包括的なEHS情報システムを構築し、管理効率を大きく向上させました。

#### ◆ 安全衛生のリスク管理

私たちは、二重の予防体制に基づいて危険源の特定とリスクの分類・管理を厳格に実施し、事故の発生源にまで遡って安全対策を講じています。厳格な点検と管理によって危険の芽を早期に摘み取り、包括的なリスクの分類・管理の仕組みのもとで徹底したリスクの特定と評価を定期的に行い、常に最新の状況が反映されたリスクのリストを作成しています。このリストをQMSIに組み込んで危険源の特定・分類・管理に活用することで、さまざまなレベルで危険源を効果的に監視・管理することが可能となっています。さらに、あらゆる階層の担当者に対し、重点エリアの点検と、それに応じた管理措置の実施を強く促しています。

リスクのリストと点検の結果に基づき、リスク管理の施策を継続的に調整・最適化してリスク管理の実践の適切性と有効性の向上を図っています。また、EHS(環境、健康、安全)情報プラットフォームの監視機能やデータ分析機能を活用して業務プロセスを継続的に最適化するとともに、管理効率を高めています。

2024年

生産系事業部を対象としたBYD内部安全監査の実施率は、100%でした。



さらに、緊急対応と事故調査に関する包括的なプロセスを整備し、事故の報告、調査、対応、是正措置の手順と仕組みを明確に定めています。安全衛生に関わる事故が発生した場合、現場の担当者は直ちに所属部門の部門長へ報告し、部門長は速やかにEHS委員会事務局に連絡します。EHS委員会事務局は関係部門を組織し、調査チームを編成して事故の原因と経過を徹底的に調査し、処理の方針と対策を提案します。調査結果に基づき、責任を負う部門や個人に対して厳正な処分を行います。また、責任部門は是正措置を策定・実施し、EHS委員会事務局は措置の実施状況を追跡・監督して、その効果を確かなものになります。

さらに、工場のEHS体制の基盤を強化するプログラムも開始しました。ISO 45001とISO 14001の両規格を基盤として、労働安全衛生・環境の星による評価基準を策定。内部監査や自己評価、コーチングが盛り込まれた基準で、各工場のFHS管理の成熟度を定量的に評価できるようになっています。

グループの安全・環境管理部門は、すべての工場団地において労働衛生管理の包括的な監査・監督業務を実施しており、現場の危険源の検出状況、従業員の健康状態の監視状況、個人用保護具の配布状況と使用状況、保護設備の有効性の点検などを行っています。このような取り組みによって、各方針を効果的に実施するとともに、従業員の労働安全衛生を確実に守っています。

## ◆ 安全衛生の保障体制

BYDでは、従業員の安全衛生を守るしっかりとした仕組みを整え、入社時や在職中の健康診断に加え、リスクの高い職種を対象とした退職時の健康診断も実施しています。この健康診断では、じん肺や騒音性難聴といった職業性疾患の検査も行っています。当社工場の生産の特性や危険因子に合わせて労働保護基準を策定し、従業員の健康を守るために、個人用防護具を定期的に配布しています。

サプライヤーの管理については、サプライヤー向けのEHS監査・受け入れ基準を策定しています。取引開始時の安全説明会や安全研修、定期的な安全・環境点検、管理会議を通じて、サプライヤーが自社の体制や基準を継続的に改善できるよう支援しており、こうした取り組みによって、サプライヤーが当社サプライチェーンの安全管理要件に適合する仕組みを作りつつ、サプライヤーの従業員の安全と健康を共同で守る体制を整えています。

2024年

危険因子にさらされる従業員に対する職業健康診断の実施率は、100%を達成しました。  
BYDは、約**20万**人に対して職業健康診断を実施し、  
それぞれの健康管理記録も作成しました。



## 安全文化

### ◆ 安全衛生研修

すべての職種で安全意識を高め、安全スキルを向上させるべく、私たちは毎年、生産安全に関する研修を実施し、従業員のリスク予防力の強化を図っています。この取り組みとして、体系的な安全研修の枠組みを構築するとともに、「BYD労働衛生・安全・環境保護に関する教育訓練管理措置」を策定しました。この措置に基づき、従業員の属性に応じた的確な安全教育・研修コースを提供しており、「新入社員向け三段階安全教育」を開催したり、「現職社員向け安全教育」を毎月実施したりしています。さらに、現場の管理職、安全・環境管理担当者、新任の管理者、そしてゼネラルマネージャー、副ゼネラルマネージャー、工場長、部門長など、各種階層に応じた安全研修コースも用意しています。また、特殊な職種や特定のポジションに対しては、専用の安全教育や再教育プログラムを用意して、全従業員の安全意識の向上に努めています。

通常の安全教育に加えて、競技会やオンライン学習、オンラインイベント、緊急時の訓練など、さまざまな形式で啓発活動も行っており、「ライジングスター研修」や「100日無事故キャンペーン」「安全月間」「消防月間」といった活動を実施しています。社長やゼネラルマネージャーといった主要な安全責任者、中堅の安全・環境管理幹部、現職の社員や新入社員が積極的に参加したことで、すべての職種における安全責任の意識を効果的に高めることができました。

2024年

> BYD Europeによる緊急安全研修

オランダ拠点では、安全研修を通じて安全に対する従業員の意識向上に取り組んでいます。2024年4月には、火災対応、応急手当、避難誘導、緊急時の状況判断と意思決定などの知識と技能を習得できるよう、社内の緊急対応担当者を対象に研修を実施。従業員の緊急時・安全対応力を高めるとともに、全従業員が関わり、一人ひとりが責任を負う安全文化の構築に取り組みました。



## &gt; 安全月間の活動

2024年6月、「安全を語り、緊急時の対応方法を身につける—命の回廊をつなげる」をテーマに、安全月間の一連の活動を実施しました。各工場団地にて特別な安全施策を多数実施し、安全文化を浸透させる取り組みを通じて、安全に対する全従業員の意識向上を図りました。さらに、「EHS(環境、健康、安全)公開プラットフォーム+レッド&イエローカードと封印」という視覚的な監視プラットフォームを整備するとともに、緊急事態を体験できる没入型空間の「命の回廊」も設置。従業員が安全に関する力を身に付けることを目的とした「安全DNA」プログラムも実施するなどして、全従業員が参加する安全文化づくりを進めています。



安全月間の活動



## &gt; 消防月間の活動

2024年11月、「みんなで火災予防、いのち第一」をテーマに、「予防第一、予防+消防」を実践し、重点消防エリアの精密な管理を高度化する活動を実施しました。「全スタッフが避難して緊急事態に対応できる」ことを目標に、火災の緊急訓練を実施したほか、消火技能競技や「消火活動緊急時スター」選抜といったイベントを行い、BYD消防チームの専門能力を高めるとともに、全従業員の消防意識と火災リスクへの警戒心の強化を図りました。これらはすべて、火災リスクの低減を目的としています。



消防競技会の様子



# 05

## 相互成長のための責任ある サプライチェーン

サプライチェーンの品質、レジリエンス、持続可能性は、事業運営と生産にとって極めて重要な要素です。当社では、サプライヤーのライフサイクル全体を通じた管理に取り組んでいます。サプライヤーの環境面や社会面のリスク評価を優先しつつ、サポートも提供することで、責任あるサプライチェーンを構築し、産業エコシステム全体の繁栄を促進していくことを目指しています。



この章の目標と指標

SDGs



HKEX ESG報告コード

KPI-B5.2, KPI-B5.3, KPI-B5.4

SZSEガイドライン

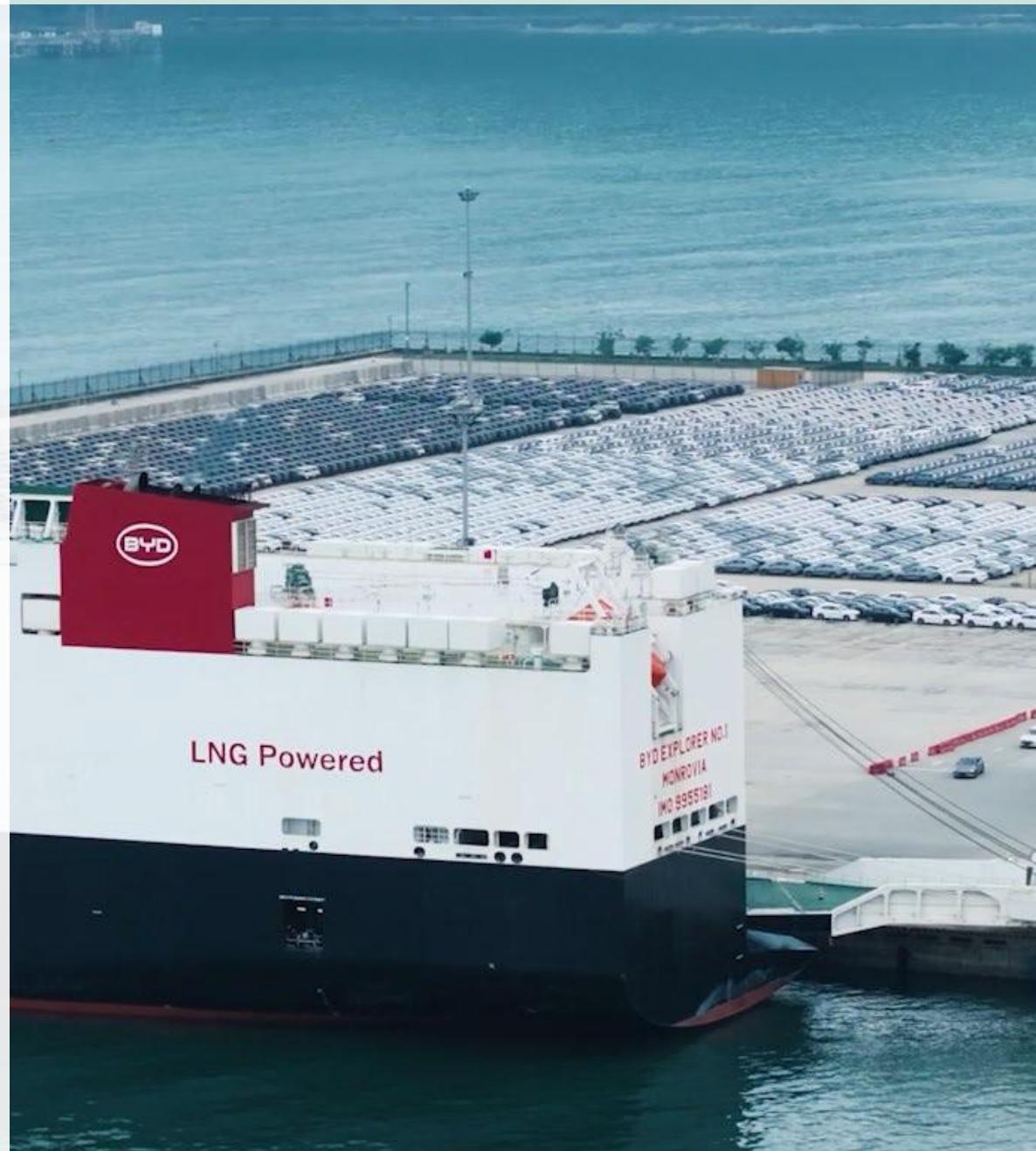
サプライチェーンセキュリティ

ESRS

S2-1

GRIスタンダード

2-24, 3-3, 308-1, 414-1

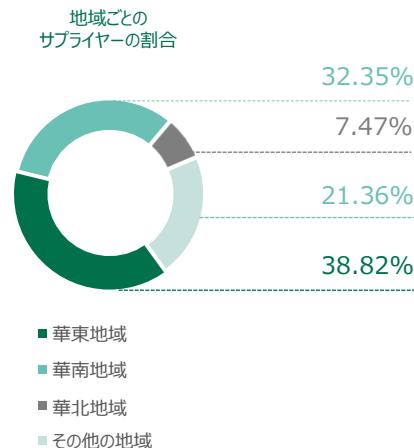
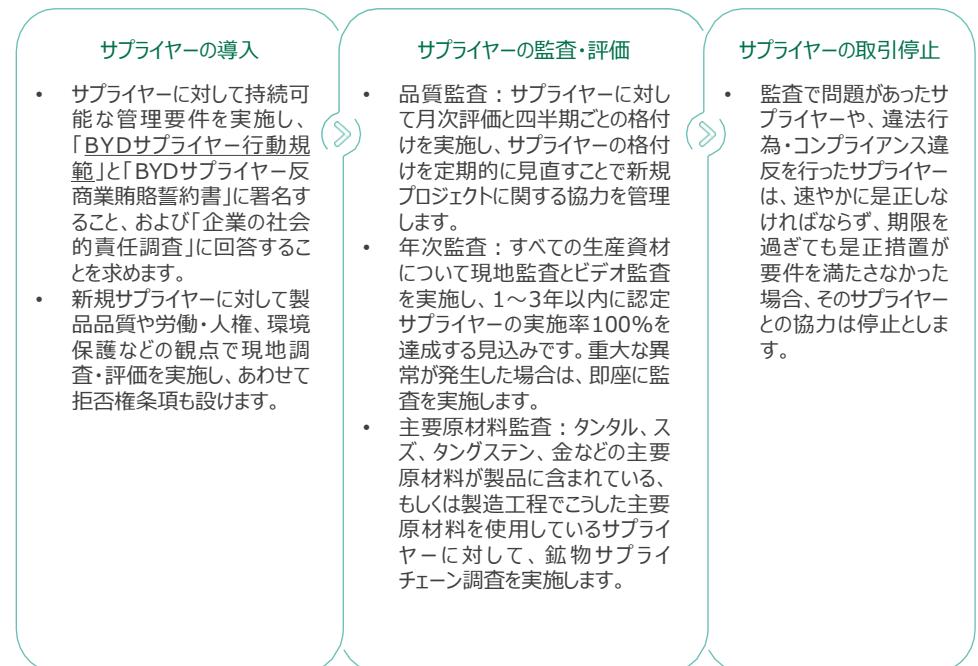


# サプライチェーン管理

BYDは、公正性、透明性(+追跡可能性)、競争という調達の原則を遵守しています。サプライヤーを導入・審査・評価する仕組みを整備し、改善を加えることでコンプライアンスに則った運営を徹底するとともに、グリーン調達という考え方を実践し、産業チェーンの上流・下流の持続可能な発展につなげています。

## サプライヤーライフサイクル管理

当社では、「BYD調達管理」「BYDサプライヤー導入・利用・取引終了管理規定」「BYDサプライヤー監査管理細則」「BYD生産資材サプライヤー実績評価管理細則」など、一連の社内規方針を策定しており、サプライヤーの登録申請から審査、実績管理、取引終了までのプロセス全体を網羅する包括的なサプライチェーン管理体制を構築しています。このような管理体制を整備することで、環境保護や社会的責任、コーポレートガバナンスといった側面でサプライヤーが各種法令を遵守するよう徹底し、サプライチェーンのリスクの低減を図っています。



新規サプライヤーの導入時には、現地審査を実施して資格要件を満たしていること、違法行為やコンプライアンス違反がないことを確認し、要件を満たさないサプライヤーは不合格とします。

2024年は、当社システムに登録されているサプライヤーを対象とした定期監査・評価の一環として、合計2,474件の現地監査を実施。その結果、23%のサプライヤーが品質システムや資格基準、法令、環境保護、労働権利などの面でBYDの要求事項を満たしていなかつたため、ランクが引き下げられ、新規プロジェクトへの参加資格を失いました。

私たちは、サプライチェーンのリスク管理にも注力しております。「BYDリスク管理」や「BYD調達リスク管理手順」をはじめとした各種社内規定を策定しています。さらに、グループリスク管理委員会の下に調達リスク対応チームを設置し、サプライチェーンのリスクを特定・管理する仕組みを強化。価格変動、生産安全、労働衛生、省エネルギー・環境保護、労使関係など、さまざまな面からサプライチェーンリスクを管理し、それぞれに対応する解決策を策定・実施しています。

グローバルバッテリー・アライアンス(GBA)は、世界経済フォーラム(WEF)によって設立された、初の世界規模のバッテリー協会です。BYD子会社のFinDreams Battery Co., Ltd.もGBAに加盟しており、国際的な産業チェーンへの統合をさらに進めるとともに、業界のサプライチェーンのリスクに共同で対応し、世界の電気自動車市場の持続可能な発展を力強く支援しています。

## サプライヤー支援

当社はサプライヤーと緊密に連携し、サプライヤー会議などのプラットフォームを利用してESGの理念を周知するとともに、サプライヤーが持続可能な調達の取り組みに積極的に参加するよう指導・促進しています。

2024年

サプライヤーを対象とした年次交流会議を4回、技術交流会を75回開催しました。

 > サプライヤー会議

2024年、BYDは「新エネルギー車コアサプライヤー会議」および初となる「タイ・サプライヤー交流会」を開催しました。この2つのイベントでは、誠実さ、品質、調達の分野における最新の施策や戦略的方向性を紹介。調達システムやプロセス、方針に関する要求事項について、サプライヤーの理解を深めることができました。BYDは引き続きサプライヤーと信頼し、協力しあう関係を深め、今以上に誠実性を重視したオープンなビジネス環境の構築を目指して共に取り組んでいます。



2024年、包括的なサプライヤー品質研修プログラムを実施し、サプライヤーに対して自動化設備の導入とそれに関する適切な管理体制の構築を積極的に呼びかけ、各工程のパラメータの安定性と追跡可能性を確保しました。同時に、日々の厳格な管理手順も実施し、毎日の階層別監査、毎週の品質会議、専任のエンジニアによる毎月の現地訪問などの取り組みにより、13,371件以上の問題を事前に発見・解決することができました。私たちは、製品の原料調達から最終納品に至るまで厳格な品質基準を満たし、サプライヤーと協力して品質向上に取り組むことで、相互成長を実現しました。

 > サプライヤー品質研修

2024年1月、サプライヤーを対象とした「BYDサプライヤー品質管理要求事項」研修プログラムを開始しました。研修の実施方式については、サプライヤーをBYD本社に招いて行う方式と、SQEエンジニアをサプライヤー側に派遣して行う方式の2種類で行いました。研修内容は、デジタル品質管理や迅速な対応、二次サプライヤーの管理、高級車モデルの管理、海外リソース配分など多岐にわたり、グループ全体の品質目標や要求事項についても詳細に説明を行うことで、品質管理に対するサプライヤーの理解とスキルの向上を図りました。



## 責任あるサプライチェーン

BYDは、責任ある調達を遵守し、サプライチェーン内のESG管理体制を絶えず改善しながらグリーン購入を積極的に推進し、サプライチェーンの現地化率を段階的に引き上げ、また、責任ある持続可能な方法でのビジネス展開を提唱しています。

### サプライヤーのESG管理

BYDは、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、国際労働機関(ILO)、経済協力開発機構(OECD)、責任ある企業同盟(RBA)などの組織が定めたガイドラインやその他規制を遵守しています。こうした原則に基づいて、「BYDサプライチェーンESG管理規定」などの社内方針を策定し、労働基準や労働安全衛生、環境管理などの要求事項をサプライヤーに明示しています。また、サプライヤーのESGパフォーマンスについても継続的に評価を行っています。

2024年は、「BYDサプライヤー行動規範」を発行し、新規サプライヤーに対して「BYDサプライヤー行動規範」や「BYDサプライヤー反賄賂誓約書」などへの署名を求めました。また、新たに取引を開始したサプライヤーに対して現地監査を実施したところ、重大なリスク拒否項目は確認されませんでした。



#### ESGの側面

#### サプライヤーへの要求事項

##### 労働基準

サプライヤーは、中国およびその他の該当する国や地域の労働関連法規を遵守することが求められます。また、強制労働を禁止するすべての適用法令を遵守する必要があるほか、いかなる形態の強制労働も行わないこと、事業活動のいかなる段階においても児童労働を使用しないこと、従業員の結社の自由および団体交渉の権利を保障することを徹底しなければなりません。

##### 平等と多様性

サプライヤーは、従業員を公平に扱い、すべての従業員に対して平等な雇用機会と待遇を推進することが求められます。人種や肌の色、年齢、性別、民族、宗教、信条、その他類似の要因を理由とした差別が生まれないよう保障する必要があります。

##### 労働安全衛生

サプライヤーは、従業員に対して安全で健康的かつ汚染のない労働環境を提供することが求められます。職場の温度や騒音レベルといった物理的な条件が法的基準に適合していることを確保するとともに、職場における潜在的な危険を可能な限り最小限に抑える必要があります。

##### 環境保護

サプライヤーは、ISO 14001の要求事項を満たす管理体制を構築し、さらにそれを継続的に改善していくことが求められます。また、クリーンエネルギーの使用や資源の節約を優先し、製品に含まれる有毒物質や有害物質の管理に留意するとともに、自社の製品やサービスがEUのRoHS、REACH、POPsや米国のTSCAといった環境規制に準拠していることを確保する必要があります。

##### インテグリティマネジメント

サプライヤーは、BYDとの取引において、最高水準の誠実さと正直さを維持することが求められます。また、不当な利益を取得、保持、確保すること目的としたいかなる活動にも従事してはなりません。

##### 利益相反の回避

サプライヤーは、両当事者の利益を最大化するよう努めるとともに、従業員の個人的利益とBYDの利益との間で利益相反が生じないようにすることが求められます。利益相反の可能性が認められた場合には、その問題を事前に開示・報告し、これを回避する措置を積極的に社内で講じる必要があります。

当社は、「OECD 紛争影響および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデューディリジエンスガイドライン」(以下、「OECDガイドライン」)、「企業持続可能性デューディリジエンス指令」、そして中国金属・鉱物・化学品輸出入業者商工会議所(CCCMC)発行の「中国における責任ある鉱物サプライチェーン管理のガイドライン」に則って、責任ある鉱物調達管理体制を構築しています。この方針では、タンタル、スズ、タングステン、金などの主要原材料が含まれる製品を扱っている、あるいはそうした主要原材料を製造プロセスで使用しているサプライヤーに対して鉱物サプライチェーン調査を行い、サプライチェーンで使用される鉱物に関する製鍊所、精製所、鉱山が責任ある鉱物管理の要求事項を満たしていることを保障します。

2024年、鉱物調達の責任あるイニシアチブ(RMI)が提供する紛争鉱物報告テンプレート(CMRT)と拡張鉱物報告テンプレート(EMRT)をベースとして、「BYD重要鉱物サプライヤー向けデューディリジエンス質問票」を策定し、BYDと取引のあるサプライヤーに対してデューディリジエンスを実施しました。RMIによって認定された製鍊所と精製所の数は200を超えており、今後も、責任ある鉱物サプライチェーンのデューディリジエンスの範囲を拡大し、その仕組みを改善していくとともに、調査で確認された問題に対する是正措置計画の策定・監督を行っています。

また、今後は調達担当者を対象としたサプライチェーンのESG管理研修を順次開始していく、ESGの重要性に対する意識向上を図ります。これによって、サプライヤーの選定・管理時にサプライヤーのESGパフォーマンスを厳格に評価・監視できるようにし、サプライチェーンの持続可能な発展を推進していきます。

## > ESG管理体制研修

2024年は、持続可能かつ責任あるサプライチェーン管理に関するオンライン研修を実施しました。研修では、サプライチェーン管理におけるコンプライアンス要件、持続可能な調達システム(ISO 20400など)、紛争鉱物管理のプロセスや体制、サプライチェーンのデューディリジエンスといった内容を扱い、調達担当者は持続可能な調達方針や要件について理解を深めることができました。

## グリーン調達

BYDは常に、グリーン調達を実践しています。そのために、環境保護と資源の節約を調達活動に組み込んだ「グリーンサプライヤーとグリーン原材料」という、健全なグリーン調達体制を構築しています。また、循環型経済の発展を推進する取り組みの一環として、低炭素で効率的な輸送方法を探したり、梱包資材の使用を削減する取り組みも行っています。

## 調達の現地化

BYDは、現地サプライヤーと連携して発展していくことを非常に大切にしています。2024年は、タイ拠点を設立した直後に、現地サプライヤーとの交流イベントを開催し、当社の調達システムや方針の要件を紹介。コンプライアンスに則ったサプライヤーの事業運営を促進するとともに、サプライチェーンの現地化率を段階的に高めています。

### グリーン原材料

- 環境に優しい材料を使用して、有害物質の使用を削減する。例：自動車用プロアマットの素材は、ホルムアルデヒドを含まず環境に優しく、臭いもしないTPEへと、徐々に切り替えている。



### グリーンパッケージ

- 物流用梱包箱のリサイクルを推進する。例：バッテリーパック製品の輸送に使用している段ボール箱や木製梱包箱を、リサイクル可能なプリスター・ボックスに段階的に置き換え、資源の無駄を削減する。



### グリーンアセスメントの仕組み

- 材料特性に応じて、ISO 14001など関連するシステム証明書の提出をサプライヤーに求める。
- サプライヤーからの納入資材の検査において、有害物質プロセスマネジメント(HSPM)に該当する有害物質の有無、および環境管理物質基準への署名の有無を業績評価項目に組み込む。

### グリーン物流

- 低炭素海上輸送の推進など、環境に優しい輸送手段を活用する。

## > 世界規模のグリーン輸送ネットワークの構築

BYDは、世界規模のグリーン輸送ネットワークの構築を積極的に進めており、低炭素輸送という新たな時代への移行を加速させています。自社保有の輸送能力については、中国－欧州航路を運航する8隻のRORO船すべてに、クリーンなエネルギー源である液化天然ガス(LNG)を搭載しています。2024年は、BYDの輸出車両の12.4%がクリーンエネルギーを動力とする船舶で海外に輸送されました。パートナーの選定においても、クリーンエネルギーを使用しているサプライヤーを優先し、低炭素輸送の理念と共に実践しています。



クリーンエネルギーを搭載した船舶



## サプライチェーンの誠実性

BYDは、サプライチェーン全体において誠実で正直な体制を構築すべく継続的に取り組んでおり、サプライチェーン内の不正行為に対して一切を容認しないゼロトレランスの姿勢を維持しています。また、「BYDビジネスパートナー向けコンプライアンス管理規定」を策定し、ビジネスパートナーにも各社で汚職防止体制を構築するよう促しています。さらに、すべてのサプライヤーと「BYDサプライヤー反賄賂誓約書」を締結しています。こうした文書では、すべての従業員ならびにサプライヤーに対する要求事項と行動規範が明確に定められています。BYDの従業員およびその関係者、いかなる企業や個人(第三者を含む)に対しても、サプライヤーの従業員や第三者を通じて直接的または間接的に融資や贈答品、サービス、その他支払いなど、金銭的あるいはその他の利益を提供する行為は禁止されています。

当社では、調達における主要プロセスやリスクポイントを中心に、誠実性・不正リスクを防止・管理する施策を積極的に講じています。調達プロセスを明確化して主要な調達プロセスにIT管理を導入することで、効率的で透明性の高い調達を実現し、調達に関わるすべての従業員に対しても、規定に基づいてポジションのローテーションを行うとともに、誠実性に関する研修を実施しています。



### コンプライアンス研修

誠実さは、調達業務における基本的な規律です。2024年、誠実性に対する調達チームの意識強化を図るべく、コンプライアンス研修を立ち上げました。グループの誠実性やコンプライアンスの方針を詳しく説明し、事例を共有することで、調達担当のスタッフが当社の誠実な文化や関連する規則について理解を深められるよう支援しています。この研修は、調達担当者が常に警戒心を忘れることなく、心の防衛線を強化するとともに、揺るぎない誠実性を持って業務にあたるよう彼らを導いています。

サプライヤーに対しても、私たちはサプライヤー会議などを通じて企業倫理研修や広報活動を積極的に行ってています。春節や端午節といった重要な時期には、正直さと誠実さに対するサプライヤーの意識を高めるべく、サプライヤー各社に「BYDパートナーへの手紙」を送り、公正で透明性の高いサプライチェーンシステムの構築に努めています。

BYDのサプライチェーン内で汚職を発見した場合や、サプライチェーンに関連する苦情の申し立てを行なう場合は、[cgcts@byd.com](mailto:cgcts@byd.com)までメールでご連絡ください。苦情の対応については、プロセス全体で厳格な機密保持を徹底しています。苦情を申し立てた当事者や有効な情報を提供した個人に対するいかなる形の報復も厳格に禁止されています。これに違反した者は、会社の方針に従い厳正に処分されます。また、法律に違反した者は法的責任を問われます。



# 06

## より良い未来を実現する社会のための テクノロジー

BYDは創業以来、強い社会的責任感を軸に事業を進めてきました。そのため、社会的責任を開発戦略に組み込み、堅実な経営を行いながら、地域社会への影響を注意深く監視するとともに、世界各地で社会的責任の取り組みに積極的に参加して、具体的な行動で持続可能な発展を推し進めています。当社の取り組みは、雇用創出、農村振興の支援、都市交通の改善、弱い立場にある人々の支援、インクルーシブな教育と医療の推進、災害救援と復興への参加、環境保護の提唱など、多岐にわたります。こうした地域活動や慈善活動を通じて、当社の思いやりの心とポジティブな姿勢を広め、地域社会に対する責任と貢献を示しています。私たちは、みんなで協力して取り組んで思いやりの気持ちを広げ、より多くの人々に前向きな変化を届けていくことで持続可能で豊かな未来の実現に貢献できると確信しています。

この章の目標と指標

SDGs



HKEX ESG報告コード

GD-B8、KPI-B8.1、KPI-B8.2

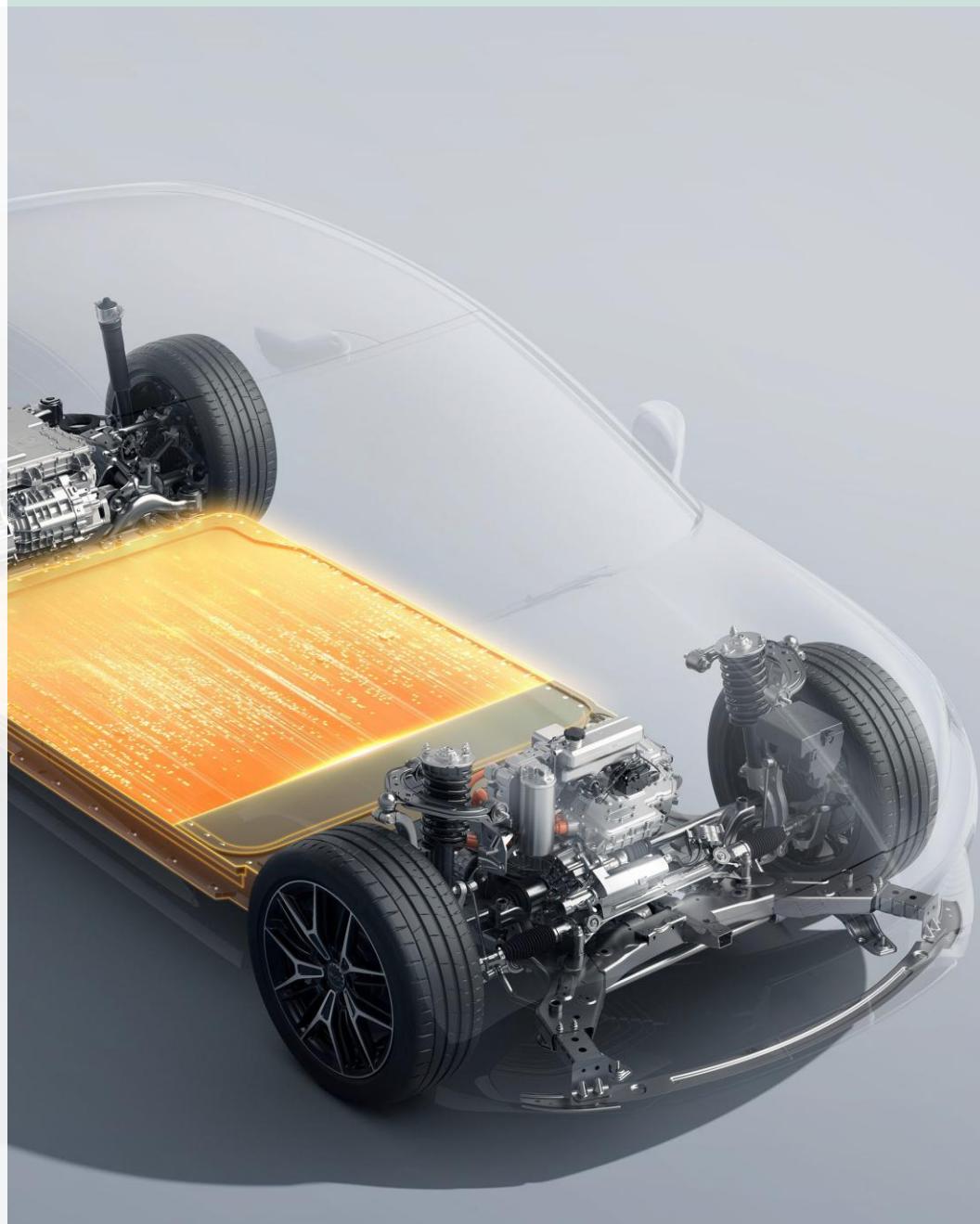
SZSEガイドライン

農村振興、社会貢献 ESRS

S3-1、S3-2、S3-3、S3-4、S3-5

GRIスタンダード

203-1、203-2、413-1、413-2



## コミュニティへの影響

BYDは、生産・販売・サプライチェーンの広範なネットワークを世界中に構築し、バリューチェーンに関わる多くのコミュニティに大きな影響を与えています。また、ビジネスと地域社会の重要なつながりを深く理解しており、持続可能な発展を追求する中で一貫して地域社会の福祉に重きを置いています。雇用と収入を創出し、テクノロジーを活用し、知識を広め、資源を提供することで、私たちは地域社会の成長と発展を促進し、ポジティブな影響力を広げています。また、これとあわせて、地域社会に及ぼす可能性のあるネガティブな影響に常に注意を払い、地域社会と積極的にコミュニケーションを取っています。リスク管理についても、さまざまな対策を講じることで経済的利益と環境的・社会的責任との調和のとれたバランスを確保しています。こうした取り組みにより、持続可能な発展に向けた世界的な課題を全面的に支持しています。

### コミュニティ管理とコミュニケーション

BYDは、持続可能性戦略の中心にコミュニティ管理を据え、コミュニティ管理方針の策定を積極的に進めています。地域社会における影響やリスク、機会を特定・評価・管理する体系的な仕組みを通じて、企業の成長と地域社会の利益が調和して共に発展していく関係を育んでいます。

私たちは、地域社会に及ぼす可能性のあるリスクを重視し、悪影響を最小限に抑えることを原則として事業活動を行うよう努めており、多くの分野で規制を上回る基準を採用しています。工場の立地選定にあたっては、風向きや頻度、風速、地形などを慎重に評価し、合理的なレイアウト計画を行うことで、不利な影響を効果的に防いでいます。また、生産や運営の全過程において環境への成果を改善すべく、技術の向上に常に取り組んでいます。深刻な影響については、さまざまな報告チャネルを設置し、影響を受けた地域社会の方がホットラインやメール、WeChat公式アカウント、公式サイトを通じて不正行為や違反を通報できる体制を整えており、通報があった場合には、適切な是正措置を講じます。通報制度の詳細については、「[第1章 ガバナンスの誠実性と事業開発を支える信頼性](#)」をご覧ください。

当社は、包括性、平等、思いやり、調和を体現するコミュニティづくりに取り組んでいます。事業の成長とコミュニティ文化の充実を融合させ、地域社会の生活に積極的に関与し、人権を守り、誰でも利用できる開かれた各種チャネルを通じて寄せられる声に対応しています。こうした取り組みにより、事業活動が地域社会のニーズと密接に結びつくようにしている他、さまざまなコミュニティグループの声や提案に真摯に耳を傾け、一般公開日やホットライン、SNSなど、複数のコミュニケーション手段を用いて地域の皆さんと効果的に交流しています。こうした仕組みの効果を確保するため、地域の方々からの要望には問題追跡システムで迅速に対応しています。地域の皆さまの要望を尊重し、適切に応えていくため、国内外の法令を厳格に遵守してあらゆるグループの権利と利益の保護に努めつつ、コミュニケーションプロセスの改善に絶えず取り組んでいます。

2010年、BYDは全国規模の民間慈善団体であるBYD慈善基金を設立すべく、資金を寄付しました。「テクノロジーによる慈善事業」という理念のもと、同基金会はテクノロジーを活用した貧困地域の支援やテクノロジー製品による災害救援、教育の発展支援、社会的弱者の支援に取り組み、小さな灯で夢を照らしています。

2024年

グループの寄付額は  
29,965,000元に  
達しました。



### BYD深圳 "スカイシャトル" 2周年記念オープンデー

2024年12月28日、BYD深圳 "スカイシャトル" の開業2周年を記念して、「テクノロジー学習ツアー」と題した限定オープンデーを開催。地域住民100人の方々を招待し、"スカイシャトル" の技術やサービスを体験していただきました。コントロールセンターや整備工場の見学に加え、スタッフからの詳しい説明とともに深圳 "スカイシャトル" ならではの特別な乗車体験を通して、列車の正確な運行を支える高度な技術や細心の注意を払った保守・点検のプロセスについても包括的に理解されるとともに、グリーンでインテリジェントな移動手段の魅力を身をもって実感していただきました。

イベントでは、地域の皆さまと直接意見のやりとりを行う場を設け、"スカイシャトル" の安全性やインテリジェンスに関する質問にお答えしたり、意見や提案をいたわりました。オープンデーを開催したこと、地域社会とのコミュニケーションを強化できたほか、スマート交通ソリューションに対する地域の皆さまの理解をさらに促進することができました。また、グリーンモビリティやスマートシティ建設の概念についても、より深く浸透させることができました。



## インクルーシブ教育

教育は国の発展の土台であり、地域の繁栄や技術の進歩を支える源です。BYDは、社会貢献・慈善活動の新たな重点分野として「教育の慈善事業」に取り組んでいます。2024年12月30日、深圳本社で30億元規模の教育慈善基金の設立式を行い、大学生と一般の方々を対象とした教育慈善活動の支援を目的として、総額30億元を寄付する計画を発表しました。このうちの一部は、全国100を超える大学に奖学金を設立するために充てられます。この奖学金は、優秀な学生を評価し、教育を修了するための支援をすることを目的としたもので、それによって国家として多くの科学技術人材を育成することに貢献します。また、その他の一部は主要な科学技術博物館や博物館、学校などに新エネルギー車の構造模型を教育展示品として寄贈し、自動車技術やスマート製造への人々の関心を高め、グリーン技術の知識をより広いコミュニティに普及させることで、中国の科学・教育分野の発展を促していきます。

 > BYD奖学金プログラム

科学と教育を通じて中国を活性化させるという国家戦略に則って、大学の発展と人材育成をさらに支援するため、100以上の大学で「BYD奖学金」を設立しました。主な目標は、優秀な学生の意欲をかき立て、高等教育の発展を推進することです。2024年は、800人を超える優秀な在校生に奖学金を授与し、総支給額は1,620万元に達しました。これは、教育分野に対する当社の継続的な投資と社会的責任への取り組みを示すものであり、今後も奖学金の対象範囲を広げていき、技術革新と社会発展に知性と力で貢献できるような、革新性と実行力を備えた若い人材をさらに育成していきます。




BYD大学奖学金プログラムの設立式

 > 鄭州BYDスペース・新エネルギー車科学博物館で国慶節の科学教育・学習イベントを開催

2024年9月29日から10月7日にかけて、鄭州BYDスペース・新エネルギー車科学博物館にて国慶節(中国の建国記念日)に合わせた科学教育・学習活動を開催。鄭州第四中学校や鄭州労働組合連盟をはじめ多数の団体に来館していただきました。来館者は専門家のガイドのもと、エネルギーの進化について深く探し、新エネルギー技術を支える科学原理への理解を深めるとともに、インタラクティブな装置を使って最新の技術革新を体験するなど、新エネルギーの重要性をしっかりと理解していただきながら科学技術に対する学生の関心と熱意をかき立て、技術リテラシーをさらに高めるイベントとなりました。科学博物館の設立を通じて、私たちはグリーンな科学技術の知識を広め、イノベーション意識を育んでいくと同時に小中高生や大学生、あらゆる分野の人々をオープンな姿勢で歓迎し、優れた科学技術人材の育成を支援することで社会の発展やグリーンな未来を促進します。




鄭州BYDスペース・新エネルギー車科学博物館で開催された  
国慶節の科学教育・学習イベント

私たちは、農村で暮らす子どもたちの教育と成長に焦点を当て、彼らの素養教育の促進を積極的に支援しています。具体的な教育支援プログラムを展開し、希望とともに本を届け、子どもたちが夢を追いかけられるよう、その道筋を照らしています。



### > 雲南省箇旧市の農村部の子どもたちを対象とした読書支援プログラム

2022年以降、私たちは福建省担当者行動教育基金会に資金を拠出し、農村部の子どもたちを対象とした読書支援プログラムに協賛することで農村地域の教育の発展を目指しています。報告期間の終了時点でのこのプログラムは第3期まで展開。合計で328クラス分の読書コーナーを学校に寄贈し、822人の教師と12,700人の生徒がその恩恵を受けています。2024年は、雲南省箇旧市の学校に151クラス分の読書コーナーを寄贈。農村部の子どもたちに豊富な読書資源とより良い読書環境を提供しました。今後も農村教育の取り組みを続け、農村部の子どもたちにより明るい未来への道を照らせるよう、具体的な支援を提供していきます。



農村部の子どもたちを対象とした読書支援プログラム



### > 中国のサッカーボーイズ公益プロジェクト

2024年、BYDがUEFA EURO 2024™のオフィシャルパートナーになったことをきっかけに、中国農村部に暮らす夢と才能あふれる子どもたちに新たな可能性を切り開くことを目的としたサッカーボーイズ公益プロジェクトを立ち上げました。元中国代表・孫繼海(孙-チハイ)氏の青少年育成プログラム「未来の人材選抜」との連携により、貴州省の興仁、普安、大方、遵义、陝西省の留壩、寧陝、遼寧省の大連から100人の若手サッカー選手を募集し、サッカー研修を目的とした6日間にわたるヨーロッパ遠征を実施しました。子どもたちは欧州選手権の開会式で世界最高峰の大会の雰囲気を体験しただけでなく、TSV 1860ミュンヘンやTSV 1860ローテンハイム・ユースなどのクラブと交流・親善試合を3試合行いました。子どもたちに世界トップクラスの国際サッカーの世界を体験する機会を与えるだけでなく、夢を追いかけ、自分の限界を超えていこうという意欲も芽生えさせるプログラムとなりました。



慈善プログラム「中国サッカーユース」

## 地域振興

私たちの生産活動と事業運営は、特に発展途上地域の経済成長を活性化することで、地域社会に大きな恩恵をもたらしてきました。地域と連携して特別就職フェアを開催し、雇用を積極的に促進とともに、研究開発や生産、販売などの職を地域の人々に提供しています。また、地域の人々の雇用可能性と競争力を高めるために職業訓練を積極的に提供するなど、経済を活性化することで地域社会の生活水準を押し上げています。当社は、世界各地の工場で現地生産チームを組織し、発展途上の地域に住むより多くの人々が質の高い雇用資源にアクセスできるよう支援しています。加えて、幅広い研修プログラムを実施して従業員の専門技術の向上に努め、地域の経済や社会の発展を支えています。



### > 現地雇用と産業発展を促進する鄭州BYD

2023年に鄭州空港経済区にBYD車両基地を開設して以来、当社は大規模な採用活動を何度も行っています。2024年の採用実績は数万人規模で、2025年初めにも2万人を採用する予定です。これにより、地域の雇用水準が大きく向上するほか、高賃金の仕事を通じて労働配当を省内にとどめることで地域消費と経済成長を直接的に促進します。現在、同工場の従業員の90%以上が鄭州とその周辺都市の出身です。鄭州BYDの本格稼働に伴い、数十社の関連部品会社が現地に誘致され、新エネルギー車の産業クラスターが急速に形成されました。河南省の製品適合率は約55%に達しており、上流・下流の産業チェーンの発展を牽引しています。関連する仕事も間接的に創出しているほか、精密製造や部品供給などの分野で地元企業の技術向上を促進しています。さらに、「鄭州BYDスペース」を通じて、業界フォーラムや技術交流会、地域の人を対象としたオープンデーなどを定期的に開催。地域の企業や学校、住民を招いて新エネルギー産業の発展方向について議論を行い、産業技術革新の成果を展示し、グリーン開発という理念を広める場を提供しています。



### > ブラジルの女性起業支援プロジェクト

2024年、BYD BrazilとSolar Kitsは、カンピーナス市、女性参考・支援センターとビジネスフェアを共同で6回開催し、地元の女性起業家の皆さんに展示や販売の場を提供しました。展示品には、彼女たちが自ら手がけた手工芸品や食品もありました。これにより、女性起業家の皆さんにビジネスチャンスが生まれ、市場チャネルの拡大や経済的自立の強化につながりました。こうしたイベントによって、地域経済の発展や中小企業の成長を促進するとともに、実践的な取り組みを通じて女性の起業支援を進め、地域社会との結びつきも一層強化することができました。



ブラジルの女性起業支援プロジェクト

BYDは、農村の振興や建設に積極的に参加し、国内外の太陽光発電市場を継続的に開拓するとともに、遠隔地の豊富な太陽エネルギー資源を効率的に開発・利用する取り組みを絶えず推進しています。遠隔地におけるエネルギー・ミックスの改善支援として、革新的なモデルを通じて地域産業と太陽光発電産業の融合を促進し、地域住民に安定した収入源を提供。生態環境が改善され、地域住民の経済的機会がより多様化とともに生活の質も向上し、農村振興と共同富裕の実現に向けてグリーンな推進力がもたらされました。



### > 雲南省永勝県の太陽光発電型ポンプステーションプロジェクト

雲南省永勝県では、天然資源の過剰開発により土壌が浸食され荒廃が進み、多くの村人が生計のために出稼ぎに出していました。BYD Solarは、太陽光発電を利用したポンプステーション（水の汲み上げ施設）を永勝県に30基建設し、金沙江沿いにある大安、順州、桃園、片角、魯地拉、仁和という6つの郷に水を供給しています。これにより、金沙江两岸の村民が抱えていた給水問題が解消され、灌漑面積は2,000ヘクタール以上へと拡大・改善。かつては何も育たなかった山々は、柑橘類やマンゴー、ブドウといった果物の栽培基地へと生まれ変わり、村民の収入も大きく伸びました。このプロジェクトによって、毎年1,039万kWhのクリーンな電力が供給され、標準石炭3,325トン分の排出削減につながっています。BYD Solarは、「農業と太陽エネルギーの相互補完」という新モデルを推進し、生態系の改善や特色ある農業の発展を後押しするとともに、地域住民にグリーン発電の恩恵をもたらしています。また、エネルギー構造の調整、農村振興、共同富裕を促進する上でも大きな意義があります。

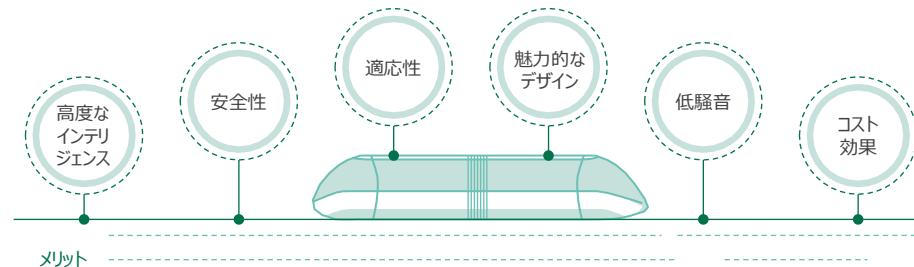


雲南省の太陽光発電型ポンプステーション

## 都市部における交通渋滞の緩和

都市部の交通渋滞という深刻化する課題を受け、BYDは科学技術のイノベーションを通じてグリーンで便利な移動手段を創出するとともに地域社会に実践的な解決策を提供しています。都市部の交通状況や住民の生活の質を改善することを目指し、すべての街がより住みやすく、より円滑な移動が実現できるよう取り組んでいます。

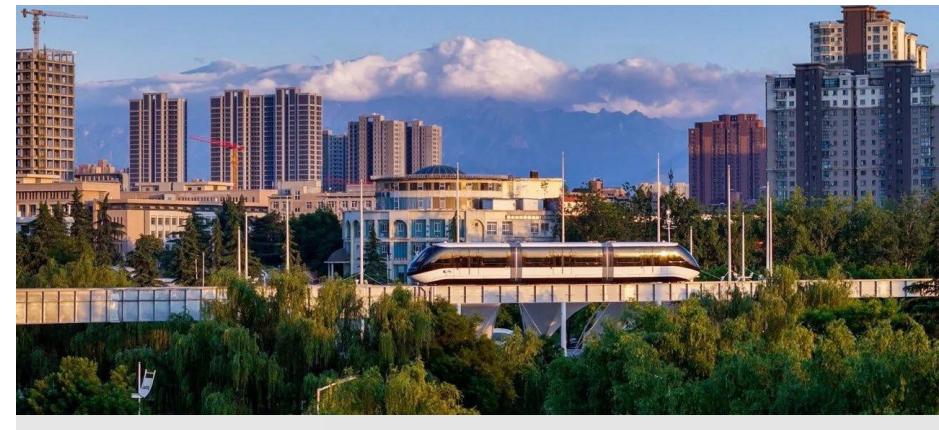
当社は、統合イノベーションの力を活かし、鉄道輸送分野と新エネルギー車分野へ戦略的に事業を拡大しています。その一環として、「スカイレール」や「スカイシャトル」といったグリーンでインテリジェントな輸送ソリューションを展開し、中国の鉄道輸送構造の多様化を図るとともに、さまざまな輸送能力の調和ある発展を促進しています。特に「スカイシャトル」は、専用の軌道を持っているために道路の制約を受けず、高度なインテリジェンス、安全性、適応性、魅力的なデザイン、低騒音、コスト効果といったメリットを備えており、さまざまな都市のニーズや特定の利用シーンに合わせて導入できるため、全国各地の多くの都市で力強い成長を遂げています。都市部の公共交通機関を効果的に補う手段として、「スカイシャトル」は住民の移動体験を最適化するとともに、排出量を削減することで地域環境の質の向上にも寄与しています。



「電気自動車で大気汚染に立ち向かい、「スカイレール」や「スカイシャトル」で渋滞を緩和する」グリーン輸送ネットワークを構築することで、私たちはカーボンニュートラルの目標達成に貢献するだけでなく、都市部の交通渋滞やミクロ交通の循環に対するソリューションも提供しています。こうした取り組みによって、すべての移動が「テクノロジーで暮らしを良くする」というBYDのミッションを体現しています。

### BYD西安 "スカイシャトル"

全長約17.202キロメートル、18の駅と専用の車両基地が1つあるBYD西安 "スカイシャトル" は、2024年8月12日に正式運行を開始して以来、街の新たなランドマークとなっています。運行開始後の最初の1週間で、利用者数は合計で22万2000人以上を記録しました。報告期間の終了時点で、累計利用者数は300万人を突破。1日の平均利用者数は26,000人、1キロメートルあたりの利用者数は1日1,500人となっています。「スカイシャトル」が登場したこと、市の低炭素のイメージが上がっただけでなく、ハイテクゾーンのさまざまな産業部門も活性化されました。街の人々に便利で効率的な移動手段を提供する "スカイシャトル" は、都市部の交通網の改善に大きく貢献しています。



西安 "スカイシャトル"

## 社会的弱者への支援

BYDは常に、弱い立場にあるコミュニティのウェルビーイングと発展を重視しています。経済的支援を通じて、不利な立場にある人々が基本的な生活ニーズを満たし、生きるための土台と成長の機会を確保できるよう取り組んでいます。一方で、助けが必要な人々の問題解決能力を高めることで、彼らが社会にうまく溶け込み、自己価値を実現できるよう支援しています。私たちは、誰もが尊厳と幸福を享受できる、よりインクルーシブで思いやりのある社会の実現に取り組んでいます。



> BYD脳性麻痺児のための大いなる愛と誠実支援プログラム

「BYD脳性麻痺児のための大いなる愛と誠実支援プログラム」は、困難な状況にある脳性麻痺児とその家族をサポートとともに、非政府機関に対しても専門サービス力の向上や組織の成長促進を支援するプログラムです。2024年は、成都、南寧、北京、岳陽のリハビリ機関にて計34人の子どもたちのリハビリ訓練の支援を行ったほか、インクルーシブをテーマにした5つの活動も後援。こうした子どもたちに対する一般の人々の理解を深め、必要なケアや支援をより多く受けられる体制を整えました。同プログラムではこれまで、累計で1,067人の子どもたちを支援しています。



BYD脳性麻痺児のための大いなる愛と誠実支援プログラム



> 惠州市障がい者向け雇用訓練プログラム

地域では失業者の多くが専門的な技能を持たず、再就職が困難な状況にあります。の中でも、障がいのある失業者は、個人や家族の生活面でとりわけ大きなプレッシャーに直面しています。そこで当社は、障がいを持つ失業者の生活水準を高め、より尊厳のある生活を送れるようにするために、惠州市に住む23人の障がい者を対象に、専門的な家政技能研修プログラムを開始しました。このプログラムは、障がいを持つ失業者が実践的な技能を身につけることで就業の機会を広げ、自信を取り戻し、よりスムーズに社会に溶け込めるよう支援することを目的としています。



# 社会福祉

BYDは、慈善活動を事業開発の中核に組み込むことで、地域社会への貢献に常に取り組んでいます。災害の救援や復興、医療分野への寄付、社員によるボランティア活動、環境保護活動など、さまざまな取り組みを通じて社会の進歩と発展を支えています。私たちは、支援を必要とするすべての人にケアと希望を届け、ポジティブなエネルギーと社会的責任を伝えています。私たちが行う一つひとつの親切な行いは、社会と共に歩む私たちの道のりを反映したもので、より思いやりにあふれ、持続可能な未来への貢献を示しています。

## 災害の救援と復興

BYDは、自然災害に迅速に対応し、困難な時期にある被災地域に寄り添った取り組みを行っています。経済的支援を提供し、専門家と連携して、深刻な自然災害や公衆衛生上の問題に見舞われた地域を支援しています。緊急対応や移転・再定住、被災者のケア、復興活動への参加といった取り組みを行い、災害救援から復興段階に至るまで、具体的な行動で当社の姿勢を示し、我々の支援と力が必要とされるすべての地域に届くよう努めています。

### > ベトナム、台風「ヤギ」被災地への寄付

2024年、台風3号(ヤギ)が、ベトナム北部に壊滅的な暴風と豪雨をもたらし、甚大な経済的損失と人的被害を引き起こしました。上流の水門が開かれたことによって紅河の水位が急激に上昇し、肥沃な農地や村が次々に水没して多くの道路や橋が破壊されるなど、地元住民に深刻な被害をもたらしました。この危機的な緊急事態に対応するべく、BYDは12億ベトナムドン<sup>19</sup>を直ちに現地の緊急救護活動へ寄付し、インフラ復旧、被災者への緊急物資の支給などを支援しました。この迅速な支援は、被災者の安全と健康を守るものであり、また、社会的責任と人道主義を世界規模で実践していくという強い覚悟の表れでもあります。



ベトナム、台風「ヤギ」被災地への寄付

<sup>19</sup> 2回にわたり行われた寄付の総額。1回目は2億ベトナムドン、もう1回は10億ベトナムドン

## 医療分野への寄付

BYDは医療の発展にも力を入れており、寄付などの支援を通じて、医療研究の進歩、技術革新、公衆衛生の向上に積極的に貢献しています。医療機関との緊密な連携は、医療インフラの構築にとどまらず、重篤な疾患の研究、早期診断、治療法のブレークスルーの支援にも及んでおり、先進的な治療を提供することで患者の生活の質を高めることを目指しています。当社の医療分野への寄付活動は、病気の予防、医学研究、治療法の革新など多岐にわたり、血液疾患やその他の重篤な病気の治療や研究といった、特に支援が必要な分野にも積極的な役割を果たしています。医療技術の発展を推進するとともに、より多くの患者に新たな希望とより健やかな未来を届けたいと考えています。

### > 血液学研究センタープロジェクト

2022年以降、北京大学深圳医院の血液学研究センターの設立支援として、BYD基金会は、BYDのA株を合計50万株(寄付時の市場価値で約1億6,000万元相当)を寄付する計画を立てています。この取り組みは、血液疾患の診断と治療の進歩を目的としたもので、新しい技術や革新的な治療法の研究を継続的に行い、より多くの患者が高度な医療を受けられるようにすることを目指しています。2024年、同基金会は株式を売却して同病院に2度目の寄付を行いました。この活動を通じて、中国国内の医療研究に貢献するだけでなく、血液疾患に苦しむ人々に新たな希望をもたらします。



血液学研究センター

## 従業員のボランティア活動

BYDは、ボランティア活動に積極的に参加するよう、全社員に呼びかけています。これは、一つひとつの親切な行いを積み重ねることで社会に良い影響をもたらし、企業としての社会的責任を果たすという当社の信念を伝えるものです。当社はこれまで、さまざまな慈善活動を行ってきました。報告期間の終了時点で、全国16か所にボランティア活動拠点を設立。6,988人以上の従業員がボランティアとして登録しており、活動時間は40,000時間以上と、当社従業員の社会的責任感と慈善活動の取り組みが、こうした数字に表れています。

2024年は、献血やチャリティー販売会など、さまざまなボランティア活動を積極的に支援・推進しました。こうした献身的な活動を通じて、当社従業員は社会に貢献するとともに、地域社会のあらゆる層に思いやりと支援を提供しました。また、こうした取り組みでは、社会の発展を推進する上のBYD社員の強い結束も際立っています。



### > 献血バスによる団地内の献血活動

2024年3月13日、BYDの人事部は深圳血液センターと協力し、「献血バスで献血」という献血活動を実施しました。BYD宝龍工業団地では、従業員らが実際の行動で慈愛と責任を示し、約60人の従業員が献血に参加。累計献血量は17,100mlに達し、BYD従業員の「大きな愛」がしっかりと示されました。宝龍工業団地の従業員が社会貢献への呼びかけに積極的に応えた今回の活動は、団結と助け合いの精神を表しています。今後も、さまざまな社会貢献活動を展開し、より多くの社員に参加を呼びかけるとともに、社会の調和と発展と共に貢献していきます。



献血ボランティア



## 環境啓発

“TECHNOLOGY GREEN FUTURE”をブランドのコンセプトとするBYDは、自動車の研究開発や製造に深く関わると同時に、環境保護責任にも真摯に向き合っています。「ライトチェイサープログラム」や「グリマープログラム」といった活動を通じて環境保護の取り組みを先導し、より多くの人々に生態系保護活動に参加してもらえるよう促しています。

より幅広い人々に参加してもらえるよう、BYDでは、さまざまなレベルやチャネルを持つ革新的なコミュニケーション戦略を導入しています。私たちは、デジタルプラットフォームと双方向コミュニケーションモジュールを組み合わせることで、活動の影響力を高めるとともに、幅広い層の人々に行動を促しています。さらに、活動の中で専門家や学者、業界の先駆者を招いて貴重な知見を共有してもらい、専門性と信頼性を高めるだけでなく、より多角的に考える視点を一般の人々に提供しています。当社は、環境哲学を日常生活に深く取り入れることで天然資源や生態系保全に対する社会の意識を大きく高めるとともに、より多くの人に参加してもらえるよう促しています。また、テクノロジーと実践的な取り組みを活用することで、持続可能な発展を推進し、力をあわせて澄んだ空と豊かな緑を守っています。



### > 雲南省「グリマープログラム」

2024年8月3日、BYD CLUBの「グリマープログラム」では、雲南省昆明市の西山森林農場にて「森林再生」をテーマとした社会貢献活動を実施しました。専門家を招き、ボランティアと共に火災で被害を受けた土地の生態変化を観察し、生態系連鎖の再構築の神秘を探るべく、生態修復を支援する取り組みとして、地下に出ている芽がないか探す、種子バンクを選別する、在来植物を植える、外来種を駆除するといった実践的な活動を行い、在来植物の生態的地位の回復を助け、森の生物多様性の回復を促しました。活動は、「足跡のない山林」というコンセプトで行われ、ボランティアらは、森のごみを回収し、焼失エリアを元の姿に戻すとともに、森の生態系保護を呼びかける看板を手作りし、長く残る“守護の印”を刻みました。山林の生態系回復に勢いをもたらしただけでなく、環境保護に対する人々の関心と主体性を呼び起こし、かすかな光(グリマー)で緑の希望を照らす活動となりました。



雲南省「グリマープログラム」



## 付録I：主要業績評価指標

### 経済

#### 創出、分配した経済価値

指標	単位	2024年
営業収益	千元	777,102,455
親会社株主に帰属する純利益	千元	40,254,346
国内納税総額	億元	510

#### 間接的経済影響

指標	単位	2024年
地域投資・社会貢献活動		
グループ寄付支出	元	29,965,000
ボランティア活動に参加した従業員の総数	人	6,988
従業員によるボランティア活動の総時間	時間	41,227.76

### ガバナンス

#### コンプライアンス実績

指標	単位	2024年
汚職防止研修		
取締役1人あたりの汚職防止研修の平均受講回数	回	6
取締役1人あたりの汚職防止研修の平均受講時間	時間	6
汚職防止研修を受講した取締役の人数	人	1
取締役のうち汚職防止研修を受けた者の割合	%	16.67
従業員向け汚職防止研修の実施回数	回	737
従業員向け汚職防止研修の実施時間	時間	392,631.64
新入社員のうち汚職防止研修を受けた者の割合	%	100
商業賄賂・汚職事件		
汚職により解雇となった従業員数	人	49
汚職や贈収賄に関連する違反により契約を解除された、または更新されなかった取引先の数	社	16

## 環境

指標	単位	2024年
<b>企業倫理違反</b>		
利益相反違反件数	件	0
<b>法的手続き</b>		
当社または当社従業員に対する汚職訴訟の終結件数	件	15
反汚職法・反贈収賄法違反による有罪判決件数	人	24
不正競争行為に関連する、係争中または既に終了した訴訟件数または重大な行政処件数	件	0
支払遅延に関する係争中の法的手手続き件数	件	0

## エネルギー

指標	単位	2022年	2023年	2024年
エネルギー総消費量	MWh	10,618,556.88	16,592,592.44	23,552,569.28
	tce	1,248,158.93	1,943,239.48	2,734,284.57
<b>直接エネルギー(非再生可能)消費量</b>				
直接エネルギー(非再生可能)	MWh	2,703,036.88	4,568,632.44	7,595,478.82
総消費量	tce	275,341.52	465,494.79	773,158.15
直接エネルギー(非再生可能)	MWh / 売上1万元	0.0637	0.0759	0.0977
原単位	tce / 売上1万元	0.0065	0.0077	0.0099
<b>直接エネルギー(非再生可能)区分別</b>				
ガソリン消費量	10,000リットル	283.78	613.37	223.01
ディーゼル消費量	10,000リットル	24.93	17.95	150.46
天然ガス消費量	10,000 m³	24,730	41,707	69,905

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<strong>間接エネルギー(非再生可能)消費量</strong>				
間接エネルギー(非再生可能)消費量	MWh	7,768,859.60	11,473,335.10	13,196,208.48
間接エネルギー(非再生可能)原単位	tce / 売上1万元	0.1832	0.1905	0.1698
電力消費量	MWh	7,768,859.60	11,473,335.10	13,196,208.48
<strong>間接エネルギー(再生可能)消費量</strong>				
間接エネルギー(再生可能)消費量	MWh	146,660.40	550,624.90	2,760,881.98
間接エネルギー(再生可能)原単位	tce / 売上1万元	18,024.56	67,671.80	339,312.40
間接エネルギーに占める再生可能エネルギーの割合	%	1.85	4.58	17.30

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<strong>間接エネルギー(再生可能)区別</strong>				
グリーン電力	MWh	—	—	467,696.88
グリーン証書	MWh	104,707.00	508,000.00	2,237,986.00
パーク型太陽光発電	MWh	41,953.40	42,624.90	55,199.10
<strong>水資源</strong>				
指標	単位	2022年	2023年	2024年
総取水量	m <sup>3</sup>	51,107,571	73,807,222	94,268,627
総排水量	m <sup>3</sup>	40,052,042	51,739,770	38,950,920
総水消費量	m <sup>3</sup>	11,055,529	22,067,452	55,317,707
水消費量原単位	m <sup>3</sup> / 売上1万元	0.2607	0.3664	0.7118
<strong>水源別</strong>				
自治体の給水量	m <sup>3</sup>	51,107,571	73,807,222	94,268,627
<strong>用途別</strong>				
生活用水	m <sup>3</sup>	—	—	20,184,379
工業用水	m <sup>3</sup>	—	—	72,393,926
その他の用途	m <sup>3</sup>	—	—	1,690,322
<strong>排水区別</strong>				
産業廃水総量	m <sup>3</sup>	5,838,902	11,087,490	22,803,418
生活排水総量	m <sup>3</sup>	34,213,140	40,652,280	16,147,502

## 資材

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>梱包資材の使用量</b>				

梱包資材の総量	トン	906,044	1,008,980	梱包資材データの精度をさらに上げるため、2024年に梱包資材調達システムのアップグレードと調整を行いました。本レポート発行時点で、2024年の梱包資材データは集計中の状態で、2025年に開示予定です。
梱包資材原単位	トン / 売上 1万元	0.0214	0.0168	

## 排出

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>温室効果ガス排出<sup>20</sup></b>				
スコープ1 温室効果ガス排出量	tCO <sub>2</sub> e	550,932.00	931,916.00	1,539,251.46
スコープ2 温室効果ガス排出量	tCO <sub>2</sub> e	7,511,038.00	11,409,539.00	8,562,574.74
スコープ1+スコープ2 温室効果ガス排出量	tCO <sub>2</sub> e	8,061,970.00	12,341,455.00	10,101,826.20
温室効果ガス排出原単位 (スコープ1+スコープ2)	tCO <sub>2</sub> e / 売上1万元	0.1901	0.2049	0.1300
スコープ3 温室効果ガス排出量 <sup>21</sup>	tCO <sub>2</sub> e	—	—	3,326,312.49
温室効果ガス総排出量 (スコープ1+スコープ2+スコープ3)	tCO <sub>2</sub> e	8,061,970.00	12,341,455.00	13,428,138.69
温室効果ガス排出原単位 (スコープ1+スコープ2 +スコープ3)	tCO <sub>2</sub> e / 売上1万元	—	—	0.1728

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>スコープ3 温室効果ガス排出量区分別</b>				

スコープ3 温室効果ガス排出量(従業員の出張) <sup>22</sup>	tCO <sub>2</sub> e	—	—	158,970.51
スコープ3 温室効果ガス排出量(従業員の通勤) <sup>23</sup>	tCO <sub>2</sub> e	—	—	383.80
スコープ3 温室効果ガス排出量(燃料・エネルギー関連活動) <sup>24</sup>	tCO <sub>2</sub> e	—	—	3,166,958.18

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>排出ガス</b>				
排出ガス総量	10,000 m <sup>3</sup>	9,614,336.42	13,127,537.00	47,290,488.00
排出ガス排出原単位	10,000 m <sup>3</sup> / 売上1万元	0.2267	0.2180	0.6085
<b>排出ガス区分別</b>				
窒素酸化物排出量	トン	—	—	2,864.40
硫黄酸化物排出量	トン	—	—	59.90
浮遊粒子状物質排出量	トン	—	—	2,674.40
アンモニア排出量	トン	—	—	127.80
揮発性有機化合物(VOC)排出量	トン	492.01	437.42	887.40

<sup>20</sup> 温室効果ガス排出量を算定する際のエネルギー排出係数は、「2006年IPCC国別温室効果ガスインベントリガイドライン 2019年改訂版」を参考。購入した電力の排出係数は、2022年の全国電力平均CO<sub>2</sub>排出係数である0.5366 kgCO<sub>2</sub>/kWhを参照

<sup>21</sup> スコープ3 温室効果ガス排出量には、BYD従業員の出張、通勤、燃料、エネルギー関連活動による温室効果ガス排出量が含まれる

<sup>22</sup> スコープ3 温室効果ガス排出量(従業員の出張)には、BYD従業員が鉄道や飛行機などで出張に行く際に発生する温室効果ガス排出量が含まれる。排出係数は、Ecoinvent3.11のデータベースを使用

<sup>23</sup> スコープ3 温室効果ガス排出量(従業員の通勤)には、BYDが所有する通勤バスから発生する温室効果ガス排出量が含まれる。排出係数は、Ecoinvent3.11のデータベースを使用

<sup>24</sup> スコープ3 温室効果ガス排出量(燃料・エネルギー関連活動)には、BYDのエネルギー調達・輸送・流通に関連する温室効果ガス排出量が含まれる。排出係数は、Ecoinvent3.11のデータベースを使用

指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>水質汚染物質排出</b>				
COD総排出量	トン	451.53	719.41	4,047.00
BOD総排出量	トン	—	—	2,509.04
アンモニア態窒素総排出量	トン	41.51	56.22	269.80
フッ素総排出量	トン	—	—	225.20
<b>廃棄物</b>				
指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>有害廃棄物の処理</b>				
有害廃棄物の総発生量	トン	71,740.93	118,381.00	150,460.92
有害廃棄物原単位	トン / 売上 1万元	0.0017	0.0020	0.0019
<b>非有害廃棄物の処理</b>				
非有害廃棄物の総発生量	トン	1,137,681.00	1,402,395.00	2,381,938.35
非有害廃棄物原単位	トン / 売上 1万元	0.0268	0.0233	0.0307
<b>非有害廃棄物の種類別</b>				
生活廃棄物総量	トン	108,948.00	104,578.00	227,988.10

指標	単位	2022年	2023年	2024年
産業廃棄物のうちリサイクルできないものの総排出量	トン	—	—	87,306.20
産業廃棄物のうちリサイクルできるものの総排出量	トン	1,028,733.00	1,297,817.00	2,066,644.05
<b>環境管理</b>				
指標	単位	2022年	2023年	2024年
<b>国際規格で認証された環境管理システムを有する企業の割合</b>				
ISO 14001国際規格で認証された環境管理システムを有する企業の割合	%	—	—	24.90
<b>環境規則の違反事案</b>				
汚染物質の排出により重大な行政処分または刑事責任が発生した事案	件	0	0	0
環境に関する重大な緊急事案	件	0	0	0
環境関連のインシデントにより、生態環境部門などの政府機関から重大な行政処分または刑事責任を問われた事案	件	0	0	0
環境や生態問題に関する重大な罰金事案	件	0	0	0

## 社会

### 従業員<sup>25</sup>

指標	単位	2024年
<strong>従業員数</strong>		
従業員数合計	人	968,872
<strong>事業所別</strong>		
中国本土の従業員数	人	948,090
香港、マカオ、海外の従業員数	人	20,782
中国本土の従業員の割合	%	97.86
香港、マカオ、海外の従業員の割合	%	2.14
<strong>男女別</strong>		
女性の人数	人	291,720
男性の人数	人	677,152
女性の割合	%	30.11
男性の割合	%	69.89
<strong>年齢別</strong>		
30歳以下の従業員数	人	421,451
30～50歳の従業員数	人	532,250

<sup>25</sup> 従業員は全員、フルタイムの正社員で、外部委託社員やパートタイム社員は含まれない。従業員の構成比 = 各カテゴリー(事業所、性別、年齢、民族、職位、労働時間、職種)の従業員数 ÷ 正社員雇用の従業員総数。サブカテゴリーの構成比 = 各カテゴリー内のサブカテゴリー(性別、民族)の従業員数 ÷ そのサブカテゴリーの従業員総数

指標	単位	2024年
<strong>50歳以上の従業員数</strong>		
50歳以上の従業員数	人	15,171
30歳以下の従業員の割合	%	43.50
30～50歳の従業員の割合	%	54.93
50歳以上の従業員の割合	%	1.57
<strong>民族別</strong>		
漢民族の従業員数	人	873,853
チワン族の従業員数	人	24,149
ミャオ族の従業員数	人	8,922
トウチャ族の従業員数	人	8,590
その他の民族(外国を含む)の従業員数	人	53,358
漢民族の従業員の割合	%	90.19
チワン族の従業員の割合	%	2.49
ミャオ族の従業員の割合	%	0.92
トウチャ族の従業員の割合	%	0.89
その他の民族(外国を含む)の割合	%	5.51

指標	単位	2024年
<strong>職位別</strong>		
上級管理職数	人	5,319
中級管理職数	人	181,303
一般従業員数	人	782,250
上級管理職の割合	%	0.55
中級管理職の割合	%	18.71
一般従業員の割合	%	80.74
<strong>勤務時間別</strong>		
所定労働時間が保証されている従業員の数	人	966,815
所定労働時間が保証されていない従業員の数 <sup>26</sup>	人	2,057
所定労働時間が保証されている従業員の割合	%	99.79
所定労働時間が保証されていない従業員の割合	%	0.21
<strong>職種別</strong>		
生産担当者の人数	人	762,998
営業担当者の人数	人	45,611
財務担当者の人数	人	2,151
技術担当者の人数	人	122,924

<sup>26</sup> 1日あたり、1週間あたり、1ヶ月あたりの最低または固定の労働時間が保証されていないものの、必要に応じて勤務を求められる従業員<sup>27</sup> 上級管理職と中級管理職

指標	単位	2024年
<strong>管理担当者の人数</strong>		
管理担当者の人数	人	35,188
生産担当者の割合	%	78.75
営業担当者の割合	%	4.71
財務担当者の割合	%	0.22
技術担当者の割合	%	12.69
管理担当者の割合	%	3.63
<strong>管理職<sup>27</sup> の従業員構成</strong>		
管理職の従業員総数		186,622
<strong>男女別</strong>		
女性	人	53,200
男性	人	133,422
女性の割合	%	28.51
男性の割合	%	71.49
<strong>民族別</strong>		
漢民族の人数	人	169,469
チワン族の人数	人	2,756
ミャオ族の人数	人	1,540

指標	単位	2024年
トウチャ族の人数	人	945
その他の民族の人数	人	11,912
漢民族の割合	%	90.81
チワン族の割合	%	1.48
ミャオ族の割合	%	0.83
トウチャ族の割合	%	0.51
その他の民族の割合	%	6.37
<b>初級管理職の従業員構成<sup>28</sup></b>		
初級管理職にある管理職の従業員総数	人	181,303
<b>男女別</b>		
女性	人	52,195
男性	人	129,108
女性の割合	%	28.79
男性の割合	%	71.21
<b>上級管理職(取締役を含む)の構成</b>		
上級管理職(取締役を含む)の総数	人	5,319
<b>男女別</b>		

<sup>28</sup> 中級管理職<sup>29</sup> 販売、マーケティング、生産、研究開発など、製品やサービスの成果に直接貢献する職種(人事、情報技術、法務などのサポート機能を除く)<sup>30</sup> Science, Technology, Engineering, Mathematics(科学、技術、工学、数学)

指標	単位	2024年
女性	人	1,005
男性	人	4,314
女性の割合	%	18.89
男性の割合	%	81.11
<b>収益創出機能を担う管理職の従業員構成<sup>29</sup></b>		
収益創出機能を担う管理職の従業員総数	人	929,033
<b>男女別</b>		
女性	人	268,852
男性	人	660,181
女性の割合	%	28.94
男性の割合	%	71.06
<b>STEM<sup>30</sup>関連職の従業員構成</b>		
STEM関連職の従業員総数	人	123,674
<b>男女別</b>		
女性	人	24,446
男性	人	99,228
女性の割合	%	19.77
男性の割合	%	80.23

指標	単位	2024年
<b>障がいのある従業員数</b>		
障がいのある従業員の総数	人	4,630
障がいのある従業員の割合	%	0.48
<b>男女別</b>		
女性	人	1,411
男性	人	3,219
<b>雇用</b>		
指標	単位	2024年
給与・解雇、採用・昇進、労働時間、休日、平等な機会、 多様性、差別禁止、その他雇用に関する事案の件数	—	0
<b>従業員離職率<sup>31</sup></b>		
従業員離職率	%	2.53
<b>事業所別</b>		
中国本土の離職率	%	2.54
香港、マカオ、海外の離職率	%	2.14

指標	単位	2024年
<b>男女別</b>		
女性従業員の離職率	%	2.09
男性従業員の離職率	%	2.35
<b>年齢別</b>		
30歳未満従業員の離職率	%	2.76
30～50歳の従業員の離職率	%	1.83
51歳以上従業員の離職率	%	0.61
<b>職位別</b>		
上級管理職の離職率	%	0.23
中級管理職の離職率	%	0.78
一般従業員の離職率	%	2.57
<b>従業員満足度とエンゲージメント</b>		
従業員満足度	スコア	73.06(100点満点)
従業員エンゲージメント	スコア	4.00(5点満点)

<sup>31</sup> 離職率 = (自己都合の年間退職者数 + 会社都合の年間退職者数) ÷ (自己都合の年間退職者数 + 会社都合の年間退職者数 + 年末時点の従業員数) × 12。カテゴリー別離職率 = そのカテゴリーの自己都合退職者数 ÷ (そのカテゴリーの自己都合退職者数 + そのカテゴリーの会社都合退職者数 + そのカテゴリーの年末時点の従業員数) × 12。

## 労働者の権利と利益

指標	単位	2024年
<strong>団体交渉協定</strong>		
団体交渉協定の対象となる従業員の数	人	697,746
団体交渉協定の対象となる従業員の割合	%	72.02
<strong>欧州経済領域</strong>		
スペインの団体交渉協定の対象となる従業員の数	人	54
フランスの団体交渉協定の対象となる従業員の数	人	56
スペインの団体交渉協定の対象となる従業員の割合	%	100
フランスの団体交渉協定の対象となる従業員の割合	%	100
<strong>欧州経済領域外</strong>		
中国本土の団体交渉協定の対象となる従業員の数	人	697,281
ブラジルの団体交渉協定の対象となる従業員の数	人	355
中国本土の団体交渉協定の対象となる従業員の割合	%	73.55
ブラジルの団体交渉協定の対象となる従業員の割合	%	69.47
<strong>従業員からの苦情</strong>		
苦情総数	件	84
OECDに提出された苦情の総数	件	0
苦情に起因する罰金・制裁金・損害賠償の総額	元	0
<strong>人権</strong>		
重大な人権侵害事案の件数	件	0

指標	単位	2024年
<strong>当該事案に起因する罰金・制裁金・損害賠償の総額</strong>		
当該事案に起因する罰金・制裁金・損害賠償の総額	元	0
ティア1サプライヤーに対する人権評価の実施率	%	100
ティア1サプライヤーの人権評価で特定されたリスクに対する対応実施率	%	100
<strong>男女間賃金格差(女性÷男性)</strong>		
<strong>男女別平均時給比率</strong>		
上級管理職	%	91.38
中級管理職	%	84.06
一般従業員	%	91.17
<strong>男女別基本給比率</strong>		
上級管理職	%	89.89
中級管理職	%	84.26
一般従業員	%	93.75
<strong>男女別変動給与比率</strong>		
上級管理職	%	93.18
中級管理職	%	79.33
一般従業員	%	89.22
<strong>家族に関連する休暇<sup>32</sup></strong>		
家族に関連する休暇の取得資格がある従業員数	人	968,872
家族に関連する休暇を取得中の従業員数	人	123,661

<sup>32</sup> 勤務地の関連法規に基づいた、結婚休暇、妊娠検査休暇、妊娠後期休暇、中絶休暇、避妊休暇、忌引休暇、高齢出産休暇など(ただし、これらに限定されない)の休暇

## 労働安全衛生

指標	単位	2024年
労働安全衛生に関する違反件数	件	0
安全上の事故の発生件数	件	0
<b>自社従業員の労働安全衛生<sup>33</sup></b>		
労働災害の発生件数	件	90
重大な労働災害の発生件数	件	4
労働災害による損失労働時間	時間	41,664
労働災害による損失労働日数	日	5,208
100万労働時間あたりの休業災害度数率(LTIFR)	回	0.047
労働災害による死亡件数	件	0
<b>保険投資</b>		
<b>労働災害保険</b>		
労働災害保険の被保険者数	人	968,872
労働災害保険の被保険者率	%	100

<sup>33</sup> 労働災害とは、交通事故を除く生産安全事故を指す。重度の労働災害とは、「事故傷害による損失労働日数の基準 GB/T15499」に基づき、損失労働日数が105日以上となる障がいを伴う傷害を指す。

<sup>34</sup> カテゴリー別研修受講率 = そのカテゴリーの研修受講者数 ÷ 研修受講者総数

## 研修と教育

指標	単位	2024年
<b>研修</b>		
従業員研修の実施回数	回	5,145,247
<b>研修受講者数<sup>34</sup></b>		
研修受講者総数	人	968,872
従業員の研修受講率	%	100
<b>男女別</b>		
女性の人数	人	291,720
男性の人数	人	677,152
女性の割合	%	30.11
男性の割合	%	69.89
<b>職位別</b>		
上級管理職数	人	5,319
中級管理職数	人	181,303
一般従業員数	人	782,250
上級管理職の割合	%	0.55
中級管理職の割合	%	18.71
一般従業員の割合	%	80.74

指標	単位	2024年
<b>従業員の研修時間<sup>35</sup></b>		
従業員の総研修時間	時間	53,623,107
従業員1人あたりの平均研修時間	時間	55.35
<b>男女別</b>		
女性従業員の研修時間	時間	16,496,664
女性従業員1人あたりの平均研修時間	時間	56.55
男性従業員の研修時間	時間	37,126,443
男性従業員1人あたりの平均研修時間	時間	54.83
<b>職位別</b>		
上級管理職の研修時間	時間	107,518
上級管理職1人あたりの平均研修時間	時間	20.21
中級管理職の研修時間	時間	6,146,214
中級管理職1人あたりの平均研修時間	時間	33.90
一般従業員の研修時間	時間	47,369,374
一般従業員1人あたりの平均研修時間	時間	60.56
<b>従業員向けESG研修</b>		
従業員向けESG研修の実施回数	回	12

指標	単位	2024年
<b>従業員向けESG研修の受講者数</b>		
延べ人数		2,066
<b>業績管理</b>		
業績管理制度の対象従業員割合 <sup>36</sup>	%	100
<b>製品責任</b>		
指標	単位	2024年
<b>製品・サービスに関する重大な責任事故</b>		
製品・サービスに関する重大な安全・品質事故件数	件	0
<b>マーケティングとロゴ</b>		
製品やサービスの情報・表示に関連する重大な違反件数	件	0
マーケティングに関連する重大なコンプライアンス違反の件数	件	0
責任あるマーケティングの研修を受けた従業員と販売代理店の数	延べ人数	約40,000
<b>情報セキュリティと顧客のプライバシー</b>		
会社に重大な財産的損害を及ぼしたデータセキュリティインシデントの件数	件	0
重大な顧客プライバシー侵害	件	0
<b>顧客からの苦情<sup>37</sup></b>		
顧客からの苦情件数	件	43,392
顧客からの苦情に対する平均対応時間	秒	13.68

<sup>35</sup> 2024年下半期、BYDは多数の新規従業員を採用するとともに、産業の高度化に伴い雇用構造の調整も実施。研修業務もより多様化し、従来の座学に加え、実践的なトレーニングやブレンド型学習などの手法も導入されている。経験のある技術者にはメンタリングプログラムやワークショップでの実践的なトレーニングを導入し、顧客対応スタッフについては業務マニュアル中心の研修からスクリーンを用いた研修に変更。重要な知識・スキルの習得に際しては、各層の異なるニーズに対応すべく双向型のトレーニングを活用している。そのため、従業員1人あたりの平均研修受講回数は、カテゴリーによって変動する。2025年も、従業員の総合的な能力向上のため研修と人材開発に注力していく。

<sup>36</sup> 管理者と従業員の話し合いを通じて測定可能または定量化可能な業績目標を設定し、従業員に対して多面的な業績評価と業績ランク付けを実施することを含む

<sup>37</sup> アフターサービス部門での製品やサービスの品質に関する苦情を含む。顧客苦情対応率と平均苦情対応時間のサービス指標の統計は、顧客からの連絡400件分

指標	単位	2024年
顧客苦情対応率	%	96.08
顧客苦情解決率	%	96.00
<b>製品リコール</b>		
リコール台数	台	113,380
強制(自主回収ではない)リコールの対象となった車両台数	台	0
<b>顧客満足度</b>		
総合顧客満足度	%	95以上
海洋ネットワークと王朝ネットワークの顧客満足度	%	96.70
YANGWANGブランドの顧客満足度	%	97.90
DENZAブランドの顧客満足度	%	96.80
<b>知的財産権</b>		
知的財産権侵害件数	件	0
<b>サプライチェーン</b>		
指標	単位	2024年
<b>サプライヤー数</b>		
サプライヤーの総数	—	13,701

<sup>38</sup>上海、江蘇、浙江、安徽、福建、江西、山東<sup>39</sup>広東、広西、海南

指標	単位	2024年
<b>地域別</b>		
華東地区のサプライヤーの割合 <sup>38</sup>	%	38.82
華南地区のサプライヤーの割合 <sup>39</sup>	%	32.35
華北地区のサプライヤーの割合 <sup>40</sup>	%	7.47
他地域のサプライヤーの割合	%	21.36
<b>革新的な研究開発</b>		
指標	単位	2024年
研究開発投資	千元	54,160,964
営業収益に占める研究開発投資の割合	%	6.97
<b>研究開発担当人材</b>		
研究開発担当者の人数	人	121,598
研究開発担当者の割合	%	12.55
<b>発明特許件数</b>		
特許出願件数	件	6,612
特許登録件数	件	1,775
主力事業に係る発明特許出願件数	件	6,612
パテントファミリー数 <sup>41</sup>	件	4,507

<sup>40</sup>北京、天津、河北、山西、内モンゴル<sup>41</sup>パテントファミリーとは、共通の優先権を有する複数の特許文献のグループ。同一の発明や創作に関するものだが、さまざまな国や地域で特許保護の申請が行われている

## 付録II：HKEX ESG報告コード

環境・社会・ガバナンス報告コード		掲載場所/説明	環境・社会・ガバナンス報告コード	掲載場所/説明
A1	一般開示	大気への排出、水域や土地への排出、有害廃棄物および非有害廃棄物の発生に関する情報。 (a)方針、および (b)発行者に重大な影響を及ぼす関連法規の遵守状況に関する情報。	環境コンプライアンス管理	A2.4 目的に適した水の調達に問題があるかどうか、設定した水効率目標と、その達成のために取られた措置の説明。
A1.1		排出の種類とそれぞれの排出データ。	主要業績評価指標	A2.5 最終製品に使用される梱包資材の総量(トン)と、(該当する場合は)生産単位あたりの量。
A1.3		発生した有害廃棄物の総量(トン)と、(該当する場合は)原単位(例：生産量単位あたり、1施設あたり)。	主要業績評価指標	A3 発行者が環境や天然資源に及ぼす重大な影響を最小限に抑えるための方針。
A1.4		非有害廃棄物の総排出量(トン)と、(該当する場合は)原単位(例：生産量単位あたり、1施設あたり)。	主要業績評価指標	A3.1 活動が環境や天然資源に及ぼす重大な影響と、その管理のために取られた措置の説明。
A1.5		設定した排出目標と、その達成のために取られた措置の説明。	環境管理システム 環境コンプライアンス管理	環境コンプライアンス管理 資源の利用 循環型経済 生物多様性の保全
A1.6		有害廃棄物と非有害廃棄物の取り扱い方法の説明、ならびに設定した削減目標と、その達成のために取られた措置の説明。	環境管理システム 環境コンプライアンス管理	採用管理 平等とインクルージョン
A2	一般開示	エネルギー・水などの原材料を含む資源の効率的な利用に関する方針。	資源の利用	B1 報酬と解雇、採用と昇進、労働時間、休憩時間、機会均等、多様性、差別禁止、その他の福利厚生に関する情報。
A2.1		種類(例：電気、ガス、石油)ごとの直接/間接エネルギー消費量の総量(kWh)と、原単位(例：生産量単位あたり、1施設あたり)。	主要業績評価指標	(a)方針 (b)発行者に重大な影響を及ぼす関連法規の遵守状況に関する情報。
A2.2		水の総消費量と原単位(例：生産量単位あたり、1施設あたり)。	主要業績評価指標	人材育成システム 報酬とインセンティブ 業績評価 従業員の福利厚生 従業員とのコミュニケーション 従業員のケア 従業員満足度
A2.3		設定したエネルギー使用効率目標と、その達成のために取られた措置の説明。	環境管理システム 資源の利用	

環境・社会・ガバナンス報告コード		掲載場所/説明
B1.1	性別、雇用形態(例：フルタイム、パートタイム)、年齢層、地域別の総従業員数。	主要業績評価指標
B1.2	性別、年齢層、地域別の従業員離職率。	主要業績評価指標
B2 一般開示	安全な労働環境を提供すること、および従業員を職業上の危険から保護することに関する情報。	(a)方針、および (b)発行者に重大な影響を及ぼす関連法規の遵守状況 に関する情報。
B2.1	報告年度を含む過去3年間に発生した労働災害の年度ごとの死亡者数と発生率。	労働安全衛生管理体制
B2.2	労働災害による損失労働日数。	主要業績評価指標
B2.3	導入された労働安全衛生対策の内容と、それらの実施方法と監視方法の説明。	労働安全衛生管理体制
B3 一般開示	業務遂行に必要な従業員の知識・技能の向上に関する方針。研修活動の説明。	キャリア開発 人材育成システム
B3.1	性別/従業員区分(上級管理職、中級管理職など)ごとの研修受講者の割合	主要業績評価指標
B3.2	従業員一人当たりの平均研修時間(性別/従業員区分ごと)	主要業績評価指標
B4 一般開示	児童労働や強制労働の防止に関する方針、および発行者に重大な影響を及ぼす関連法令・規制の遵守に関する情報	従業員の権利
B4.1	児童労働や強制労働を回避することを目的とした雇用慣行の見直し措置の説明。	従業員の権利
B4.2	そのような行為が発見された際に、その排除のために取られた措置の説明。	従業員の権利
B5 一般開示	サプライチェーンの環境リスクや社会的リスクの管理に関する方針。	サプライヤーのESG管理
B5.1	地域別のサプライヤーの数。	主要業績評価指標

環境・社会・ガバナンス報告コード		掲載場所/説明
B5.2	サプライヤーとの関わりに関する慣行の内容、その慣行が実施されているサプライヤーの数、およびその実施方法と監視方法の説明。	サプライヤー ライフサイクル管理
B5.3	サプライチェーンの各段階における環境的・社会的リスクを特定する慣行、および関連する実施・監視方法についての説明	サプライヤーのESG管理
B5.4	サプライヤー選定時に環境に配慮した製品やサービスを促進するために用いられる慣行の内容、およびその実施方法と監視方法の説明。	グリーン調達
B6 一般開示	提供される製品やサービスに関する安全衛生、広告、表示、プライバシーの問題、ならびに是正方法に関する情報。	製品品質のガバナンス体制 製品責任のリスク管理システム 全工程の品質管理 製品の安全性
B6.1	(a)方針 (b)発行者に重大な影響を及ぼす関連法規の遵守状況 に関する情報。	品質文化 責任あるマーケティングの管理体制 責任あるマーケティングに関する研修 顧客のプライバシー保護
B6.2	販売済み・出荷済みの製品のうち、安全衛生上の理由によってリコール対象となった割合	製品の安全性
B6.3	製品・サービスに関するクレーム件数および対応方法	主要業績評価指標
B6.4	知的財産権の維持・保護に関する慣行の記述	知的財産保護
B6.5	品質検査の手順・製品回収の手順の説明	全工程の品質管理 アフターサービス、リコール
	消費者データの保護、プライバシーポリシー、および関連する実施・監視の方法についての説明	顧客のプライバシー保護

環境・社会・ガバナンス報告コード		掲載場所/説明	環境・社会・ガバナンス報告コード	掲載場所/説明
B7	賄賂、恐喝、詐欺、マネーロンダリングに関連する(a)方針(b)発行者に重大な影響を及ぼす関係法規の遵守状況に関する情報。	企業倫理	B8.1	コミュニティ管理とコミュニケーション インクルーシブ教育 地域振興 都市部における交通渋滞の緩和 社会的弱者への支援 災害の救援と復興 医療分野への寄付 従業員のボランティア活動 環境啓発
B7.1	報告期間中に発行者またはその従業員に対して提起された汚職行為に関する訴訟のうち、終結した件数とその訴訟結果。	企業倫理 主要業績評価指標		社会貢献の重点分野(例：教育、環境問題、労働ニーズ、健康、文化、スポーツ)。
B7.2	予防措置と内部告発手順、およびその実施方法と監視方法の説明。	企業倫理	B8.2	重点分野に投入されたリソース(例：資金や時間)。
B7.3	取締役および従業員に対して実施された汚職防止研修の説明。	企業倫理 主要業績評価指標 コミュニティ管理とコミュニケーション インクルーシブ教育 地域振興 都市部における交通渋滞の緩和 社会的弱者への支援 災害の救援と復興 医療分野への寄付 従業員のボランティア活動 環境啓発		主要業績評価指標
B8	発行者が事業を行う地域社会のニーズを理解し、その活動が地域社会の利益を考慮したものとなるようにするためのコミュニケーションエングージメントに関する方針。	パートD：気候関連の開示	本セクションは、2025年1月1日以降に開始する会計年度に適用され、報告期間については、「気候変動への対応」セクションで詳述されているとおり、2023年12月31日版の付録C2「環境・社会・ガバナンス報告ガイドライン」に従って、その後も開示が継続されます。	

## 付録III：SZSEガイドライン内容索引

深圳証券取引所の上場企業のための自主規制ガイドライン No.17－サステナビリティ報告(試行的適用)	掲載場所/説明
気候変動への対応	気候ガバナンス 気候戦略 気候の影響・リスク・機会の管理 カーボンニュートラル目標 バリューチェーン全体での炭素削減を提唱
汚染物質の排出	環境コンプライアンス管理
廃棄物の処理	環境コンプライアンス管理
生態系と生物多様性の保全	生物多様性の保全
環境コンプライアンス管理	環境コンプライアンス管理
エネルギー利用	資源の利用
水利用	資源の利用
循環型経済	循環型経済
農村振興	地域振興
社会貢献	インクルーシブ教育 地域振興 都市部における交通渋滞の緩和 社会的弱者への支援 災害の救援と補助 医療分野への寄付 従業員のボランティア活動 環境啓発
イノベーション主導型開発	イノベーションプラットフォームの開発 知的財産保護
科学技術における倫理	科学技術における倫理
サプライチェーンセキュリティ	サプライーライフサイクル管理

深圳証券取引所の上場企業のための 自主規制ガイドライン No.17－サステナビリティ報告 (試行的適用)	掲載場所/説明
中小企業の平等な扱い	報告期間中、中小企業への支払遅延に関する情報は、規定に従い国家企業情報開示システムで公開しています。なお、当社による中小企業への支払遅延はありませんでした。
製品とサービスの安全性と品質	製品品質のガバナンス体制 製品責任のリスク管理システム 全工程の品質管理 製品の安全性 品質文化 顧客エンゲージメントと満足度 顧客体験の向上 アフターサービス、リコール 顧客エンゲージメントと満足度
データセキュリティと顧客プライバシーの保護	顧客のプライバシー保護
従業員	従業員の権利 採用管理 平等とインクルージョン キャリア開発 人材育成システム 報酬とインセンティブ 業績評価 従業員の福利厚生 従業員とのコミュニケーション 従業員のケア 従業員満足度 労働安全衛生管理体制
デューディリジェンス	サプライヤーのESG管理
ステークホルダーとのコミュニケーション	ステークホルダーエンゲージメント
反商業賄賂・反腐敗	企業倫理 サプライチェーンの誠実性
反競争的	企業倫理

## 付録IV：ESRS索引

ESRS基準		掲載場所/説明
<b>ESRS 2. 一般開示事項</b>		
BP-1	サステナビリティステートメント作成の一般原則	報告基準 報告原則
BP-2	特定の状況に関する開示	報告原則 取締役会の声明
GOV-1	管理、経営、監督機関の役割	ガバナンス体制 取締役会の経営責任 取締役会の多様性
GOV-2	事業体の管理、経営、監督機関に提供される情報、およびこれらの機関で取り扱うサステナビリティに関する事項	取締役会の声明
GOV-3	インセンティブ制度へのサステナビリティ関連業績の反映	取締役会の声明
GOV-4	デューディリジェンスに関する声明	次年度以降に報告予定
GOV-5	サステナビリティ報告に関するリスク管理と内部統制	次年度以降に報告予定
SBM-1	戦略、ビジネスモデル、バリューチェーン	当社の事業 主要なバリューチェーン
SBM-2	ステークホルダーの関心と見解	ステークホルダーエンゲージメント
SBM-3	重大な影響・リスク・機会と、それらが戦略やビジネスモデルに与える相互作用	ダブルマテリアリティ評価
IRO-1	重大な影響・リスク・機会を特定し、評価するプロセスの説明	ダブルマテリアリティ評価
IRO-2	事業者のサステナビリティステートメントで説明されている ESRSの開示要件	報告基準

ESRS基準		掲載場所/説明
<b>ESRS E1. 気候変動</b>		
E1-1	気候変動緩和に向けた移行計画	気候ガバナンス 気候戦略 気候の影響・リスク・機会の管理 カーボンニュートラル目標 バリューチェーン全体での炭素削減を提唱
E1-2	気候変動の緩和と適応に関する方針	気候ガバナンス 気候戦略 気候の影響・リスク・機会の管理 カーボンニュートラル目標 バリューチェーン全体での炭素削減を提唱
E1-3	気候変動の方針に関連する活動と資源	気候ガバナンス 気候戦略 気候の影響・リスク・機会の管理 カーボンニュートラル目標 バリューチェーン全体での炭素削減を提唱
E1-4	気候変動の緩和と適応に関連する目標	気候ガバナンス 気候戦略 気候の影響・リスク・機会の管理 カーボンニュートラル目標 バリューチェーン全体での炭素削減を提唱

ESRS基準		掲載場所/説明
E1-5	エネルギー消費量とエネルギーmixx	<p>気候ガバナンス</p> <p>気候戦略</p> <p>気候の影響・リスク・機会の管理</p> <p>カーボンニュートラル目標</p> <p>バリューチーン全体での炭素削減を提唱</p> <p>主要業績評価指標</p>
E1-6	スコープ1、2、3の総排出量と温室効果ガス総排出量	<p>主要業績評価指標</p> <p>気候の影響・リスク・機会の管理</p>
E1-7	カーボンクレジットを通じて資金提供された温室効果ガス除去と温室効果ガス緩和プロジェクト	<p>カーボンニュートラル目標</p> <p>バリューチーン全体での炭素削減を提唱</p>
E1-8	社内炭素価格	<p>気候変動への対応</p> <p>気候ガバナンス</p> <p>気候戦略</p>
E1-9	重要な物理的リスク・移行リスク、ならびに気候関連の潜在的な機会から予想される財務的影響	<p>気候の影響・リスク・機会の管理</p> <p>カーボンニュートラル目標</p> <p>バリューチーン全体での炭素削減を提唱</p>
ESRS E2. 汚染		環境コンプライアンス管理
E2-1	汚染に関する方針	資源の利用
E2-2	汚染に関連する活動と資源	<p>環境コンプライアンス管理</p> <p>資源の利用</p>
E2-3	汚染に関連する目標	<p>環境コンプライアンス管理</p> <p>資源の利用</p>

ESRS基準		掲載場所/説明
E2-4	大気・水・土壤の汚染	環境コンプライアンス管理
E2-5	懸念物質と高懸念物質	<p>環境コンプライアンス管理</p> <p>資源の利用</p>
E2-6	汚染に関連する影響・リスク・機会から予想される財務的影響	<p>環境コンプライアンス管理</p> <p>資源の利用</p>
ESRS E3. 水・海洋資源		
E3-1	水資源と海洋資源に関する方針	資源の利用
E3-2	水資源と海洋資源に関連する活動と資源	資源の利用
E3-3	水資源と海洋資源に関連する目標	資源の利用
E3-4	水の使用量	<p>資源の利用</p> <p>主要業績評価指標</p>
E3-5	水資源と海洋資源に関連する影響・リスク・機会から予想される財務的影響	資源の利用
ESRS E4. 生物多様性と生態系		
E4-1	戦略・ビジネスモデルにおける移行計画と生物多様性・生態系への考慮	生物多様性の保全
E4-2	生物多様性と生態系に関する方針	生物多様性の保全
E4-3	生物多様性と生態系に関連する活動と資源	生物多様性の保全
E4-4	生物多様性と生態系に関連する目標	生物多様性の保全
E4-5	生物多様性と生態系の変化に関連する影響指標	生物多様性の保全
E4-6	生物多様性と生態系に関連するリスクと機会から予想される財務的影響	生物多様性の保全

ESRS基準		掲載場所/説明
ESRS E5. 資源利用と循環型経済		
E5-1	資源利用と循環型経済に関する方針	資源の利用 循環型経済
E5-2	資源利用と循環型経済に関連する活動と資源	資源の利用 循環型経済
E5-3	資源利用と循環型経済に関連する目標	資源の利用 循環型経済
E5-4	資源流入	資源の利用 循環型経済
E5-5	資源流出	資源の利用 循環型経済
E5-6	資源利用と循環型経済に関連する影響・リスク・機会から予想される財務的影響	資源の利用 循環型経済
ESRS S1. 自社の労働力		
S1-1	自社の労働力に関する方針	従業員の権利 採用管理 平等とインクルージョン
S1-2	影響について自社の労働者および労働者代表と関わるプロセス	従業員の権利 従業員とのコミュニケーション
S1-3	マイナスの影響を是正するプロセスと自社従業員が懸念を提起するためのチャネル	従業員の権利 従業員とのコミュニケーション
S1-4	自社の労働力への重大な影響に対する措置を講じること、 自社の労働力に関連する重大なリスクを軽減し、重大な機会を追求するためのアプローチ、それらの措置の有効性	次年度以降に報告予定
S1-5	重大なマイナスの影響の管理、プラスの影響の促進、重大なリスクと機会の管理に関する目標	次年度以降に報告予定

ESRS基準		掲載場所/説明
S1-6 企業の従業員の特徴		従業員の権利
S1-7	自社の労働力における非雇用労働者の特徴	従業員の権利
S1-8	団体交渉の範囲と社会対話	従業員の権利
S1-9	多様性指標	主要業績評価指標
S1-10	適正賃金	報酬とインセンティブ
S1-11	社会的保護	報酬とインセンティブ
S1-12	障がい者	主要業績評価指標
S1-13	研修と能力開発指標	主要業績評価指標
S1-14	安全衛生指標	主要業績評価指標
S1-15	ワークライフバランス指標	従業員の福利厚生
S1-16	報酬指標(賃金格差と総報酬)	主要業績評価指標
S1-17	事件、苦情、深刻な人権への影響	該当なし
ESRS S2. パリューチェーンにおける労働者		
S2-1	パリューチェーン労働者に関する方針	サプライヤーライフサイクル管理 サプライヤーのESG管理
S2-2	影響についてパリューチェーン労働者と関わるプロセス	次年度以降に報告予定
S2-3	マイナスの影響を是正するプロセスとパリューチェーン労働者が懸念を提起するためのチャネル	次年度以降に報告予定
S2-4	パリューチェーン労働者への重大な影響に対する措置を講じること、 パリューチェーン労働者に関連する重大なリスクを管理し、重大な機会を追求するためのアプローチ、それらの措置の有効性	次年度以降に報告予定

ESRS基準		掲載場所/説明
S2-5	重大なマイナスの影響の管理、プラスの影響の促進、重大なリスクと機会の管理に関する目標	次年度以降に報告予定
<b>ESRS S3. 影響を受けるコミュニティ</b>		
S3-1	影響を受けるコミュニティに関する方針	コミュニティ管理とコミュニケーション
S3-2	影響について影響を受けるコミュニティと関わるプロセス	コミュニティ管理とコミュニケーション
S3-3	マイナスの影響を是正するプロセスと影響を受ける コミュニティが懸念を提起するためのチャネル	コミュニティ管理とコミュニケーション 地域振興 都市部における交通渋滞の緩和 社会的弱者への支援 インクルーシブ教育 災害の救援と復興 医療分野への寄付 従業員のボランティア活動 環境啓発
S3-4	影響を受けるコミュニティへの重大な影響に対する措置を 講じること、影響を受けるコミュニティと関連する重大な リスクを管理し、重大な機会を追求するためのアプローチ、 それらの措置の有効性	
S3-5	重大なマイナスの影響の管理、プラスの影響の促進、 重大なリスクと機会の管理に関する目標	コミュニティへの影響
<b>ESRS S4. 消費者とエンドユーザー</b>		
S4-1	消費者とエンドユーザーに関する方針	マルチブランド特化型マーケティング 顧客のプライバシー保護 顧客体験の向上 アフターサービス、リコール 顧客エンゲージメントと満足度

ESRS基準		掲載場所/説明
S4-2	影響について消費者およびエンドユーザーと関わるプロセス	顧客エンゲージメントと満足度
S4-3	マイナスの影響を是正するためのプロセスと、消費者と エンドユーザーが懸念を提起するためのチャネル	顧客エンゲージメントと満足度
S4-4	消費者とエンドユーザーに対する重大な影響に対する措置を 講じること、消費者とエンドユーザーに関連する重大なリスクを 管理し、重大な機会を追求するためのアプローチ、それらの 措置の有効性	責任あるマーケティングの 管理体制 顧客のプライバシー保護 顧客体験の向上 アフターサービス、リコール 顧客エンゲージメントと満足度
S4-5	重大なマイナスの影響の管理、プラスの影響の促進、重大な リスクと機会の管理に関する目標	次年度以降に報告予定
<b>ESRS G1. 企業行動</b>		
G1-1	企業文化と企業行動に関する方針	次年度以降に報告予定
G1-2	サプライヤーとの関係管理	次年度以降に報告予定
G1-3	汚職および贈収賄の防止と発見	企業倫理
G1-4	確認された汚職または贈収賄の事例	企業倫理
G1-5	政治的影響力とロビー活動	該当なし
G1-6	支払い慣行	次年度以降に報告予定

## 付録V：GRI索引<sup>42</sup>

GRIスタンダード	掲載場所/説明
GRI 2：一般開示事項 2021	
2-1 組織の詳細	会社概要
2-2 組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	本報告書について
2-3 報告期間、報告頻度、連絡先	本報告書について
2-4 情報の修正・訂正記述	変更なし
2-5 外部保証	報告書の保証
2-6 活動、バリューチェーン、その他の取引関係	相互成長のための責任あるサプライチェーン 確かな品質のために引き継がれる職人技
2-7 従業員	インテリジェンス駆動型開発を支える 優秀な人材
2-8 従業員以外の労働者	インテリジェンス駆動型開発を支える 優秀な人材 相互成長のための責任あるサプライチェーン
2-9 ガバナンス構造と構成	ガバナンス体制
2-10 最高ガバナンス機関における指名と選出	取締役会の多様性
2-11 最高ガバナンス機関の議長	取締役会の経営責任
2-12 インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	取締役会の経営責任
2-13 インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	取締役会の声明
2-14 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	取締役会の声明

GRIスタンダード	掲載場所/説明
2-15 利益相反	—
2-16 重要な懸念事項の伝達	ステークホルダーエンゲージメント
2-17 最高ガバナンス機関の集合的知見	取締役会の声明
2-18 最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	取締役会の声明
2-19 報酬方針	取締役会の声明
2-20 報酬の決定プロセス	—
2-21 年間報酬総額の比率	—
2-22 持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	サステナビリティの理念
2-23 方針声明	取締役会の経営責任
2-24 方針声明の実践	相互成長のための責任あるサプライチェーン 確かな品質のために引き継がれる職人技
2-25 マイナスのインパクトの是正プロセス	—
2-26 助言を求める制度および懸念を提起する制度	—
2-27 法規則遵守	付録VI：主要な法令の一覧
2-28 会員資格を持つ団体	—
2-29 ステークホルダーエンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーエンゲージメント
2-30 労働協約	従業員の権利

<sup>42</sup> 使用上の注意：本GRI索引で言及されている情報は、2024年1月1日から2024年12月31日までの期間について、GRIスタンダードを参照して報告されたものです

GRIスタンダード		掲載場所/説明
<b>GRI 3 : マテリアルな項目 2021</b>		
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	ダブルマテリアリティ評価
3-2	マテリアルな項目のリスト	ダブルマテリアリティ評価
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	相互成長のための責任あるサプライチェーン 確かな品質のために引き継がれる職人技
<b>経済</b>		
<b>GRI 201 : 経済パフォーマンス 2016</b>		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	主要業績評価指標
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	—
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—
201-4	政府から受けた資金援助	—
<b>GRI 202 : 地域経済でのプレゼンス 2016</b>		
202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率(男女別)	—
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—
<b>GRI 203 : 間接的な経済的インパクト 2016</b>		
203-1	インフラ投資および支援サービス	地域振興 都市部における交通渋滞の緩和 社会的弱者への支援 インクルーシブ教育 災害の救援と復興

GRIスタンダード		掲載場所/説明
203-2 著しい間接的な経済的インパクト		
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—
<b>GRI 204 : 調達慣行 2016</b>		
205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	企業倫理 サプライチェーンの誠実性
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	企業倫理
<b>GRI 206 : 反競争的行為 2016</b>		
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	企業倫理
<b>GRI 207 : 税金 2019</b>		
207-1	税務へのアプローチ	税務戦略
207-2	税務ガバナンス、管理およびリスクマネジメント	税務戦略
207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメント および懸念への対処	—
207-4	国別の報告	—

GRI スタンダード	掲載場所/説明	
環境		
<b>GRI 301 : 原材料 2016</b>		
301-1 使用原材料の重量または体積	主要業績評価指標	
301-2 使用したリサイクル材料	資源の利用	
301-3 再生利用された製品と梱包材	資源の利用	
<b>GRI 302 : エネルギー 2016</b>		
302-1 組織内のエネルギー消費量	主要業績評価指標	
302-2 組織外のエネルギー消費量	主要業績評価指標	
302-3 エネルギー原単位	主要業績評価指標	
302-4 エネルギー消費量の削減	グリーンエネルギー	
302-5 製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	グリーンエネルギー	
<b>GRI 303 : 水と廃水 2018</b>		
303-1 共有資源としての水との相互作用	資源の利用	
303-2 排水に関するインパクトのマネジメント	資源の利用	
303-3 取水	主要業績評価指標	
303-4 排水	主要業績評価指標	
303-5 水の使用量	主要業績評価指標	

GRI スタンダード	掲載場所/説明			
<b>GRI 304 : 生物多様性 2016</b>				
304-1 保護地域および保護地域ではないが生物多様性 価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、 賃借、管理している事業拠点				
304-2 活動、製品、サービスが生物多様性に与える 著しいインパクト	生物多様性の保全			
304-3 生息地の保護・復元	生物多様性の保全			
304-4 事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリスト ならびに国内保全種リスト対象の生物種				
<b>GRI 305 : 大気への排出 2016</b>				
305-1 直接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ1)	主要業績評価指標			
305-2 間接的な温室効果ガス(GHG)排出量(スコープ2)	主要業績評価指標			
305-3 その他の間接的な温室効果ガス(GHG)排出量 (スコープ3)	主要業績評価指標			
305-4 温室効果ガス(GHG)排出原単位	主要業績評価指標			
305-5 温室効果ガス(GHG)排出量の削減	主要業績評価指標			
305-6 オゾン層破壊物質(ODS)の排出量	主要業績評価指標			
305-7 窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、および その他の重大な大気排出物	主要業績評価指標			
<b>GRI 306 : 廃棄物 2020</b>				
306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	資源の利用			

GRIスタンダード		掲載場所/説明
306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	資源の利用
306-3	発生した廃棄物	主要業績評価指標
306-4	処分されなかった廃棄物	主要業績評価指標
306-5	処分された廃棄物	主要業績評価指標
GRI 308 : サプライヤーの環境面のアセスメント 2016		
308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	—
308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと 実施した措置	—
<b>社会</b>		
GRI 401 : 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	主要業績評価指標
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない 手当	従業員の福利厚生
401-3	育児休暇	—
GRI 402 : 労使関係 2016		
402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	—
GRI 403 : 労働安全衛生 2018		
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生管理体制
403-2	危険性(ハザード)の特定、リスク評価、事故調査	労働安全衛生管理体制

GRIスタンダード		掲載場所/説明
403-3	労働衛生サービス	労働安全衛生管理体制
403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、 コミュニケーション	労働安全衛生管理体制
403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	安全文化
403-6	労働者の健康増進	安全文化
403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の 防止と緩和	労働安全衛生管理体制
403-8	労働安全衛生マネジメントシステムの対象となる労働者	労働安全衛生管理体制
403-9	労働関連の傷害	主要業績評価指標
403-10	労働関連の疾病・体調不良	該当なし
GRI 404 : 研修と教育 2016		
404-1	従業員1人あたりの年間平均研修時間	主要業績評価指標
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人材育成システム
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを 受けている従業員の割合	主要業績評価指標
GRI 405 : ダイバーシティと機会均等 2016		
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	取締役会の多様性
405-2	基本給と報酬総額の男女比	主要業績評価指標
GRI 406 : 非差別 2016		
406-1	差別事例と実施した救済措置	平等とインクルージョン

GRIスタンダード	掲載場所/説明
GRI 407 : 結社の自由と団体交渉 2016	
407-1 結社の自由と団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	—
GRI 408 : 児童労働 2016	
408-1 児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—
GRI 409 : 強制労働 2016	
409-1 強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—
GRI 410 : 保安慣行 2016	
410-1 人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—
GRI 411 : 先住民族の権利 2016	
411-1 先住民族の権利を侵害した事例	報告期間中は対象外
GRI 413 : 地域コミュニティ 2016	
413-1 地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	コミュニティ管理と コミュニケーション
413-2 地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的しているもの、潜在的なもの)を及ぼす事業所	コミュニティ管理と コミュニケーション

GRIスタンダード	掲載場所/説明
GRI 414 : サプライヤーの社会面のアセスメント 2016	
414-1 社会的基準により選定した新規サプライヤー	—
414-2 サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	—
GRI 415 : 公共政策 2016	
415-1 政治献金	該当なし
GRI 416 : 顧客の安全衛生 2016	
416-1 製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	顧客体験の向上
416-2 製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	報告期間中は対象外
GRI 417 : マーケティングとラベリング 2016	
417-1 製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	責任あるマーケティングの 管理体制
417-2 製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	主要業績評価指標
417-3 マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	主要業績評価指標
GRI 418 : 顧客プライバシー 2016	
418-1 顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化 した不服申立	顧客のプライバシー保護

## 付録VI：主要な法令の一覧

課題	主要な法令	課題	主要な法令
環境	中華人民共和国環境保護法 中華人民共和国環境影響評価法 中華人民共和国固体廃棄物環境汚染防止法 中華人民共和国水污染防治法 中華人民共和国大気污染防治法 中華人民共和国土壤污染防治法 中華人民共和国騒音污染防治法 中華人民共和国省エネルギー法 中華人民共和国土地管理法 中華人民共和国自然保護区条例 中華人民共和国都市農村計画法 建設プロジェクトの環境管理規則 電子廃棄物環境汚染防止管理弁法	安全衛生 労働基準 サプライチェーン 管理 製品責任 汚職防止 地域投資	安全生产事故の潜在的リスクの調査・特定・管理に関する暫定規定 企業労働争議協議調停規定 建設工事生産安全管理条例 中華人民共和国労働法 中華人民共和国労働契約法 国民祝日及び記念日休暇弁法 企業従業員年次有給休暇実施弁法 企業従業員の疾病または業務外負傷の医療期間に関する規定 中華人民共和国民法典 中華人民共和国入札応札法 中華人民共和国政府調達法 中華人民共和国民法典 中華人民共和国製品品質法 中華人民共和国広告法 中華人民共和国サイバーセキュリティ法 中華人民共和国データセキュリティ法 中華人民共和国個人情報保護法 中華人民共和国商標法 中華人民共和国著作権法 中華人民共和国特許法 情報安全技術個人情報安全規範 中華人民共和国会社法 中華人民共和国証券法 中華人民共和国マネーロンダリング防止法 賄賂防止条例(香港) 中華人民共和国慈善法 慈善団体情報公開弁法
	中華人民共和国労働法 中華人民共和国労働契約法 中華人民共和国就業促進法 中華人民共和国社会保障法 児童労働禁止規定 中華人民共和国未成年者保護法 中華人民共和国会社法 最低賃金規定 企業民主的管理規定 雇用条例(香港)		
	中華人民共和国消防法 中華人民共和国労働安全法 中華人民共和国職業病防止法 中華人民共和国特種設備安全法 労働災害保険条例 中華人民共和国突発事件対応法 中華人民共和国建築法 中華人民共和国労働争議調停仲裁法 作業場職業衛生管理規定 生産安全事故の報告・調査処理条例		

## 付録VII：略語対照表

略語	正式名称
PLM	Product Lifecycle Management(製品ライフサイクル管理)
FMEA	Failure Mode and Effect Analysis(故障モード影響解析)
OTS	Off Tooling Sample(オフツーリングサンプル：量産用の金型を使って製作した試作品)
PPAP	Production Part Approval Process(生産部品承認プロセス)
QIT	Quality Improvement Team(品質改善チーム)
MSA	Measurement System Analyse(測定システム解析)
SPC	Statistical Process Control(統計的プロセス制御)
NVH	Noise, Vibration, Harshness(騒音・振動・ハーシュネス)
EMC	Electromagnetic Compatibility(電磁両立性)
RoHS	Restriction of Hazardous Substances(特定有害物質使用制限指令)
MES	Manufacturing Execution System(製造実行システム)
EAM	Enterprise Asset Management(エンタープライズ資産管理)

略語	正式名称
WMS	Warehouse Management System(倉庫管理システム)
QMS	Quality Management System(品質マネジメントシステム)
SAP	Systems Applications and Products(企業管理ソリューション)
SRM	Supplier Relationship Management(サプライヤー関係管理)
APS	Advanced Planning and Scheduling(高度な計画とスケジューリング)
REACH	Registration , Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals(化学物質の登録・評価・認可・制限に関する規制)
POPs	Persistent Organic Pollutants(残留性有機汚染物質)
SMT	Surface Mount Technology(表面実装技術)
TSCA	The Toxic Substances Control Act(有害物質規制法)
JRC	The Joint Research Centre of the European Commission(欧州委員会共同研究センター)
LP-EGR	Low Pressure-Exhaust Gas Recirculation(低圧排気ガス再循環)
BMC	Battery, Motor, and Electric Control Technology(バッテリー、モーター、電気制御技術)

# 保証声明書

**SGS**

**保証声明書 CN25/00001624**

本書は、BYD社の2024年サステナビリティレポートに示されるサステナビリティ活動に対する保証報告書である。

**保証の特質**  
SGS-CTC STANDARDS TECHNICAL SERVICES CO., LTD.(以下「SGS」)は、BYD COMPANY LIMITED(以下、BYD)から依頼に基づき、2024年1月1日から2024年12月31日までの期間を対象としたBYD COMPANY LIMITEDの2024年サステナビリティレポート(以下、報告書)の中国語版に対して、第三者保証業務を行った。

**本保証声明書の対象利用者**  
本保証声明書は、BYDの全ステークホルダーに情報を提供すること目的として作成されている。

**責任**  
当報告書に示されているサステナビリティ情報やその掲載内容は、BYDのESG管理機関及び経営層の責任に帰するものである。SGSは、当報告書に含まれる内容の準備には関与していない。

我々の責任は、十分かつ適切な客観的基準に基づき、保証の範囲内における文章、データ、グラフ及び声明について意見を表明することである。

SGSは、当報告書に示されている情報の使用に起因する、またはそれに関連して生じる直接的、間接的、付随的、または結果的な損害や損失について、一切の責任を負わないことをここに表明する。

**保証基準、保証の種類とレベル**  
当報告書の保証業務においては、あらゆる種類の組織のサステナビリティ関連情報の保証を提供する世界規模で使用されている基準であるAA1000A保証基準(AA1000AS v3)に従って実施した。組織がアクションビリティ原則(AA1000AP, 2018)をどの程度遵守しているか、その性質と範囲の評価も行った。

本保証業務の精度レベルは中程度である。

**保証の範囲**  
保証の範囲は、当報告書の品質、正確性、信頼性の評価、ならびに以下の報告基準の遵守状況の評価である。

報告基準
AA1000Aカウンターパーティ原則(2018)
GRISスタンダード 2021(参照)
香港証券取引所(HKEX)発行「上場規則」の「付録C2 環境・社会・ガバナンス報告コード」

**SGS**

**保証手法**  
保証業務は、事前調査、BYD本社(中国広東省深圳市坪山区BYD路300号)での関連従業員へのインタビュー、BYDの関連会社の関係者とのオンラインによる資料及び記録のレビュー及び検証などの組み合わせにて実施した。

**制限事項と緩和策**  
独立監査済みの財務情報から直接取得されたデータ及び財務データに基づき算出された原単位データについては、本保証の過程においては、元の情報源に遡り確認は行っていない。

当報告書に記載されている温室効果ガス排出量関連のデータについては、独立した第三者監査人による検証を受けていない。本保証業務はBYDのグループレベルに限定されており、下位機関の元データについては追跡を行っていない。

香港証券取引所(HKEX)が発行する「上場規則」の「付録C2 環境・社会・ガバナンス報告コード」の「パートD：気候関連の開示」においては、コンプライアンス検証は行われておらず、気候関連の検証は旧版の「付録C2 環境・社会・ガバナンス報告ガイド」に従って実施されている。

**独立性と力量の声明**  
SGSグループは、検査、試験、検証業務における世界的リーダーであり、複数の国で事業を展開し、各種サービスを提供している。SGSは、BYDやその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を伴う可能性や利害の抵触がないことを断言する。

保証業務に携わったチームは、知識や経験、そして本保証業務に関する資格に基づき構成されている。

**調査結果と結論**

**保証意見**  
前述の要領に基づいて実施した保証手続きの範囲において、当報告書に含まれている情報やデータは正確かつ信頼できるものであり、当報告書に記載されているBYDのサステナビリティ活動を公正かつ適切に表現したものでないと認められる重要な事項は発見されなかった。

当報告書がAA1000AS v3の原則に準拠している範囲は、以下のとおりである。

**包摂性**  
当報告書では、組織のデータカルターを特定し、その期待や概念を収集するとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションやエングagementの方法を確立し、さまざまな形態での対話や交流を実施している。

**重要性**  
当報告書では、ステークホルダーの評価や意思決定に実質的に影響を与える重要な指標や指標が合理的に示されており、関連するステークホルダーによって提示された概念に基づき、経済的・環境的・社会的事項に対する相違の最も重要な影響が反映されている。

**SGS**

**対応性**  
当報告書は、ステークホルダーとの対話のために確立されたチャネルを示しており、ステークホルダーの懸念や期待に十分に対応している。また、重要な課題についても、適切な範囲で透明性のある回答が提供されている。

**影響**  
当報告書では、環境・社会・ガバナンス(ESG)に関する主要な活動の影響について、監視及び測定状況が報告されている。

「上場規則」の「付録C2 環境・社会・ガバナンス報告コード」(HKEX発行)および「GRISスタンダード 2021」に基づく結論  
我々は、当報告書がHKEX発行「上場規則」の「付録C2 環境・社会・ガバナンス報告コード」の要件に従って作成されており、「GRISスタンダード 2021」の要件も参照していると判断する。

署名：  


David Xin  
業務担当担当シニアバイラクター  
中国北京市朝陽区73号世纪裕都ビル16 F  
2025年3月14日  
WWW.SGS.COM



  
AA1000  
Licensed Report  
000-8/V3-BHWZP

# 保証声明書



## 独立保証意見書



### BYD Company Limited サステナビリティレポート 2024

声明書番号 : SRA 824682

BYD Company Limitedのステークホルダーならびに経営陣の皆様へ

British Standards Institution(BSI)は、BYD Company Limited(以下、本声明書において「BYD」という)のサステナビリティレポート2024(以下「報告書」という)に記載されるサステナビリティ情報について、限定的保証業務を実施しました。

#### 範囲(スコープ)と基準

BYDとBSIの間で合意したエンゲージメントの範囲及び検証基準は以下が含まれます。

- IWA 48:2024 環境・社会・ガバナンス(ESG)原則を実施するための枠組みに準拠したBYDのESGの枠組み。
- 本保証は、報告書に記載されているすべての情報データを対象とし、2024年1月1日から2024年12月31日までの期間における、BYDおよびその完全子会社(以下「グループ」)による電気自動車、エネルギー貯蔵装置、太陽光発電連携事業活動に焦点を当てています。報告書は、香港証券取引所(HKEx)の「環境・社会・ガバナンス報告コード(ESGコード)」に準拠して作成されています。
- 報告書で開示されている特定のサステナビリティ実績データの管理状況の評価(サステナビリティデータの信頼性は評価対象外)、限定的な保証を伴うISAE3000(改訂版)に基づく限定的な保証のもと、以下の事項を含みますがこれに限定されません。

#### 環境データ:

- 直接的な温室効果ガス(GHG)総排出量(スコープ1)
- 輸入エネルギー由來の間接的な温室効果ガス(GHG)総排出量(スコープ2)
- 温室効果ガス(GHG)排出原単位(スコープ1及び2)
- 非有機廃棄物(一般廃棄物、一般産業廃棄物、産業リサイクル廃棄物)総発生量
- エネルギー(非再生可能)の総消費量と原単位
- 購入电力総量
- 天然ガス総消費量
- ディーゼル総消費量
- ガソリン総消費量
- 水の総消費量と原単位
- 再生可能電力の総消費量
- 有害固形廃棄物の総量と原単位



APAC担当担当シニアバイスプレジデント、Michael Lam  
...making excellence a habit™

BSI代表

発行日 : 2025-03-18

発行日 : 2025-03-18

British Standards Institution(BSI)は上記クライアントに対して独立しており、上記クライアントの運営に金銭的利益関係はありません。本意見書は、範囲で詳述されている上記クライアントのESGに関する報告内容を検証する目的のみで作成されており、他の目的のために作成されたものではありません。BSIは、本意見書を提供するにあたり、それが使用される可能性のある他の目的に対して、または本意見書を読む人に對して、(法的またはその他の)責務を受け入れることはありません。本意見書は、BSIが上記クライアントから提示された情報を評議したことに基づいて作成されています。評議は、提示された情報を超えるものではなく、提示された情報をに基いています。このような評議を行ふおり、BSIは、提示されたすべての情報が完全かつ正確であることを前提としています。本意見書またはそれに関連する事項についての問い合わせは、上記クライアントに對して行ってください。

声明書番号 : SRA 824682

#### 社会データ:

- 男女間賃金比率(女性:男性、基本給)
- 労働災害による死亡率(従業員)
- 労働災害による損失労働時間
- 従業員離職率
- 従業員1人あたりの平均研修時間

#### 意見書と結論

- 我々は、上記「スコープ」に記載されたサステナビリティ情報(以下「サステナビリティ情報」)について、限定的保証業務を実施しました。
- BSIが実施した手続およびBSIが入手した証據に基づき、添付のサステナビリティ情報がすべての重要な点において、HKEx ESGコードに準拠して作成されていない旨とさせよな事実は認められませんでした。また、BYDのESG管理原則および活動が、IWA 48:2024規格の要件に準拠していないと示す証據も認められませんでした。

#### 方法論

BSIの保証業務は、国際監査・保証基準審議会発行の、国際保証業務基準3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」および、国際保証業務基準3410「温室効果ガス報告に対する保証業務」にて実施されました。保証業務は、結論の根拠とする証據を収集することを目的として実施されました。前述の基準では、サステナビリティ情報における重要な監査証據の有無について、限定的の保証を得ることを目的として保証業務を計画・実施することが求められています。これに則り、以下の手順を実施しました。

- 報告書に記載された内容の妥当性を確認するため、BYDの方針に関連する可能性のある外部関係者から提起された事項について、トップレベルのレビューを実施しました。
2. ステークホルダーエンゲージメントに対するBYDのアプローチについて、上級幹部と議論を実施しました。外部ステークホルダーと直接的に接觸する様なことはしていません。
3. サステナビリティ経営、報告書作成、報告書情報提供に関するスタッフのインタビューを実施しました。
4. タールマリアリティ評価プロセスレビューおよび評価を実施しました。
5. グループの主要な動向レビューを実施しました。
6. サステナビリティ情報データの収集および報告書のパフォーマンスシステムのレビューを実施しました。
7. 報告書に記載された主張を裏付ける証據のレビューを実施しました。
8. 環境・社会・ガバナンス(ESG)データ(達成された目標の進捗状況を含む)のレビューを実施し、データが適切に測定・記録・集計・報告されていることを確認しました。
9. 本報告書に関するグループの報告および管理プロセスについて、包括性、重要性、対応性、インパクトの原則に照らした評議を実施しました。

発行日 : 2025-03-18

2/3ページ

発効日 : 2025-03-18

British Standards Institution(BSI)は上記クライアントに対して独立しており、上記クライアントの運営に金銭的利益関係はありません。本意見書は、範囲で詳述されている上記クライアントのESGに関する報告内容を検証する目的のみで作成されており、他の目的のために作成されたものではありません。BSIは、本意見書を提供するにあたり、それが使用される可能性のある他の目的に対して、または本意見書を読む人に對して、(法的またはその他の)責務を受け入れることはありません。本意見書は、BSIが上記クライアントから提示された情報を評議したことに基づいて作成されています。評議は、提示された情報を超えるものではなく、提示された情報をに基いています。このような評議を行ふおり、BSIは、提示されたすべての情報が完全かつ正確であることを前提としています。本意見書またはそれに関連する事項についての問い合わせは、上記クライアントに對して行ってください。

声明書番号 : SRA824682

#### 責任:

BYDは、本意見書の「範囲(スコープ)と基準」欄に記載された合意基準に従って、サステナビリティ情報を作成し、公正に表示する責任を負います。この責任には、不正行為や誤りを問わず、重大な虚偽記載のないサステナビリティ情報を作成することに関連する内部統制の設計、実施、維持が含まれます。BSIは、記載された範囲と方法論に基づき、専門家としての意見を述べた独立保証意見書をステークホルダーに提供する責任を負います。本独立保証意見書またはそれに関連する事項についての問い合わせは、BYDに対して宛ててください。

#### 独立性、品質管理及び能力

BSIはBYDから独立しており、本報告書に含まれる持続可能性に関する記述の保証以外には、BYDの運営に金銭的利害関係はありません。この独立保証意見書は、BYDの利害関係者のために作成されたものであり、環境、社会、ガバナンス(ESG)に関する記述(詳細は「範囲(スコープ)」に記載)を検証することを目的としています。この独立保証意見書は、BSIがBYDから提示された情報のレビューに基づいて作成されたものです。本独立保証意見書を作成するあたり、BSIは、BYDから提示されたすべての情報が真実、正確かつ完全であることを前提としています。BSIは、本意見書を信頼するしかなる第三者に対して責任を負いません。BSIは、本意見書を信頼するしかなる第三者に対して責任を負いません。BSIは、ISO/IEC 17021-1:2015に従い、品質管理に関する独自の管理基準およびコンプライアンス方針を適用し、倫理的要件、専門家としての基準、適用される法的および規制要件の遵守に関する文書化された方針および手順を含む、包括的な品質管理制度システムを維持しています。BSIは1901年に設立された世界最大の規格・評議機関です。BSIの保証チームは、GRIスタンダード、IWA 48、AA1000、ISAE3000、HKEx ESGコード、北京/上海/深圳ESGガイドライン、ISO 10002、ISO 14001、ISO 45001、ISO 45003、ISO 9001などを含む、環境、社会、ガバナンス(ESG)に関する豊富な経験を持っています。保証業務は、「BSI公正取引行動規範」に従って実施されます。

チームリーダー : Kalin Ye Aili Tang

発行日 : 2025-03-18

3/3ページ

発効日 : 2025-03-18

2/3ページ

British Standards Institution(BSI)は上記クライアントに対して独立しており、上記クライアントの運営に金銭的利益関係はありません。本意見書は、範囲で詳述されている上記クライアントのESGに関する報告内容を検証する目的のみで作成されており、他の目的のために作成されたものではありません。BSIは、本意見書を提供するにあたり、それが使用される可能性のある他の目的に対して、または本意見書を読む人に對して、(法的またはその他の)責務を受け入れることはありません。本意見書は、BSIが上記クライアントから提示された情報を評議したことに基づいて作成されています。評議は、提示された情報を超えるものではなく、提示された情報をに基いています。このような評議を行ふおり、BSIは、提示されたすべての情報が完全かつ正確であることを前提としています。本意見書またはそれに関連する事項についての問い合わせは、上記クライアントに對して行ってください。

## アンケートフォーム

当社のCSR報告書をより良いものにするため、読者の皆様からのご意見やご提案をお待ちしております。以下のアンケートにご記入の上、[ESG.office@byd.com](mailto:ESG.office@byd.com)までご返送ください。

### ご記入者情報

氏名	勤務先	役職	電話番号	FAX番号	メールアドレス

回答を入力してください

1. 本報告書で、最も満足していただけたのはどの部分ですか？

2. そのほかに追加を希望される情報はありますか？

3. 今後のサステナビリティレポートについて、何か提案事項はありますか？

当てはまるものにチェックを入れてください

1. 本報告書は、当社が経済、社会、環境に及ぼす主な影響を、十分かつ正確に示している。

非常に良い  良い  普通  悪い  非常に悪い

2. 本報告書は、ステークホルダーの関心事項に対応し、情報開示を行っている。

非常に良い  良い  普通  悪い  非常に悪い

3. この報告書で開示されている情報、指標、データは、明確で、正確かつ完全である。

非常に良い  良い  普通  悪い  非常に悪い

4. 本報告書の読みやすさ(報告書の流れ、内容の構成、文章表現、レイアウト)について。

非常に良い  良い  普通  悪い  非常に悪い



比亚迪股份有限公司  
BYD COMPANY LIMITED



BYD Company Limited

ESG.office@byd.com

广东省深圳市坪山区BYD路3009号

